

令和6年度
F D活動報告書

埼玉学園大学F D委員会

令和6年度FD活動報告書の作成に寄せて

埼玉学園大学FD委員会では、今後のFD活動の活性化を図るため、「FD活動報告書」を取りまとめている。

本報告書には、令和6年度のFD活動に関する記録をはじめとして、研修会の資料や学生の授業アンケートをもとにした授業改善書を収録している。FD活動の主要な目的の一つは授業能力、すなわち教育の質の向上である。私たち教員は、研究成果を授業に反映させるだけでなく、新たな技術や知識を取り入れ、あるいは社会的ニーズに対応する大学教育のあり方を常に模索し、発展させていくことが求められている。

令和6年度の授業に関する研修会では、「配慮を必要とする学生への対応—Teamsを利用した授業展開を学ぶ—」（第一回）、「教養と国語力の現状をめぐるシンポジウム」（第二回）をテーマとした。いずれも本学の課題を踏まえたテーマであり、有意義な研修機会となった。

これらの資料に授業改善書を加えたFD活動報告書は膨大な内容となるが、本学のFD活動の記録として保存し、今後の活動に積極的に活用していく所存である。

FD委員長 佐々木美恵

目 次

1	F D委員会	
(1)	F D委員会の構成	1
(2)	F D委員会の開催日及び議題	1
2	教員の研修会	2
3	学生による授業アンケート	2
4	令和6年度授業改善書	2
	専任教員 人間学部	
	人間文化学科	3
	心理学科	27
	子ども発達学科	43
	専任教員 経済経営学部	
	経済経営学科	68
	非常勤講師 人間学部	94
	非常勤講師 経済経営学部	148
5	資料	168
	資料 No. 01	第1回授業に関する研修会
	資料 No. 02	第2回授業に関する研修会
	資料 No. 03-1～4	学生による授業アンケート(春期)
	資料 No. 04-1～4	学生による授業アンケート(秋期)
	資料 No. 05	令和7年度活動計画

1. FD委員会

(1) FD委員会の構成

- ・西山 智則 (人間文化学科教授、委員長 (～令和7年2月))
- ・佐々木美恵 (心理学科教授、委員長代理 (令和7年3月～))
- ・船越 さやか (人間文化学科講師)
- ・伊里 綾子 (心理学科准教授)
- ・杉浦 浩美 (子ども発達学科教授)
- ・山本 幸正 (子ども発達学科教授)
- ・藤野 好美 (子ども発達学科准教授)
- ・文 智彦 (経済経営学科教授)
- ・工藤 悟志 (経済経営学科准教授)

(2) FD委員会の開催日及び議題

	開催日	議 題
1	令和6年6月5日(水)	【報告事項】 (1) 令和5年度FD活動報告書について (2) その他
2	令和6年9月4日(水)	【審議事項】 (1) 第1回授業に関する研修会について (2) その他
3	令和7年1月8日(水)	【審議事項】 (1) 第2回授業に関する研修会について (2) その他
4	令和7年3月12日(水)	【審議事項】 (1) 令和7年度FD活動について (2) その他

2. 教員の研修会

(1) 授業に関する研修会

① 第1回【資料 No. 1】

日 時：令和6年9月4日(水) 15:45～16:30

場 所：大会議室

発表者：坂田 知子（学生委員長）

中村 雄三（情報サービス課長）

テーマ：「配慮を必要とする学生への対応 ～Teams を利用した授業展開を学ぶ～」

参加者：専任教員

② 第2回【資料 No. 2】

日 時：令和7年2月19日(水) 15:45～16:30

場 所：大会議室

発表者：西山 智則（印委員長）、越野 優子（教 授）

柴田 勝二（教 授）、松浦 光（講 師）

テーマ：「教養と国語力の現状をめぐるシンポジウム」

参加者：専任教員

3. 学生による授業アンケート

実施期間

① 春期【資料 No. 3-1～3】

令和6年7月1日(月)～7月12日(金)

② 秋期【資料 No. 4-1～3】

令和6年12月2日(月)～12月13日(金)

4. 令和6年度授業改善書

授業改善書

授業アンケートを実施し、各教員に授業改善書の作成(1科目以上)を依頼している。
提出された改善書は以下の通り。

① 春期：121 科目

② 秋期：108 科目

専任教員

人間学部

人間文化学科

授業改善書

科目名	日本史資料講読（近現代）
担当者	福島良一

授業の概要

本授業では、明治の代表的啓蒙思想家であった福沢諭吉の『学問のすゝめ』を読む。福沢は国民に批判精神の意義を訴えつつ、国家の独立にとって国民の自立性が不可欠であるとの立場から、学問の重要性を説いている。こうした福沢の思想は、深い洞察力和主体的な判断力が求められる今日のわれわれにとっても、極めて示唆に富んだものといえよう。授業ではテキストの精読を通して、知識と教養を備えた人間の生き方について考えることに力を置く。

なお、この授業は文語体の文章に読み慣れることをも意図しているので、授業においては受講生に音読してもらった上で、解説を加えていくスタイルをとる。

授業の問題点

「授業についての評価」に関する各評価項目はすべて4点台となっており、全体的に高評価をいただいた。ただし、資料講読の授業としては、履修者が70名程度と予想よりも多かったため、当初想定していた、受講生一人ひとりに資料を音読してもらった上で、解説を加えていくスタイルをとらずに、教員が資料文を読み上げて内容説明を行っていくとした。その結果、授業の進行スピードは上がったが、一方通符的な授業になってしまった。このように、受講生が受け身的な立場で授業を受けるスタイルとなったため、できるだけ受講生の関心を失わせることがないよう、資料解説を具体的にわかりやすく行うことを心がけた。しかしながら、アンケートにおける学生の意見で「内容ごとの解説が分かりやすかったです」との好意的評価があったことは良かったものの、授業において一部に集中力を欠いた受講生も見受けられたことは否めない。受講生の関心をいかに引き付けていくかが課題である。

学生の授業満足度

本授業への「学生の授業満足度」の評価点はいずれも4点を超えていることから、資料内容のおもしろさや意義に対する理解を深めさせることが一定程度できたものと考えている。

授業改善の課題と方策

受講者数の多い少ないにかかわらず、資料を読み込むことに力を置くだけでなく、資料が提示する問題点をめぐって受講生との間で議論を行う機会を増やすことにより、活気ある資料講読の授業にしていく。

その他

授業改善書

科目名	日本史学入門
担当者	福島良一

授業の概要

本授業では、近代日本が経験した主要な戦争を取り上げ、それらを取り巻く国際関係や国内状況などを検討していくことにより、戦争の発生要因や歴史的意義、あるいは戦争に対する指導者および国民の意識などを明らかにした。歴史を専門としない学生にもわかりやすいように、できるだけ具体的な事例を交えながら、戦争を通して日本近代史の特質を理解してもらえるように講義した。

授業の問題点

「授業についての評価」に関しては、概ね4点を超えていたが、すべて平均値を下回るとともに、「授業満足度」の3項目の評価はすべて4点を僅かながらも下回る結果となった。本授業の評価としては過去の評価点と比べても低い評価結果に終わった。

その要因としては、熱心に授業を受けている受講者がいる一方で、熱意の感じられない受講者が散見されたことが大きいと考えている。「授業内容に興味や関心を持ちましたか」という評価項目が3.90であったことから、日本の歴史に対して興味を持てなかった受講者が一定数いたことが窺える。特に今学期における本授業は、全学共通科目ということもあり、日本史を専門的に学ぶことのない学科の受講者の割合が極めて高かったことも評価点を引き下げる要因になったのかもしれない。もしそうであるならば、教員として、日本史に対する受講者の興味をかき立てるように努めねばならないことを反省を込めて痛感している。

一点、「学生による主な意見」で、教室（増設された新教室）の温度管理や換気の不十分さに対する苦情的な意見が複数あった。私自身もこの点は認識しており、関係部署に指摘を行ったところである。授業改善との直接的な関係性はないが、受講者の集中力維持という観点から、受講環境を整えることは必要であると考え。

学生の授業満足度

本授業への「学生の授業満足度」の評価点は3項目とも僅かではあるが4点を下回ってしまった。「授業方法や資料のわかりやすさ」に関する評価項目が3.78という低い点になっていることから、授業理解が不十分な受講者が少なくなかったことが満足度を下げる大きな原因になっていると考えている。

授業改善の課題と方策

受講者の授業理解度を高めることが、重要であると考え。大教室での授業ということもあり、対話型の授業スタイルをとることはなかなか難しいところではあるが、授業内での学生への問いかけを増やし、受講者の発言を引き出していくことを一層心がけていきたい。また、授業の理解度を高めるべく予習・復習を促すために、適宜小テストを行っていくこととした。

その他

授業改善書

科目名	教養演習 I
担当者	牛田 あや美

授業の概要

この授業は人間文化学科の1年次生が全員履修し、2年次以降の履修課程につなげる授業である。グループワークを中心にしながら、大学生活にも早く慣れ、大学で学び卒業するために必要なさまざまな力、意識を養成する。

授業の問題点

早めに課題をこなせる学生、時間のかかってしまう学生に分かれてしまいました。それは課題をこつこつと宿題としてやってきている学生と差がついてしまった。先にできた学生にとって、時間のかかる学生を待つことになってしまい、そこが問題点である。

学生の授業満足度

授業満足度は平均より少し下まわっており、学生の気持ちと少しずれがあるのかもしれない。一年生であることを考えると、もう少し配慮をしたほうがいいのかもかもしれない。学生の人数が多く、常に遅刻をしてくる学生、休む学生とおり、どうしてもそれらの学生への対応に時間を費やしてしまっている。

授業改善の課題と方策

多くはまじめに授業を受ける学生であるが、遅刻や欠席の多い学生への対応に時間がかかってしまう。まじめに授業を受ける学生に対し、細かく話を聞く時間を多くもうけたい。

その他

授業改善書

科目名	基礎演習
担当者	牛田 あや美

授業の概要

私たちは毎日、浴びるように情報を受け取る。一説では、江戸時代に生きた人の一生分の情報を私たちは毎日享受していると言われている。本講義では日常の情報文化を見据えつつ、近代以降の歴史的事象から「現在」を繙いていく。またメディア論の基礎をふまえ、映像、ニュース、広告、などの具体的な素材から、日常における情報のあり方、私たちのメディア利用行動やリアリティ意識の変容など、「私たち」とメディアをめぐる問題を学ぶ。授業の終わりに、講義を聞いて自分が考えたことを小レポートとして書いてもらう。それを踏まえ、次回授業でフィードバックを行う。その際、積極的な意見交換を行う。学期末レポートは、講義内容に関連する参考文献を探し出し、自己の学んだことをいかしつつ、「視覚情報」の役割としてのメリット、デメリットを踏まえ記述する。

授業の問題点

積極的に多くの学生が、授業でのわからないことなど質問をしてくれる。また、課題も宿題で対応してくれているのか、遅れる学生もなく、スムーズに進んでいく。学生たちがとても素直で、問題点はあまり感じない。

学生の授業満足度

学生の授業満足度も平均よりもすべて高く、安堵している。これはひとえに学生たちの出来の良さによるものである。私も学生たちの興味をいろいろと教えてもらい、勉強となった。

授業改善の課題と方策

かなりレベルが高いので、もう少し難易度を高くしようかと考えている。

その他

授業改善書

科目名	専門演習
担当者	牛田 あや美

授業の概要

私たちは意識することなく、映画や演劇、漫画に接している。現実には存在した人物、歴史的な事件を扱った作品などが大きな問題となり、裁判となった例もある。現実には生きた、あった事件を後世の私たちは享受することになるが、それは「事実」なのだろうか？ 私たちは「娯楽」として作品を享受しているにすぎないのではないか。前期では基本的な二次創作作品を学び、後期では日本の新しい文化となってきた 2.5 次元作品を学ぶ。これは日本独自のものとして発展し、海外公演、インバウンドにも活用されている。コミックマーケットに代表されるようなオタク文化として発達したサブカルチャーは今では日本文化として確立した。日本における二次創作文化を学ぶことによって、「オリジナル」という問題にも迫っていききたい。

授業の問題点

就職活動のためのインターンにいく学生も多く、宿題でカバーしてくる学生が多かった。授業外学習が平均よりかなり高いことから、少し課題が多かったのかもしれない。

学生の授業満足度

学生の授業満足度はほぼ平均である。授業外での課題が多かったことが原因かもしれない。

授業改善の課題と方策

課題が多かったことが、満足度につながっているのかもしれない。それほど多くのことを授業では求めていなかったが、それ以上の課題を学生がこなしてくれた。これは学生同士が刺激あった結果であるだろう。

その他

授業改善書

科目名	メディア教育論
担当者	牛田 あや美

授業の概要

メディア（映画・マンガ・アニメーション・広告）におけるリテラシーを読む。日本の映画やアニメーションなどを中心に、そこに表象される意味を読み解いていく。明治期から戦前にかけ、メディアを使用し、一般大衆に何を告げていたのか。メディアはどのように利用されてきたかを具体的に歴史や政治動向から考察し、現代メディアにどのように反映されているかを講義する。

授業の問題点

人数が多く、学生への質問なども難しい。また初めてメディアについて学ぶ学生が多いことから、基本的なことを多く話していった。授業終わりに必ず小レポートを記述してもらっている。その内容から察するに、授業を踏まえた学生自身が「現在」感じるメディアについて述べていることが多く、思ったとおりの講義ができていると感じている。

学生の授業満足度

比較的熱心な学生が多く、反応もとても大きいと感じている。なるべく、講義だけでなく、映像や動画を多用するようにしている。その結果なのか、学生の記憶の定着が強く、試験の解答を外す学生が少ない。

授業改善の課題と方策

講義を受けている学生の人数が多く、スピードがなかなかつかみにくい。特にノートテイクをしっかりしている学生にとっては早いと感じ、ただ座って授業を受けている学生にとっては遅いと感じるようである。なるべく、ノートテイクをみながするような、試験問題を作っていきたい。

その他

授業改善書

科目名	社会学Ⅰ
担当者	牛田 あや美

授業の概要

本講義では、社会と人間との関係を、実際にあった現象から学んでいく。 私たちにとって現在起きた事件は「初めて」と感じることが多い。しかし、それはすでに過去において起こっていたこと、あるいは予見していたことである。 近代社会と現代社会を学ぶことにより、人間がどのように社会を形成してきたのかを客観的に見据え、過 去の事例が現在の社会にどのように変容しているかを講義する。

授業の問題点

人数が多く、学生への質問などが難しい。授業終わりに必ず小レポートを記述してもらっている。そのフィードバックをもっと多くしたほうがよかったのではないかと感じている。質問や発言が学生から少なかったことはそこに原因があると考えている。つい最近起こった出来事など、学生にとり今日的な問題とからめて講義をしている。しかし、それ自体を知らない学生が多く、現在のニュースに興味のない学生も多い。学生の知識の共通点が少ないことから、詳細から話さないといけないことが多い。

学生の授業満足度

人数が多いことから、授業満足度は低いのではと考えていたが、ほぼ平均であった。

授業改善の課題と方策

小レポートをフィードバックさせ、授業を受けている学生たちの興味の度合いを互いに刺激する時間をもっととっていききたい。同じ意見、あるいはまったく異なる意見など、学生たちは学生同士での考えをもっと知りたいようであった。

その他

授業改善書

科目名	映像文化論
担当者	牛田 あや美

授業の概要

「映像文化」は私たちに何を与えたのだろうか。「百聞は一見にしかず」ということわざがあるが、これは「映像を観たという一見」であてはめることができるのだろうか。映像創世記から、そこに映し出されるものに「事実」はあったのだろうか。この授業では、「映像文化」の持つ大きな力と同時に、それに疑義をもつ考える力を具体的に講義していく。

授業の問題点

映像といっても学生は需要する側になるため、反対側の供給する側の状況を知らない。そのため、映像がどうやって成立したのか、写真の誕生からそれをどのように動かすことができるようになったのかを理解してもらおうのが難しいと感じる。また、なぜハリウッド映画が世界的にみることができるコンテンツであるにもかかわらず、国によっては全く他国で見られない国の作品も多い。なぜそのような状況になっているかなど、直接的な映像文化でないことも多々あり、地政学的なことを理解していないと難しいのではないだろうか。

学生の授業満足度

授業終わりに、質問をしてくる学生が少ないことから、あまり興味がないのかと思っていた。そこで、学生たちにどうやって興味を持ってもらえるかを試行錯誤した。しかし、アンケートをみると、興味を持っている学生が多くうれしかった。映画が好きな学生がこの授業はあまりいいようで、代表的な映画作品のみ例として扱ったのがよかったのではないだろうか。レポートには、授業で扱った作品に興味を持ってくれる学生が多かった。現在では配信されている多くの世界的な映画作品があることから、過去の作品をこの授業をとおり、学んでもらえたらと思っている。

授業改善の課題と方策

映像の授業は映画好きな学生が多いときと、そうではない学生とでは内容がかなり変わってしまうことが多い。学生からのレポートで、推し量れることから毎回のレポート提出は続けていきたいと考えている。

その他

映像作品は深く掘り下げていくと、各国の政治的な色合いが多く、あまりそこを授業では追及してこなかった。しかし、最終授業で国によって映画産業がある日なくなってしまうことがあることや、内容を180度変えなくてはならなくなったことなどを講義したところ、学生の多くはかなりの興味を持ってくれた。日本を取り巻く映像作品についてはもう少し詳細まで講義をしていこうと考えている。

授業改善書

科目名	アニメ・ゲーム文化論
担当者	牛田 あや美

授業の概要

私たちが子供のころからなじんできたアニメーション・ゲームはすでに学問領域に入っている。そして日本を代表する「クール文化」となっている。本講義では、現在のアニメ・ゲームが過去の「芸術」によってどのように形成されたかを学ぶ。同時に、未来に向けてのアニメ・ゲーム文化の拡張をも講義する。

授業の問題点

アニメ・ゲームがどのようににはじまり、私たちはどのようにに享受しているかを学ぶ授業である。アニメ・ゲームといっても、授業で学ぶ内容は、学生にとってはすでに歴史となっている。特にこの授業は現在のアニメ・ゲーム文化のルーツをたどることに重視している。そのため、学生にとっての娯楽としてのアニメ・ゲームとは全く異なる授業となりアカデミックな学びとなることから、授業名で参加している学生には期待外れになるだろう。しかし、アニメ・ゲームは現在のグローバル的立ち位置から考えると、日本文化の根幹となっている。そこを学生に理解し、学んでもらいたい。

学生の授業満足度

アニメ・ゲームといっても、学生にとり新しく学ぶ領域である。学生の多くの興味は「現在」であるが、授業で学ぶものはすべて歴史となったものが多い。そのため、学生にとり、とっつきにくい内容になると考えていたが、多くは学びとして修得しており、学生の満足とともに私も安心した。また、アンケートにも書かれているが学生から授業が楽しいという感想を学生が私に話してくれることも多く、正直びっくりしている。歴史的な内容にもかかわらず、興味を持ってくれる学生が多い。

授業改善の課題と方策

予習復習をしている学生が少ない。レポートに予習や復習の欄を設けようと考えている。また授業中の学生の意見が少ないとあるが、フィードバックを次回の授業で常に行っている。そこでは学生の意見を発しているが、私が学生の声を代弁しているため、自分たちの意見を話していると感じていないのかもしれない。それを少し工夫し、学生自身に話してもらうようにする。

その他

歴史的な内容が多く、学生にはわかりにくいのではと危惧していたが、そんなことはないようなので、このまま学生に喜んでもらえる授業をしていきたい。

授業改善書

科目名	英語Ⅰ（心理学科）
担当者	熊田 和典

授業の概要

心理学科の1年生を対象とした必修科目の英語Ⅰである。キャンパスライフで使う英語を学習することによって、英語の総合的な基礎的学力を身につけることを目指している。授業は語学の授業であるため、できるだけ多くの学生にあてて、発言をしてもらって、双方向の授業を目指している。

授業の問題点

英語Ⅰは他にも2クラス担当しているが、特にこのクラスが授業アンケートの評価が芳しくないため、このクラスの授業改善書を書くことにする。他のクラスと比較して、アンケート結果は、個々の項目というよりも全体的に芳しくなかった。特に、アンケートの項目についていえば、「毎回の授業は適切な内容や量でしたか。」「授業を円滑に進めるための配慮はなされていたか。」「学生からの質問などにきちんと対応しましたか。」の項目の評価が低かった。

学生の授業満足度

授業アンケートにおいて、「学ぶ楽しさ、知るよこびは実感できましたか。」と「全体的に振り返って、授業に満足できましたか。」の項目が、平均よりも低かった。

授業改善の課題と方策

英語の授業は、他の多くの講義科目とは異なり発言してもらう必要があり、しかも英語を不得手とする学生も少なからずいるため、学生の満足度を上げることはなかなか難しいと感じている。この科目の授業アンケートの評価が、他の英語Ⅰよりも、全体的に芳しくなかったことから、ある項目の見直しというよりは全体的に見直す必要があるだろう。さらに、評価が特に低かったアンケート項目から学生が具体的に何を私に伝えたいのか判断するのが難しいところであるが、もう少し授業のペースを少し早くすることと、学生ともっと向き合うこと、英語の学習が楽しいと思ってもらえるようにすることに特に留意することとしたい。今年度秋期も英語Ⅱにおいて同じ学生の指導を行うことから、この授業アンケートの結果をぜひ活かして、以上のことに留意して授業を行いたいと思っている。

その他

授業アンケートで、ある学生から「答えられず、困っているところはヒントを出して頂けると嬉しいです。」とコメントを頂いた。実は、私から見れば大変嬉しいコメントである。昨年度までは、学生が困っているときは、ヒントを出して、出来る限り、さらに学生に考えてもらうように授業を行っていた。しかし、このようなスタイルで授業を行うと、私とその学生を追い詰めていると、授業アンケートでかつて学生からコメントを頂いたことがある。肝要なのは学生のことを配慮して適切に行うことだと思うが、なかなかその適切なところがどこなのか判断しながら行うのは容易なことではないと感じている。特に英語を不得手とする学生に対しては、極めて難しいと感じている。この点に関しては、今後も試行錯誤しながらヒントを出す方向で指導を続けていきたい。

授業改善書

科目名	英語Ⅱ（心理学科）
担当者	熊田 和典

授業の概要
この英語Ⅱは、1年生の必修科目の英語の授業である。これまでの英語の力を文法、会話、読解などの側面から総合的に再強化して、大学でこれから英語を学ぶ基盤となる英語力を養うことを目指している。学生から発言を求める双方向の授業形態を取っている。
授業の問題点
今期私が担当した授業アンケートの中で、最も結果が芳しくなかったのがこの科目である。授業アンケートの特定の項目というよりは、むしろ総じて各項目において他の科目よりも数値が低いというのが問題である。
学生の授業満足度
学生の授業満足度については、私の担当科目の中では最も低かった。
授業改善の課題と方策
上記の「授業の問題点」で記したように、授業アンケートの各項目、他の科目よりも数値が低いことから、全体的にひとつひとつ見直して丁寧に授業を進めていくことが必要だと感じている。英語Ⅱについては、3学科で担当しており、使用する教科書こそ違うものの、同じような授業の進め方、教授法を取っている。しかし、この心理学科のクラスでは他の英語Ⅱよりも授業アンケートの結果が芳しくない。その理由については残念ながらこの授業アンケート結果だけではわかりかねるが、今後も学科の特性が影響しているのかどうかも含めて検討していきたい。
ひとつ考える理由は、今年は、イギリスの文化的な背景を熟知しないと理解が難しい英文の読解を授業で行ったからではなかろうか。毎年、この部分は学習範囲から外していたのだが、今年は、あらかじめ周知ができていなかったのか、予習をしてきた学生が数名いたために扱うことにした。これによって、授業内容が若干難解に感じたのではなかろうか。来年度は、周知を徹底し、例年通り学習範囲から外すことにしたい。
もうひとつ考えられるのは、学生の授業に対する積極性が他の英語Ⅱよりも低いことが影響していることである。授業アンケートでの項目「授業外学習（予習や復習など）をしましたか。」の数値は、他の2つの英語Ⅱのクラスと比較すると、0.7から1.2低い。このクラスには、英語の学習に積極的でない者、あるいは、もしかすると、英語は不得手な者が他のクラスより多かったのかもしれない。（あるいは、私の授業の仕方に影響された可能性もあるが。）もう少しこのようなことを考慮して授業に臨む必要があった。
同じ受講生から成る春期の英語Ⅰの授業アンケートでは、（記憶違いでなければ）学生にもう少し一歩踏み込んだ発言をするように促した方がよいと書かれていたため、若干そういう方向を試みてみたが、今回の英語Ⅱでは「少し圧を感じる時がありました。」と書かれていた。以前の授業の方法に戻した方がよいようである。授業では学生に発言を求めるため、心理的負担を抱える学生がいることも考えておく必要がある。
その他
学生から「もう少し、早めに授業終わらせて欲しいです。」というコメントを頂いている。実際、1分ぐらい授業時間を超えて授業を行ったことが1回ぐらいはあったかもしれないが、当然ながら、各教員に求められているように、教員として毎回90分の授業を時間一杯行うようにしなければならぬし、そうするように心掛けていることは理解して頂きたい。
他の英語Ⅱにおいて、「最後に無駄な話をしなくてもいいと思います。」とコメントを頂いているが、適宜、授業に関して英語圏の文化について話をして英語の学習意識の向上を目指しているが、なかなか学生に伝わらないのが残念である。

授業改善書

科目名	日本文学入門
担当者	柴田勝二

授業の概要
古典から近現代に至る詩、劇、物語・小説の代表的な作品を取り上げ、日本文学の精髓を知ってもらうことに加えて、それらに日本文化の本質ともいえるべき「重ね」がどのように現れているのかを理解させる。また劇と物語・小説については、テキストとともにそれらを映像化した動画・ビデオを見せ、内容に対する理解を深めてもらった。
授業の問題点
三つのジャンルの代表的な作品を通して日本文学の本質を把握してもらうのが狙いだが、15回という限られた回数で日本文学全体を概観するため、重要な作品でありながら取り上げることのできないものもかなりあった。たとえば谷崎潤一郎の代表作で古典と近代をつなぐ意味もある『細雪』はできれば取り上げたかったが、回数の都合で割愛せざるをえなかった。また近松門左衛門についても、人形浄瑠璃と歌舞伎の両方の表現を比較しつつ吟味したかったが、やはり時間の不足により駆け足の比較になった。
学生の授業満足度
この授業は水曜2限と木曜1限に同一の内容でおこなったが、学生の満足度はそれぞれ4.04と4.27とやや差があった。これは後者の授業で人間文化学科の学生の占める割合が大きかったからだと考えられる。また数字自体がやや低かったが、大人数の一般教養の授業という性格から致し方ない点もあるかと思われる。
授業改善の課題と方策
前項にも記したように、大人数の一般教養の授業という性格上、日本文学に興味を持たない学生も少なくなく、そうした学生の興味をいかに喚起するかが問題であると思われる。総じて今の学生は古典的な作品よりも現代の作品の方に関心を示すため、近現代の比重を増すことも一策であると思われる。
その他
これまで各作品を紹介し終えた後に、小レポートを提出してもらっていたが、今年は各時間にレスポンス・シートの形で小レポートを提出してもらった。この方が各授業に対する取り組みが熱心になるようで、秋季もこのやり方を探るつもりである。

授業改善書

科目名	日本文学講読近現代Ⅰ
担当者	柴田勝二

授業の概要

春季は明治・大正時代の短編の名作を取り上げ、内容を吟味するとともに、そこには
らまれている人物表象や文体、時代背景などに関わる問題点を考察し、作品に対する学
生の理解を深めさせることを目指した。取り上げた作品は『舞姫』『夢十夜』『秘密』『児
を盗む話』『地獄変』の五つである。各作品についてそれぞれ二度小レポートの提出を課
し、期末レポートとして一つの作品について作品論を執筆させた。

授業の問題点

例年のことであるが、各作品に付した問題点を学生に考察させ、授業中にそれを発表し
てもらう際に、積極的に発言するのは4、5名の固定された学生になってしまい、他の
学生は教員の説明と特定の学生の発言を聞くだけに終始しがちであった。授業を活性化
するためにも、幅広い学生の発言があることが望ましいが、とくに今年は受講者が例年
の倍近くあったこともあり、それを実現することはできなかった。

学生の授業満足度

学生の授業満足度は4.57で、受講生が例年よりもかなり多かったことを考慮するとま
ずまずの数字であったと思われる。また授業に対する個別の不満などもとくに聞かれる
ことはなかった。

授業改善の課題と方策

問題点の項にも記したように、この授業は講義ではなく講読であるため、作品の読
解、考察にできるだけ多くの受講者の参加が望まれるが、どうしても発言が固定された
数名に偏りがちであった。発言の機会を極力幅広い受講者に与えるように工夫すること
を心掛けたい。またテキストを読んでこない学生がかなりあり、それが上記の状態の一
因ともなっているため、秋季では予習の徹底を促したい。

その他

とくになし。

授業改善書

科目名	日本文学史概論近現代
担当者	柴田勝二

授業の概要

明治から昭和にかけての近代文学の流れを概説した。具体的には明治20年前後に坪内
逍遙・二葉亭四迷が登場する時期をはじめとして、自然主義、白樺派、耽美派、プロレ
タリア文学、モダニズム文学、転向文学といった流派を取り上げ、近代文学がどのよう
に展開していったかを主要な作家・作品の紹介を通して述べていった。

授業の問題点

大人数の講義であるため、基本的には教員の説明が授業の内容となる。授業はパワー
ポイントとプリントを織り交ぜる形で進めていったが、パワーポイントの内容がプリン
トと同じであるため、屋上屋的な感じにもなった。プリントだけを使う方が学生の集中
度を高めるには効果的であったかと考えている。二回の小テストをおこなったが、大教
室で授業の最後におこなうため、問題の配布に時間がかかり、テスト時間が短くなって
しまった。

学生の授業満足度

学生の授業満足度は4.47と普通のレベルであった。受講者が200名近い大教室での講
義であるわりには、比較的高い数字が得られたのではないと思われる。

授業改善の課題と方策

問題点のところでも記したように、パワーポイントとプリントを併用したが、両者が同
じ内容であったため、どちらか一つで良かったと思われる。その場合、パワーポイント
を使うと学生がただ画面を眺めている傾向が強く、プリントだけにすると学生が教員
の話聞きながらメモを取ったりしやすいため、次年度はプリントのみで授業をおこな
うことを考えている。

その他

本学の学生は、レポートの課題はちゃんとこなすのに対して、授業の内容を覚えて書く筆
記型の試験をすると点数が取れないことが多いようである。文学史は重要事項を覚えな
い意味がないので、授業中に試験に出すような事項を頭に入れるように強く促したい。

授業改善書

科目名	日本文学特論近現代
担当者	柴田勝二

授業の概要

副題を「格差社会と文学」とし、明治期から現代に至る日本社会における差別・格差の諸相を紹介するとともに、それらが文学作品にどのように表現されてきたかということ、講義と作品読解の両面から探っていく。前半6回を講義、後半9回を講読とし、作品としては樋口一葉『十三夜』、川端康成『伊豆の踊子』、梶井基次郎『冬の日』、村田沙耶香『コンビニ人間』の四つを取り上げた。講読形式の授業においては、極力学生の意見を募るように心がけた。

授業の問題点

7回目から購読の形式で作品を読み進め、問題点を議論したが、発言者の数が少なく、また限られた学生からしか発言が得られなかった。もっと広範囲に意見を募るようにすべきであったと思われる。

学生の授業満足度

学生の満足度は3.58と予想したよりも低かった。一昨年度に同一の内容で授業をした際は4.6であったので不思議であったが、発言する学生が少なかったように、全体的に文学に興味の乏しい学生が受講していたように見える。

授業改善の課題と方策

年度によって文学に興味の乏しい学生が多く受講していることもあるので、そうした場合に対応する必要がある。総じて学生は現代の事象に関心が強いので、取り上げる作品をもう少し現代よりにするべきであると思われる。

その他

授業改善書

科目名	日本文学入門近現代
担当者	柴田勝二

授業の概要

詩・劇・物語（小説）の三つのジャンルにおける、古典から現代に至る代表的作品を取り上げ、「重ね」という観点を軸としてその表現と主題のあり方を眺め、日本文化としての精髓がどこに現れているかを概説する。具体的な作品としては『万葉集』『古今集』『井筒』『曾根崎心中』『源氏物語』『細雪』『沈黙』『ドライブ・マイカー』などを取り上げた。

授業の問題点

15回の授業で、三つのジャンルにおける日本文学の古典から現代に至る名作を取り上げるという内容であったので、全体に駆け足となってしまった。とくに自身の専門である近代の小説については上記の『細雪』以降の三作品のみとなってしまい、やや物足りないラインナップになった。前期で取り上げた漱石の『それから』をはずして谷崎の『細雪』に代えたが、前期と同じであった方がよかったかもしれない。

学生の授業満足度

学生の満足度は3.6と想像より低かった。春期は一作品以外同一の内容でおこない、4.3程度であったが、春期の受講生の多くが人間文化学科の学生であったのに対して、秋期は受講生の大半が経済経営学科の学生で、文学への興味が総じて乏しかったからではないかと推察される。

授業改善の課題と方策

受講生が人間文化学科以外の学生である場合、満足度が低くなりがちであるため、受講生を考慮して臨機応変な対応が求められる。総じて今の学生は現代の事象に興味が高く、今回も期末レポートの対象が『ドライブ・マイカー』に集中したように、取り上げる作品の比重をもっと現代よりにするといった工夫をする必要があると思われる。

その他

授業改善書

科目名	日本文学講読近現代Ⅱ
担当者	柴田勝二

授業の概要

宮澤賢治・太宰治・村上春樹らの主に昭和・平成期の日本近現代文学の作品を読み、その主題の在り処、文章表現の個性などを把握していく。具体的な作品としては『銀河鉄道の夜』『トカトントン』『踊る小人』『キッチン』『ペルソナ』の五つを取り上げ、教員側から問題点、考察点を投げかけながら学生に主体的に考えさせ、また毎時間小レポートを課してその考察を提出させるようにした。

授業の問題点

授業では学生とのやりとりを通して作品への読解を深めることを目指したが、積極的な発言者は特定の数名に限られ、出席者の意見を幅広く聞くということは難しかった。予習を義務化していたが、やはり全員がしっかりテキストを読んできているわけではないために、指名して意見を求めても答えられない学生も少なくなかった。もう少し多くの受講生の授業への参加を工夫すべきであったと思われる。

学生の授業満足度

授業満足度は4.79とかなり高く、こちらとしても満足できる数字であった。秋期は主に戦後の作品を取り上げたが、今の学生は現代の事象・文化に興味が強いため、現代文学に重点を置く満足度が高くなることが分かった。学生の取り組みも明治・大正期の作品に対する時よりも、意欲的であるように映った。

授業改善の課題と方策

授業の前提として、受講生各自が作品を読み込んでおくことを指示しているが、やはり準備をせずに出席する学生も多く、予習をもっと徹底させるべきであると思われる。また学生からの発言が一部に偏りがちであるのはいつものことだが、授業を活性化し、学生自身の成績を高めるためにも、もっと幅広い発言を募るよう注意を払いたい。

その他

授業改善書

科目名	英語Ⅰ（人間学部）
担当者	西山智則

授業の概要

基本的な英語を『英語で学ぶリベラル・アーツ』という教科書を使って学習する。人間文化学科の学生がどの領域においても必要とする、リベラル・アーツの基本を平易な英語で理解することにより、それぞれの専攻する分野で必要となるより高いレベルの英語に進むための基本を養成する。英文の読解、リスニング、会話の学習を通して基本的な語彙や表現を理解して覚え、応用できるようにする。また、単に英語力を高めるだけではなく、英語を学ぶと同時に、世界の様々な文化や歴史に関する教養を深め、多様な分野に関心をもてるように指導する。

授業の問題点

今期はクラスの人数が50名と多く、学力差もあったために、平均的レベルを設定するのがなかなか難しかった。出席や課題などの提出率は、4.81と平均を上回った。例年どおり、提出物と小テストと定期テストを評価の基準としたが、テストを受けた学生の多くが合格できた。しかし、英語は学力差が大きく生じる科目であり、出席していたが、テストの点数の悪い学生、また不合格の学生も少数だがでてきてしまった。やや小テストや課題を重視したので、大多数の生徒の成績はかなり高得点である。しかし、これは、学生の高校までの習得度に応じて、初歩的な英語を復習したに過ぎないので、今後、どのようにその英語のレベルをあげてゆくか、また、英語が苦手な学生をどうサポートするかが課題である。

学生の授業満足度

英語という科目の性質上、高校時までの習得度合いに応じて、授業開始前からすでに得意な学生と苦手とする学生に分かれてしまっており、毎年得意な学生の割合が増加しているように思える。満足度は4.21と平均の4.56を下回ってしまった。英語に苦手意識を持つ学生に対して、あまり効果を上げられなかった。苦手な学生に向けては初歩から説明をしたために、得意な学生には少し簡単すぎたのかもしれないし、苦手な学生にはそれでもまだ難しかったのかもしれない。

授業改善の課題と方策

全体的に英語が苦手な学生の増加を実感する。そうした学生のために、時に10分程度、教科書以外に英語圏の文化についての時間を設けた。たとえば、「ディズニー映画」や「マザーグース」などであり、教科書のテーマも「英語で学ぶリベラル・アーツ」であるので、英語が苦手な学生に対しても、英語だけではなく英語圏の教養も習得させる教科書であるので、授業を楽しくできるように補強したい。また、想定していたより初歩的な英語の説明が必要であることを痛感しており、そのために時間が割かれるので、英語力のある学生には、自宅での自発的学習を促す工夫をしてゆくべきだと考える。

その他

授業改善書

科目名	英語圏文学講読（近現代）
担当者	西山智則

授業の概要

学生の興味をひく小説を分析し、時にその映画化作品も同時に議論してゆくことで、「読む」という行為を拡大し、「分身」というテーマの意味を考察する。また、それらの文学が書かれた文化的背景に迫り、文学を通じた他者理解を目指す。

授業の問題点

「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」の項目は 3.54 と平均よりも低かった。これは教材を渡し、学生が自発的に予習をするという主体性に期待をしていたのだが、今後はもっと厳密な課題を要求をすることで対応したい。受講者数が超過し、選抜結果 83 名と多かったので、一方的な授業展開になってしまった。大人数の場合は講読という形態の授業が難しいので、今後の課題にしたい。また、原文の英語ではなく、日本語の翻訳、場合により、映画化された作品を使いながら、アメリカ文学を中心に英語圏文学の傑作を読み解く授業を行った。しかしながら、翻訳であっても現在の大学生にとって難しい作品も存在した。学生の国語力にどう対応するかが問題である。

学生の授業満足度

学生の興味を持ちやすい英米文学を、映画に関連させて、時代性を考察してゆくという授業内容であった。授業アンケートでは、「授業内容に興味や関心を持ちましたか」の項目は 4.48、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の項目は 4.49、「学ぶ楽しさ、知るよろこびは実感できましたか」の項目は 4.46、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の項目は 4.48 と、満足度に関しては全て平均よりも高かった。授業後も教室に残って毎回優れたコメントカードを書いてくれた学生も数名おり、その点では有意義な授業が展開できたと考える。レポートには独創的な視点から書かれたもの、手ごたえのあるもの数割あったが、平均的なものも多かった。文学を歴史的かつ文化的無意識を表現した資料として読み解くことは、異文化理解でも重要であり読書への動機づけになったと判断する。

授業改善の課題と方策

学生が書物の世界に魅惑され、自発的に読書に向う動機づけを果たしたいが、学生の活字離れの問題もあり、難しい課題でもある。現在のところ、映画やアニメなどのサブカルチャーを導入として利用し、古典的な文学が形を変えていかに現代に継承されているかをその糸口としている。「質問や発言をしましたか」の項目は 3.07 と低かったが、人数が 80 名以上と多かったので、その分コメントカードを使い、質問には最大限に対応したと考える。また、レポートやコメントカードを見ると優秀な学生も少なくなく、その意欲を高めるための工夫をしてゆきたい。

その他

学生の自発的な学習意欲をかき立てる授業を展開し、学生が自発的に読書に向かい、その結果国語力を習得できるようなきっかけになればと思う。

授業改善書

科目名	日本史学入門
担当者	井上正望

授業の概要

本授業は、火曜 5 限・水曜 1 限に実施し、前近代史の通史を対象として、歴史を暗記ではなく、根拠となる史資料を元に、時には史資料批判も交えながら、出来事やその理由・背景について論理的に考察する分野として扱う。また現在、世界情勢から身近なことに至るまで、インターネットを中心に様々な情報が氾濫している状況にあることから、このような史資料の取り扱いやそれに基づく成果を学ぶことを通して、情報の適切な取捨選択ができるようになることを目指す。

授業の問題点

授業アンケートによると、火曜の授業と水曜の授業とでは、内容や進め方は同じであるにもかかわらず、結果は異なる点が複数あった。特に水曜日のほうでは授業満足度に関する回答が火曜のものに比べて低く、この点は改善が必要な点と考える。ただ、学生のレベルに合わせた授業をすべきという考え方と、高校までの日本史とは違う、大学らしい授業をすべきという考え方の間で、教員自身の中でまだこのジレンマを解消する方法を見出すことができていない。学生からも、高校まででは知ることのできなかった事柄を知ることができてよいという感想もあり、今後も試行錯誤していきたいと考えている。

学生の授業満足度

昨年度同様、毎回の授業の最後に、その回の授業を受けての感想・質問をリアクションペーパーに書いてもらい、次回授業の冒頭で質問に対する回答を行ってきた。アンケートでの、学生の質問への回答に関する項目では、火・水いずれの授業についても 4 点台後半となっており、学生からの満足度が高かったことを示していると思われる。そのほか毎回の授業レジュメが非常にわかりやすいとの評価もあり、以上の点は今後も活かしていきたいと考える。

授業改善の課題と方策

学生の満足度が課題であるが、現在のところ教員側からの一方通行という状態であることも問題かもしれない。今年度は、他大学での非常勤の授業で、試験的に対面授業にオンライン併用を導入してみた。教室での授業中に教員から学生に質問を投げかけ、それに対する回答をその場で google フォームを使って回答してもらい、それをリアルタイムでスプレッドシートに反映させ、それをそのままプロジェクターに映写して学生に見せるというものである。教員からの一方通行ではなく、様々な意見を授業全体で共有することで、学生との双方向的な授業を目指した。学生側も他の学生がどのような意見を持っているのかをその場で知ることができるなどと好意的な意見が多かったことから、これを本学での授業にも取り入れてみたい。

その他

授業改善書

科目名	日本史特論(近世以前)
担当者	井上正望

授業の概要

本授業は、古代から近世にかけての天皇のあり方の変遷を軸として、現代も存続する天皇の、それぞれの時期における特質を把握することを目指して講義する。また、時には映像資料も交えながら、現代の「国民の総意」に基づく天皇・皇族・天皇制を、前近代の視点から見つめなおし、各自が国民・有権者の一人として天皇・皇族・天皇制に向き合えるようになることを目標とする。昨今の皇位継承や皇族の結婚問題など、天皇・皇族・天皇制のあり方が他人ごとではなく、将来の日本を担う一人としての責任を自覚できるようにしてほしいと思う。

授業の問題点

昨年度に引き続き、授業評価に関するアンケート結果はいずれも4点台であり、概ね高評価と受け止めている。但し授業に対する満足度が平均よりも若干低いことから、この点は改善が必要な点と考えている。天皇・天皇制に関する問題は、将来より大きな問題となることが予想され、日本国民である以上無視してしまうことは難しいことから、興味を持って取り組んでもらうためにも、改善点を探りたい。

学生の授業満足度

毎回の授業の最後に、その回の授業を受けての感想・質問をリアクションペーパーに書いてもらい、次回授業の冒頭で質問に対する回答を行ってきた。アンケートでの、学生の質問への回答に関する項目では4点台後半となっており、学生からの満足度が高かったことを示していると思われる。上記のように、本授業で扱うテーマは、単なる知識ではなく、今後の国民の一人として考えるべき問題も含んでいることから、今後も興味関心を持ってもらえるよう取り組みたい。

授業改善の課題と方策

これまで行ってきた教員からの一方通行的な授業ではなく、今後は受講生との双方向的な授業を目指したいと考えている。そのためにも、対面授業でのgoogleフォーム・スプレッドシートの併用など、使える手段を模索していきたい。

その他

授業改善書

科目名	日本史資料講読
担当者	井上正望

授業の概要

本授業は、古代から中世に至るまで、高校以前の日本史でも習うような事柄について、その根拠となった史資料そのものを実際に読むことで、ただ単に「歴史的事実」を暗記的に覚えるのではなく、その「歴史的事実」が如何にして組み上げられたものかについて講義する。特に授業内で実際にいくつかの史資料を音読する。その作業も通じ、その史資料にどのようなことが書かれているのかを考え、その内容から、各回扱う「歴史的事実」について、なぜそう言えるのかを検証する。

授業の問題点

本授業では、純粋な講義ではなく、実際に学生に音読させ、その後に教員から解説を行うという形式で行った。但し昨年度の反省から、学生の音読に終始するのではなく、学生の興味関心を引くことを目的とし、2024年大河ドラマ『光る君へ』第1話を題材として、時代劇を実際の歴史史料を用いて検証するという内容も行った。毎回のコメントペーパーから、この試みは概ね好評だったようだが、一方で昨年度同様の史料音読については、依然として学生の漢字音読能力の問題を改めて認識する結果となった。

学生の授業満足度

昨年度に比べ、授業の進度や、円滑に進められたかという点が大幅に改善した。但しこれは、学生の漢字音読能力が高かったからというよりは、上記のような時代劇検証の時間を設けたことで音読の回数が減ったことも関係すると思われる。その結果、昨年度はみられたような、音読をひたすら繰り返すことによる「慣れ」を実感できたかという意味では満足度は昨年度より減少したと言わざるを得ない。Q10、11は昨年度のQ9、10に比べ若干低下してしまっただが、それはこのようなことも原因の一つと考える。

授業改善の課題と方策

昨年度の反省から、教員による講義と学生による音読を半々で行った。結果として、上記のように進度などについては改善する一方、満足度などについては低下する結果となったため、この点の両立が課題である。音読に備えた毎回の予習復習に関する注意を、今年度はあまりくどくど言わなかったことも、「慣れ」の実感に繋がらなかった要因かもしれない。史料を実際に繰り返し読んでもらうことによる「慣れ」の重要性を学生に認識してもらうことも必要と考えるため、これらの両立を目指していきたい。

その他

授業改善書

科目名	人間心理概論
担当者	伊藤慎悟

授業の概要

本講義は、人間文化学科の学科科目であり、1年生の初学者を対象とした心理学の入門科目である。心理学の基礎的な知見について、具体的な研究事例を紹介しながら解説し、講義内では簡単な実験や調査を体験する時間も設けた。

授業の問題点

学生アンケートの結果からは、「授業内容に興味や関心を持ちましたか」4.72(R5年4.54)「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」4.71(R5年4.72)「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」4.83(R5年4.83)「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」4.74(R5年4.70)と昨年に引き続き、授業内容や方法に関しての得点が高く、学生にとって興味の持てる講義内容であったと考えられる。その一方で、毎回の授業の感想からは、難しさを感じる学生の声が上がられた。また、講義自体には好意的であっても、講義のリアクションペーパーが難しいという意見もあった。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」4.75(R5年4.66)、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」4.68(R5年4.64)と2項目ともに、4.5点を超えており、昨年度に引き続きアンケートに回答した学生の満足度は高いと考えられる。その一方で、履修者における回答者の割合が低いことから、満足度が低い学生は回答していないことも考えられる。

授業改善の課題と方策

履修者数が例年と比較して多く、多様な学生が受講していると考えられる。専門用語の多さに難しさを感じるのは、高校時代に対応する教科がないため、専門用語になじみのないものが多いためとも考えられる。そのため、難しさを感じる学生を減らすことが課題であると考え。課題解決の方策として、講義内容の理解の本質に関わるような専門用語と周辺の用語を区別し、専門用語については厳選して示す。また、講義のリアクションペーパーについては、講義内容から応用させることよりも、その講義の時間を振り返れば回答ができるような課題にし、感想として講義内容から応用させることを奨励することで、難しさを軽減できると考える。

その他

授業改善書

科目名	発達心理学
担当者	伊藤 慎悟

授業の概要

発達心理学には、人間の発達のメカニズムを明らかにする科学的側面と、生涯にわたる生活の質を高めるための実践的側面がある。本講義では、科学としての発達心理学に関する基礎的な理論の理解を深めると共に、人間の発達を促す保育・教育実践のあり方についても議論する。

授業の問題点

授業アンケートの結果から、授業内容と授業方法についての項目は、1項目を除き全体平均を上回り、かつ平均点がおおむね4.5点を超えていた。その一方で、「授業を円滑に進めるための配慮はなされてい了吗か」に関しては、4.24点(全体平均4.47点)であった。昨年度の授業アンケート結果からは、得点が全体的に低下していた。また、授業内での感想欄には、グループワークが楽しい・他者の考えに触れる機会になったとの好意的な意見も多い中で、スムーズに行えなかったや、発言が少ない学生が集まった場合に難しさを感じたという声もあった。

学生の授業満足度

学生の授業の満足度に関する3項目は、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」が4.38点(全体平均4.47点)、「学ぶ楽しさ、知るよろこびは実感できましたか」が4.38点(全体平均4.45点)、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」が4.33点(全体平均4.45点)であり、すべての項目で、平均点が4点から4.5点の範囲内で、平均点を下回った。このことから、学生の満足度は低くはないが特に高いとは言えないと考える。

授業改善の課題と方策

昨年度と比較して、受講人数が増え、また他学科の学生が増え多様性が増した。グループの編成にメンバーの偏りや、時間がかかった場合もあったと考えられる。また、授業内容を整理する時間を十分に設けることができなかった。以上のことから、次の改善の方策を行う。1点目は、引き続き授業のミスマッチを減らすために、授業シラバスおよびオリエンテーションにおいて、グループワークの存在と重要性について伝達するとともに、配慮すべき学生に対する代替手段を準備する。2点目は、講義内容の精選を行い、講義内容のバランスをとることで、授業内で、授業内容を整理する時間を十分に確保する。3点目は、学生数や教室の状況などに応じて、すべての学生が講義資料・映像を視聴できるよう工夫する、グループを事前に割り当てるなどグループワークへの障壁をなくす。

その他

その他に関する事項は特になし。

授業改善書

科目名	英語学特論（文法論）
担当者	船越さやか

授業の概要

この授業では、英語という言語にはどのような文法的特徴があるかについての理解を深めることを目的とし、英語の語順や、疑問文、虚辞構文、否定文などの文法現象を他言語との比較を交えながら学んでいった。また、文法概念を学ぶ際には、英語のみならず直感の働く日本語の文法現象についても講義した。

授業の問題点

授業の問題点として一番に挙げられるのは、授業内容が学生たちにとって少し難しすぎたようで、シラバスを大きく修正する必要があったことである。実際、学生アンケートではシラバスに関する項目で 4.56 と平均値(4.58)をわずかに下回った。この授業を担当するのは今回が初めてで授業科目名が「特論」であったため、発展的な内容を多く講義に含める予定であった。シラバスにも言語学の基礎科目を受講していることが望ましい旨のことを記載していたが、受講した学生のほとんどが未受講な状態であった。そのため基礎的な内容から講義する必要があり、当初の予定の 3 分の 2 ほどの内容しか教えられなかった。基礎科目を受講済みの一部の学生からは「シラバスに書かれていた通り、もう少しいろんな内容を学びたかった。」という声もあがった。

学生の授業満足度

学生の授業満足度はどの項目でも平均値以上をとっており比較的高かった。授業全体の満足度は 4.75（平均値 4.52）であった。授業中の問題演習時間や授業最後のクイズやアンケートで学生の理解度や疑問点を確認しながら授業を進め、その都度シラバスを修正していったことが良かったのかと思う。また理解が追いついていない学生は、問題演習の時間に個別に対応した。そのため、学生アンケートでは「とても分かりやすく、置いていかれる学生がいないように先生が配慮してくれる。」「分からない点や質問があると次の授業までに必ず答えてくれる。」などの声が聞かれた。

授業改善の課題と方策

まず、授業で扱う内容や進度についてシラバスを書き換える必要があると感じた。「特論」という科目名ではあるが、基礎的な内容もきちんと授業で扱い、発展的な内容とのバランスを考えて授業を組み立てる必要があると感じた。また、学生アンケートではシラバスに関する項目以外では全て平均値以上をとっており、9 割以上の学生が授業に満足できたようではあるが、私が個別で学期末に行った「シラバスに書かれている到達目標をどれくらい達成できたか」について尋ねたアンケートでは、「達成できた」と答えた学生は 7 割に留まった。授業内容を見直したり、理解が追いつかない学生への対応を改善するなどして、到達目標を達成できたと感じる学生をもう少し増やす必要がある。

その他

授業改善書

科目名	英語学特論（意味論・語用論）
担当者	船越 さやか

授業の概要

この授業では言語学の下位分野である「意味論」「語用論」について講義した。意味論では語彙の意味論を扱い、日本語と英語の名詞や動詞の意味が文法現象にどのように影響するかについて、分析や問題演習を多数交えながら講義を行った。語用論ではポライトネスについて扱った。英語の分析を行うにはある程度の英語力が必要となるが、英語が苦手な学生が多かったため、英語ではなく日本語の分析を行いながら講義を進めた。

授業の問題点

授業アンケートでは、ほぼすべての項目で平均を上回っていたが、「出席」に関する項目と「シラバス」に関する項目では平均をやや下回っていた。出席に関しては、8 割以上の受講者が 3、4 年生で、就職活動による欠席が多くみられたが、この点に関しては改善が難しいと思われる。シラバスに関しては、この授業を私が担当するのが初めてで、シラバス作成時に授業計画を大きく見誤ってしまったことが原因である。授業内では講義の他に学生自身が言語分析を行ったり問題を解いたりする時間を多く設けたのであるが、そこで予定よりも時間がかかってしまった。また、学生の理解度に合わせて進度を調節したため、予定よりも授業が進むのが遅くなり、シラバスに記載された学習範囲の 3 分の 2 ほどしか扱うことができなかった。

学生の授業満足度

満足度に関する項目ではすべて平均以上で 4.5 ポイントを上回る評価が得られた。特に、授業方法に関する項目ではすべて 4.7 ポイント近くをとっており、「授業の進め方、内容、声の大きさなど全体的に非常に良く気持ちよく授業を受けることができてとても満足です。」「例えもわかりやすく、優しく面白いです。途中で休憩とってくれるのが有難いです。」などといった、好意的な意見も得られた。このことから、「授業の問題点」で述べたようにシラバス通りには進めなかったが、授業で言語分析や問題演習を多く取り入れ、学生の理解度に合わせて進度を調節したことが、学生にとっては良かったのだと思う。

授業改善の課題と方策

上でも書いたように、一番の問題はシラバス通りに進めなかった点である。この点を踏まえて、シラバスを今一度見直し、無理のない授業計画に書き換える必要がある。内容に関しては、「内容は、文法論よりも難しかったですが、意味論・語用論も興味を持ちました。」という意見があり、授業内容への興味関心の項目でも 4.48 ポイントとまずまずであった。ただ、この意見や授業内アンケートの意見でも「難しい」という声がしばしば見受けられたので、内容を見直したり、講義がわかりやすくなるように講義スライドやハンドアウトを作成し直して対応していきたい。

その他

授業改善書

科目名	教職概論
担当者	松嶋 哲哉

授業の概要

本授業では、各自が持っている教職観（教員へのまなざし）を相対化し、反省的に考察しなおすことを目的としている。そのために、前半では現在の教職観を規定している事実・歴史を学び、自身の教職観を相対化する。後半では、それらの教職観の視点から、「教員の長時間労働」の問題を考察していく。「教員の長時間労働」の問題は、どのような教職観に立つかによって、考え方・解決方法が異なってくるために、その問題を通じて、反省的に自身の教職観について考え直す機会とする。

授業の問題点

「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」という設問に対して、平均点 4.54 に対して、4.62 の評価を得た。平均点よりかは高いが、他の数値に比べて低くなっているため、授業内容の内容や量については、再考する必要があると考えられる。

学生の授業満足度

学生の授業満足度については、概ね満足を得られていると考えられる。「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」という設問では、平均点 4.56 に対して 4.77、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」という設問では、平均点 4.52 に対して 4.72 と平均を上回ることができた。

また、学生による主な意見として、「毎週この授業を楽しみにしています」といったコメントをもらうことができた。

授業改善の課題と方策

授業内容の精選と授業時間の配分を見直し、授業量の適正化を図り授業を円滑に進めるように改善していきたい。なお、本授業では、「教員の長時間労働」というネガティブな内容を扱うため、教員の仕事内容についてのポジティブな内容についても取り扱うように心掛けたい。

その他

特に無し。

授業改善書

科目名	生徒・進路指導論
担当者	松嶋 哲哉

授業の概要

本授業は、教職課程の必修科目として、生徒指導の意義や原理を理解し、生徒指導の進め方について理解し、生徒指導上の課題と態様・関係機関との連携を含めた在り方について理解を深める授業である。そのために、本授業では、いじめ・不登校・体罰・キャリア教育などの具体的な問題について、トピックをたてて学びを深めている。

授業の問題点

「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」と「授業について円滑に進めるための配慮はされていましたが」という設問については、少し評価が下がっており、授業担当者としても授業内容を詰め込み過ぎて、時間が不足してしまいフィードバックを書く時間を十分に確保することができないときがあった。

学生の授業満足度

本授業では、概ね平均点以上の評価を得ることができた。「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」は、4.72（平均 4.56）、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」についても、4.53（平均：4.52）の評価をもらったので、学生の授業満足については、十分に答えられていると考えられる。

授業改善の課題と方策

授業内容の精選と授業時間の配分を見直し、授業量の適正化を図り授業を円滑に進めるように改善していきたい。

その他

特に無し。

授業改善書

科目名	教育社会学（幼小）
担当者	松嶋哲哉

授業の概要

本授業は、教職課程の必修科目として、教育に関する社会的、制度的なことがらについて学ぶ授業である。特に、本授業では、「教育と平等」をテーマにして、メリトクラシーの観点から、教育に関する社会的、制度的な事項について、近年の様々な状況の変化や子どもの生活の変化、教育改革の動向、諸外国の助教、公教育の原理、公教育の法的な性格などについての学びを深めて、学生に「教育と平等」についての思考を深めてもらう授業である。

本授業は、教職課程の必修科目として学生には厳しい評価を行っている。

授業の問題点

「授業内容に興味や関心を持ちましたか」という設問に対して、平均点（4.40）を下回ってしまった（3.78）。また、「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」という設問に対しても、平均点（4.44）をやや下回ってしまった（3.69）。その他の項目についても、評価が下回ってしまったことは授業の問題点だと考えられる。しかし、同じ科目で中高課程向けの授業アンケートでは、全ての項目で平均点以上を得ることが出来ているため、これらの数値を単純に理解せず、授業改善を進めていきたい。

学生の授業満足度

学生の授業満足度については、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」という設問では、平均点 4.47 に対して 3.86、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」という設問では、平均点 4.45 に対して 3.38 と下回ってしまった。ただし、中高課程の授業では、同じ項目に対して、4.89、4.86 と平均を上回っている。同一内容の授業をしているにも関わらず、評価が異なるため、これらの数値を単純に理解するのではなく、授業改善を進めていきたい。

授業改善の課題と方策

本授業は、「教育と平等」という普遍的なテーマを設定して授業を進めたが、学生の興味関心が平均点を下回ってしまった。このテーマについて、ある程度の知識があり興味関心があることを前提に授業を進めてしまったため、動機づけについても授業内で触れていきたいと思う。また、授業の資料提示方法などについても検討を進めた。

その他

幼小課程の授業アンケートでは、学生による主な意見として事実誤認とも言えることが書かれているため、ここにそのことを記しておく。
・「中間課題の提出先が明確に示されていなかったため、事前に知らせてほしかった。2、3 回提出しても受け取ってもらえなかった」
→課題の提出先は Teams で明確に示している。Teams で提出もらっているので受取を拒否したいような事実はない。
・「初回授業で去年の学生を馬鹿にするような発言をしていた」
→「昨年の学生のうち約半数を落とした」という旨は説明したが、「馬鹿」にはしていない。事実であり、それほど厳しい科目だから勉強をするようにという意味である。
・「3 回以上休んだら単位を習得できない自己ルールは大丈夫なのかなと思いました」
→規定上は 1/3 欠席したら、期末試験の受験資格が失うだけで、それ以上の評価方法については担当者の権限内のことである。

授業改善書

科目名	教育原理
担当者	松嶋 哲哉

授業の概要

本授業は、教職課程の必修科目として、教育の基礎的理解に関する科目のうち「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」のことがらについて学ぶ授業である。特に本授業では、前半において教育思想史を学び、後半において日本教育史を学ぶ流れとなっている。前半の内容については、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ・フレーベル・ヘルバルト・ヘルバルト主義・デューイ、モンテッソーリといった代表的な人物を扱い、彼らの中心的な概念とその概念の現代的な意義について学ぶ。後半は、日本の近代教育の成立過程を前半の内容を含めた形で学び、現代の教育についての原理的に考察する力を養うことを目的とした授業である。

本授業は、教職課程の必修科目として学生には厳しい評価を行っている。

授業の問題点

本授業は、概ね学生に受け入れられたのではないかと考えられる。授業内容についてのアンケート項目においても、「授業内容に興味や関心を持ちましたか」「テキストなどの資料は適切でしたか」「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」などの評価で、平均点以上を獲得することができた。ただ、「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」という項目については、平均点と同じだったため、今後の課題としていきたい。

学生の授業満足度

本授業は、概ね学生に満足してもらえたものだったと考えられる。「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」「学ぶ楽しさ、知るよこびは実感できましたか」「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の全ての項目において、平均点以上を獲得することができた。

授業改善の課題と方策

授業内容については、詰め込み過ぎた結果、学生のコメントを書く時間を確保できなかったことがあるため、内容を精査していきたい。また、抽象的な概念を扱うことが多いため、授業内容を抽象的なものに終わらせずに、学生の経験に即した具体的なものに落とし込んで説明するように、今後も心掛けていきたい。

その他

授業改善書

科目名	ポップカルチャー論
担当者	柴台 弘毅

授業の概要

本講義は、日本の女性アイドルグループについて、音楽活動を主軸に多彩なジャンルのポップカルチャーとの接点を持ちながら活動を展開する極めて多面的な事例として仮定し、映像資料や音響資料を用いながら、アイドルとその活動を構成するミュージックビデオ、コンサート、ファッション、ダンスなど多彩な視点から読み解いていくものである。また、毎回の授業ではコメントカードを配布し、各回の講義の印象に残った点や考察を提出させ、次回講義時にフィードバックを行う。

授業の問題点

本講義は、アイドル単体のみを扱うものではなく、読解するための視点としてミュージックビデオやファッション、ダンスなどについて、それぞれの理論的な研究手法や歴史的背景について多くの時間を割いて紹介した。その結果、アイドル以外の音楽ジャンルや洋楽、映画など多彩なコンテンツを盛り込んだ授業を展開することができたものの、授業回によって受講生の興味関心の差が大きくなる傾向が見られた。こうした問題点は講義単体だけで解決できる問題ではなく、演習等の機会を通じて本学学生の視野や興味関心を広げ、客観的な視点で自身の好むコンテンツを考察する能力を養っていくことは特に重要であると認識した。

学生の授業満足度

本講義の授業アンケート集計結果は概ね4.5以上で、ほとんどの項目において平均値を上回っていた。それゆえ、結果的に受講生にとって満足度の高い講義を提供できたと評価することができる。特に項目群「III 授業満足度について (Q.9-Q.11)」における「学ぶ楽しさ、知るよろこびの実感があったか」「全体的に満足だったか」についての集計結果がすべての項目において4.5以上であったことから、ポップカルチャーやアイドルに強い興味を持つ受講生が否かにかかわらず、多くの受講生に大学で学際的な知見を学ぶ醍醐味を体感する機会を提供できたのではないかと自負している。

授業改善の課題と方策

本講義の授業アンケートの項目群「学習態度について (Q.1-Q4)」において、「授業外学習」「質問や発言」「ノートやメモ」についての集計結果が平均値を下回る程度に低調であったことは、今後の課題である。「授業外学習」については、今後さらに予習や復習に積極的に取り組めるような動機付けを積極的に盛り込む必要があり、YouTube プレイリスト等を用いた視聴覚資料の提供や、必読の参考文献購読を課題として科すなど、対応策を考えている。また、「質問や発言」についてはコメントカード導入とフィードバックの実施により一定の成果を実感しているが、授業後やオフィスアワーの時間に気軽に教員と話せるような雰囲気作りも必要であると考えられる。「ノートやメモ」については、構築されたレジュメではなくワークシート形式を用いるなど、手を動かす（書く）機会を増やす仕組みを増やすための対応策を考えている。

その他

本講義の授業アンケート項目群「自由記述」や毎回のコメントカードにおいて、多くの受講生が講義内で鑑賞した映像資料から得た気づき（驚きや発見）について積極的に書き記してくれていたことは、特記事項として記しておきたい。

授業改善書

科目名	ポピュラー音楽論
担当者	柴台 弘毅

授業の概要

本講義は、西洋音楽の導入を経た明治時代の「流行歌」から現在の「J-POP」まで、およそ160年間に至る日本のポピュラー音楽史を振り返りながら、ポピュラー音楽とメディアテクノロジー、産業、社会との関係について、通史的に講義するものである。そして、日本のポピュラー音楽が今後も発展を続けていくために必要なこととは何か、受講生と一緒に考察を深めていくことを最終的な目標とする。また、毎回の授業ではコメントカードを配布し、各回の講義の印象に残った点や考察を提出させ、次回講義時にフィードバックを行う。

授業の問題点

本講義は日本のポピュラー音楽史を通史的に扱うため一度の講義で扱う時代が10年～20年スパンであること、また毎回の講義では多数の音源や映像を紹介することから、欠席した学生へのフォローが難しいという構造上の問題を抱えている。もちろん、欠席した際には該当回のレジュメを元にYouTube等を用いて自学自習する、あるいはオフィスアワーの時間を用いて質問に来るなどのフォロー方法を推奨していたが、結果として徹底することが難しかった。そのため、止むを得ない欠席が続いた学生の歴史認識から、一部の時代だけが綺麗に抜け落ちてしまう問題が発生した。こうしたフォロー体制の整備は今後の課題である。

学生の授業満足度

本講義の授業アンケート集計結果は概ね4.7以上で、すべての項目において平均値を上回っていた。それゆえ、結果的に受講生にとって満足度の高い講義を提供できたと評価することができる。特に項目群「III 授業満足度について (Q.9-Q.11)」における「授業によって得るものがあったか」「学ぶ楽しさ、知るよろこびの実感があったか」「全体的に満足だったか」についての集計結果がすべての項目において4.8以上であったことから、音楽に強い興味を持つ受講生が否かにかかわらず、多くの受講生に大学で学際的な知見を学ぶ醍醐味を体感する機会を提供できたのではないかと自負している。

授業改善の課題と方策

本講義の授業アンケートの項目群「学習態度について (Q.1-Q4)」において、「授業外学習」「質問や発言」についての集計結果が低調であったことは、今後の課題である。「授業外学習」については、今後さらに予習や復習に積極的に取り組めるような動機付けを積極的に盛り込む必要があり、YouTube プレイリスト等を用いた視聴覚資料の提供や、必読の参考文献購読を課題として科すなど、対応策を考えている。また、「質問や発言」についてはコメントカード導入とフィードバックの実施により一定の成果を実感しているが、授業後やオフィスアワーの時間に気軽に教員と話せるような雰囲気作りも必要であると考えられる。

その他

本講義の授業アンケート項目群「自由記述」や毎回のコメントカードに寄せられた意見のなかで、本講義で得た知識をもとに、両親や祖父母など異世代の人々と音楽の話題で盛り上がる機会が増えた、自分の好きな楽曲やアーティストについてルーツや歴史的背景を学べて良かった、という反応が一定数得られたことは特記事項として記しておきたい。大学の講義で学んだ内容が受講生の社会生活の中で活用されているという報告は、大きな励みである。

授業改善書

科目名	社会学 II
担当者	柴台 弘毅

授業の概要

インターネットやスマートフォンが普及した現代社会は、個人化や流動化が進み、ますます不透明かつ捉えがたい存在になりつつある。こうした現代社会を読み解くために有効なアプローチのひとつが、流行現象として人々の関心を集め、社会と密接な関係を構築しているポピュラー音楽を分析対象とし、社会的トピックスを抽出する方法である。本講義は、ポピュラー音楽の楽曲やアーティスト、それらにまつわるエピソードなどを事例に、そこから抽出される多彩な社会的トピックスについて、社会学やメディア論の主要な研究業績を参照しながら、映像資料や音響資料を用いて講義する。

授業の問題点

毎回の講義では多数の音源や映像を紹介することから、欠席した学生へのフォローが難しいという構造上の問題を抱えている。欠席した際には該当回のレジュメを元に YouTube 等を用いて自学自習する、あるいはオフィスアワーの時間を用いて質問に来るなどのフォロー方法を推奨していたが、結果として徹底することが難しかった。こうしたフォロー体制の整備は今後の課題だと考えている。

学生の授業満足度

本講義の授業アンケート集計結果は概ね 4.5 以上で、すべての項目において平均値を上回っていた。それゆえ、結果的に受講生にとって満足度の高い講義を提供できたと評価することができる。特に項目群「III 授業満足度について (Q.9-Q.11)」における「授業によって得るものがあったか」「学ぶ楽しさ、知るよさの実感があったか」「全体的に満足だったか」についての集計結果がすべての項目において 4.5 以上であったことから、社会学に強い興味を持つ受講生が否かにかかわらず、身近なポピュラー音楽の事例を切り口にして、多くの受講生に大学で学際的な知見を学ぶ醍醐味を体感する機会を提供できたのではないかと自負している。

授業改善の課題と方策

本講義の授業アンケートの項目群「学習態度について (Q.1-Q4)」において、「授業外学習」「質問や発言」についての集計結果が低調であったことは、今後の課題である。「授業外学習」については、今後さらに予習や復習に積極的に取り組めるような動機付けを工夫する必要がある、YouTube プレイリスト等を用いた視聴覚資料の提供や、参考文献購読を課題として取り入れるなどの対応策を考えている。また、「質問や発言」についてはコメントカード導入とフィードバックの実施により一定の成果を実感しているが、授業後やオフィスアワーの時間に気軽に教員と話せるような雰囲気作りも必要であると考えられる。

その他

毎回の講義後に提出されるコメントカードの記述を読むと、授業回数に比例して記述内容が充実する学生と、そうでない学生との差が大きいことも気がかりであった。こうした差は期末レポート試験の答案にも如実に現れていたため、普段からコメントカード課題の重要性をアピールしつつ、授業を通じて考えたことを自分の言葉で言語化させるトレーニングを心がけていきたいと考えている。

授業改善書

科目名	西洋史学入門
担当者	三浦麻美

授業の概要

歴史学がどのような学問なのか、3 部に分けて考える。第 1 部（第 1～3 回）では歴史理論にもとづき、大学の「歴史学」では何を学び、それにどのような意味があるのかを扱う。第 2 部（第 4～9 回）では西洋史の理解に大きな影響を与えた、主に 20 世紀の歴史家たちの業績を実際に紹介し、それにより歴史理解がどのように変化したのかを具体的に検証する。第 3 部（第 10～15 回）はより新しい研究動向に着目し、人間と社会について歴史的に考える可能性を追求する。

授業の問題点

当初は歴史書を受講生に読ませ、割り当てた担当者による報告とディスカッションによる進行を想定していたが、受講者数が予想を大幅に超過したため、講義形式に切り替えた。そのために 2 点の問題が生じた。第一は、理論の説明が講義の大部分を占めることとなり、内容理解に前提となる知識量が大幅に増加した点である。第二に、第一の問題点に伴って資料として準備した歴史書の読解に十分に時間を取れなくなり、歴史理解の変遷についての解説が部分的なものにとどまった点である。

学生の授業満足度

授業改善アンケートでは、満足度に関する Q9, 10, 11 に対し、回答平均が 4.28, 4.19, 4.30 と、いずれも全体平均を下回った。これはジェンダー史や感情史など、高校までの歴史科目では扱わない分野も取り上げたため、もともと歴史学に関心のある学生にとっては「ディープ」と感じられた場合もあったようである。その一方で、「ノートを取ったが、よくわからなかった」との声もあり、授業理解度と満足度が連動している可能性が考えられる。

授業改善の課題と方策

上述の問題点の認識に伴い、予習資料の選択、分量の見直しも含めて改善が必要と考えられる。今期は理論的展開を重視して専門書の一部を予習資料としたが、成果の全体像が見えにくく、理解が難しかった可能性がある。そのため、当初のシラバスにあったような『20 世紀の歴史家たち』のように数ページで完結した内容のテキストに切り替え、伝記的要素を組み込むことで、歴史理論と時代背景の関連をわかりやすくするアプローチへの転換を考えている。

その他

リアクションペーパーを紙で配布していたが、オンラインでの実施希望があったため、実施方法の切り替えを考慮中である。

授業改善書

科目名	西洋史学入門
担当者	三浦麻美

授業の概要

歴史理論の発展と西洋史を学ぶ際の基本文献の講読を目的としている。多人数のため、講義形式で行い、授業の最後にリアクションペーパーで授業内容に関する感想や疑問を書かせ、次の回の冒頭で解説をして対応している。

第3回以降は予習資料として歴史学に関する文献を配布している。受講生は事前に目を通しておくこと義務づけ、講義でその文献の内容、歴史的意義を解説している。

授業の問題点

- ・予習を前提とし、授業で解説をする反転授業の形式を採用しているが、この点が受講生に共有されておらず、予習をした学生が少なかったようである。
- ・毎回授業最後の10分間にTeamsでリアクションペーパーの提出を求めているが、この時間が短いという意見があった。
- ・授業はスライドと板書を併用し、スライドは授業終了後にTeamsで配布しているが、その内容がわかりにくいという指摘があった。

学生の授業満足度

アンケートによると、学習態度については肯定的評価が多かった一方で、授業満足度はいずれの項目も平均以下だった。授業内容への満足度と知的好奇心に関する項目が最も低かったが、点数が同一であることから、学生にとってこの二項目が連動している可能性が考えられる。

今期は受講者数が予想外に多く、人間文化学科以外の学生が大半を占めていた。そのため、受講生の関心と本科目が提供する知識との間にミスマッチが生じていた可能性も考慮する必要がある。

授業改善の課題と方策

- ・リアクションペーパーについては、提出期限の延長や提出方法の変更などを改善する必要があると考えられる。
- ・スライドの難易度については、情報量を多少追加する必要があると考えられる。それに伴い、授業で扱う知識をより精選することが求められる。

その他

授業改善書

科目名	日本文学講読（古典）Ⅰ
担当者	越野優子

授業の概要

日本の古典文学の作品を取り上げその作品を多角的な角度から読み解く講義を行う。今回は『源氏物語』を講義する。『源氏物語』は1008年に一部が成立し、平安時代の中流階級の女性・紫式部によって書かれたとされる長編物語である。主人公光源氏の一代記である第一部・第二部とその子孫たちの第三部長編物語であり心理描写とその複雑で巧みな構造から物語文学の最高峰の一つとされ世界30か国以上で翻訳もされている世界的な古典作品である。半年間この作品のもつ謎を解き明かすような観点から講義を行う。

授業の問題点

- ① 朝一限の授業ということもあり、学生の集まりにばらつきがあった。
- ② 事前に今回取り扱う『源氏物語』の基礎知識をもう少しリサーチすべきであった（例えばteamsをつかって匿名アンケートをとるとか）。学生の基礎知識に大きな開きがあったことが質問をときどきするとよく感じられた。
- ③ 質疑応答をもう少しおこなうべきだった。毎回順不同にあてていたが、②で記した通り学生の基礎知識及び理解度に非常に開きがあり、学生に質問すると恥をかかせしてしまうようなときもあったのであまり質問をしなくなった経過がある。
- ④ レジュメの空欄穴埋め問題がかなり難しかったようだった。

学生の授業満足度

授業評価アンケートによれば、学生の満足度は3つのテーマ（授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか／学ぶ楽しさ、知るよこびは実感できましたか 全体的に振り返って、授業に満足できましたか）に対して5段階で4.50-4.58だったので高かったといえる。この結果はとてありがたく感じた。

授業改善の課題と方策

- ① 秋期も朝一限の授業があるが、集まりが悪いときなどはその都度学生に周知し、欠席回数が増えれば単位認定が不可になることを明示する。遅刻も同様である。
- ② 最初や二度目の授業に学生からリアクションペーパーをとり、取り扱い作品の周知度についてアンケート方式で知識を得る。特に古典作品は中高の間に読まなかった学生も多々いると思われるので最初のリサーチをしっかりと行い、学生の興味やレベルに合わせた授業を行っていくことにしたい。
- ③ 空欄穴埋め問題も含め、配布資料は著作権の問題もあるので作成に更に工夫したい

その他

全員ではないが、熱心な質問を寄せてくれた学生には感謝したい。今後とも一層よい授業を行っていこうと思っている。

科目名	日本文学特論（古典）
担当者	越野優子

授業の概要

本科目では『源氏物語』をそれぞれのテーマごとに応用的な視点から切り開く内容で講義する。『源氏物語』を約千年後の令和時代に読むことを意識しながら、それぞれのテーマが現代ではどのように映るかを常に意識して講義を進めたい。例えば「垣間見（かいまみ）」はこの物語の描かれた平安物語の男女の出会いを彩るものとして美しく絵画にも描かれているが、令和時代では読みも変わってこよう。このような考えの元、現代の我々が抱える様々なテーマ（問題点）とシンクロさせつつ講義を進めていく予定である。

授業の問題点

- ① 学生の習熟度を少し読み違えていたきらいがある。3年生以上なので古典文学の有名作品についての基礎知識は十分あると考えていたがかなりのばらつきがあった。これについては初回や2回目の授業の時間にリアクションペーパーでどのくらいの知識が測るべきだった。それにより各回の内容を検討すべきだった
- ② マイクの無い部屋なのでもう少し大きな声で話すべきだった
- ③ 動画の音の調整が時折うまくいかなかった。プロジェクターの操作にもう少し慣れるべきだった。学生に少し待ってもらったこともあった。

学生の授業満足度

学生の授業満足度は「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか／学ぶ楽しさ、知るよろこびは実感できましたか／全体的に振り返って、授業に満足できましたかがそれぞれ 4.37-4.41 であった（5段階）。平均は 4.58 なのでそれよりやや低い誤差の範囲なので妥当な数字といえる。

授業改善の課題と方策

- ① 授業の初回には必ず古典文学への認知度・習熟度アンケートを行うこととする
- ② 一つの古典に絞ることも大切だが、『源氏物語』を中心にもう少し広く同時代の作品（『枕草子』『更級日記』『和泉式部日記』『伊勢物語』などをとりあげたい。それが春期はやや少なかったと考えている。
- ③ 質疑応答をもう少し増やしたい。講義形式とはいえ、双方向のやりとりを増やすことでコミュニケーションを増やしたいと考えている。

その他

情報メディアセンターの授業関連の本をさらに積極的に学生に紹介して、メディアセンターにもっと足を向けてもらうように促したい。

科目名	日本文化概論Ⅱ
担当者	越野優子

授業の概要

昨今多くの外国人が日本を観光等で訪れる。そうした外国人を街で見かけるときに日本文化とは何かを改めて考えることも多いと思う。日本文化と聞くと国風文化が思い浮かぶが、この文化は「国風」という名は冠しているものの極めて外国色強い多様な文化であった。本講義ではこのような観点から主に近代以前（古代から江戸期）を対象として、日本の文化のもつ多様性やそれらが現代の日本にどのように接続しているかを講義する。日本文化の根幹を理解しそれぞれの研究に生かして欲しい。

授業の問題点

- ① 受講生が予想より多く 306 に教室変更をしたが、それでもかなりいっぱいだった。息苦しさを感じる時もあった。大人数が苦手な学生もいたのではないかな。
- ② 近代以前を満遍なく取り扱ったが、自分の専門のせいか文学寄りになることもあった。
- ③ 動画の音の調整が難しかった。音が割れることがあった。
- ④ 配布資料は空欄穴埋めの個所を置いたが、これが少し難しかったらしく毎回授業後で質問に来る学生も数人いた。Teams で模範解答をあげるべきだった。

学生の授業満足度

授業満足度の3つの項目が5段階で 4.42-4.48 であった。平均が 4.52-4.56 なので誤差の範囲と考えるから妥当な数字と考える。学生に感謝をしたい。

授業改善の課題と方策

- ① 今後受講生があまりにも教室いっぱいなときは再度教務課にご相談して教室変更が可能か願います。
- ② 各回のテーマを随時更新し、文学寄りになっているところは資料を作り替える。
- ③ 教務課や設備に詳しい人にレクチャーを随時願います。
- ④ 配布資料の空欄の内容の再検討。特性によって聞き取りが難しい学生もいると思うので、毎回黒板に模範解答を書くなどの配慮をしたい。

その他

人数が多かったので私語がかなりあるのかと思っていたらとても熱心に聞いてくれる人がいて、授業をしていて本当に楽しかった。学生に感謝したいです。

授業改善書

科目名	日本文学史概論（古典）
担当者	越野優子

授業の概要

本科目では日本古典文学の概要について講義する。5～6世紀ごろ古代中国から漢字文化が輸入されることと密接に関連しつつ漢文→漢字仮名交じり文という文体が生まれ、それと連動して独自の日本文学の世界が築かれてきた。その成り立ちから近代前までをその時代時代の代表的な作品の代表的な場面を読みつつ講義する予定である。日本古典文学の代表的な概念や特徴を常に考えつつ進めることとしたい。なお日本文学には韻文・散文とあるが、本講義は散文を中心に行う。

授業の問題点

学生の授業評価アンケートに寄せられたコメントを基に記述する。

- ・当日の資料配布について、毎回人数が異なるため資源や手間の無駄を考えるとつい節約をしてしまったことが複数回あり、結果として手元に資料がいきわたらないことがあった（その際研究室のドアの前に毎回置いた）。学生の不満には大変遺憾な思いがある。今回はこのようなことがないように多めに資料を作成しようと考えている。
- ・出席取得の際の forms のキーワードについて答え合わせを次の週にやるべきであると考えた。簡単なキーワードであっても、学生にとってはあっていた・間違っていたがわかることで自己肯定感を左右する。学生に寄り添う気持ちをもってやっていきたい。

学生の授業満足度

アンケートを見る限りでは、授業外学習が少ないこと・授業内の質疑応答が少ないことが点数で表れている（それ以外は平均的な満足度といえる）。

- ・予習についてはシラバス通りにほぼ講義したが次回の内容を予告することが少なかったといえる。これからは各授業の終わりに周知していきたい。
- ・授業内の質疑応答について。405教室は複数のマイクの用意があるので、もう少し当てた方がよかったと今になって考える。大教室で学生が緊張して答えていたことがありプレッシャーを考えて質疑応答を減らした経緯があったが、そこで学生の反応にひるまず、信念をもって進めていきたい。

授業改善の課題と方策

この授業の方針は基本的には変わらないが、以上の学生の意見等を踏まえていきながら、特に今後も大人数であった場合に資料の配布方法・配布資料の内容・出欠票のキーワードに工夫を凝らしたい。

期末試験の点数を見ると、最高点は95点（最低点は白紙/0点）で、とりわけ「秀」（90点以上）の点数の答案は工夫を凝らした文学作品の原文が盛り込まれておりまた自己の見解が明確に示されていた。点数は過半数が80点前後であったので授業のレベルとしては程よいものであったと考える。

その他

毎年少しずつ授業資料をアップデートして学生の期待に応えていきたい。

授業改善書

科目名	日本文学入門
担当者	越野優子

授業の概要

本科目では日本文学について、基礎的な知識及び大学で研究するために必要な考え方を講義する。主に近代以前を扱い、その時代ごとの代表的な作品を中心になるべく幅広く取り上げる。また、日本文学は世界の影響なしに存在していない。世界（とりわけ近隣諸国）との影響関係も講義していく所存である。半年間の授業ではあるができる限り広範囲に目配りをした講義にしたいと考え行うものである。

授業の問題点

学生の授業評価アンケートに寄せられたコメントはとくになかったので満足度の数値や期末試験の結果、そして自分で思いついたことについて記していきたい。

- ・全学共通科目ということもあり、学生の資質や傾向をつかみきれずに迷いながら授業をしていた。期末試験の点数も上下で幅があった。
- ・朝一限の授業ということで出席日数が足りずに受験資格ゼロになった学生も複数出た。学生に促す声をもう少し大きくすべきだったと考える。
- ・復習のために参考文献を毎回挙げたが読んだ気配はあまりなかった。学生への周知を工夫したい。

学生の授業満足度

学生の授業評価アンケートによれば学生の総合的な満足度は4.20~4.26で平均的な数値よりコンマ以下の数値で小さいが、大方満足していたとはいえる。ただ期末試験の点数をみると、学生の習熟度にはかなりの開きがあった。熱心な学生とそうでない学生の差もあったと考える。動画などを使い工夫はしたが、日本文学への知識の差がそもそも開いていたと考えられる。授業の最初に簡単なアンケートを行う（挙手でもよいだろうか）でこちらの予備知識を蓄えていきたい。

授業改善の課題と方策

上記に記した通り、まずは日本文学への知識がどのくらいあるかを知ったうえで、授業の各回で難易度を変えていきたい。基本的な方針は変わらないが、用語の説明などはもう少し丁寧にやりたいと思う。人数は50人ほどだったので出席確認も口頭で済ませるのに困らなかったし、毎回1回はランダムに当てて習熟度の調査は行っていきたい。またそれによって学生の復習への意欲も高まると思われる。面倒がらずにやっていきたい。また授業終了後にたまに学生から質問が出ることがあったがもう少し時間を取って丁寧に答えていきたいと考える（授業準備に忙しくて学生とあまり話せなかった）。

その他

毎年少しずつ授業資料をその年ごとの社会状況なども踏まえつつアップデートして学生の期待に応えていきたい。特に本科目は東アジアの情勢なども踏まえて日本文学の現況を語る部分もあるので、そのことには留意したい。

授業改善書

科目名	日本語学（概論）
担当者	松浦 光

授業の概要

日本語の構造上の特色について、おもに現代語を対象として、音声・音韻、文字・表記、語彙・語法、文法、敬語、文章・談話等、さまざまな観点から講義する。日本語の構造上の基礎的な知識や言語の構造を捉える観点・方法に関する基礎的な技能を学ぶ。また、言語学の視点から日本語学を捉え直す。

授業の問題点

「日本語学（概論）」という日本語学の根幹にあたる科目かつ教職課程科目にも該当するため、受講者も多く、授業全体のレベルを合わせるのに苦労をした。国語教師として知ってほしい知識を体系的に扱っていったつもりであるが、受講者にとっては専門性が高く、難しい部分もあるような印象を受けた。

学生の授業満足度

学生の授業満足度の数値が、わずかに平均値を下回っているが、受講人数を考えれば、妥当だと考えた。但し、受身の授業にならないように、もう少し言語現象やデータを考える時間を作っていきたい。

授業改善の課題と方策

授業アンケートのコメントでも好評だった、映像教材を増やしていき、より分かりやすく、実感的に日本語が捉えられるような授業を心掛けたい。加えて、受講者にとってあまりなじみのない、学術用語の定義や言語現象の解説をこれまで以上に時間をかけて行っていきたい。

その他

授業改善書

科目名	日本語の文法
担当者	松浦 光

授業の概要

日本語の文法の特色について、学校文法から振り返っていき、おもに現代語を対象として、日本語教育文法、若者言葉など、さまざまな観点から講義する。日本語の文法を捉える観点・方法に関する基礎的な技能を学ぶ。そこから、受講者とともに考えながら、日本語文法の諸相を詳らかに解き明かしていく

授業の問題点

テキストのレベルはちょうど良いように感じたが、扱う回によって、学ぶ内容の量にも差があったように思えた。もう少し内容の偏りをなくして、テキスト以外からの用例や具体例もあった方が良かったようにも感じた。

学生の授業満足度

学生の授業満足度の数値が平均を上回っていて、学生にとって有意義な授業ができたと考えられる。特に、アニメや漫画からも文法を考えたことも、学生の関心を惹いたようにも感じた。

授業改善の課題と方策

その日の学習項目を偏りなく学べるように、テキスト以外の実例や映像教材を増やしていきたい。また、受講者全員で考えられるような文法のトピックを紹介していき、主体的な学びになるような工夫をしていきたい。

その他

授業改善書

科目名	日本語の運用
担当者	松浦 光

授業の概要

日本語のなかに多様な形で存在するレトリック現象を題材に、研究対象として日本語を取り扱うための基本的素養を身につける。日本語の特色を確認するとともに、語用論の観点からコミュニケーションの仕組みを紐解いていく。そこから、実社会において、様々な場面で求められる日本語の運用について考える。

授業の問題点

全学共通科目あるため、受講人数が多く、教室全体の集中力を保たせるのに苦労した。特に、授業後半になると中弛みのような感じになってしまうこともあった。もう少し、考えたり、書いたりする、時間を設けるべきだったとも感じた。

学生の授業満足度

学生の授業満足度の数値が、わずかに平均値を下回っているが、受講人数を考えれば、肯定的に感じられた。授業アンケートのコメントも「楽しい」「面白い」「分かりやすい」など好評を得ていた。リアクションペーパーや映像教材を用いたのが、有効に働いたと考えられる。

授業改善の課題と方策

リアクションペーパー・teams を活用して、もっと書く機会を増やしたいと考えた。同時に、より双方向な授業になるように、興味深い回答や質問を積極的に拾って、フィードバックも行っていきたい。

その他

授業改善書

科目名	文章作成法（月）
担当者	松浦 光

授業の概要

本科目では、アカデミックスキルとして必要な日本語文章表現の能力を身につけることを目指す。特に四技能の中の「書く」ことのレベルアップを図ることを目的としている。

授業の問題点

「文章作成法」という書くことを扱う授業ではあったが、受講人数が多いため細かなフィードバックを行うことができなかった。そこで、いくつか Teams を用いて、課題を出して、そこからフィードバックを行うという方法をとった。

学生の授業満足度

学生の「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」という項目が、平均を 0.1 下回ってはいるものの、4.44 を示している。その点では一定数のニーズに応えることができたと考えられる。特に、メールやエントリーシートなどの実用文の書き方について授業で扱ったのも数字に良い影響を与えたと言える。また、映像教材を用いて、その日のトピックをまとめていったのも好評であった。

授業改善の課題と方策

受講人数が多い、課題のフィードバックが少ないといった問題を考えたが、これについては、Teams を用いて、双方向の授業になるように努めたい。

その他

授業改善書

科目名	日本語学（各論）
担当者	松浦 光

授業の概要

日本語学の基礎を確認しながら、現代日本語の文法的な規則を振り返る。そして、認知言語学による現代日本文法へのアプローチを探っていく。そこから、国語教科書を題材に、その言語現象を文法的観点から検討する。国語教育をはじめとした社会につながる国語力を身につけていく。

授業の問題点

「日本語学（各論）」という日本語学のより専門的な科目かつ教職課程科目にも該当するため、受講者も多く、授業全体のレベルを合わせるのに苦労をした。国語教師として知ってほしい知識を体系的に扱っていったつもりであるが、受講者にとっては前提知識が追いついていなく、難しい部分もあるような印象を受けた。

学生の授業満足度

専門的な内容を扱っていたにもかかわらず、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」という項目は平均と同じ4.45を示していた。これは、教員志望・日本語学ゼミの学生以外にも含まれている中、一定の水準を満たした授業ができていたと考えても良いだろう。そして、「日本語に関する文法などを細かく学べた」「非常に分かりやすい授業だった」という学生からのコメントもそれを裏付けるものとなっていた。

授業改善の課題と方策

映像教材を活用していき、より分かりやすく、実感的に日本語が捉えられるような授業を心掛けたい。加えて、これまで出てきた学術用語や言語現象を復習したり、「日本語学（概論）」などの関連科目とのつながりも意識したり、していきたい。

その他

授業改善書

科目名	文章作成法（木）
担当者	松浦 光

授業の概要

本科目では、アカデミックスキルとして必要な日本語文章表現の能力を身につけることを目指す。特に四技能の中の「書く」ことのレベルアップを図ることを目的としている。

授業の問題点

「文章作成法」という書くことを扱う授業ではあったが、受講人数が多いため実際に書くという時間が少なかったように感じた。そこで、いくつかTeamsを用いて、課題を出して、そこからフィードバックを行うという方法をとった。

学生の授業満足度

学生の「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」という項目が、平均を上回り、4.55を示している。その点では、多くの学生にとって満足ができる授業ができたと言える。特に、メールやエントリーシートなどの実用文の書き方について授業で扱ったり、映像教材を用いてその日のトピックをまとめたりしていったのも好評であった。学生からの「文章を書く能力を養う為に、社会に通用する必要な知識を得られた」といったコメントも科目の狙いに適ったものである。

授業改善の課題と方策

受講人数が多い、課題のフィードバックが少ないといった問題を考えたが、これについては、Teamsを用いて、双方向の授業になるように努めたい。また、リアクションペーパーを活用して、学生からのコメント・質問も共有していきたい。

その他

専任教員

人間学部

心理学科

授業改善書

科目名	発達心理学概論
担当者	藤枝静暁

授業の概要

人間の心身の発達を学ぶことは、自己理解や他者理解の基本的知識となりうる。心理学といった人と密接に関わる職業に関心がある者は、特に、人間の発達段階、発達課題といった基本的な知識や概念を理解しておくことが望ましい。知識の紹介にとどまらず、幼稚園、保育所、学校といった現場での実際の子どもの姿も紹介する。

授業の問題点

アンケート結果から、特段の問題点は無かったと考えられる。
「質問」や「発言」をしましたかに対する回答が平均よりも低かったことを踏まえて、質問や発言を促す工夫を考えたい。

学生の授業満足度

学生の回答は概ね平均と同等であった。つまり、学習充実感や満足度は一定程度満たされたと考えられる。

授業改善の課題と方策

新たな教室は快適な学習環境でした。学生さんも気持ちよく学べたと思います。
授業中に離席する方がおり、必要最小限にするよう注意しました。また、私語が目立つ方についても、周囲への迷惑を防止するために注意しました。

その他

学生さんの自由記述による感想の一部は以下の様であった。これらの回答からも、学生さんが能動的に、楽しみながら授業に参加し、発達心理学への関心を深めながら学習した様子がうかがえる。
・他の授業と比べてディスカッションが多く設けられていて退屈せずに記憶に定着できたと思います。
・赤ちゃんを育てるという所で実体験を元に話していて分かりやすかったです
・語句説明の際、具体例を絡めたり、生徒間での話し合いを要求するなどで印象に残りやすくなるようにしていたことにより、語句の印象が残りやすいと感じた。
・“授業中わかりやすい例え話や表やグラフなどを見るので具体的に理解が深まり、授業すべてにおいてわかりやすくて良かったと思う。
・まとめ方は非常に分かりやすかったが、進み具合に関してもうちょっと改善できる点があるとも感じた。しかし、とても良い授業だと思いました。

授業改善書

科目名	教育心理学
担当者	藤枝静暁

授業の概要

教育心理学についての基本的な知識や概念を体系的に理解する。授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れている。具体的には、本やPVCを利用した調べ学習、映像資料を視聴し、少人数で話し合いをするなどである。

授業の問題点

アンケートの結果から、特段の問題点は見当たらなかった。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」は4.74点だったことから、学生が授業に参加し、教育心理学の内容について得たものがあったと考えられる。

「学ぶ楽しさ、知るよこひは実感できましたか」の項目では5点満点で 約 4.70 点であり、学びへの満足度はまずまずであったと考えられる。

「全体的に振り返って、授業に満足できたか」の項目では5点満点で 約 4.70 点であり、授業全体への満足度はまずまずであったと考えられる。

授業改善の課題と方策

「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」は4.00点と平均よりも高かった。自宅での学習を一定したことで、授業内容や学習に対する喜びや満足度を得られたと考えられる。予習することで、授業内容の理解が円滑になる。復習することで、授業で吸収した知識が定着する。今後もこの基本事項を念頭に置き、どの授業においても予習・復習をして欲しい。

その他

コメントとして、以下のようなものがあり、授業者の狙いが伝わったようで、うれしく思います。
「具体的な例えが多くわかりやすかった。別の授業で前に習ったことを復習として思い出させてくれる時間があってとても身につくと思った。」
「話し合う時間が多く、授業でのインプットだけでなくアウトプットも同時にできるのが嬉しいです。」
「藤枝先生の解説が物凄く面白くてタメになりました。生徒に質問する部分も、積極性があって良かったと思います。ありがとうございます。」
「生徒たちが話し合う時間をとり、一方的な説明ではなく、参加させているという実感を持たせるやり方がとても良いと思いました。」
「隣と会話して意見を交換する というアクティブラーニングが多く取り入れられてて、色々と意見を聞く事のできる良い機会作りになってとても助かっています。」

授業改善書

科目名	心理学概論 I
担当者	安崎文子

授業の概要

はじめて心理学を専門的に学ぶ学生の入門として、心理学概論 I では、心理学の歴史・知覚・認知・学習・神経生理・発達・臨床にわたる、心理学のごく基本的な領域について、広く概説を講義する。自己を理解し、他者や社会を理解するために、科学としての心理学的な観点から、心理学の基礎的な知識の習得を目指し授業をすすめる。なお、本授業は心理学科の必修、卒業に必須の科目である。

授業の問題点

授業内容・授業方法・授業満足度について、昨年度は平均点を超えなかった項目は2項目だったが、今年度は1項目だけになった。
Q6「毎回の授業の内容や量について」4.51（平均4.54）のみ、平均点以下であった。昨年度は4.2であったので、多少改善されたものの、更にゆっくり量を減らす必要がある。また、学生より、「配られたプリントの穴埋めの部分の枠が小さい」との意見もあった。

学生の授業満足度

授業満足度は3項目全て平均を超えており、概ね満足いく授業を行うことができたと思われる。
Q9 授業の内容は得るところのあるものだったかは、4.69（平均4.56）+0.13であった。
Q10 学ぶ楽しさを実感したかは、4.56（平均4.52）+0.04であった。
Q11 全体的な授業満足度も4.64（平均4.52）+0.12であった。
評価は基準を超えることができた。

授業改善の課題と方策

満足度は概ね良好であったが、1項目「授業内容の量と速さ」が平均点以下であった為、更にゆっくりと、内容を厳選して量を減らす必要があると思われた。

その他

プリントの穴埋めの枠が小さい点は、これ以上大きく印刷すると、プリントの量が増える。空いているスペースはたくさんあるので、学生に大きな字で記入するよう促したい。またノートを作るなど、学習方法を教えていく必要があると思われた。

授業改善書

科目名	社会心理学概論
担当者	遠藤寛子

授業の概要

自己レベルの心理を理解していくことは、対人レベルそして集団レベルでの行動を考えていく上で重要な知識となる。本講義では、社会心理学における自己や他者に関わる様々な理論や知見を紹介した。具体的には、自分自身をどのように捉えているのか、他者との関係形成しようとする気持ちが社会的行動とどう関わってくるのか、なぜ、他者を傷つけるのか、そして他者を助けるのか等について講義した。

授業の問題点

履修者が110名を超えるほど多かったものの、授業の満足度4.64（5点満点中）であったことから、授業内容が概ね伝わっていたと解釈できる。学生の課題提出度は4.56、学生のメモを取るなどの記録の程度は4.52と高く、誠実に授業を受けていたものと考えられる。しかしながら、質問や発言に関する回答が2.86と低い傾向にあった。質問タイムを設けていたものの、一部の学生のための時間になっており全体的に質問・発言ができるような雰囲気ではなかったことが考えられるため、今後はリアクションペーパーの項目改善、オンライン対応など、更なる工夫が必要になるであろう。

学生の授業満足度

授業内容への関心、わかりやすさ、内容や量の適切さ、授業への配慮、理解度、満足度は、どれも平均以上の高い評価であったことから、概ね満足して頂けたと捉えている。自由記述の感想として「上手くまとめられた資料を配っていただいたり、文面だけでなく動画も活用されていたのでわかりやすかった」「毎授業興味深い事が学べてよかったです。先生の説明、スライドがわかりやすく、社会心理学概論について深く理解する事ができました。」等が挙げられ、社会心理学への関心が強まった学生も多くいたと思われる。

授業改善の課題と方策

更なる自由に質問に対応できる工夫が必要である。個別の質問時間を設けたり、リアクションペーパーに書いてもらう等の工夫はしたが、実際に質問をしたり発言したりする学生はやや少ない傾向にあった。可能な限り、学生一人一人の名前を覚えるなどして、教員と学生との心理的距離を縮める努力も重要かもしれない。また、メールでの質問対応を行っていたが、今後はTeamsを利用して質問コーナーを作り、学生の主体的態度を大切にしたいと考えている。

その他

特になし

授業改善書

授業改善書

科目名	心理学実験
担当者	遠藤寛子・安崎文子・伊里綾子

授業の概要

本講義では、心理学実験に関する一般的知識とレポートの作成方法について講義を行った後、鏡映描写、短期記憶、推論過程等について実験を行い、レポート作成の指導をする。実験の実施、データの記録・整理、データ分析、考察に至るまで心理学実験の理解が深まるよう、毎回、受講生を数名程度の小グループに分けて指導する。また、実験に適した環境（例えば防音/暗室など）で様々な実験を体験し、データを取得し比較する過程で心理学的実験を含む研究デザインの方法が習得できるよう指導する。

授業の問題点

学生自身の授業態度は、すべて平均点を上回り、授業に積極的に参加している様子が見られた。「授業内容へ興味をもったか」も 4.57 点（平均 4.48 点）と高かった。一方、授業内容について、「資料は適切であったか」が 4.50 点（平均 4.58 点）、授業方法については、「授業の方法や資料はわかりやすかったか」が 4.36 点（平均点 4.51 点）、「適切な内容や量だったか」が 4.29 点（平均点 4.54 点）、授業を円滑に進めるための配慮はなされていたかは 4.50 点（平均点 4.54 点）と平均をやや下回っていた。学生が積極的に取り組み有益な内容だったが、全般に難しく、特に統計やパソコン操作がわかりにくかったということが、本授業の問題点であったと思われる。

学生の授業満足度

満足度に関するアンケート項目は 3 つのうち 2 つで平均を上回り、特に「授業の内容はあなたにとって得るところがありましたか」では 4.64 点（平均 4.56 点）と高かった。本授業は、単位修得のために提出を求められるレポートが計 3 本と学生にとっては課題が多い科目ではある。その分、身につけられる力に対する満足度も高いものと思われる。また、提出されたレポート全てを添削し、コメントを付けて学生に返却していることも、満足度の高さに繋がっていると思われる。一方、「学ぶ楽しさの実感」は 4.43 点（平均 4.52 点）であった。また、学生より「授業の進め方で速すぎる部分と、遅すぎる部分がある」との意見もあった。

授業改善の課題と方策

学生の授業態度の得点からも、積極的な参加の姿勢がみられ、熱心な学生が多かったと思われる。一方で、パソコン技術や統計解析の方法の習得に非常に苦労しているようであった。授業内容は得るところがある内容ではあったが、内容が難しく、課題も多く苦労した様子が伺える。「授業の進め方で速すぎる部分と、遅すぎる部分がある」という学生の意見に対しては、なかなか意見を述べる事ができない学生に対して、どの点がわかりにくく困難であるのか、学生との対話をより増やすことが授業改善の方策として考えられる。より詳しく指導したほうが良いか、早く飛ばしても構わない内容なのか、確認する必要がある。そうすることで、困難度の高い内容についての、理解度や満足度の改善につながると思われる。

その他

特になし。

科目名	パーソナリティ心理学
担当者	遠藤寛子

授業の概要

本講義の前半では、「パーソナリティ」およびその研究知見、測定法、そしてパーソナリティと健康、文化、犯罪などの関連に紹介した。本講義の後半では、パーソナリティと関連が深い「感情」についての基本的理論や感情の制御に関する最新の研究知見を紹介した。こうしたパーソナリティと感情に関する研究を概観することで、個人が変わり得る可能性を考察しつつ、自己と他者への理解に役立てることを目的とした。

授業の問題点

授業アンケートの結果をふまえると、授業外での予習・復習をしない学生が多かったようである。また、授業中において質問時間を確保してはいたものの、質問をしない学生が多かったことも見受けられる。履修者数を踏まえ、講義形式が主となっているものの、モチベーションを高める工夫が必要である。予習・復習の方法についても言及し、本講義への興味関心を維持させたいと考える。

学生の授業満足度

毎回の授業において、履修生に対して振り返りシートを配布し、質問や感想、応用点を書くよう求めた。振り返りを習慣化したことで、履修生の思考が深まった可能性が考えられる。実際の授業アンケートの結果より、満足度は 5 段階評価のうち 4.75、学びの楽しさ度は 4.65 と高得点であり、満足感は満たされたことがうかがえた。また、「内容がものすごくおもしろかった」「安心感を持ちながら授業を聴けた」という意見もあり、心理学の関心が深まった可能性がある。

授業改善の課題と方策

今後は、質問に応じる時間を設けてはいるものの、多くの受講生は質問できなかったようである。振り返りシートの項目に質問・疑問も組み込むなどして工夫していきたい。毎年、100 名を超える授業ではあるものの、可能な範囲でグループワークを行うなどの時間も確保し、授業の雰囲気づくりにも力を注いでいきたい。

その他

科目名	心理検査法（心理的アセスメント）
担当者	佐々木 美恵

授業の概要

心理検査の実施においては、その目的や対象者に応じて、必要な心理検査法が選択される。本科目では、履修生が種々の心理検査法についての基本的な知識を得ることを目的として、発達検査や知能検査、投影法パーソナリティ検査など、心理検査法を広く取り上げ、その理論と実施法、分析法、解釈法について講義する。

授業の問題点

- ・ 学生の質問や発言を得る機会が十分ではなかったこと。
- ・ 授業外学習を促進できなかったこと。
- ・ 学生個々の理解度に差があり、集団指導のなかで理解が追いついていない学生へのフォローを十分に行うことができなかったこと。
- ・ 資料を多く用いているが、スライドの色使いなど、学生によっては重要度の差異がわかりにくかったようである。

学生の授業満足度

- ・ 満足度は低くはなく、学生の興味・関心を一定の水準で喚起することができたと考えている。
- ・ また実際の検査体験を含めたことに対する高評価を得た。実体験によって、さらに学ぶ楽しさや理解度が高まったことがうかがえた。
- ・ アンケートでは、教員の話し方の穏やかさへのポジティブな意見があった。授業は内容だけではなく、その伝えて含むものであるため、今後も意識していきたい。

授業改善の課題と方策

- ・ 学生の質問や発言を効果的に得られるような工夫や、出席票内コメントの積極的活用など、双方向性を高められるように努める。
- ・ 参考文献や学習内容の明示など、授業外学習を促進するための積極的対策を図る。
- ・ 学生のわからないところを、学生の視点で敏感にキャッチするように努め、授業資料の改訂や講義進行方法の工夫を図る。

その他

とくになし。

科目名	心理療法論
担当者	佐々木 美恵

授業の概要

心理療法および心理援助のさまざまな理論やアプローチについて講義する。
心理療法とは、臨床心理学の知見をもとに、こころの問題に関連する心身の問題や症状を改善しようとする方法の総称である。心理療法にはさまざまな学派、方法論があるが、本講義では、精神分析理論や行動主義、人間性心理学など、代表的な方法に関する基本的な知識を講義する。さらに、心理教育的援助や子どもの心理療法のほか、心理援助の応用的展開まで発展的に講義する。

授業の問題点

- ・ 授業内で学生による質問や発言の機会を十分に担保しておらず、双方向性の授業展開としては課題が残った。ただし、毎回提出する出席票に質問が書かれていた場合には、次の授業内で必ず回答するようにしており、その点で双方向性は維持されたと考えている。
- ・ 学生の理解度には個人差があるが、十分な理解に至っていない学生の把握と対応が細部にわたってなされたとは言い難い。

学生の授業満足度

- ・ 概ね良好であったと評価することができる。
- ・ 授業中も熱心に聞く様子が見られており、学生の興味、関心を惹起し、ある程度期待に応えることができたと考えている。
- ・ 各回の出席票にびっしりとコメントを書く学生が大勢を占めていたことから、学生のコミットは高かったと理解している。

授業改善の課題と方策

- ・ 学期末試験の結果からは、学生の習得度は十分な水準には達していないことがわかる。知識の定着を図るためのさらなる工夫と改善が必要である。たとえば、次回授業時に振り返りテストを導入するなど、随時知識の定着を促すような機会設定も検討したい。

その他

とくになし。

授業改善書

科目名	認知行動療法
担当者	羽鳥 健司

授業の概要

認知行動療法は、医療領域においては、習熟した医師が作成した治療計画に基づいて 1 回 30 分以上の治療を行った場合、医療保険点数を請求できる日本国内で唯一の心理療法であり、医療分野で働く心理士にとっては基礎的な知識を学習していることが求められる。この授業では、認知行動療法を理解して実施するために必要な基礎的な知識や技法の習得を目指した。

授業の問題点

質問や発言をしたか問う項目についてのみわずかに平均点を下回っていたが、感覚的には教員からの問いかけには適切な反応をしていた受講生が多かったことと、サンプルの少なさから見かけ上、下回ったという結果なのかもしれない。他の項目については概ね良好なフィードバックであったため、来年度以降も継続していきたい。

学生の授業満足度

満足度は非常に高いと言える結果であった。クライアントに実際に提供される認知行動療法のように、認知行動療法そのものや認知行動療法で鍵となる要因について、具体例を用いて様々な角度から繰り返し丁寧にゆっくりと解説したことが奏功したのかもしれない。

授業改善の課題と方策

授業中に表面上無理やり発言や質問をさせるのではなくて、発言・質問をしやすい環境を作れるよう心掛けたい。

その他

授業改善書

科目名	臨床心理学概論
担当者	羽鳥 健司

授業の概要

代表的な心理療法の理論や心理テストの種類と方法、心理治療の一般的な流れなどを紹介した後で、臨床心理学が役に立つと考えられる代表的な心理的問題や精神的な疾病を学習することを目的とした。また、臨床心理学のできることと限界も紹介します。

授業の問題点

「予習復習をしたか」と「質問や発言をしたか」が平均点を下回っていた。特に質問や発言について問うた項目では平均点を大幅に下回っていた。これは階段教室での実施であることから、授業中の発言は難しいものと考えられる。質問に関しては Forms で募ったが、例年に比べると少なかった。次年度以降は、予習復習と質問について積極的に行うよう繰り返し促していきたい。

学生の授業満足度

満足度は高いと言ってよい結果であった。受講生からの主な意見でも好意的なものが多かった。次年度も引き続き継続していきたい。

授業改善の課題と方策

受講生からの意見の一つに「感想や質問への対応時間があるとすごく嬉しい」というものがあつた。Forms での質問には全ての質問に対して誠実に返信をしていたつもりであつたが、授業の開始時に受講生全員の前で回答してもよかったかもしれない。

その他

授業改善書

科目名	健康心理学（健康・医療心理学）
担当者	羽鳥 健司

授業の概要

健康心理学は、心身の健康を維持増進するための心理学的な理解と支援を学ぶ学問である。主に身体疾患およびそれに付随する精神面の予防や健康を維持増進するための理解と支援方法を学ぶことを目的とした。

授業の問題点

・「質問と発言」の評価点が平均値よりも低かった。大教室ではあるが、できる限り双方向のコミュニケーションができるよう、アイスブレイクや各回の講義内容に関連する受講生が身近に感じられるような具体例を題材にする等したが、あまり効果はなかったようだ。

・「課題提出と出席」の評価点が平均値よりも低かった。課題に関しては提出されているので、出席に対する評価点であると思われる。しかしながら、平均値とは誤差と言えるレベルの違いなので、そこまで問題ではないかもしれない。

学生の授業満足度

・満足度は高いという結果であった。内容的に身体的な慢性疾患の心理学的理解の話が多く、平均年齢の若い受講生にはなかなか身近に感じられにくいものが多かったが、ニュースや教員自身の体験等を基に、できる限り具体的に、身近に感じられるように工夫したことが奏功したのかもしれない。

授業改善の課題と方策

・グループディスカッション等を取り入れて、受講生が発言できる機会を作りたい。

その他

・受講生の一部から「①板書が読みにくい、②話している内容が分かりにくい、③授業に関係のない話をすることが多い」との指摘があった。①に関しては、できる限り丁寧な文字での板書を心掛けたい。②に関しては、更なる平易な言葉を使用できるよう努力したい。③に関しては教員が認識している事実と異なっているので、どのように関係しているのかが明確に分かるような説明を心掛けたい。あるいはアイスブレイク等で関係の無い話をすることもあるが、数分以内に終わるので、一部の受講生の感情的な反応なのかもしれない。

授業改善書

科目名	心理実習
担当者	伊里綾子・中谷隆子

授業の概要

学外実習施設（保健医療、福祉、教育、産業・労働分野等に関する専門機関）における見学等の実習および、その事前学習と事後学習を通じて、（ア）要支援者へのチームアプローチ、（イ）多職種連携及び地域連携、そして（ウ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解の3点について学び、実習担当教員ならびに実習施設の実習指導者による指導を受ける。

授業の問題点

おおむね高い評価をいただいたものの、「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」という項目について、やや点数が低くなっていた。本科目では、事前学習において調べ学習を行い、発表をする形式をとっているが、おそらく事前学習に割く時間を十分にとれなかったことにより、課題量が多く感じられたためと思われる。

また、シラバスに記載の通り、実習先との調整などにより、どうしても学習順序に変更が生じてしまうことがあるため、その点の説明も必要と思われた。

学生の授業満足度

授業の満足度に関するアンケート項目については、全員が5点と満点の評価をしていた。これは、学生自身の学びに対する積極性によるところも大きく、それに応える形で実習準備を行えたことによるものと思われる。通年科目であるため、秋期にも多く実習が組まれているが、事後学習の際の意見交換などを丁寧に行い、さらに学生の学ぶ意欲に添えていけるようにしたい。

また、「履修生みんなで協力してできる授業で成長することができたと思えました。」というコメントもいただいたため、学生全員でディスカッションを行う機会を大切にしたいと考えている。

授業改善の課題と方策

事前学習の発表準備に要する時間は一人一人異なるが、もう少し課題量を減らし、時間が余った学生は発表の質を上げる工夫ができるようにしたい。

また、学習順序の変更についてはオリエンテーションや変更が生じた際などに丁寧に説明をし、順序の変更によって学生に戸惑いが生じないように、十分配慮していきたい。

その他

受講人数によっても、発表にかかる時間などが毎年異なってくるため、授業規模に合わせて発表論文を変更するなど、工夫していきたいと思う。

授業改善書

科目名	心理演習
担当者	伊里綾子・中谷隆子

授業の概要

次に掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）を行い、事例検討をすることで、公認心理師の業務に必要な心理支援の基本的な知識および技能を習得できるよう指導する。

- ・心理に関する支援を要する者等とのコミュニケーション、心理検査および心理面接の実施、地域支援の実施
- ・心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
- ・心理に関する支援を要する者等の現実生活を視野に入れたチームアプローチ
- ・多職種連携及び地域連携
- ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

授業の問題点

ほとんどのアンケート項目が平均点よりも高く、大きな問題点は見られなかった。ただし、「シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか」については 4.38 点と平均の 4.51 点を下回っていた。これは、初回のディスカッションで予定より多く時間を取ることで理解が深まると判断し、予定以上の時間を取ったためと考えられる。ただし、最終回のまとめで調整を行うことで、予定していた全ての内容を実施することができた。また、「質問や発言をしましたか」という項目が 3.63 点と、本授業の中では相対的に低めな点数となっていた。

学生の授業満足度

授業満足度に関する質問項目 3 項目はいずれも平均点以上であり、学生の満足度は高かったと考えられる。授業方法についての「授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたか」という質問項目が満点の 5.0 点であったことから、授業の進め方における工夫が授業満足度に繋がったと思われる。具体的には、ディスカッションの多い授業であるため、場の空気に配慮し、学生に硬さが見られるときには、ワークなどをして緊張をほぐすようにした。また、ディスカッションのやり方がわからない場合などは随時質問を受け付けた。次年度以降もこうした工夫を続けていきたい。

授業改善の課題と方策

まず、シラバスの内容との一致という点については、今年度より新規に取り入れたディスカッションの内容がやや難しかったことで予定より多くの時間を要したことが問題として考えられるため、事前により詳しい解説を入れることで、難易度の調整を図りたいと考えている。また、質問や発言については、グループで質問を考えてもらうようにすると、適格な質問ができていたため、そのような工夫を行うことで相互的な学習を行う機会を増やしていきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	心理実習
担当者	伊里綾子・中谷隆子

授業の概要

学外実習施設（保健医療、福祉、教育、産業・労働分野等に関する専門機関）における見学等の実習および、その事前学習と事後学習を通じて、（ア）要支援者へのチームアプローチ、（イ）多職種連携及び地域連携、そして（ウ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解の 3 点について学び、実習担当教員ならびに実習施設の実習指導者による指導を受ける。

授業の問題点

すべてのアンケート項目が平均点を大きく上回っており、目立った問題点はみられなかった。項目ごとに相対的にみると、「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」の項目が 4.50 点と他の項目に比べやや低くなっており、事前学習や事後学習の負担感が大きかったかもしれない。

学生の授業満足度

授業の満足度に関する項目の得点はいずれも平均よりも高く、Q9 および Q10 については全員が満点の 5 点を付けていた。本科目は公認心理師試験受験資格取得のための選抜科目であり、全員が目的意識をもって積極的に授業に取り組んでいたことと、実習先の指導者の先生方がそれに応えて下さったことが満足度が高くなった要因と考えている。「質問や発言をしましたか」という項目が 4.83 点と平均の 3.33 点を大幅に上回っており、この点からも、学生が意欲的に授業に取り組んでいたことが満足度に繋がったことがうかがえる。

授業改善の課題と方策

本授業は満足度が高く評価されていた。現場の様子を肌で感じ、現場で活躍する心理師の話を直接聞くことができたことで、これまで座学で学んでいた心理学がどのように臨床現場で活用されているかを実感を持って学ぶことができたことが満足度の高さに繋がったものと考えられる。このような満足度の高い授業を継続するためには、実習先の先生方に学生の意欲や誠実さが伝わるような指導を続けることで、引き続き実習先の先生方に心理実習についての理解をいただく必要がある。そのためにも、特にオリエンテーションや事前学習において心理師を目指す者としての心掛けを丁寧に指導し、学生が積極的に参加できるよう工夫していきたい。また、事前学習と事後学習の負担感については、学生一人一人の事務処理能力等を見極めたうえで、適切なサポートを行うなどして対応していきたいと考えている。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	人間関係論
担当者	川久保 惇

授業の概要

日々の日常生活は自分の周囲の人たちに頼み事をする事で成り立っている。たとえば、「駅まで車で迎えに来て」と親に頼んだり、「来週の日曜日、買い物に付き合っ」と友達にお願いをしたり、「ちょっとアンケートに答えて欲しい」と見知らぬ人に声をかけたりする。本講義では、人が他者に対して何らかの働きかけを行っていること、すなわち「対人的影響」に焦点を当てた。

人はなぜ他者に影響を与えることができるのか、また、影響力の強弱を決める要因とは何かについて講義した。授業は主に講義形式で実施したが、適宜、映像視聴やワークも取り入れた。

授業の問題点

学生の評価を確認すると、多くの項目が4.5点以上であったが授業外学習（予習や復習など）をしましたか」と「質問や発言をしましたか」という項目については、それぞれ3.82、3.29であった。授業外学習や授業内での双方向のやりとりはあまり行われなかったと学生は感じたようである。

学生の授業満足度

授業満足度については、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」のどちらも4.8点程度（全体平均は4.5程度）であったことから、概ね多くの学生が授業に対して満足していたと考えられる。

授業改善の課題と方策

授業改善の方策としては以下の2点が挙げられる。一点目は、授業を振り返る課題を提示することである。講義時間内で全ての学習を完結させるのではなく、授業外に取り組むことが必要な内容も講義に盛り込んでいきたい。二点目は、授業内で学生同士のディスカッションを促進するようなワークの導入である。学生が受動的に取り組むだけでなく、積極的かつ能動的に取り組めるような工夫を授業に取り入れていきたい。

人間関係論は今年度から担当した新しい科目であったが、今回の授業評価アンケートの結果を活かし、次年度の講義内容の改善を検討したい。

その他

特記事項なし。

授業改善書

科目名	カウンセリング心理学(心理学的支援法)
担当者	泉水 紀彦

授業の概要

本講義では、様々な心理療法やカウンセリングの基本を理解するとともに、訪問による支援や地域支援、心の健康教育、コミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮などについて学習することを目的とする。代表的な心理療法やカウンセリングの歴史、概念、意義、適応および限界について学習する。

講義全体を通して、人々の心理的な問題や苦痛に関わる様々な支援活動についての理解を深める。

授業の問題点

ほとんどの質問項目は、評価は4.4以上であるが、授業外学習（3.81）、質問や発言の有無（2.97）の質問項目は低評価であった。特に質問や発言の有無は全体平均と比較して低値であった。授業中に学生を指名して発言を求めることはなかったが、受講生には授業後に感想を書いてもらい、次の授業開始時に匿名で感想を紹介して意見共有を行っている。自由記述の学生の意見でもその形式は好評であった。グループワークを取り入れていたが、時間制限面でワークの感想を共有する時間をもてなかった。

学生の授業満足度

授業内容に得るものがあつたか（4.66）、授業は満足できたか（4.71）となっており、平均点よりやや高値であった。また、授業の方法や資料はわかりやすかつたかについては、4.71であった。

授業改善の課題と方策

カウンセリング心理学(心理学的支援法)は、様々な心理療法を紹介するため、理論の理解だけでなく、体験を通して理解も必要であると考えられる。グループワークやペアワークで体験を通して理解する内容を取り入れるように工夫していたが、授業の時間制限もあり、十分なワーク後の共有時間をとれなかった。授業内容を削減するのは難しいため、今後は、ワーク後に振り返りができるワークシートを配布し、意見を聴取して、その次の回で共有できるように工夫をしたい。

その他

授業改善書

科目名	神経生理心理学
担当者	泉水 紀彦

授業の概要

行動や感情は中枢神経系の活動により引き起こされる。生理心理学は、生理学的手法を用いて脳と行動の関係を調べ、人間の「心」やそのメカニズムを明らかにしようとする学問である。本講義では神経活動の基本から始め、身体機能の生理学的基礎をふまえながら、知覚・学習と記憶・感情・ストレスなどをとりあげ、これらがどのような神経メカニズムにより成立しているのかを解説する。また生理心理学の基礎的研究や臨床場面への応用（精神障害、高次脳機能障害）について学ぶことで、心を生み出す脳の仕組みについて理解を深める。

授業の問題点

ほとんどの質問項目は、評定が4以上であるが、質問や発言の有無(2.84)の質問項目は低評価であった。受講生が授業後にコメントカードに感想を書いてもらい、次の授業開始時に共有する方で意見共有を行った。学生からの質問などにきちんと対応しましたか(4.72)であり、その点が反映されていると考えられる。この点は、毎回の振り返りがよい復習となったとコメントがあった。ただ講義形式であったため、授業中に学生を指名して発言を求めることがなかった。授業外学習(3.76)は、平均と同程度であった。

学生の授業満足度

授業内容に得るものがあつたか(4.63)、授業は満足できたか(4.59)となっており、全体と比較して同程度の評価であった。

授業改善の課題と方策

毎回15分から20分程度前回授業のコメントに対して、コメントを紹介して、返答を返す形でフィードバックしている。多様な考え方を知らためや、前回の復習のために行っていて好評であるが、その一方で学生の一部にはフィードバックが長いと感じるとの意見ももらった。フィードバック自体は今後も継続するが、フィードバックの形式については検討が必要であると考えられる。

その他

特になし

授業改善書

科目名	心理統計演習
担当者	米村 朋子

授業の概要

本授業では、行動実験もしくは質問紙調査（または質問紙実験）を実施した場合を想定した統計分析の演習を行いました。提示される課題に応じて、各自でSPSSなどに代表される統計ソフトを操作し、デモデータに対応した統計方法を選択し、実際に分析を行い、その結果を考察することで、心理学統計の実際と課題について学びながら、心理学的研究が遂行できるスキルの修得をめざしました。

授業の問題点

授業アンケートから、「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」「ノートやメモ等を取りましたか」の項目に対して、平均よりも低い評価を受けた。演習形式の授業であったことや、大学でのみ使用可能な統計ソフトを使用した関係で、教員・学生共に授業中で学修が完了できるように心がけすぎたことが、授業外学習の機会を上手く作り出せない状況につながった可能性として考えられる。ノートやメモについては、良く取る学生とそうでない学生に分かれたようであった。

学生の授業満足度

授業アンケートから、「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」の項目について、4以上ではあったものの平均よりも低い評価を受けた。統計スキルを高める応用的授業であったことから、学生の習熟度によって簡単に課題が終わったり、課題完了できなかったりしたことが影響していると考えられる。一方それ以外の授業内容、授業方法、授業満足度の全ての項目で、平均よりも高い評価を受けた。特に、「シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか」「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の項目では5点満点の満足度が得られ、各回の授業意図が伝わりやすく感じてくれており、学生のニーズにマッチしていたことが分かった。最も満足度が低かった「学ぶ楽しさ、知るよろこびは時間できましたか」の項目については、心理学で得られた知識を学ぶ授業と異なり研究方法論的な内容であったことが大きく影響した可能性が考えられる。

授業改善の課題と方策

授業改善の課題と方策

上述の「授業の問題点」および「学生の授業満足度」で評価の低かった下記4項目について以下の改善を実施することとする。

- ・質問・発言について：積極的な質問が起こりやすい声掛けを心掛ける
- ・ノート・メモについて：メモを取りやすい資料を配布する
- ・適切な内容や量について：個人差に柔軟な対応ができるよう修正する
- ・楽しさ・よろこびについて：実生活でも役に立つ可能性を伝えられるよう修正する

その他の項目についても評価がより高まるよう、改善を検討する。

その他

授業での課題に自分自身・学生同士で教え合いながら真剣に取り組んでおられる学生が多かった。わからないことを授業時間内に解決したいと積極的に質問するなど、意欲的に取り組んでくださった学生さんも複数おられ、教員としても大変学びの多かった授業でした。単なる知識を得るだけでなく、学生自身の今後に役立てられそうだと感じているだけの授業が提供できるよう、今後一層励みます。

科目名	交通心理学
担当者	米村 朋子

授業の概要

交通心理学は、交通場面における人間の行動や心理特性を明らかにして、交通事故やトラブルの発生要因を分析し、安全かつ快適な交通環境の構築を実現することを目的とする研究領域です。本授業では、日頃の生活での事例をもとに問題提起し、日頃無意識に利用している道路交通場面を想起しながら、事故の危険性や、その原因となりうる人間の特性の理解を深めていただきました。

授業の問題点

授業アンケートから、学生自身の学習態度を評価する項目全てに対して、3 以上ではあったものの平均よりも低い評価を受けた。出席のために課題の提出を求めているが、全員が全ての授業・課題に全力で取り組めなかったという自己評価の原因がどこにあるのか、よく考え次回に活かす必要がある。講義形式の授業であったことで、受け身でも受講可能な内容になっていた点が問題だと考えられる。また、参考書の提示は行ったものの、教科書を必須としなかったことや、予習復習の課し方が、授業外学習のモチベーションの維持につなげられなかったのかもしれない。ノートやメモについては、良く取る学生とそうでない学生に分かれたようであった。

学生の授業満足度

授業アンケートから、授業内容、授業方法、授業満足度の全ての項目で、4.5 以上かつ平均よりも高い評価を受けた。特に、「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」「学生からの質問などにきちんと対応しましたか」などの項目では高い満足度が得られ、各回の授業意図が伝わりやすかったと感じてくれたことが分かった。最も満足度が低かった「授業内容に興味や関心を持ちましたか」の項目については、自動車運転者の心理がメインの内容となっている学問領域である一方で、運転免許取得者の少ない 2 年生が中心の授業であったため、学生自身の生活と乖離した知識だと感じた可能性があると考えられる。

授業改善の課題と方策

上述の「授業の問題点」および「学生の授業満足度」で評価の低かった下記 4 項目について以下の改善を実施することとする。

- ・出席・課題提出について：全回出席したくなるような内容・課題構成に修正する
- ・授業外学習について：積極的な学習がしやすい課題を明示する
- ・質問・発言について：授業内でのこちらからの問いかけを増やし質問を促す
- ・ノート・メモについて：メモを取りやすい資料を準備する

その他の項目についても評価がより高まるよう、改善を検討する。

その他

授業内容に対して、「とても面白かった」「丁寧なスライドで説明が分かりやすかった」などと、良く評価してくださる学生さんが複数おられて、学びのお役に立てたことを幸いに感じています。授業の内容に応じて、自分の体験した事例を報告に来てくれたり、わからなかったことを積極的に質問してくれたり、意欲的に取り組んでくださった学生さんが複数おられ、教員としても大変学びの多かった授業でした。単なる知識を得るだけでなく、学生自身の今後に役立てられそうだと感じていただける授業が提供できるよう、今後一層励みます。

科目名	知覚心理学
担当者	米村 朋子

授業の概要

知覚心理学は、世界にあるさまざまな情報から自分を取り巻く環境を認識する仕組みを科学的に明らかにしようとする心理学の分野です。本授業では、知覚心理学の幅広い研究領域に関して、それぞれの領域を代表する基本的な理論・モデルや、知覚研究知見が社会や技術へ応用される例を紹介し、脳の中で行われている複雑な情報処理について理解を深めていただきました。

授業の問題点

授業アンケートから、学生自身の学習態度を評価する項目全てに対して、3 以上ではあったものの平均よりも低い評価を受けた。特に「出席や課題提出等はしましたか」の項目は昨年度よりも評価が下がった。全員が全ての授業・課題に全力で取り組めなかった原因の 1 つには、昨年度まで実施していた人数制限が本年度は教室拡大により不要になり、関心の低い学生も履修できるようになったことも挙げられる。加えて、講義形式の授業であったことで、受け身でも受講可能な内容になっていた点が問題だと考えられる。また、参考書の提示は行ったものの、教科書を必須としなかったことや、予習復習の課し方が適切でなかったが可能性があり、授業外学習のモチベーションの維持につなげられなかったのかもしれない。ノートやメモについては、良く取る学生とそうでない学生に分かれたようであった。

学生の授業満足度

授業アンケートから、授業内容、授業方法、授業満足度の全ての項目で、4.6 以上かつ平均よりも高い評価を受けた。特に、「授業の方法や資料は分かりやすかったですか」「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」などの項目では高い満足度が得られ、各回の授業意図が伝わりやすかったと感じてくれたことが分かった。最も満足度が低かった「授業内容に興味や関心を持ちましたか」の項目については、様々な事例に触れてほしいという意図で紹介した内容の 1 つ 1 つの説明が、学生にとっては不十分であった可能性が考えられる。

授業改善の課題と方策

上述の「授業の問題点」および「学生の授業満足度」で評価の低かった下記 4 項目について以下の改善を実施することとする。

- ・出席・課題提出について：全回出席したくなる内容・課題(提出方法)構成に修正する
- ・授業外学習について：積極的な学習がしやすい課題を明示する
- ・質問・発言について：授業内でのこちらからの問いかけを増やし質問を促す
- ・ノート・メモについて：メモを取りやすい資料を準備するその他の項目についても評価がより高まるよう、改善を検討する。

その他

授業方法に関して、スライドや実例を多く含めたことで理解しやすい状況であったと評価してくださる学生さんがおられて、学びのお役に立てたことを幸いに感じています。また、授業内容に関する自分の興味を話しに来てくれたり、わからなかったことを積極的に質問してくれたり、意欲的に取り組んでくださった学生さんも複数おられ、教員としても大変学びの多かった授業でした。知識を得るだけでなく、日頃の生活と結び付けて考えるスキルを身に付けていただける授業が提供できるよう、今後一層励みます。

科目名	心理学実験基礎（心理学実験）
担当者	米村 朋子

授業の概要
本科目は、演習形式で受講生自身が実験者や実験参加者を経験することによって、心理学的知見が生み出されていく過程を具体的に習得することができる、非常に重要な科目である。この授業は1年生必修科目であり、心理学における実証研究の実施に必要な知識を講義するとともに、受講生自らが実験を実施しデータ解析を行う。そこで得られた結果を踏まえた実験レポートを執筆するために必要な知識の修得を指導した。
授業の問題点
授業アンケートから、「授業外学習」「質問や発言をしましたか」「ノートやメモ等を取りましたか」の項目に対して、2.8～3.8と平均よりも低い評価を受けた。本科目は2クラスに分けての演習形式の授業であり、履修時間（午前は出席者少ない）の都合や、教員へ良く質問する学生と全く質問しない学生との差が大きい点などが評価に大きく影響したと考える。また、授業内容については、全ての項目で4以上の評価であったが、「興味・関心」「シラバスとの一致」「わかりやすさ」「楽しさ・喜びの実感」の項目で平均よりも低い評価であった。必修科目かつ専門的な内容の科目であることから、学修に対するモチベーションをうまく高めてあげられなかったことが問題だと考えられる。
学生の授業満足度
授業アンケートから、授業方法については、全ての項目で4以上の評価であった。各回の授業意図は伝わっていたことが確認できた。授業満足度についても、全ての項目で4以上の評価であったが、一部平均値を下回るクラスも認められた。一般的な心理学からのイメージとの差異に気がかされる授業であることや、初めてかつ専門的な内容を多分に含む科目で、レポート執筆による授業外学習の時間が多く必要であったことが、満足度を下げた可能性が考えられる。
授業改善の課題と方策
授業アンケートにおいて、評価の低かった下記3項目について以下の改善を実施する。その他の項目についても評価がより高まるよう、改善を検討する。 ・質問・発言について：授業内でのこちらからの問いかけを増やし発言を促す ・ノート・メモについて：メモを取りやすい資料を事前配布する ・授業内容への満足度について：日常との関連をより意識させるなどして、授業の意義に納得してもらえるような指導内容に改善する
その他
学生より「PC操作をゆっくり説明してほしい」との要望があった。出来る限り全体のペースを調整しながら説明を勧められるよう努力します。ただ、操作の得意不得意に個人差が大きく、授業内でペースを整えることには限界があるので、授業前後にサポート時間を設けているので、積極的に利用していただけるとありがたいです。 授業を進める中で、わからなかったことを直接やメールを使用して積極的に質問してくれたり、授業内容に関する最新の話題を自ら調べて教えに来てくれたり、提示した課題以上の取り組みを行ってくれたり、意欲的に取り組んでくださった学生さんが複数おられ、教員としても大変学びの多かった演習でした。その一方で、授業の重要性が伝わりきらず、取り組むモチベーションを高められなかった学生も多くおられることが分かった。単なる知識を得るだけでなく、日頃の生活と結び付けて考えながら、心理学の研究スキルの基礎を身に付けていただける授業が提供できるよう、今後一層励みます。

科目名	認知心理学（知覚・認知心理学）
担当者	米村 朋子

授業の概要
本科目は、これらの心の働きを支える仕組みを科学的に明らかにしようとする心理学の分野である。本授業では、本授業では、認知心理学の幅広い研究領域に関して、それぞれの領域を代表する基本的な理論・モデルや、認知研究知見が社会や技術へ応用される例を紹介し、脳の中で行われている複雑な情報処理について理解を深めてもらうよう指導した。
授業の問題点
授業アンケートから、学習態度に関する「出席・課題提出」以外の項目で、平均よりも低い評価を受けた。特に「質問・発言」の項目は、昨年度よりも学習態度が低下していた。履修者数が多いため、質問を課題の一部として毎回課し、翌日に回答を行っていたが、直接的な発言の機会は少なかったり、授業外学習のモチベーションの維持につなげられなかったのかもしれない。ノートやメモについては、良く取る学生とそうでない学生に分かれたようであった。
学生の授業満足度
授業アンケートから、授業内容、授業方法、授業満足度の全ての項目で、4.5以上かつ平均よりも高い評価を受けた。特に、「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」などの項目では高い満足度が得られ、各回の授業意図が伝わりやすかったと感じてくれたことが分かった。最も満足度が低かった「学ぶ楽しさ・喜び」の項目については、講義形式の授業による一方向の知識享受だけでは不十分な部分を、体験型の学びを介して自らの「気づき」を増やすことで充足することが求められていると考える。
授業改善の課題と方策
上述の「授業の問題点」および「学生の授業満足度」で評価の低かった下記4項目について以下の改善を実施することとする。 ・授業外学習について：積極的な学習がしやすい課題内容・量へ修正する ・質問・発言について：授業内でのこちらからの問いかけを増やし発言を促す ・ノート・メモについて：メモを取りやすい資料を配布する ・学ぶ楽しさ・喜びについて：内容を再精査し、体験型の学びを増やす その他の項目についても評価がより高まるよう、改善を検討する。
その他
授業内容に関する自分の興味や最新の話題を話しに来てくれたり、わからなかったことを積極的に質問してくれたり、意欲的に取り組んでくださった学生さんが複数おられ、教員としても大変学びの多かった授業でした。単なる知識を得るだけでなく、日頃の生活と結び付けて考えるスキルを身に付けていただける授業が提供できるよう、今後一層励みます。

科目名	学校心理学（教育・学校心理学）
担当者	中谷 隆子

授業の概要
本授業では、受講生が現代の学校教育過程において一人ひとりの子どもが会う様々な課題や諸問題及びその背景について理解し、心理教育的援助サービスの方法やその実践に関する基礎的な知識及びコミュニケーションスキルを習得することを目指した。 学生の到達目標は、①学校心理学の枠組みを理解し、それに基づき子どもや学校に関わる諸問題と背景について説明できる、②心理教育的援助サービスに関する基礎的な知識を習得する、③学校教育現場で求められる基本的な態度やスキルを理解し日頃から意識できる、の3点の到達目標を達成するために、ICTを活用したアクティブラーニング形式の授業スタイルを主軸として、体験的ワークを多彩に取り入れた授業を心掛けた。 具体的には、教員と学生が意見や感想を交換する双方向型授業や、個別または小グループに分かれてワークを行ったり、視聴覚教材を取り入れたり、等といった体験型学習、さらに授業担当者の臨床経験を活かした実践的な講義を織り交ぜ、学生が主体的に関わり意欲をもって援助サービスの知識を習得できるよう工夫した。 また、授業中に投影するスライド資料のうち、重要キーワードを空欄として学生へ配布し、授業中に書き写すよう指示した。これにより、学生の受動的学習ではなく能動的学習を促し、知識の定着及び飽きさせない授業の達成を目指した。 最後に、授業後、毎回 Forms を通して授業内容の感想を提出するよう課し、学習が定着するよう心がけた。復習や学習の深化に役立てることができるよう授業で使ったスライドは全て Teams 上で共有した。

授業の問題点
授業アンケート結果によると、学習態度および授業評価ともに全ての質問項目で平均を上回る結果を得ることができた。そのうち、平均とほぼ同値であった「Ⅱ授業方法：Q6 毎回の授業は適切な内容や量でしたか」を授業の問題点とみなし、振り返りたい。 本授業は毎回の授業後に Forms を利用した感想や疑問の提出を求めた。収集した感想や疑問は次回授業冒頭にて一部紹介し、フィードバックを行っており、「毎回、授業の初めに感想をシェアしたのがとてもよかった（アンケートの自由記述欄参照）」という感想が多数であった一方で、毎回の課題が過剰であると感じられる学生もいた可能性がある。

学生の授業満足度
授業アンケート「Ⅲ授業満足度について」の結果は、いずれも平均値より高い得点を示しており、自由記述欄にも「わかりやすい授業だった」「現場での心理学を知れる良い授業」等と記述いただき、満足度は高かったと考えられる。ただし、アンケート回答者が62名と全体の半数であったこと、課題が過剰であった可能性もあることから、結果に慢心することなく今後も担当する各授業や受講学生へ真摯に誠実に向き合い、授業の質を改善・向上させてゆきたい。

授業改善の課題と方策
「授業の問題点」に基づき、下記に授業改善の課題と方策について検討する。 上述したように、1 回分の授業構成をあらかじめ丁寧に計画し、1. 感想カードフィードバック、2. 座学授業および質疑応答、3 体験的ワークの3点をバランス良く組み込む努力をしてゆきたい。また、

その他

科目名	学校臨床心理学
担当者	中谷 隆子

授業の概要
本授業では、不登校、いじめ、非行、発達障害、学校・学級崩壊といった、学校教育過程で子どもが抱える諸問題に対する心理臨床学的援助の基本的知識及び技術について、主にスクールカウンセラーの観点から実践的に理解し、習得することを目指して講義した。学生の到達目標は、①学校臨床心理学において対象となる子ども・保護者・教師の心理的な特徴や状況及び学校現場の文化について理解できる、②事例検討や体験的学習を通して、心理教育的援助サービスの実践的な手立てを考えられる、の2点とし、これらの目標を達成するために ICT を活用したアクティブラーニング形式の授業スタイルを主軸として、事例検討や体験的ワークを多彩に取り入れた授業を行った。 具体的には、教員と学生が意見や感想を交換する双方向型授業や、個別または小グループに分かれてワークを行う体験型学習、さらに授業担当者の臨床経験を活かした実践的な事例検討の機会を織り交ぜ、学生が主体的に関わり意欲をもって援助サービスのスキルを習得できるよう工夫した。また、授業後に毎回 Forms より授業内容の感想を提出するよう課し、学習が定着するよう心がけた。復習や学習の深化に役立てることができるよう授業で使ったスライドは全て Teams 上で共有した。

授業の問題点
授業アンケート結果によると、学習態度および授業評価ともにほぼ全ての質問項目で平均を上回る結果を得ることができた。そのうち、平均をやや下回った「この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい」の“Q2 授業外学習（予習や復習など）をしましたか”を授業の問題点とみなし、振り返りたい。 毎回の講義後に収集していた Forms 課題の目的の1つとして、学生が意見・感想・質問を記述することにより、授業で取り扱った内容の予習・復習と成り得ることを期待していた。しかし、具体的な概念や知識の予習復習の実施を明確に指示していなかったため、学生は感想を中心とした記述を行っており、予習復習を行っている意識が薄れていたと考えられる。したがって、“授業外学習（予習や復習など）をしましたか”という問いに対する評価が低かったのだと推察できる。

学生の授業満足度
授業アンケート「Ⅲ授業満足度について」の結果は、いずれも平均値を上回っており、満足度は高かったと考えられる。ただし、結果に慢心することなく、上記問題点について改善することに努め、今後も担当する各授業や受講学生へ真摯に誠実に向き合い、授業の質をさらに改善・向上させてゆきたい。

授業改善の課題と方策
「授業の問題点」に基づき、下記に授業改善の課題と方策について検討する。 上述したように、学生は Forms 課題へ記述することが自然と予習・復習へ繋がっていることを意識していないため、次年度以降の授業では、事前に Forms 課題の記述方法やその効果について、より一層明確に説明・指示して参りたい。これにより、単に感想を記述しているという認識ではなく、自ら学びを深める予習・復習を行っているという自覚や自信をもって授業に臨めるよう促したい。

その他

科目名	コミュニケーション心理学
担当者	原 恵子

授業の概要
コミュニケーションとは「考えや感情を表現したり、人々に情報を与えたりする、活動あるいは過程」とも定義されるが、社会生活では欠かせないものである。本講義では、コミュニケーションの意義や機能、特徴、効果や影響について幅広く理解を深めることを目的とする。 コミュニケーションに関する理論や研究知見を学び、実践的な演習やトレーニングを通して、望ましいコミュニケーションのあり方や自己と他者の関わり方について理解や考察を深める。

授業の問題点
授業アンケートにおける「授業内容・授業方法」は、全体を通して4.51～4.73であった。概ね高い水準で安定的に評価されていると考えられる。アンケートで特に高い項目だったのは「毎回の授業でテーマは明確に示されたか(4.84)」であったが、『実際に体験してみても理解が深まる授業だった』等のコメントもあった。ただし、「授業内容に興味や関心を持ちましたか(4.51)」は他の項目よりは低めなスコアであり、『どこが重要なポイントなのか、どこを覚えたりすればいいのかわからなかった』とのコメントがあった。 上記を踏まえ、授業目標は概ね達成できていたものの、各回の授業内容により興味・関心を持ってもらい、講義内のポイントをより明確にすることが求められていると考えられる。

学生の授業満足度
「全体的に振り返って、授業に満足できましたか(4.62)」、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか(4.58)」、「学ぶ楽しさ、知る喜びは実感できましたか(4.53)」は、いずれも平均点以上であり、学生の満足度は概ね高い水準で安定していると判断できる。授業運営に際しては、テーマに即した動画を使用することや演習や実践的なワーク時間も取り入れるなどの工夫も行ったが、それらも教育効果や満足度につながったと考えられる。

授業改善の課題と方策
上記を踏まえ、授業内容による興味・関心をさらに持ってもらうこと、そのために各回の授業内容のポイントをより明確にすることを課題としてとらえる。対応策として、以下のような視点での改善や取り組みを行う。①各回序盤で、各回のテーマにそった具体的な問いかけを行ったうえで講義を開始する、②テーマに即した映像や演習を扱う時間を増やす、③各回の終盤時間帯で、ポイントが理解できる工夫を取り入れる(例えば、クイズ形式でのポイント確認など)、④全15回の中間地点で、中間まとめをする講義時間を組み入れる。

その他

科目名	環境心理学
担当者	原恵子

授業の概要
環境心理学は、「人々とその環境との間の相互作用や関係性をとらえる分野」であるとの定義もあるが、人間と環境の関係を明らかにする学問領域である。 環境心理学に関する基本的な知識・理論、および現実における事例を広く扱う。環境認識や環境調整に対する適応力を高めるなど、個々人の社会生活に応用できることをねらいとする。

授業の問題点
授業アンケートにおける「授業内容・授業方法」は、全体を通して4.52～4.86であった。概ね高い水準で安定的に評価されていると考えられる。アンケートで特に高い項目だったのは「毎回の授業でテーマは明確に示されたか(4.86)」であり、シラバスや授業初日で示された各回テーマに基づき、確実に学習が進んでいたと考えられる。その一方で、「授業内容に興味や関心を持ちましたか(4.52)」は全体の中では低い数値結果であった。また、「授業開始時に前回の質問に答えていただいているが、ピックアップした質問を投影してもらえらるともつと聞きやすいと感じた。」との自由回答があった。 上記を踏まえ、授業目標は概ね達成できていたものの、各回の授業内容により興味・関心を持ってもらうこと、ふりかえり時間に関してより効果的な運営を工夫することが求められていると考えられる。

学生の授業満足度
授業満足度は「全体的に振り返って、授業に満足できましたか(4.67)」、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか(4.62)」、「学ぶ楽しさ、知る喜びは実感できましたか(4.52)」の順に高かった。いずれも平均点以上であり、学生の満足度は概ね高い水準で安定していると判断できる。授業運営に際しては、実践的な情報提供、テーマに即した写真や映像などの活用、個人検討時間やグループワーク実施などの工夫を行っていたが、それらも教育効果や満足度につながったと考えられる。今後も、講義時間と学生参画型の学修時間をバランスよく含めていきたい。

授業改善の課題と方策
以上を踏まえ、授業内容による興味・関心をさらに持ってもらうこと、授業内容のふりかえりをさらに工夫し理解度を高めることを課題としてとらえる。対応策として、以下のような視点での改善や取り組みを行う。①各回冒頭のオリエンテーションで、各回テーマの位置づけや前回のふりかえりについて、より分かりやすい画面を追加するなどの工夫をする。②各回序盤で、各回のテーマにそった具体的な問いかけを行い、興味・関心を高めたいうえで講義を開始する、③テーマに即した映像や演習を扱う時間を増やす、④授業中間と最終回で総括を取り入れ、授業全体の理解度・有意義度を高める。

その他

授業改善書

科目名	卒業論文又は卒業研究
担当者	森 裕幸

授業の概要

学生が自身の興味関心のあるテーマにおいて、卒業論文を執筆することを目標とする。各授業では、パワーポイントに調べてきた内容をまとめ、発表をし、教員がコメントを行う。序論の骨組みが出来上がってきた段階で、ワードに移行し、各授業時にワードデータでこれまで調べた内容をまとめ、教員が添削及びコメントを行う。

授業の問題点

授業アンケートによる意見の自由記述欄に意見は記載されていなかったが、各学生に対する指導時間や内容が授業ごとによって異なる点で時に公平性に欠ける可能性が懸念される。学生とディスカッションしながら、コメントを行うため、時間に多少の差異が出ることは当然ではあるが、できるだけ平準化した形でディスカッション及びコメントをするよう改善する必要があると考える。

学生の授業満足度

履修者及び回答者が少なかったため、全ての項目において満点であったが、上記の通り改善点があると考えられるため、学生一人ひとりのペースや意思、目標到達度を意識しながら授業に取り組んでいきたい。

授業改善の課題と方策

授業開始時に、ディスカッション及びコメントする時間の目安について事前にアナウンスを行うだけでなく、重点的にコメントが必要で、目安時間を超える場合には、他の学生にも了承を得たうえで行う、あるいは他の学生に対してコメントを全て終えてから、追加のディスカッションやコメントを行うようにしたい。

その他

授業改善書

科目名	福祉心理学
担当者	森 裕幸

授業の概要

福祉心理学は、福祉に関する問題を心理学的に研究する科学、あるいは福祉を必要とする人々に対して心理学的な技法を用いて介入、支援を行っていく学問です。福祉現場において生じる諸問題について扱い、社会福祉の対象となる人びとに対する支援を心理学的観点から概説します。本授業では福祉の担う社会的な役割と、人間の生涯にわたる福祉・心理的支援の可能性について理解し、今後求められる支援の方向性について考察することを目的とした講義を行います。

授業の問題点

授業の進度により、理由を学生に説明した上ではあるが、シラバスを途中で変更してしまったこと、毎授業多くの学生が質問やコメントを forms で提出するよう求めているため、授業内での質問や発言する機会が少なくなってしまうこと、が挙げられる。

学生の授業満足度

授業評価については、全ての項目で平均点を上回っており、自由記述においても「恐らく自身が受講している講義の中で、一番良い講義だったと思います。」「トークがとても面白く魅力的。重要な点を教えてくれてとてもいい」といった意見が多くあり、学生の授業満足度は全体的に高いと思われる。特に、福祉心理学という生活に馴染みのない分野で、尚且つ1限であったにも関わらず、＜授業内容に興味や関心を持ちましたか＞という項目において4.70（平均4.48）で、多くの学生が興味を持っていただけは大変喜ばしいことだと思う。

授業改善の課題と方策

シラバスと同様に、授業内の質疑応答や講義部分の時間配分をあらかじめ決め、授業に臨み、シラバスの変更がないようにしたいと思う。また、formsだけでなく、授業内でのディスカッションや発言の機会を積極的に取るように授業構成を見直したいと思う。

その他

授業改善書

科目名	児童青年心理学
担当者	森 裕幸

授業の概要

本授業は、児童期及び青年期の心身の発達とそれに関連する問題や心理支援について扱っています。パワーポイント資料を用いながら、学生の皆さんが一般的に経験している、あるいは見聞きしたことがあるような出来事を具体例として示し、理解しやすいような説明となることを心がけています。また、より良い授業となるよう、毎授業学生から感想とコメントを頂戴し、次回授業時にそれらについて取り扱い、授業運営の改善すべき点は改善するなど、双方向的な授業となるよう意識をしております。

授業の問題点

学習態度「質問や発言をしましたか」という項目は全体平均 3.33 を大きく下回る 2.71 であった。本授業では forms で質問を受け付けていたため、授業時間内の質問や意見を発する場を設けることができていなかった。また、授業方法「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」という項目も全体平均 4.45 を下回る 4.38 であった。シラバスに準じて進めていたものの、質疑応答に時間がかかり、複数回授業内容が次回に回ってしまうことがあった。

学生の授業満足度

授業満足度「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」「全体的に振り返って授業に満足できましたか」の項目は平均を上回っており、受講生の多くが学びに対して満足感を得られていると考える。また、学生による主な意見でも「とても分かりやすくよかったです」「生徒の意見をすぐに取り入れる姿勢がとても良かったです」とあり、満足感を高めるための取り組みは功を奏したと考えられる。

授業改善の課題と方策

Forms で質問を受け付けることにより、多くの学生の意見を吸い上げることができるものであるが、その場で学生が考え、質問や意見を発する場面を整えていなかったため、今後は質問や意見を受け付ける機会を授業時間内にも設けていく。

その他

専任教員

人間学部

子ども発達学科

科目名	子どもの健康と安全
担当者	堀田 正央

授業の概要	保育所等における子どものヘルスプロモーションにむけて、保育士として必要な保育環境の構築や保育上の援助・配慮についての知識・技能を学ぶ。具体的には保育における衛生管理、事故防止及び安全対策、子どもの体調不良等に対する適切な対応、及び保育における感染症対策について、各ガイドライン・統計等に基づいて具体的な理解を深める。また子どもの健康や安全について、保育所での組織的取り組み、保健活動の計画の価、評価改善プロセス等について実践的な力を養う。
授業の問題点	演習科目として設定された授業であるものの、法令で定められた内容が多岐に亘るため、講義科目との授業方法の差別化が十分に行えていなかったことを問題点と捉えている。また予習復習等について、結果や評価をフィードバックできる内容がやや少なく、アンケート上でも予習復習に関する項目が相対的に低い傾向にあった。履修者一人ひとりが自分自身の学びの成果を客観的に把握する機会を確保する必要があったと考えられる。
学生の授業満足度	授業に対する満足度は平均的な数値となっているが、平均自体が4.45と高いことから、一定の満足度があつたと考えている。「授業はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の項目では、平均より0.24ポイントとかなり高いコマもあり、授業の方法以上に内容が評価されていると考える。演習科目のため人数制限があり、比較的少人数での授業であつたため、質問や発言が行い易く、ディスカッション等による相互作用が得られやすい環境であつたことが満足度に繋がっていると言える。一方で少人数であるが故に、3コマの同一授業の中で、参加者の文化に違いが出ることから、相互作用の在り方にも差異が生じたことは留意すべき点と考えている。
授業改善の課題と方策	演習活動の内容を本年度より増やし、学びの保育実践への活用をより明確にイメージできるようにすることをこころがけたい。また相対的に予習復習に関するポイントが平均よりもやや低かつたことから、結果や評価をフィードバックし学生自身の学びの評価改善に繋がる内容を検討したい。比較的少人数で複数コマ開講されたが、同じ方法・内容でありつつもコマ毎に授業アンケートの結果にも各項目でポイントの増減が見られたため、より受講者一人ひとりの適性やニーズに合わせていくことを企図したい。
その他	

科目名	保育内容（健康）Ⅰ
担当者	坂田知子

授業の概要	本授業では、保育内容「健康」のねらい、内容、方法に関する理解を深めることを目的としています。具体的には、乳幼児の心身の健康に関する内容、健康な生活習慣や安全な生活習慣に関する内容、身体活動に関する内容を学習するとともに、乳幼児に対する心身の健康の重要性を伝達するための「保育教材」を作成し、子どもの健やかな成長を育むための保育方法を学びます。この授業を通じて、保育内容「健康」に関する具体的な保育計画作成へ結びつける手がかりをつかむことを目標としています。
授業の問題点	授業は、教員から一方的に話をする事が多く、学生が発言したり、ディスカッションしたりする場面が少なかった点が気になっている。次年度以降の授業では、工夫を加えていきたい。 また、毎回の授業前半部分で教科書を用いた課題を実施している。今年度は、テキストを用意していなくても何とも思わずにおしゃべりしている学生が散見されたので、はじめてテキスト持参しているか…について、忘れ物チェックをした。次の週からは、多くの学生がテキストを持参し、真面目に課題に取り組んでいたが、大学生として授業に取り組む姿勢に問題があると感じた。
学生の授業満足度	アンケート結果のすべての数値が4点台であり、またほとんどの項目において平均点以上であつた。しかし、例年より回答者数が少なかった。多くの学生から回答を得られるような働きかけが必要であると考えられる。
授業改善の課題と方策	授業の問題点でも述べた通り、学生が発言したり、ディスカッションしたりする場面が少なかったため、次年度以降の授業展開では、工夫を加えていきたいと考えている。また、健康に関する情報の提供方法も検討し、より分かりやすい授業となるよう努力していきたい。
その他	

授業改善書

科目名	子どもと健康
担当者	坂田知子

授業の概要	
この授業では、これまでに学んできた保育内容「健康」をより実践的に学ぶことを目的として展開しました。具体的には、子どもの運動遊び、子どもと食育、子どもの生活習慣、子どもと安全を中心に、指導案を作成した上で、模擬保育を実施し、「健康」の指導法について学びました。 なお、本授業は、今年度より開講され、幼稚園教諭免許取得を目指す全ての3年生が履修しました。	
授業の問題点	
「授業への学習態度」のうち、「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」の項目(3.95ポイント)および「質問や発言をしましたか」の項目(3.68ポイント)において、評価がやや低い結果となっています。 一方、授業の評価については、比較的高い評価であったと感じました。	
学生の授業満足度	
学生の満足度は、全体的に高かったと感じています。引き続き、学生が受講して良かったと思えるような授業になるよう努力していきたいです。	
授業改善の課題と方策	
学習態度に関する項目、具体的には質問や発言についてのポイントがやや低い傾向にありました。今回、履修者が76名であり、実践的な授業展開をしようとすると人数が多かったと思います。したがって、全ての履修生に発言を求めることが難しい状況でした。今後については、質問や発言を積極的に求めるように声をかけるなどの工夫していきたいと考えています。	
その他	

授業改善書

科目名	家庭支援論
担当者	杉浦浩美

授業の概要	
本授業は保育士資格を目指す学生の必修授業であり、2年次履修となっている。 2年次の秋期からは、いよいよ保育実習が始まるため、より緊張感をもって授業に取り組んでもらう必要がある。授業ではまず、保育士が「社会的子育て支援専門者」として担うべき役割について理解する。そのうえで、家族支援の現場で求められるさまざまな知識や情報について学ぶ。自らの家族観を鍛えることで、個々の問題に柔軟に取り組む態度や姿勢を身に着けられるよう指導する。	
授業の問題点	
月曜日の1限ということもあり、授業冒頭はなかなか集中できない学生もみられる。そこで、授業冒頭にワークを用いる、短い映像素材を鑑賞した後にその日のテーマに入る、など、学生が興味関心をもって授業に臨めるよう、さまざまな配慮をした。また、できるだけ実践的なワークを取り入れ、主体的な学びを促している。	
学生の授業満足度	
「授業内容」「授業方法」「授業満足度」とも、高いポイントを得ており、特に問題ないと考えている。自由記述欄には、「現代社会の問題や課題を教科書だけではなく、映像などからも学ぶことができたのでとてもわかりやすかったです。また、集中して学べる環境をつくってくださったので私自身も集中して講義に取り組むことができました。」とあり、意欲的に学ぶ学生の姿がみられた。	
授業改善の課題と方策	
「質問や発言をしましたか」という項目が他の項目に比べれば低いいため、学生の発言の機会を増やす、という課題について、引き続き取り組みたい。これまでも授業内で、こちらから「問い」を発し、考え、答えてもらおう、という応答を重ねてきたが、さらに発展させ、グループで話し合いをする時間を設ける、などの方法も検討していきたい。	
その他	

授業改善書

科目名	ジェンダー学
担当者	杉浦 浩美

授業の概要
ジェンダー概念について理解し、ジェンダーの視点から様々な社会事象を読み解く力を身につける。そのうえで日本における男女格差の現状について学び、理解を深める。さらに、男女共同参画社会への政策的アプローチについて学び、社会政策への関心を高めることを目的としている。
授業の問題点
大教室であるため、なかなか個別に質疑応答をすることは難しいが、できる限り多くのワークを取り入れ、学生たちに主体的に考えてもらうよう工夫している。
学生の授業満足度
1 限、2 限とも全体的にポイントは高く、特に問題ないと考えている。「学問としてジェンダーについて学べる環境がとてもありがたいです。15 回では足りない程の情報量なので、春期も秋期もやってほしいです」「わかりやすく、得るものがとても多い授業でした」という高評価のコメントがある一方で、「多様性を感じる授業ではなかった」というコメントも 1 件あった。学生の学びの態度や意欲と授業内容との関係については、さらに考えていきたい。
授業改善の課題と方策
教室全体を使った参加型ワークでは、全員が発言の機会をもてるよう工夫をした。授業参観に参加された保護者の方からは、そうした授業の方法について、好意的な高評価をいただいた。今後も、さまざまなワークを取り入れながら双方向の授業を目指していきたい。
その他

授業改善書

科目名	理科
担当者	長友大幸

授業の概要
小学校学習指導要領を概説するとともに、教科書に取り上げられている教材を詳説する。その際には、可能な限り観察や実験を取り入れて指導する。そして、小学校において理科を指導する上で必要となる知識や技能、安全面での配慮事項など、教師として体得しておくべき基本的な素養の育成をはかるための講義を行う。
授業の問題点
中学校卒業以来、久しぶりに理科の学習を行う学生が多いため、小学校理科の全範囲の内容、実験をなるべく取り上げて実施し、復習させたいと考えていた。そのため、限られた時間内で取り組まなければならず、全体的にあわたしい感じの授業が多くなった。また、コロナの影響により十分にに取り組むことができなかった実験観察は、本年度からは比較的实施することができた。
学生の授業満足度
本授業は 2 コマ開設したが、いずれも高い評価が得られた。座学にとどまらず、実験や観察を多く取り入れたため、学生も取り組みやすかったものと思われる。例年、折に触れて取り入れている応用的な実験については、今年度からコロナの影響も緩和され十分に実施できたこともあり、学生の理科に対する興味関心を幾分高めることができたのではないと思われる。
授業改善の課題と方策
限られた時間内で学習内容を完結するために教材、内容の一層の精選をしていく。実験についても教科書に掲載された全て実施するのではなく、事前調査を行うなどして実施数を精選していく必要があると思われる。
その他
特になし

授業改善書

科目名	初等教科教育法（理科）
担当者	長友 大幸

授業の概要	小学校の理科の目標・学習指導・評価のあり方について、具体的な小学校現場の教育実践例を紹介しながら講義と実験を通して考察する。また、模擬授業を通して、今後あるべき小学校の理科授業について検討し、理科の授業における知識及び指導技術を身につけることができるよう指導する。
授業の問題点	実験や模擬授業を中心とした学習を本授業では進めるが、受講者の人数から2～3名1班で行うことができたため、全員1回は模擬授業を行うことができた。 理科という教科の性質上、実験道具や設備が必要になることがあるため、実施可能な実験内容に限りがあり、学生の模擬授業を行う際に選択できる授業内容に影響がある。また、春期に理科を履修していない場合、本授業で久しぶりに理科に接することとなる。そのため、知識が曖昧のまま模擬授業を実施することがあることが問題点としてあげられる。
学生の授業満足度	限られた時間の中での実施ではあったが、「得るところのあるもの」4.75、「授業に満足」4.75と高い評価が得られた。短時間ではあるものの、全学生に模擬授業で教壇に立つ機会をもたせたこと、他の学生同士の相互評価などの成果がこうした結果として現れているように思われる。
授業改善の課題と方策	学生は各自が工夫して教材をつくり、指導案を立てて熱心に授業に参加していた。それが授業アンケートの「授業に満足」の結果に表れていた。 本授業は演習的要素を多く含んでいるため、学生自身が積極的に動く場面を数多く作ることができたのが良かったのではないかと考える。今後の課題としては、例年通りではあるが、受講者数が定員一杯になったとき、あるいは定員に対して学生が集まらなかったときに、本年と同じように授業を進められるようにすることである。また、「理科」の受講をせずに秋期になって本授業で理科に接することとなる学生に、基礎知識を思い出させた上で模擬授業に取り組ませる方法を考える必要があると思われる。
その他	

授業改善書

科目名	障害児保育Ⅰ
担当者	増南太志

授業の概要	近年、幼稚園・保育所で、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもが増えてきており、幼稚園教諭や保育士がこれらの子どもについて理解していることが不可欠となっている。また、幼小保連携の観点から、小学校教諭にとっても、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもについての理解は重要である。障害児保育Ⅰでは、障害児・者に対する意識や権利に関する考え方を獲得するために、それを支える理念や歴史的変遷などを指導する。授業においては、テキストや視聴覚教材を通して知識の獲得を図るとともに、ディスカッション等により、知識を深められるよう指導する。
授業の問題点	授業を実施するうえで、以前から、必要性を感じながらもうまく取り組めていなかったこととして、予習・復習があった。今回は、これらを取り組みやすい内容にするとともに、実施することでそのまま得点化される形をとった。結果として、予習・復習への取り組みが大幅に向上した。 授業の前半は、明確な問題に対してディスカッションを取り入れていたが、ディスカッションで学べる学生と、ディスカッションを苦痛に感じる学生がいた。今回は、ディスカッションほどの学習効果にはならないが、全員が参加しやすい形式をとった。今後の検討課題である。
学生の授業満足度	全般的に得点が高く、特に以前では低く表れていた予習・復習の得点が高かった。記述内容をみても、予習・復習の取り組みに肯定的な記述があるとともに、「理解が深まる」「わかりやすい」などの回答がみられた。 一方で、様々な事情により、動画教材を入れることとしたが、それが一部聞き取りづらいという回答もあった。改善を図っていきたい。
授業改善の課題と方策	上述したように、すべての学生が参加しやすく、学習効果の高いディスカッションあるいはそれに代わる取り組みを検討する必要がある。 また、動画教材を引き続き取り入れていく必要があるが、聞き取りやすくなるよう改善が必要である。
その他	

授業改善書

科目名	障害児保育Ⅱ
担当者	増南太志

授業の概要

近年、幼稚園・保育所で、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもが増えてきており、幼稚園教諭や保育士がこれらの子どもについて理解していることが不可欠となっている。また、幼小保連携の観点から、小学校教諭にとっても、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもについての理解は重要である。障害児保育Ⅱでは、障害児保育Ⅰの内容を踏まえ、保育の記録や計画、各種専門機関や小学校との連携、保護者支援、個別の指導計画及び個別的教育支援計画の作成など、保育の実践的な内容を学ぶとともに、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもの保育関連施策について指導する。

授業の問題点

今回の授業では、出席できなかった学生が授業内容を確認したり、復習できるようにすることを意図して、説明を簡易的に動画にして示した。しかし、現状の機材では聞き取りやすい音声にすることが困難であったため、見直して押していくこととする。

学生の授業満足度

多くの学生から共通して、動画が聞き取りづらいとのコメントであった。多様な学生に対応しつつ、通常通り出席している学生が理解しやすい授業にしていいため、工夫を検討する。

授業改善の課題と方策

上述の通り、多様な学生に対応しつつ、通常通り出席している学生が理解しやすい授業にしていいため、工夫を検討する。

その他

授業改善書

科目名	子どもの造形表現
担当者	森本昭宏

授業の概要

造形指導者として子どもの柔軟な感性に対応していくためには、様々な素材に親しみ、豊かな造形体験が必要である。本講義では造形活動の指導・実践に必要な材料・用具の取り扱いについて理解するとともに、造形の基礎技能の習得を図る。また、造形活動で用いられる基本的用具（クレヨン・ポスターカラー・油粘土等）の扱い方と、製作の材料を活かした多様な表現、安全指導などについて学ぶ。幼・保・小学校の連続性を視野に入れた絵画・造形の発達段階について理解を深め、子どもに造形の指導と支援ができる力を身につける。

授業の問題点

学生への授業アンケートの集計結果の中で、毎年評価の低い質問項目がある。それは「授業への学習態度」枠の「②ノートを取りましたか？」の質問である。製作時間の確保からプリントを配布して、その日の製作手順や課題のねらいを説明している。板書をするとな制作時間が取られてしまうため、演習科目では短くまとめることを心掛けている。教科書読み、説明、板書などが長いと制作の時間が割かれてそちらの不満が出てしまうであろう。演習授業としての製作時間の確保と題材設定の理解度が、それぞれ深まっているのかという点が問題点と捉えられる。題材数も多く、時間が足りなかったとのコメントも見られた。時間配分については今後も検討していきたい。

学生の授業満足度

授業は火曜日の2, 3, 4時限と3コマを持っているが、問1の「予習・復習をしたか」の項目と、問3の「質問や発言をしたか」の項目が全体の平均より高い結果となった。授業満足度は2, 3時限目が4.95と非常に高かったのに対して、4時限目が4.7であった。前の運動の授業の後でもありその疲れから、少し落ち着きのなさを何度か感じられた。集中できる環境づくりの必要性を今年は感じながら授業を行うこととなった。前のコマの授業が少なからず影響して、モチベーションの違いもあるのかもしれないが、丁寧に一人一人への声がけ指導と全体指導を充実させていきたいと考える。

授業改善の課題と方策

自主的に空き時間を利用して製作する学生に対しては、こちらから積極的に声掛けや指導を試みることができた。製作への理解度を深めるために、学生の質問を積極的に受け付け悩みの解決やより良い作品になる助言を加えた。適宜声掛けを行ってきたが、より解かりやすい表現と指導を今後も継続していきたい。また、例年より製作時間の確保に努めた。机間巡視の中で細かい説明を加え、製作の進捗に差が出ないよう声掛けを何度も行なった。授業回数の後半に大きい課題（授業数のかかる制作）を取り入れている。制作の進み具合に差の広がりが見られたが、個別の課題を加えて（アイデアを出すなど）平均的なスピードに合わせる工夫を試みた。

その他

なし

授業改善書

科目名	保育内容（表現-造形）Ⅰ
担当者	森本昭宏

授業の概要	本講義では、造形表現にかかわる発達の理解を深め、援助ができる実践的な力を習得する。現場で用いられる様々な造形活動を楽しむことから始め、子どもたちへの適切な援助・配慮について理解するとともに、保育を改善する視点を身に付ける。具体的な指導場面を想定した模擬保育や指導案作成を通じて、子どもの多様な表現にも対応できる応用力のある指導者を目指していく。 また、幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域のねらい及び全体構想、作品の見かたについて理解する。造形における幼児の発達や造形あそび等の過程を自らの造形活動の実践と共に理解する。
授業の問題点	今年のグループ製作（影絵）では、進み方が進行せず、影絵のグループ発表は練習する時間があまり取れない状況であった。空き時間を使ったのであろうか、最終回の発表では一体感があり、とても息の合った発表ができていて、学生グループの団結力を感じた。パネルシアターの題材も重なり、制作時間の確保と進行具合の難しさを感じた。 課題提出までの製作時間には十分に配慮して、今年は余裕を持たせたつもりであるが、冬休みを利用して課題を間に合わせる様子も見受けられた。 課題を補うような意識付けや的確な指示など、いろいろと配慮が必要であると感じた。
学生の授業満足度	後半の課題は詰め込み過ぎているような負担感を学生は持っているのではないだろうか感じたが、全ての課題の分量は例年通りである。満足度が3クラスとも平均点より高かったことは良い点であった。明確な最終目標の指示と、製作時間の確保に今後は気をつけていきたい。自宅に持ち帰って製作する学生も多く見受けられた。そして、教室の空き時間などを利用した学生が減っているため、開いている時間を掲示するなど、普段からの特別教室（図工室）の有効活用を促していきたい。 Q9のアンケートポイントは比較的どの時間帯（3コマ）も高い評価となったので、次年度も継続できるように努めていきたい。
授業改善の課題と方策	積極的に声がけをして、机間巡視の際に学生の質問を多く受け付け、細かい説明を加えた。大事なポイントを理解できるように配慮した。学生への実技指導の中で説明を加えるべき箇所が多くあるなか、指導が全体指導で終わる場面が多々あった。授業計画を何度も明示して、学生の課題作品の提出日を理解させた。毎年学生は作品を溜めて、最後に提出する傾向があるので、そのようにならないように促した。 10週目頃から、最終回の発表に間に合うのか不安を感じる進み具合であった。影絵のグループ発表は練習する時間があまり取れない状況であったが、とても息の合った発表ができ（自主的に準備をしていた様子）、学生グループの団結力を感じた。今後は少し前半の課題の時間を前倒しして、後半の時間を確保していきたい。
その他	特になし

授業改善書

科目名	音楽
担当者	山本幸正

授業の概要	子どもにとっての「音楽」は「遊び」そのものでなくてはならない、というコンセプトのもと、「わらべうた」によりリズム感、音感、フレーズ感を育成することに着目し、子どもの立場からわらべうた遊びを体験しながら、保育士・教員として、わらべうたを覚えた子どもが次にどのような音楽の学びができるかを追求しました。
授業の問題点	一昨年度、昨年度にない、シラバスでは、広い場所でのわらべうた遊びの体験と、音楽室または教室での音楽活動を交互に行い、音楽活動で覚えたわらべうたを歌って遊ぶ活動を体育館で、また体育館で遊んで覚えたわらべうたをもとにした音楽ワークを音楽室または教室で行うという、遊びと学びが往還するプログラムを予定していました。 今年度は時間割の関係で体育館が使えないため、履修登録97名の学生を中庭やビロティに誘導し、いくつかのわらべうた遊びを行いました。野外では一つの輪になって遊ぶことも行ったものの、夏の日差しを浴びながらの授業には限界があり、またいくつかのグループに分けて交代で行うビロティでの活動にも限界があって、途中で方針を変更しシラバスとは異なるプログラムで授業を実施しました。それについては受講学生に説明し、了解を得ました。 すなわち、5人～10人のグループ活動を中心とし、205教室内で行う手合わせ遊びを中心とした遊びに切り替え、発表の内容も、体育館で実施予定の指導演習および実技試験は行わず、教室での筆記試験に切り替えました。
学生の授業満足度	アンケート結果は、学習態度については「ノートやメモ等を取りましたか」は平均より低く4.09でしたが、毎回資料を配布しており、演習的な授業なので妥当の範囲と思われます。出席や課題提出4.78、授業外学習4.24、質問や発言3.52は平均より高かったです。 授業内容に興味関心は4.6、シラバス一致4.66、テキスト4.75は平均より高く、わかりやすさ4.7、内容・量4.67、質問への対応4.58は平均より高いものの、テーマ4.61（平均4.64）、円滑さ4.52（平均4.54）がやや低い結果でした。満足度として、得るところがあるは4.64、知るよこは4.72、満足は4.69で平均より高い結果となりました。
授業改善の課題と方策	この授業内容として、広い場所の確保ができればより効果的な学びが期待できますが、年度が始まる前に使用可能施設を確認し、使えない場合の代案を作っておく必要があります。
その他	特になし

授業改善書

授業改善書

科目名	音楽実技 I
担当者	山本、飯島、一村、影山、佐藤、宮崎、安田

授業の概要
音楽に関する基礎知識や理論、歌唱法、伴奏法をクラス授業（45 分）で学修するとともに、経験の異なる学生に対応したピアノの個人レッスン（45 分）を受けることを併せて行いました。クラス授業では技能の学び方をはじめとして、主に音楽に関する知識と、リズム、音階、和音など基礎的な音楽表現の技能を身に付け、個人レッスンでは主にピアノに親しみながら楽曲へのアプローチの仕方と音楽表現の仕方を学びました。これらを通して、保育者・小学校全科教員に求められる基礎的な音楽の知識・技能を身に付けることを目指しました。
授業の問題点
授業第 1 回目にピアノ講師の先生に協力していただきピアノおよび読譜のアセスメントテストと音楽経験調査を行い、「初心者クラス」と「経験者クラス」とに振り分けていますが、例年に比べて初心者が多く、授業運営上（上記「授業の概要」参照）、経験者クラスの中に初心者を入れざるを得ず、「経験者クラス」のクラス授業・レッスンで工夫が必要でした。
学生の授業満足度
3 限：学習態度の出席課題が 4.60（平均 4.63）で低かった以外、いずれの項目も平均より高く、予習復習 4.67、質問発言 3.77、ノートメモ 4.43、興味・関心 4.77、シラバス一致 4.77、資料適切 4.80、わかりやすさ 4.67、テーマ提示 4.70、内容量 4.73、質問対応 4.67、授業円滑 4.70、得るものがあつた 4.80、知る喜び 4.70、満足 4.70 でした。
4 限：テーマ提示 4.54（平均 4.64）、内容量 4.54（平均 4.54）、授業円滑 4.42（平均 4.54）が平均よりより低かった一方、他の項目は平均より高く、出席課題 4.88、予習復習 4.50、質問発言 4.31、ノートメモ 4.62、興味関心 4.69、シラバス一致 4.81、資料適切 4.69、わかりやすさ 4.62、質問対応 4.58、得るものがあつた 4.65、知るよろこび 4.54、満足 4.54 でした。
5 限：ノートメモ 4.34（平均 4.40）、シラバス一致 4.55（平均 4.58）、わかりやすさ 4.41（平均 4.51）テーマ明確 4.52（平均 4.64）、得るものがあつた 4.52（平均 4.56）が平均より低かった一方、他の項目は非金より高く、出席課題 4.72、予習復習 4.72、質問発言 4.03、興味関心 4.62、資料適切 4.69、内容量 4.55、質問対応 4.79、授業円滑 4.69、知る喜び 4.59、満足 4.69 でした。
授業改善の課題と方策
平均より低い場合も著しい数字ではなく、総じて平均よりはよい結果となっています。よりわかりやすく、知る喜びのある、満足のできる授業を目指したいと思います。
その他
特になし

科目名	保育原理
担当者	川喜田 昌代

授業の概要
保育所では、0 歳児から、幼稚園では、3 歳児から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児を対象として、保育を行っている。乳幼児期は人間形成の基礎を培う重要な時期であり、子どもの健全な心身の発育を図るためには正しい児童観と保育観をもち、子どもの発達を見通して発達段階にふさわしい関わり方が必要である。保育者としての子ども理解や援助、コミュニケーション力、指導力、協働性等の保育者に求められる保育力の基盤を学ぶ。
授業の問題点
保育原理の授業内は、多岐にわたっているため、その理解を一つ一つ丁寧に説明することが時間的に難しさを感じた。保育に必要な、基本的な概念（保育の成り立ちや、その経緯）については、おおむね理解はできたと感じる。
学生の授業満足度
平均値を少し下回っているが、おおむね理解はできているようである。復習問題を多く出し、学んだことを自分の言葉でまとめる機会を多く作ったが、文章でまとめることが苦手な学生が多く、課題を不安と感じる学生もいたようである。回答例として示し、復習を促すなど工夫した。
授業改善の課題と方策
授業の内容によっては、講義科目ではあるが、学生同士で話し合う機会等をもっと多くすることにより、課題について身近に感じられ、主体的学びにさらにつながったと感じる。授業内容の精査が必要と感じる。
その他

授業改善書

科目名	乳児保育Ⅰ
担当者	川喜田昌代

授業の概要

保育所は 0 歳児の子どもから保育を行っており、乳児期は一生のうちで最も成長する時期である。この時期の、共働き家庭の増加や核家族化等の乳児を取り巻く社会状況を踏まえたうえで、現代社会における乳児保育の意義を理解する。また、乳幼時期（0 歳、1 歳、2 歳）の日常生活を理解するための知識や方法を学び、子どもたちが安心感や安全に過ごすことができる保育環境や保育援助について考える。授業では、適宜 DVD 視聴やグループワークなどを行い理解を深めていく。

授業の問題点

この科目は、講義科目であるために、0, 1, 2 歳児の乳児保育を理解するための子どものイメージづくりから行う必要性が出てくる。実際の乳児保育について、DVD などを用いるなど工夫をしているが、保育ということが十分理解できていない 1 年生にとっては、難しさを感じる。

学生の授業満足度

概ね、アンケートでは理解が進んだと思われる。
具体的に、事例等をあげわかりやすい説明のより、理解が進んだと考える。

授業改善の課題と方策

乳児保育の内容の理解は、保育についての授業を受けてから、受けたとさらに理解が進むように感じる。
現時点では、具体的な、わかりやすい事例等をあげ説明するなど、また対話式に授業を進めていくことが必要になると考える。

その他

授業改善書

科目名	子どもと表現
担当者	東元、前沢

授業の概要

子どもの表現にかかわる発達の理解を深め、援助ができる実践的な力を習得する。現場で用いられる様々な表現活動を自身が楽しむことから始め、子どもたちへの適切な援助・配慮について指導する。具体的な指導場面を想定した模擬保育や指導案作成を通じて、子どもの多様な表現にも対応できる保育を構想する力を身につけるための指導を行う。

授業の問題点

この授業では、前半に造形、後半に音楽の授業を展開している。この 2 つの分野を横断的に学ぶ趣旨については、多くの学生が理解したようだが、前半と後半とが連携した課題発表においては、内容説明や発表形式を改善していく必要があると考える。

学生の授業満足度

授業満足度において、3 限目と 4 限目、どちらの時限においてもほぼ平均を上回り、概ね満足度の高い評価を得ることができた。「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」に対しては、3 限目 4.63、4 限目 4.74（平均 4.56）、「学ぶ楽しさ、知るよろこびは実感できましたか」に対しては、3 限目 4.44 と平均を下回り、4 限目 4.74（平均 4.52）であった。「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」に対しては、3 限目 4.53、4 限目 4.50（平均 4.52）であった。

授業改善の課題と方策

「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」の項目に対し、3 時限目では 4.84 と高い点であるに比べ、4 限目では 4.50 と平均より低い評価がみられた。2 つの分野の 2 本柱の授業であるため、授業内容の連携に努め、授業の方法や資料の提示に関して改善をすべきであると捉えている。
学生のコメントには「紙芝居を授業内で作成する時間がもっと欲しかったです。」とあり、授業時間の配分や流れを検討する必要があると考える。その上で、学生が学ぶ楽しさ、知る喜びを実感できるよう、内容の工夫をしていきたい。

その他

特になし

授業改善書

科目名	子どもの歌と表現Ⅰ
担当者	東元、佐山、舘岡、田中、宮崎、若宮、渡邊

授業の概要	
子どもの豊かな表現を促す活動のひとつに、歌唱が挙げられる。ピアノの伴奏は、子どもが歌うことの楽しさをより感じたり、歌うことへの意欲を高めるために、重要な役割を担う。本授業では、現場で必要とされる子どもの歌を課題曲とし、弾き歌いができることを目標とする。授業形態は、全体授業とグループ別個人レッスンを並行して行う。全体授業では、季節の歌、生活の歌、行事に関する歌等、主にハ長調の曲を課題として扱う。各教員の、演奏者、子どもへの音楽指導、保育現場での音楽遊び指導としての経験を生かし、授業内では、歌唱及び伴奏法に関わる事柄についても指導する。	
授業の問題点	
音楽知識、技術の習得度が個々に異なる為、全体授業においてもできるだけ個々を把握し、明確な授業内容の提示、進行状況が個々で確認できるような授業構築を目指している。授業内容、授業方法についての評価は、平均を上回っており、概ね高い評価が得られたように捉えられた。 とはいえ、音楽に対し苦手意識のある学生にとっては、授業への興味関心が低いことは否めず、アンケート評価からもそれを垣間見ることができた。授業内容への興味、知る喜びを感じられるよう、授業のアプローチ、工夫が必要であると考え。	
学生の授業満足度	
授業満足度に関する項目に着目すると、どの時限においても平均を上回る評価を得ることができた。「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」に対しては、4.67～4.81（平均 4.56）、「学ぶ楽しさ、知るよろこびは実感できましたか」に対しては、4.53～4.75（平均 4.52）「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」に対しては、4.53～4.75（平均 4.52）であった。 一方で時限によっては評価に差があり、各自が達成感を味わえるような工夫が必要であると感じている。より学生の様子を考慮しながら、授業を進めていきたい。	
授業改善の課題と方策	
学生のコメントには「和音やコードの説明を細かく丁寧にされていてとても理解しやすかった。」とあり、一定数の学生には、効果的な授業が展開できたように感じられた。一方、「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」の質問に対し、平均 3.86 を上回るものの、4 時限目では 4.31 であり、他の時限（3 時限目 4.81, 5 時限目 4.67）に比べて低い評価であった。この授業は、毎回の授業において予習復習が技術習得の鍵となる。より多くの学生が、モチベーションをしっかりと持って授業に臨めるよう、伝えていく必要があると感じた。	
その他	
特になし	

授業改善書

科目名	保育内容（表現-音楽）Ⅱ
担当者	東元 りか

授業の概要	
本講義では、幼稚園、保育園等の保育現場において、わらべうたや身体、楽器、リズムを用いた活動等の音楽的表現活動の実践的な展開方法について理解する。指導するにあたっては、計画したことを自らが体験し、振り返りを行ったり、グループで協同することによって理解を深めていく。	
授業の問題点	
授業アンケートからは、学習態度の評価の Q2. 授業外学習（予習復習）の項目は 3.55（平均 3.77）と平均を下回る結果となった。授業内で体験したり、授業説明を基に学生が考えたことに対して指導する等、授業内で完結する活動もあった為だと思われる。今後、授業での学びを自学で復習したり、より知識と技術を定着できるような課題を設ける等、指導方法を取り入れていきたい。	
学生の授業満足度	
授業アンケートⅢ授業満足度についての項目のうち「Q11. 全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は 4.91 の結果が得られた。Q9. 授業の内容についての満足度は 4.82 であり、Q10. 学ぶ楽しさ、知るよろこびの実感度は 4.82 といった結果であり、意欲的に授業に臨む学生の姿も見られた。Ⅰ 授業内容に関する項目は、4.73、4.82 であり、Ⅱ 授業方法に関する項目は全て 4.91 であったことから、学生にとって、概ね授業内容の理解を得られるものであったことが窺えた。	
授業改善の課題と方策	
上記に記述した通り、授業外学習に対する授業の組み立て、内容の工夫が必要であると考えている。実習や就職後に繋がるよう、具体的な実践の例示も多く取り入れていきたい。 学生による主な意見からは、「学生の意見を聞いて、なるべくそれに沿ったように工夫をしてくださり、とても楽しく学ぶことができました」とあり、今後も学生の表現に寄り添った指導を心がけると共に、より感性と技術を高める指導、授業内容を工夫していきたい。	
その他	
特になし	

授業改善書

科目名	子育て支援
担当者	藤野 好美

授業の概要

- ・保育士が、その専門性をもとにして行う子育て支援について理解する。
- ・演習を通して、保護者や家庭への支援について具体的に理解する。
- ・職員間の連携や、他職種他機関との連携のポイントを学ぶ。
- ・社会資源の活用について、その方法や特徴等、具体的に理解する。
- ・さまざまなケースをもとに子どもや保護者、家庭の状況を把握し、具体的な支援方法について考える。

授業の問題点

- ・演習授業であり、3限と4限の2クラスで開講しているが、両クラスとも回答数が履修者の3割程度で回答数が少ない。授業開始前に授業評価の説明をし回答を促していたが、回答そのものが少ないことは問題である。
- ・授業の進め方として、配布資料は授業前日までに Teams にアップするので、予習を兼ねて授業前に学生自身でダウンロードするよう指導している。また、毎回の演習課題はテキストを活用している。受講生は配布資料の授業までにプリントアウトはしていたが、テキストを持参しない受講生が特に3限クラスでは複数おり、悩ましい状況であった。

学生の授業満足度

- ・3限と4限では3限クラスのほうが満足度が低く、平均値より低いものもあった。4限クラスは全項目で平均値より高かった。
- ・3限クラスでは「授業外学習（予習や復習など）をしました」の項目の数値が平均を大きく下回っており、4限クラスでは平均より高い数値だったのもあり、残念に思っている。
- ・3限クラスでは「学生の主な意見」に「毎回おもしろかった」との記載があったが、4限クラスの「学生の主な意見」には何の記載もなかった。

授業改善の課題と方策

- ・2クラスあるので、学生の満足度に違いが出るのは仕方がないかもしれないが、大きな違いが出ないようにしたい。
- ・3限クラスでは予習・復習に取り組む学生が少なかったようなので、声掛けや予習をやってきたかどうか確認する等して、予習・復習に取り組んでもらうようにしたい。せっかく事前に配布資料をダウンロードして、予習に取り組めるようにしているので、活用してもらうよう声掛け等をしていきたい。

その他

- ・そもそも回答数が少ないので、回答者を増やすよう、授業内での促しを強くやっていく必要を感じている。

授業改善書

科目名	保育実習指導Ⅱ
担当者	藤野、千崎、中山

授業の概要

多様な種類の児童福祉施設等で実習を行うために必要な基礎知識の講義、演習を行う。事前指導では社会福祉施設・機関で利用者や利用者家族へ相談援助の実務経験がある教員を中心に、社会福祉施設における実習の目的や内容、利用者の理解、実習を行う上での心構えやマナーをはじめ、施設の種別ごとに概要や重要な点を指導する。施設の種別は幅が広いので、共通する知識の講義とともに、必要に応じて施設の種別ごとにクラスを分けて授業を行う。事後指導では施設実習での学びを振り返り、社会福祉施設で行われる支援への理解を深めるように指導する。

授業の問題点

- ・保育実習Ⅱ（施設）のための必修科目である。
- ・保育実習Ⅱで実習する施設には、児童養護施設、障害児施設、障害者施設があり、またそれぞれの施設で行われる支援内容に違いがあり、施設の機能を理解することが難しい。学生にとっては全く知らない施設であり、不安が大きい学生もいる。そうした学生の不安を軽減するためにも事前指導は重要であり、施設や対象者の理解、施設で実習するための心構えを指導している。
- ・とはいえ、保育所以外での実習ということで学生のモチベーションや様々であり、学生の適性をふまえた指導を心がけてはいるが、難しさを感じてもいる。

学生の授業満足度

- ・「学習態度」にかかわる4項目はすべて平均値より高かった。
- ・「授業内容」「授業方法」「授業満足度」については、ほぼ平均値であった。
- ・「授業方法」の「授業を円滑に進めるための配慮はなされていませんか」について、平均値より低く、他の項目より低かった。
- ・「学生による主な意見」には「授業によって、施設実習の不安が少し軽減されました」とあった。

授業改善の課題と方策

- ・教員が3人で担当しており、また施設種別にもとづくグループ別指導も行っている。そのため「授業方法」の項目にあった「円滑に進めるための配慮」についてどういう配慮が求められていたのかが掴み兼ねているが、教員間で情報共有・情報交換をこれまで以上に心がけて取り組んでいきたい。

その他

- ・回答率が65%であるので、もっと回答率を上げていく必要がある。

授業改善書

科目名	地域子育て支援論
担当者	藤野 好美

授業の概要

地域子育て支援の背景、理念、目的を把握し、地域子育て支援にかかわる社会資源や関係機関との連携、ネットワークについても学ぶ。あわせて、地域子育て支援のひとつ「こども食堂」に参加し、「こども食堂」の現状、役割の理解、地域における子育てのあり方について考えを深める。

授業の問題点

履修者が2名なので、意見交換に近い形で授業を実施している。フランクで意見が言いやすい雰囲気心がけているが、下手すると緊張感がなくなってしまう。

学生の授業満足度

学生の満足度は満点であったが、履修者が2名であるので、さもあらんと思う。

授業改善の課題と方策

履修者が2名というのは、授業を進める点で難しい部分もあるので、緊張感を持ちながら進めていきたい。

その他

授業改善書

科目名	社会福祉論
担当者	藤野 好美

授業の概要

- ・現代社会における社会福祉の動向と意義、さらに社会福祉の歴史的変遷について解説する。
- ・社会福祉における子ども家庭福祉の視点について解説する。
- ・社会福祉の制度や実施体系、相談援助について講義する。
- ・社会福祉における利用者保護にかかわる仕組みについて解説する。
- ・近年の社会福祉の課題及び今後求められる点について講義する。

授業の問題点

- ・履修者を考えても、大きな余裕がある教室に宛てていただいているが、履修者の大半が後ろの方に着席しているため、教卓からは特に後ろの方に着席している履修者の反応をつかむのに大変苦慮していた。履修者の反応を見ながら進めていくには、もう少し小さい教室の方がやりやすかった。
- ・大半の履修者は真面目に受講しており、授業も聴いていたが、5限ということもあるかもしれないが、テキストやプリントも出さず、机に顔を伏せ寝ている履修者も毎回いた。授業内容に興味を持てるよう工夫をしていたつもりだが、社会福祉は制度的な内容で複雑な部分も多く、難しかった。

学生の授業満足度

「授業満足度」については概ね、平均点と同じ程度なので、大きな問題はないと考えた。

授業改善の課題と方策

進み具合や資料への書き込みの量について、学生の不満を感じることがあったので、次年度は進み具合や資料への書き込みの量について配慮したいと思う。

その他

予習について、「社会福祉論」では授業前までに取り組む予習を用意しているので、予習には取り組みやすいのではないかと考えている。そのため、平均点 3.77 より、社会福祉論では 4.33 と高かった。次年度も、予習は用意していきたい。

授業改善書

科目名	保育実習指導Ⅱ（施設）
担当者	藤野、千崎、中山

授業の概要

この科目は多様な種類の児童福祉施設等で実習を行うために必要な基礎知識の講義、演習を行う。事前指導では社会福祉施設・機関で利用者や利用者家族へ相談援助の実務経験がある教員を中心に、社会福祉施設における実習の目的や内容、利用者の理解、実習を行う上での心構えやマナーをはじめ、施設の種別ごとに概要や重要な点を指導する。施設の種別は幅が広いので、共通する知識の講義とともに、必要に応じて施設の種別ごとにクラスを分けて授業を行う。

授業の問題点

3人の教員で担当していたが、他の授業との関係で、一時期2人で担当し、そのため予定していた通りに授業が進められないことがあった。

学生の授業満足度

授業満足度そのものは3つの項目とも平均値より少し高く、問題はないと考える。

授業改善の課題と方策

「毎回の授業でテーマは毎回示されたか」の項目について、平均値より低い。授業計画を初回授業で配布し、概ね、その通りに進めていたので平均値より低かったのは残念であり、次年度以降アナウンスのやり方を工夫したい。

その他

学生の学習態度については平均値よりどれも高く、課題を出すこともあったので、学生にとっては熱心に取り組んだ気持ちを持っていることが伝わってきた。

授業改善書

科目名	保育実習指導Ⅳ（施設）
担当者	藤野、千崎、中山

授業の概要

保育実習Ⅱでの経験を踏まえて、実習のための基礎知識の講義や演習、事例研究等を行う。事前指導では社会福祉施設・機関で利用者や利用者家族へ相談援助の実務経験がある教員を中心に、社会福祉施設における実習の目的や内容、実習を行う上での心構えやマナーをはじめ、施設の種別ごとに実習の概要を指導する。施設の種別は幅が広いので、共通する知識の講義とともに、必要に応じて実習施設の種別ごとにグループに分けて授業を行う。

授業の問題点

11月に教育実習（幼稚園、小学校）があり、授業そのものに空白の期間ができる。その点を考慮した授業計画を立てたが、実習が続くこともあり、学生自身がモチベーションを保てるよう配慮する必要がある。

学生の授業満足度

保育実習Ⅳを自ら選択した学生なので、そもそも意識が高い。学習態度も問題なく、満足度も高かった。

授業改善の課題と方策

そもそも就職も見据えて選択している学生もいるので、そうした気持ちを延ばせるよう、特に希望する領域の施設とのマッチングを今後もしていきたい。

その他

授業改善書

科目名	教職基礎演習（小学校）Ⅰ
担当者	堀田諭・菅原

授業の概要

本講義は、小学校教師になるために必要とされる教職の基礎理論や実践的な資質を身につけることを目的としている。教育現場での実務経験をもとにして、小学校教師という専門家としての知見、職務の前提となる法規、授業や活動のつくり方、現代社会の教育に関する諸課題を取り上げ、具体的に授業を展開した。また、教育委員会と提携した出張講義を通して教師・教職の魅力について体感的・体験的に学んだ。加えて、教員採用試験問題の傾向を把握した上で、模擬試験を実施した。

授業の問題点

全体的には、授業は問題なく進行了たようである。教職や教育学という大学で初めて学ぶ科目であるため、積極的に質問や意見をするものでは必ずしもなかったようだが（3. 66）、ペアや小グループでの意見交換や自身のふりかえりの記述の中では、考えながら自分の言葉で表現していたようである。授業をより円滑に進められるように（4. 55）取り組んでいきたい。

学生の授業満足度

全体的には、授業に満足していたようである（4. 67）。各時間のテーマ（4. 71）や内容・量（4. 64）などは適切だったようである。また、学生からの質問には応答することができたようである（4. 64）。今後も授業改善に努めたい。

授業改善の課題と方策

被教育体験に基づいた学生の声や素朴な疑問を授業内容とうまくつなげて展開できるように、より適切なテーマや内容について検討し、カリキュラムを改善していきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	教職基礎演習（小学校）Ⅱ
担当者	堀田諭・菅原

授業の概要

本授業は、小学校教師になるために必要とされる教職の基礎的な教養や実践的な資質を身につけることを目的としている。具体的には、教育委員会と連携した出張講義を通して小学校教師の仕事や教職の意義について理解を深め、小学校教員採用試験の模擬試験の実施を通して自身の認識内容について確認した。授業全体を通して、小学校現場において教えることの意義や、子どもとの関係性づくりとその準備の重要性、教科内容の十分な理解の必要性について考えを深めた。

授業の問題点

全体的には、問題なく進行了たようである。授業のテーマ（4. 77）や内容・量（4. 59）、資料（4. 68）については適切だったようである。今年度より教員採用試験の模擬試験を実施しており、自己の理解を踏まえた目標設定や自分なりの対策ができたようである（4. 82）。

学生の授業満足度

学生は、概ね満足していたようである（4. 77）。授業形態によっては、質問や発言は少ない場面も見られたが（3. 73）、ペアワークや小グループでの意見交換では意欲的に取り組んでいたようである。

授業改善の課題と方策

今年度より問題演習を増やしたことにより、教師に対する質問等は比較的少なくなったものの、自己の認識内容の把握や目標に向けての個々の対策について思考を巡らしていたことが、ふりかえりシートの記述からうかがえる。答えの筋道を考えたり、事例を出し合ったりする中で、他の仲間とかかわり合いながら学びが深められるように、授業改善に取り組みたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	社会
担当者	堀田 諭

授業の概要

本講義では、社会科の歴史と特質、様々な教育観について概観し、実際に教材研究・授業づくりを体験することで、社会科教師としての資質を養うことを目的とした。具体的には、事例をもとに社会科の歴史や特質について概観し、また、郷土資料館の職員との交流を通して、地域調査の方法や社会科授業づくりについて体感した。最終的には、身近なモノや新聞・ニュースを教材化・授業化し、単元プランを発表した。最終的に、自己の社会科授業づくりをふりかえり、新たな課題を見出した。

授業の問題点

全体的には、概ね問題なく進行していたようである。授業方法についても問題はなかったようである (5.00)。今後も継続していきたい。

学生の授業満足度

学生は概ね満足していたようである (5.00)。ワークシートの記述やふりかえりが多かった印象であるようだが (4.50)、授業内で質問や発言も比較的多かった (3.50)。学生は、授業に対する興味や関心も高く、調査や発表準備の作業などに積極的に取り組んでいた。

授業改善の課題と方策

全体的には、問題がなかったようである。学生の認識や成長に合わせながら、適切なテーマやトピックを設定し、授業内容をより適切なものにしていきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	社会科・地理歴史科教育法 I
担当者	堀田 諭

授業の概要

本講義では、中学校社会科及び高等学校地理歴史科に関する理論的・実践的な課題について検討し、それを踏まえて自らの社会科・地理歴史教育の教育観・授業観を再構成することを目的とした。具体的には、近代国家の成立と地理歴史教育の関係性、歴史教育や地理教育の多様な教育観・授業観について検討し、あわせて GIS・ICT を活用した教材づくりと発表を行い、郷土資料館との連携による授業化の具体について検討した。最終的には、高等学校地理歴史科の単元プランを構想・発表し、自らの社会科・地理歴史教育の教育観・授業観を再構成した。

授業の問題点

全体的に、学生の授業への関心が高く (4.67)、内容や量 (4.83)、テーマ (4.83)、資料 (4.83) に関しても適切であったとの回答が多かった。

学生の授業満足度

授業全体を通して、概ね満足していたようである (4.50)。授業内にメモを取ること (4.50) や授業外学習における予習や復習においても (4.67)、積極的に取り組んでいたようである。他方、学生の質問などにもきちんと対応できていたようである (4.83)。今後も学生の認識や成長に即して、適切な指導を心掛けたい。

授業改善の課題と方策

学生の科目に対する興味や関心が高いため、より適切な内容や事例を選択して、授業の目的に資するようにカリキュラム改善に努めていきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ
担当者	堀田 諭

授業の概要

本講義では、中学校社会科及び高等学校公民科教育に関する理論的・実践的な課題について検討し、それを踏まえて自らの社会科・公民教育の教育観・授業観（理想の社会像や市民像）を再構成することを目的とした。内容として、社会科と公民教育、道德教育との関係性、学習指導要領と公民教育との関連性、様々な社会科・公民科授業観や授業設計の具体について検討した。具体的には、新聞教材の発掘とその教材化に関する発表、議論学習の作り方、防災教育の活動と省察、多文化共生シミュレーション、単元プランの構想と発表などを実施し、学生自身の社会科観の再構成を促した。

授業の問題点

全体的には、概ね問題なく進行していたようである。テーマについては明確に示したつもりであったが、授業者の立場と教師の立場とでは捉え方が異なるため、十分行き渡らなかった部分もあるようである（4.50）。今後の課題としたい。

学生の授業満足度

学生は概ね満足していたようである（4.67）。内容や量（4.83）、資料（4.83）などについても適切であったようである。学生が積極的に取り組み、内容理解が深まるように、活動や議論を中心に据えたため、質問や発言が多かったようである（4.50）。また、学生に対する質問にも対応できていたようである（5.00）。

授業改善の課題と方策

この科目は、学生の興味や関心が高いため（5.00）、学生の認識や成長に合わせながら、より適切なテーマを設定し、実質的な理解が深まるようにカリキュラム改善に努めていきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	教職基礎演習（小学校）Ⅰ
担当者	堀田 諭

授業の概要

本演習は、小学校教師になるために必要とされる教職に関する基礎的教養や実践的な資質を身に付けることを目的とした。教育現場での実務経験をもとにして、小学校教師という専門家としての知見、職務の前提となる法規、授業や活動のつくり方、現代社会の教育に関する諸課題を取り上げ、具体的に授業を展開した。また、小学校教員採用試験に向けて、各教科の内容や教職教養の内容、論作文執筆の基本的な考え方について講義し、問題演習を通して基礎学力を向上させるとともに、教職に対する態度や心構えを涵養した。

授業の問題点

初めて教育学を学ぶため、被教育体験とのギャップもあり、自発的な学びをしていくことは難しかったものと思われる。授業のテーマや内容については伝わっていたようである。授業に関する質問に対しても適切に応えられていたようなので、学習内容に対してより動機づけができるように、授業を展開していきたい。

学生の授業満足度

授業内容としては、得るところがあったようである。教職を志す学生の履修であるため、関心も高く、取り組めたようである。

授業改善の課題と方策

活動の中では徐々に語彙も増え、内容に関するグループでの活動に真剣に取り組む姿も見られたため、適切な内容や方法をもとに進めていきたい。問題演習においては、個々の学習状況が異なるため、典型的な問題の解説と個別の質問への対応によって進めていければと考える。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ
担当者	堀田 諭

授業の概要

本講義では、教育法Ⅰにおける中学校社会科及び高等学校地理歴史科に関する理論的・実践的な課題を踏まえて、それらの教科・科目を実践するための社会科教師としての資質を養うことを目的とした。具体的には、教育法Ⅰの理論的・実践的な課題を振り返るとともに、中高社会科教師と教科書の関係性、教材研究や生徒にとっての身近さについて検討した。また、学習指導要領と授業づくり・学習評価の関係について新学習指導要領や学術的な知見を踏まえて検討した。実際に学習指導案を作成し、自らの社会科授業観を表現し、模擬授業の実践・協議会を通して、授業改善への手がかりやアイデアについて議論した。

授業の問題点

学生の状況に合わせて授業づくりの作業の時間をとったために、当初の計画を微修正しながら進めた。各回のテーマについては伝わっており、内容の分量や資料の適切さについても十分であったようである。学生たちとの会話をより重視しながらカリキュラムを実施していきたい。

学生の授業満足度

全体として、中高教職をめざす学生にとって得るところや学ぶ楽しさを体感できたようである。今後も適切な内容や方法をもとに授業を展開していきたい。

授業改善の課題と方策

内容特性として、かなりの分量の情報を整理し、わかりやすい授業を学生に実施してもらうことになる。説明をより端的にして、授業づくりにおける会話や討議を増やしていきたい。また作業量をやや増やしたのにもかかわらず、作業の時間を取ったためか適切だったとのことだったので、自発的な学びを促せるような動機づけができるような授業を展開していきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	初等教科教育法（社会）
担当者	堀田 諭

授業の概要

本講義では、社会科の目標や多様な社会科授業の歴史的・理論的検討を踏まえて、自己の社会科授業観を構成し、また社会科学学習指導案の作成および模擬授業の実践を通して、社会科教師の実践的な資質を養うことを目的とした。具体的には、社会科の目標やその歴史を検討しながら、社会科の特質を明らかにし、合わせて自己の社会科授業観について構成した。また、実際に社会科授業の活動の体験を通して、社会科の学習過程や問いのあり方について検討し、社会科学学習指導案の作成方法について概観した。また、ICT 機器を活用してデジタル地図を用いて教材を作成し、発表した。最後に、本時案を構想・実践し、授業改善に向けて協議会を実施した。

授業の問題点

授業の方法や資料については、被教育体験とは異なる方法も多く、内容についても苦手意識をもっている学生が多いようである。各回のテーマは伝わっているようで、わからないことやより学びを進める方向性については質問できているようなので、適切な説明を心掛けたい。

学生の授業満足度

全体的に授業内容は得るところがあったようである。自発的な学びを促せるように授業内容を精査し、適切な課題を出していきたい。

授業改善の課題と方策

特性として、かなりの分量の資料を検討しながら作業を進めることになるが、分量や内容ともに適切だったとのことである。課題に合った方法を選択しつつ、自発的な学びにつなげていきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	教育心理学
担当者	石橋 優美

授業の概要

教育心理学とは、特定の対象（幼児、児童、生徒）に対して、何らかのはたらきかけを行い、対象がより良い方向に変化する過程について、研究する学問である。本授業では、幼児、児童及び生徒の心身の発達過程、学習過程に関する基礎的な知識を学ぶ。各回では、教授・学習、パーソナリティ、社会性、動機づけ、人間関係、教育評価など、教育心理学において基本的かつ重要な概念を理解する。さらに、最近の新たな教育的問題も視野に入れ、教育心理学的な視点から諸問題を考察する。

授業の問題点

学生アンケートの結果は、全体的に平均値に近い値であり明確な問題点は見受けられなかった。一方で、学生同士の議論や教員と学生との対話の時間について、授業計画中には多く組み込んでいなかった。次回の担当時にはもう少し学生同士の議論や教員からの問いかけを増やしたいと考えている。

学生の授業満足度

選択回答項目では、上記のとおり平均値とほぼ同じ評価を受け、おおむね学生評価は悪くなかった。「スライドは沢山あったのに毎回全スライド分かりやすい説明で時間配分がとても良かったです」といった自由記述回答があった。前年度、時間配分について本授業の課題として挙がっており、改善されたことが学生にも評価された。具体例を多く用いたことにより説明のわかりやすさについては評価されたと考えられる。
一方で、「スライドが沢山」という資料の多さに関する記述もあった。

授業改善の課題と方策

本授業の課題は資料の多さと学生の発言機会の確保である。そのため、講義中に提示する資料をさらに厳選し、学生間や教員と学生との対話時間を確保する。ただし、本講義で提示している内容は、教育心理学の基礎的な理解には不可欠なものであるため、Teams に掲示し質問を受けるなどして学生の学習機会を維持できるようにする。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	発達心理学
担当者	石橋 優美

授業の概要

乳幼児および児童・生徒の発達について、身体・運動、言語・認知、情緒・社会性など各領域の特徴と相互の関連性についての基礎的な知識を学ぶ。その際、ピアジェ、ヴィゴツキーなどの代表的な発達理論を基に、発達を規定する内的、外的要因およびその相互作用などの観点について理解することをねらいとして講義する。また、子どもの健全な発達を保障するうえで必要なかわりや援助のあり方についても講義する。

授業の問題点

学生アンケートの結果、全体的に高評価を得たが、一部の学生において「学習態度（予習・復習など）」の評価が相対的に低めであった。これにより、受動的な学習姿勢が見られる学生も一定数存在する可能性が示唆される。また、質問や発言の機会を積極的に活用できていない学生もいたと考えられる。

学生の授業満足度

選択回答項目では、授業内容について概ね高評価を受けた。「授業の内容は得るところがあったか」、「学ぶ楽しさを実感できたか」、「授業方法や資料はわかりやすかったか」については、平均 4.5 以上の評価を得た。
自由記述では、グループワークの効果や映像資料の活用について肯定的な意見が寄せられた。「相手の視点を知ることができる」、「具体例を詳しく理解できる」といった声があり、授業設計の工夫が学生にとって有益であったと考えられる。

授業改善の課題と方策

本授業の課題は学習態度の向上と学生の発言機会の確保であると考えられる。そのため、以下の点を改善したい。
・予習や復習を促進するため、次回授業のポイントを事前提示し、簡単なリフレクション課題を導入する。
・学生同士のディスカッションをさらに増やし、主体的な学習を促す。
・現行のグループワークの効果を継続しつつ、より多様な視点を取り入れるために、メンバーのローテーションを行う。
・映像資料をより体系的に活用し、視聴後に内容を整理するミニワークを設ける。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	子どもの理解と援助
担当者	大島 真里子

授業の概要

保育実践において実際の子どもに即して関わることは、子どもの一人ひとりの心身の発達や学びを最適に進めるために重要である。そのために子どもの実態に即した発達や遊び、子ども同士のやり取りの過程の中で子どもを理解する視点を学ぶ。合わせて、子どもを理解するための具体的方法、そして子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について実践的に学ぶ。

授業の問題点

授業では実際の保育場面の映像を観ながら子どもの気持ちや行動の意味、そして保育者の援助についてグループディスカッションを行い、グループごとに意見をまとめて発表してもらった。教材として、子どもや保育者のありのままの姿が記録された映像を選んだため、学生は興味を持って観ていた。多くの事例を扱い、子どもの気持ちや行動の意味を理解し、保育者の援助や態度の基本について学んだことは有意義であった。しかし、学習態度は Q2「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」が平均以下であった。今後は予習や復習を課すことによって、より積極的な態度で授業に臨むことができるかもしれない。

学生の授業満足度

学生の授業に対する評価は、アンケート結果によると授業内容・授業方法・授業満足度ともに全ての項目が概ね平均であった。実際には、学生の授業に対する興味には個人差があることが伺われた。全ての学生が意欲的に取り組めるような授業にしたい。

授業改善の課題と方策

本授業では、グループワークの班を定期的に変えてより多くの学生同士が意見交換できるようにしたり、全員が発言できるように配慮したりしてきた。また、毎回授業の終わりに課題を提出してもらい、翌週にフィードバックをする際、良い回答については紹介して評価した。さらに、保育に関するロールプレイを取り入れた時は、学生も意欲的に参加している様子であった。今後はロールプレイを取り入れたグループワークを増やすと同時に、子ども理解に関する理論や知識の定着を図るためのワークの時間も増やして、授業内容にメリハリをつけていきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	保育方法論
担当者	大島真里子

授業の概要

幼稚園、保育所、認定こども園においてこれからの社会を担う個々の子どもの持つ能力を伸ばすために保育をどのように展開して行ったら良いのか。保育についての基本的な考え方を学ぶと同時に、基本的な方法・技術（情報機器及び教材の活用を含む）・教材の活用方法についての基礎的な知識・技能を身につける。

授業の問題点

15回の授業の中盤に教育実習が入り、学生達にとっては多忙な中での受講となった。しかし、教育実習を経験する前よりも後の方が、より保育や教育の現場をイメージしやすくなる考えた。そこで今年度は、教育実習前の授業では保育についての理論を中心に扱い、教育実習後の授業では保育の方法や技術など実践的な内容を扱うようにスケジュールを組んだ。その結果、「授業を受けながら教育実習での出来事を思い出した」という感想が出るなど、学生が保育を自分事として捉える姿がみられた。例えば、教育実習の記憶が新しいうちに保育の記録や評価の方法について学ぶなど、学生達が自身の保育を振り返ることができるような授業を心がけた。

学生の授業満足度

アンケートによれば、学習態度、授業内容、授業方法、授業満足度共に平均以上の値であった。特に学習態度については「質問や発言をしましたか」が 4.33(平均 3.33)であり、平均よりも高い結果であった。受講生の人数が多く、また講義形式の授業ではあるが、なるべく質問を受けたり、グループワークを取り入れたりするなど、対話型の授業となるように努めた。授業満足度を測る 3 項目については平均を僅かに上回ったが、まだ十分であるとは言えない。保育や教育の方法や技術を学ぶ意欲がある学生のために、今後も授業内容の改善と工夫を継続していく必要がある。

授業改善の課題と方策

今後も対話型の授業を心がけ、グループワーク、ロールプレイ、エピソード記述やドキュメンテーションの作成などを通して様々な保育方法を実践的に学べる授業にしていきたい。また本授業では、将来保育者だけでなく小学校教諭を志望する学生も含まれていることが予想される。そのため、来年度も保幼小の連携や接続期カリキュラムについての学びを充実させ、子どもの資質・能力を伸ばすための保育方法について具体的な授業を行うことを心がけていきたい。学生が教育実習での経験を活かしながら保育の方法論について学べるように、引き続き指導内容を考えていきたい。

その他

特になし。

科目名	初等教科教育法（国語）
担当者	佐内信之

授業の概要	
国語科の目標を理解した上で、実践的な指導力を身につけるための基礎的な力を養う。特に、学習指導要領下のこれからの国語教育の内容と方法について具体的に学んだ上で、国語科の教材研究、評価を含めた授業実践ならびに授業研究に向けての下地をつくることをねらいとして指導する。	
授業の問題点	
授業に対する学習態度の評価「質問や発言をしましたか」が、他の項目に比べると低い点数だった（4.26）。これは模擬授業を中心とした授業であったため、授業者の発表が多く、児童役の出番が限られていたことが原因だと思われる。	
学生の授業満足度	
「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の点数は4.83、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は4.83と、おおむね好意的な評価が得られた。これは、模擬授業の発表を通して、互いに学び合う活動を取り入れるように意識して授業を構成したためだと思われる。	
授業改善の課題と方策	
受講者数は多かったが、全員の模擬授業を行ったため、全体的に満足度の高い授業にすることができた。ただし、模擬授業の内容によっては、教師の一方的な授業になってしまう場面もあった。児童役が積極的に活動できるような授業内容を工夫していくことが今後の課題である。	
その他	

科目名	国語（木曜日5限）
担当者	佐内信之

授業の概要	
小学校における国語という教科の位置づけと内容の概略の理解を促します。さらに、言葉の手本となるべき教員自身の国語に対する意識を高め、思考力・判断力・表現力につながる言葉の力（話す力・聞く力、書く力、読む力）を確かなものにし、具体的な言語活動を通して各技能を磨き高めるように講義します。	
授業の問題点	
授業内容についての評価「ノートやメモ等を取りましたか（3.57）」「出席や課題提出等はしましたか（3.50）」が、他の項目に比べると低い点数でした。これはグループ活動が中心の授業であったため、ノートやメモの時間が少なく、課題も後日に提出する方法を採用していたことが原因だと思われます。	
学生の授業満足度	
「学生からの質問などにきちんと対応しましたか（4.86）」「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか（4.71）」と、おおむね好意的な評価が得られました。これは、具体的な言語活動をスムーズに展開できるように意識して授業を構成したためだと思われます。	
授業改善の課題と方策	
活動中心の授業を行うと学生の満足度が上がることは想定通りでした。けれども、その分、個人で書く場面が少なくなってしまうという反省があります。活動の内容を精選した上で、メモやレポートを書く時間を確保して、授業中に課題を提出できるように改善したいと考えています。	
その他	

授業改善書

科目名	子ども家庭支援の心理学
担当者	千崎美恵

授業の概要	保育現場で必要となる子どもの発達と子どもを取り巻く環境について理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点と向き合う姿勢を修得することを目的とする。保育実践において学修内容が活用できるよう、事例を取り入れて、イメージを明確化した上で、他者の意見を取り入れながら自分の考えを持てるよう講義する。病院や保健相談所での発達相談・育児支援の経験を活かし、子どもの発達援助につながる子育て支援の現代的課題の理解を深めることを目指す。
授業の問題点	本授業は、受講生を2つのクラスに分けて40人程度の人数にて行っている。演習形式にて、受講生が周囲と意見交換しながら、子ども家庭支援の心理学的課題に対して、自らの意見を持てるよう工夫している。毎回のテーマに沿って講義を行ったあと、各自がワークシートを記入、グループディスカッションを経てクラス全体へ発表する形式で進めている。現代社会における子どもと家庭をめぐる課題の理解の難しさがあるため、受講生が、各テーマに関心を持てる話題提供と、理解を深められる解説の工夫が求められる。
学生の授業満足度	授業に対する学習態度の評価では、「質問や発言をしましたか」の得点 4.32（平均 3.34）、「ノートやメモ等を取りましたか」の得点 4.50（平均 4.40）となり、授業に対する学生の主体性が見られた。 授業の方法に関する評価において、「学生からの質問などにきちんと対応しましたか」得点 4.74（平均 4.55）となり、双方向のやりとりを成立させることができた。 授業満足度についての評価はすべての項目で平均を上回る結果となった。「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の得点が 4.66（平均 4.56）であり、学生の満足度が示された。
授業改善の課題と方策	授業の内容に関する項目において、1限のクラスは平均を下回り、2限のクラスはすべての項目で平均を上回る結果となった。クラスごとの授業への取り組みの姿勢を把握して、すべての学生が授業内容に興味を持てるよう、授業の進め方をより工夫していく必要がある。授業方法に関する項目において、「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」が平均を下回ったため、今後は、各回の授業のテーマを配布資料の工夫により、さらに明確に示して学生の理解を促進していきたい。
その他	特になし

授業改善書

科目名	幼児理解の理論と方法
担当者	千崎美恵

授業の概要	遊びや生活の中で現れる幼児の姿は、幼児の発達のほか、家庭や園内の環境など、様々な要因が影響している。この授業では、発達や幼児保育に関する理論を踏まえながら、幼児理解の方法と援助の視点の習得を目指す。事例検討やワークを取り入れて主体的に学べるように進め、現代的課題を踏まえて幼児理解の意義や方法についての理解を深める。
授業の問題点	授業は、その回のテーマに関する講義を行ったあと、映像資料や事例資料を提示し、テーマや事例に関する個人ワークに取り組み、その後、周囲との意見交換をし、クラス全体で共有した。疑問への回答やグループの考察を共有して理解を深めることを目指したが、他者の発言への注目がなされにくい傾向があったため、クラス全体の発言者への注目を上げられるような工夫が求められる。
学生の授業満足度	授業に対する学習態度においては、「ノートやメモ等を取りましたか」「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」では平均を上回り、特に「質問や発言をしましたか」では平均 3.86 のところ、4.22 と高くなっており、学生が主体的に取り組めた結果であると考えられる。 授業についての評価は概ね平均的であったが、「学生からの質問などにきちんと対応しましたか」の項目において得点が平均を上回り、学生と教員との双方向のやりとりによって学びが深められたと考えられる。授業内で学生が疑問や意見を述べる場を設け、発言すべてにコメントを加えたこと、および、授業の最後に Forms による課題を提出させ、次の授業冒頭でフィードバックを行い、学生の疑問や意見にコメントを加えたこと等有効であったと考えられる。
授業改善の課題と方策	「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」の項目では平均を下回っていた。毎回のテーマを明確にし、授業の終わりにその日の学びの内容に関する課題を提出することで、重要事項の確認とテーマに関する自分の意見を書かせる項目を課して定着を図ってきた。毎回の課題内容の工夫とともに、各回のテーマに沿った映像や事例を厳選して示し、その回の学びのテーマをより明確にしていきたいと考えている。
その他	特になし

授業改善書

科目名	発達心理学
担当者	千崎美恵

授業の概要

発達心理学の基礎知識を習得するとともに、各発達段階の特徴や発達の課題について学び、人の発達について多角的に理解することを目的とする。本授業での学びを保育・教育における知識として定着させ、子どもの発達を支える環境や関わり方について考察できるよう、現代的トピックを織り交ぜながら講義する。

授業の問題点

「発達心理学」の内容は、公立保育士や幼稚園教員試験などにおいて出題される項目も多く、習得すべき内容が多岐にわたっているため、重要事項も多く存在する。保育・教育に関っていく学生が、重要事項を把握して理解を深められるよう、より必要な、より重要な項目を選択して講義していく必要がある。

学生の授業満足度

授業アンケートでは、学習態度において、すべての項目で平均を上回り、特に「質問や発言をしましたか」は0.55、「メモ等を取りましたか」は0.25と大きく上回っており、授業への積極的な取り組みが見られた。

授業に対する評価についても、「シラバスとの一致」項目が、平均より0.02ポイント下回った他は、すべての項目において平均を上回った。特に、授業方法における「学生からの質問などにきちんと対応しましたか」は0.14ポイント上回っており、学生が積極的に質問する機会が得られていたこと、および、質問への対応も時間を割いて行えたことが満足につながったと考ええる。「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」も0.14上回り、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」も0.12上回っており、学生の授業満足度は高かったと考えられる。

授業改善の課題と方策

「発達心理学」の内容は、公立保育士や幼稚園教員試験などにおいても出題される項目が多く、習得すべき内容が多岐にわたっているため、今後も、重要事項がどれにあたるとかを把握しやすいよう、毎回の授業テーマを明確にし、項目を絞りつつ、授業を進めていきたい。そのために行ってきた毎回の授業内での課題、および、フィードバックは、引き続き行っていく。本授業での学びを保育・教育における知識として定着させ、子どもの発達を支える環境や関わり方について考察できるよう、引き続き、現代的トピックを織り交ぜながら講義しつつ、理解の促進を図っていきたい。

その他

特になし

授業改善書

科目名	保育・教職実践演習（幼小）
担当者	千崎美恵・石橋優美・大島真里子

授業の概要

将来的に、教育・保育の現場において専門家として十分に対応できる能力を身に付けることが重要である。そのために、現在に至るまでの、教職課程・保育士養成課程の履修やさまざまな活動を通して、教員・保育士として必要な資質能力が習得されているかどうかを各自確認して、課題や問題点を明確にする。問題点の改善に努めると同時に不足している知識や技能を補い、その定着を図ることを目的とする。

授業の問題点

この授業は、3名の教員によるオムニバス形式である。保育現場での実践的な能力を形成するために、授業計画の段階からそれぞれの内容について情報共有を行い、学生が幅広い内容に触れられることを目指した。授業進行中も学生の状況を確認し合うなど、教員間で随時連携を図り、授業運営上の大きな問題はなかったように捉えている。

学生にとって、複数の教員の考え方を得られる利点がある一方で、一回目で教員が入れ替わってしまうために、教員との円滑なコミュニケーションが図りにくい部分があったのではないかと懸念が残る。

学生の授業満足度

授業アンケートの項目を見ていくと、概ね平均以上の結果が得られていることから、学生にとって一定の満足は得られていることが窺える。

学習態度の評価では、「出席や課題提出等はしましたか」は5.0で、本科目が重要な位置づけであることを明示したことによると考えられる。「授業外学習」以外は、「質問や発言」「ノートやメモ等」は平均を上回り、学生の自己評価は比較的高かったと思われるが、より学びの態度を促す必要があると考えられる。

授業内容・方法については、「シラバスとの一致」「授業の方法や資料のわかりやすさ」において若干平均を下回り、今後の改善が求められる。それ以外の項目、および、Ⅲ授業満足度項目のすべてにおいて平均を上回ったが、更なる検討を行っていく。

授業改善の課題と方策

オムニバス形式の授業の時間配分に関して、必要などころに必要な時間が割り振られていない回があったとの指摘を受けた。内容を盛り込み過ぎてしまったことにより、重要なポイントが伝わりきれいでなかった点を振り返り、次年度以降、取り上げる内容と優先順位を精査し、時間配分を十分検討して授業を行っていく。

全体授業においては、より充実した内容になるよう、外部講師の依頼などを含めて検討していく。

本科目は、実践に生かしていくことを目標としているため、学生が授業中で得たことを確実にするだけでなく、授業後においても能動的に力を付けていかれる、学びの継続性を促す授業方法を工夫していきたい。

その他

特になし

授業改善書

科目名	子どもと言葉
担当者	中山佳寿子

授業の概要

子どもの豊かな言葉を育む遊びや活動を構想し、具体的な実践方法を習得できるよう指導する。具体的には、まず、子どもの言葉の発達及び、領域「言葉」のねらいや内容に関する知識と、子どもが抱える現代的な課題の把握を行う。次に、授業での遊びの経験をもとに、子どものイメージや空想を喚起する遊びや活動を考案し、指導案を立案できるよう指導する。

授業の問題点

本授業は「保育内容（言葉）Ⅰ」の授業をさらに発展、実践への応用という位置づけであり、学生もその認識であると初回授業で確認した。しかし「保育内容（言葉）Ⅰ」授業で学習済みの乳幼児の言葉の発達の基礎的知識が、本授業で必須であるにも関わらずほとんど身につけていないということが判明したため、シラバスを大幅変更し、言葉の発達と周辺知識について整理に、コマ数を割いた。これによって、中盤から後半にかけての学習内容が急ぎ足となった。また 80 人以上の大人数という状況での遊び・活動の演習は、学生の集中力という点で、負担が大きかったものと考えられる。

学生の授業満足度

授業の方法や資料のわかりやすさについての項目、授業の内容と量についての項目、授業を円滑に進めるための項目が、特に評価が低かったことについて、要因は 3 つ考えられる。一つめは乳幼児の言葉の発達や、児童文化財の基本的な知識について、多くの時間を割いたことによるシラバス変更、二つめは 202 教室での授業用にスライド資料、配布資料を用意できていなかったことである。三つめは、保育所や幼稚園といった集団保育の場での遊びや活動という学生にとっては明確な認識がしにくいものについて、あくまでも言葉や図で記述することを本授業では求めたため、心理的抵抗が高かったことである。

授業改善の課題と方策

基礎となる授業「保育内容（言葉）Ⅰ」を今年度は中山が担当しており、したがって来年度以降、本授業開始時の知識習得度について把握していると予想される。このため授業期間途中でのシラバス変更などは生じない。また、遊びや活動を言葉で書く力についても、同授業で一定程度身につけるため、本授業での心理的抵抗は減少すると考えられる。遊び・活動の演習、大教室・大人数での授業であることを前提とした内容に改善する。具体的には、①グループ分けについて自動化、事前告知を行い、授業内での時間ロスを減らす、②グループ活動を減らし個別に行う演習を増やすなどである。

その他

言葉を豊かに育む遊びや活動の指導案を作成する力を身につけるため、学生が心理的抵抗を覚えるような活動を数多く行った。主体性、思考力、創造性を発揮してもらうために、正解のない問いかけもした。このため、戸惑いを覚えた学生も多いと承知している。しかし、最後には、多くの受講生が自らの手で指導案を作成するところまで到達できたことに、拍手を贈りたい。

授業改善書

科目名	教養演習
担当者	中山佳寿子

授業の概要

1 年生のうちに習得必須であるすべての学習の土台となる力、すなわち〈テキストを読み解く力〉〈ノートにまとめる力〉〈言葉を使いこなす力〉〈考えをまとめ発展させる力〉を養うために、さまざまな基礎的トレーニングを行う。具体的には、資料の読解とスライド作成・発表である。本授業では『まねが育むヒトの心』（明和政子）の一部を読み、保育や教育の意義を考えるとともに、グループごとに読解内容を発表した。また、川口市子育て支援課の関わる「夏祭り（イオンモール川口前川）」の出店の企画、景品作成など、実践的な学習も行った。

授業の問題点

PC のスキルや、要点をまとめる力、発表力などについては、十分に扱うことができたが、シラバスに示された学習内容〈ノートにまとめる力〉については不十分であったと考えられる。また、学生同士がうちとける機会を 4、5 月にもっと多くの回数、設ける必要があった。

学生の授業満足度

毎回の授業のテーマについて明確に決められましたか、という項目について高い評価が得られなかった。毎回の授業で「次回授業で何をやるか」については予告を行い、授業時冒頭には「本授業のテーマ」を伝えている。Teams をさらに活用し、授業内容について詳細に把握できるようなスペースを設けたいと考えている。

授業改善の課題と方策

大学生活を通して、また、保育者、教育者となってからも、ノートテイキングは重要なスキルである。ノートにまとめる力を育む演習を数多く組むことが求められる。具体的には、授業でモデルとなる授業を 15 分程度中山が行い、学生がノートをとる。そのノートをお互いに見合せて、良いところを真似し合う、などである。

その他

特になし

授業改善書

科目名	保育内容（言葉）Ⅰ
担当者	中山佳寿子

授業の概要

領域「言葉」のねらいや内容への知識を身につけ、保育において実践できるよう講義する。具体的には乳幼児の言葉の発達や表現行動の特徴、および言葉と生活、人間関係との深い関わりについて理解するとともに、保育者として求められる表現力とコミュニケーション力、感性の基礎を身につけられるよう、多くの事例と遊びの紹介を取り入れて講義する。

授業の問題点

毎回の授業で10分程度、遊びや活動についての演習を行い、内容を言葉と図で記述するというトレーニングを行った。指導案や日誌作成の基礎となる力の伸長をねらいとしていたが、重要性が伝わりにくく、全員が取り組む状態にすることが難しかった。起こったことを自分の言葉で表現する、ということに対して戸惑いと困難さを感じている様子が見られた。

学生の授業満足度

二時限目よりも三時限目のほうが微小ではあるが全体的に満足度が下がった要因として、二回目の授業であるため、授業の無駄（小話や例え話など）をなくし合理化したためと考えられる。無駄と考え省いた部分が、実は授業の面白味となっていた可能性がある。

授業改善の課題と方策

本授業は言葉の楽しさ、豊かさを伝える授業でもあるため、授業者の講義そのものが愉快で興味の感じられるものでなければならないと考える。それとともに、学生自身も「話すこと」「話を聞くこと」が楽しいと感じられる授業でなければならない。言葉を操る能力の底上げをねらうため、遊びや活動の演習をさらに強化したい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	保育内容（表現・身体）Ⅰ
担当者	中山 佳寿子

授業の概要

領域「表現」のねらいで示された「創造性」を豊かに育むためには、子どもの表現と創造性の本質を理解したうえで、子どもに多くの楽しい身体表現の機会を保障することが重要である。本授業では、子どもの豊かな動きと友だちとの関わりを促す遊びや活動について、身体を動かす経験を重ねながら身につけられるよう指導する。また、その経験を踏まえて、子どもの発達に合わせた遊びや活動を考案し、子どもの創造性を育む指導案の立案ができるよう指導する。

授業の問題点

子どもの表現を引き出すためには、保育者自身が表現者とならなければならない、ということを理解できるよう、毎回の授業で身体を積極的に動かす時間を取った。自分で考えて表現する部分が大きかったため、楽しく感じる学生と、苦痛を感じる学生の差が開いてしまったように感じた。学生のひらめきが出来るだけ多く生まれるよう、ポジティブな言葉掛けを行ったが、「注意された」「欠点を指摘された」と受け止める学生も出てしまったようだ。アンケートの告知は努力したが回答がほとんど集められずに終わってしまった。

学生の授業満足度

今年度は（アンケート回答時間が取れずほとんど回収できなかったため）、満足度については、正確に捉えることができないが、14回目（発表会）と15回目（まとめレポートの作成）の授業の様子から、学習については、目標水準に達している学生が多いことは確認できた。ただし、毎回の授業において、保育者として必要な積極的な姿勢（子どもの表現を引き出すような、明確な声や体の動きなど）を求めたため、人前に立つことに対して消極的な学生にとっては、戸惑いを覚えることも多かったのではないかと。

授業改善の課題と方策

授業内での表現活動の際、人前に立つことに対して、消極的な学生について、もっと多くの配慮が必要だが、学生自身が「気を使われている」と感じずに参加できるようにしなければならない。授業の際、友だちにつられて、積極性を発揮するようになった例も多く見られた。グループを組む際の組み合わせなどで、表現にためらいを感じる学生の抵抗感を減らすことができるのではないかと考える。

その他

授業改善書

授業改善書

科目名	教養演習Ⅱ
担当者	中山 佳寿子

授業の概要

高等教育を受けるために必要な学習のスキルを学ぶほか、2 年次から始まる保育内容に関する専門科目の学習の前段階として、子どもとの関わりや児童文化についての知識を得る体験を重ねた。具体的には、大学祭への参加（①人形劇上演、②子どもとスマートフォンの関わりを検討したポスター発表）と、絵本の活用法、ディスカッションの方法の検討会などを行った。

授業の問題点

大学祭への参加について、学生それぞれの自主性を伸ばすため、ある程度自由に取り組むことを許可したが、そのことによって不公平感が生まれたことも否めない。しかし人形劇の上演に関しては、普段学習面で活躍にくい学生が、主役を務めたり仲間にポジティブな声掛けをしたりするなど、長所を発揮できる面もあった。この授業だけでなく欠席しがちな学生に対して、面談や頻回な連絡を取るなど丁寧な取り組みを行ったが、なかなか改善されず、戸惑いも感じた。

学生の授業満足度

おとなしく、授業中にはどのように受け止められているか掴むのが難しかったが、アンケートを見ると、思ったよりも学習の意図については伝わっている可能性を感じた。一学次の学生は、新しい生活に慣れるために気をつかい、月曜日の朝ですら疲れている者が多い。教養演習では学生の「居場所」であることに気を配るべきだったが、その部分については、実現できなかった。学習の充実の面だけでなく、大学生活を安心して過ごすための基盤としてのゼミ作りに、次回は取り組みたい。

授業改善の課題と方策

教養演習ゼミが「居場所」として機能するよう、授業の内容について、学生同士の関係を深めるためのコミュニケーションの配分を高める必要がある。コミュニケーションは、単なるお喋りではなく、できれば保育所で行う遊びを実践するなど、児童文化の理解を高める機会となるよう心掛けたい。

その他

科目名	体育
担当者	鈴木 健一

授業の概要

本授業は、小学校学習指導要領に示された各運動領域の内容と指導方法を理解することを目的とし、低学年の運動遊びと中学年以降の各種の運動・技との動きの系統性を明らかにしながら、実技をとおして各種の運動の運動技術（=合目的な体の動かし方）、運動技術を獲得するために必要な教具・場の設定・補助の仕方を指導した。体育科においては、運動を「する」のみにとらわれず、「する」・「見る」・「支える」・「知る」といった、運動との多様なかかわり方があることを理解するために、実技に加え、スポーツ運動学における「運動観察」を伴った運動実施における動きの見方と観察内容を活かした対話的な学びの方法について指導した。

授業の問題点

本授業は、小学校体育科に示された各運動内容について、運動構造・運動技術・運動局面ならびに運動技術といった形式知としての理解を得ることを前提とし、それらをもとに実技を通して、身体知を充実することとした。履修学生は必ずしも運動を得意とするわけではないため、先の内容を知ることや知識をもって他者の動きを見て助言するなどの支える活動を継続した。これらは、教師として児童の体育学習を進める上でも重要な視点となる。しかし、運動を試行することに学生の志向が偏り、他者の動きを観察する・観察した動きと目標像とのずれを認識する・認識をもとに運動者に助言をするといった協働した学びは十分とはいえなかったため、今後の課題としたい。

学生の授業満足度

「授業内容」については Ave. 4. 84 であり、授業内容に対する「学生の関心の高さ」と「シラバスに提示した内容との一致」に対しては高い評価を得た。一方で、「資料の適切さ」・「分かりやすさ」については他よりも低い値を示した。「授業方法」については Ave. 4. 87 であり、「授業テーマの明確さ」や「授業の内容・量についての適切さ」については高い評価を得た一方で、「学生からの質問に対する対応」と「授業円滑に進めるための配慮」については他よりも低い値を示した。「授業満足度」については Ave. 4. 84 を得たことから概ね良好といえる。

授業改善の課題と方策

他よりも低い値を示した「資料の適切さ」・「分かりやすさ」(Ave. 4. 78)に対しては、A4 版用紙に 4 つの技の運動局面図と運動技術に関わる事項を掲載したため、動きの詳細を把握できなかったと推察される。そのため、カラー印刷での資料レイアウトを改善する。また、6 月中旬からの暑さの指摘と思われる「授業を円滑に進めるための配慮」(Ave. 4. 74)については、授業前の全窓開放・冷房を効かせた体育アリーナ袖横の 2 部屋の利用と学生自身の判断による適度な休憩を促した。本授業が運動実施を前提とした特性をもつ授業であり、酷暑が日常化する状況と一般社会における WBGT 値に伴う運動回避の流れといった視点から、学生の健康を鑑み、後期の授業設定を考えたい。

その他

2 週にわたって授業アンケートの回答時間を設けたが、履修学生の 66% 程度の回答率に留まったため、今後はさらに回答を促したい。
子ども発達学科の 2 年生以上を対象とした本授業は、複数免許・資格取得に必要な他教科の履修との兼ね合いにより、2 つの授業枠の一方に受講学生が偏った。他学科の学生にとっては、教養の一つとして高い関心をもって授業に臨む姿が多く見られ、一定の教育成果を見出すことができた。子ども発達学科の学生にとっては、実技に関わる内容理解に必要な授業であるため、他教科との調整により、同数程度の受講学生になる配置を進めたい。

専任教員

経済経営学部

経済経営学科

授業改善書

科目名	金融論
担当者	花崎 正晴

授業の概要

金融市場や貨幣といった金融のミクロ的側面、バブルや金融政策といったマクロ的側面、銀行の役割や金融規制といった制度的側面そして株式市場および企業の資金調達といったファイナンス的側面を対象に、それぞれ基礎から学び、金融に関する理解を深めることを目的として実施した。

授業の問題点

各種の金融に関するテーマを幅広く解説しているため、授業で取り扱うテーマや提供する情報量は、質量両面でかなり多い。このことは金融に高い興味を有する学生にはいいと思われるが、そうではない学生には難易度が高かったかもしれない。

学生の授業満足度

学生アンケートの授業満足度は4.2～4.3程度であり、来年度に向けて改善の余地があるように思われる。

授業改善の課題と方策

来年度に向けては、取り扱うテーマや提供する情報量を再検討するとともに、重要な点を時間をかけてより丁寧に説明することによって、学生の理解を深めるための取り組みを強化していきたい。

その他

授業改善書

科目名	日本経済論
担当者	花崎 正晴

授業の概要

日本経済における戦後の高度成長期の動向、1970年代における低成長時代への転換、バブル崩壊後の長期にわたる停滞、日本の労働市場の特徴と格差問題、中小企業およびベンチャー企業の役割、環境・エネルギー問題、地域経済と政府の役割、人口減少と社会保障などについて、最新のデータや統計などを提示しながら講義した。

授業の問題点

今年度は、各テーマについて重要ポイントとなる項目を列記したメモを配布して復習を促すなどしたものの、アンケート結果によるとまだまだ予習、復習が不十分な学生が多いことが判明した。また、多くのテーマを対象にしたため、十分に理解するのが難しかった面があるかもしれない。

学生の授業満足度

学生アンケート結果によると、授業満足度は4.2弱の水準であった。来期に向けて授業内容を引き続き改善することによって、授業満足度を引き上げる努力が必要であると思われる。

授業改善の課題と方策

講義内容を学生に理解させるためには、予習、復習が極めて重要であることを学生に周知するとともに、プリントの配布をより増やすことによって、学生がもっと理解しやすい方策を模索していきたい。

その他

授業改善書

科目名	健康ビジネス論
担当者	一戸 真子

授業の概要

急成長する健康ビジネスの実態について講義し、良質な健康ビジネスの発展は、世界中の人々を健康に導くことができることについても理解を深められるよう講義した。また、WHO の健康の定義を踏まえ、身体、精神、社会、スピリチュアルの各視点からのビジネスについて、周辺分野も含めて講義した。今後益々セルフケアやセルフメディケーションの促進が重要となることとビジネスとの関係についても講義を行った。

以下の各内容を具体的な授業の到達目標として講義を実施した。健康ビジネスの範囲と内容について説明できる。なぜ、今健康ビジネスが求められているかについて説明できる。時代のニーズに合った新たな健康ビジネスについて創造することができる。セルフケアやセルフメディケーションの重要性について理解できる。

授業の問題点

受講者の授業に望む態度や姿勢が完全に2分化されていた。授業を進める上で大変やりづらかった。結果として、前列に集中して真面目に受講している学生を中心に講義を展開していくこととしたが、残念ながら後方でやる気のない学生への参加意欲の向上にもっていくことは十分にできず、諦めた。選択科目であるので、今後は受講人数を絞ることも検討したい。

学生の授業満足度

全体的に平均よりやや高い結果となった。受講者が多く、大変熱心に授業に参加する学生群と単位取得を目的とするだけで講義内容にはあまり関心がない群の2群にくっきり分かれている構成となっていたため、恐らく内容を厳しいと思う群と、参考になったという群に分かれている結果が読み取れる。

授業改善の課題と方策

講義期間中に伝えたい内容や目標を達成するには、ある程度本科目へ関心が高いことや勉強する意欲のある学生のみに参加して欲しいが、現実には人数が多くなればなかなか実現しないことが明らかとなった。科目内容の特性からは大変多くのことを学んでいただきたいところであるが、今後はより講義内容および目標を最低限にして、中間層よりやや低い層を標準に授業を展開していくこととしたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	専門演習
担当者	一戸 真子

授業の概要

以下の各内容を目的として、演習指導を行った。
最新の社会・経済用語を説明できる。/未来思考で物事を考えることができ、課題に対する具体的な解決方法を検討することができる。/チーム力を修得する。/個別テーマを掘り下げることができる。/プレ社会人としてのスキルを修得する。

授業の問題点

多くのゼミ生が昨年度から持ち上りの学生であり、信頼関係が構築されていると感じられ、演習の展開がしやすかったことはよかったが、やや学生側に“甘え”の状況が見受けられることがしばしばあったことは反省点であり、課題である。

学生の授業満足度

全体的に平均値よりも高い結果となっており、学生が授業に対し満足していることが確認できた。授業方法についても、高い結果となっており、専門演習の展開について、学生によく伝わっていることは安堵できた部分である。予習、復習もしっかり実施していると認識されていることは昨年度に比べよりよくなった部分と認識している。

授業改善の課題と方策

学修成果をより重視してみた場合、もう少しレベルを上げた指導を行っていくことが今後の課題と言える。次年度は、“楽しい”と思える演習からより厳しいが自身が成長したことをより多く感じられる演習となるよう、工夫していきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	教養演習Ⅱ
担当者	一戸 真子

授業の概要

以下の内容を授業目的として演習指導を行った。
 変化の激しい現代社会の現状を説明できる。/最新の注目のビジネスの内容について説明できる。 /自身の関心のあるビジネスを掘り下げることができる。/コミュニケーションスキルが修得できる。/プレゼンテーションスキルが修得できる。 /ライティングスキルが修得できる。

授業の問題点

多くが教養演習Ⅰからの継続学生であり、各演習目的達成のために、展開することが可能であり、受講生も大変真剣に取り組んでおり、特に問題点は見受けられなかった。

学生の授業満足度

全体的に受講生が皆大変真面目であり、満足度も高い点数となっており、反映された結果となっていると思われる。積極的に課題に取り組んでおり、自己学習もしっかり行われていることが確認できる結果となった。

授業改善の課題と方策

今後は1年次であっても、演習Ⅰとは異なり、順調に大学生活に馴染んだ場合、演習Ⅱにおいては、もう少しレベルを上げて演習を展開することも可能であることが今年度の担当において確認できる結果となったので、次年度はもう少し到達目標を上げて取り組んでみたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	基礎演習
担当者	一戸 真子

授業の概要

以下の各内容を目的として、演習を実施した。
 書く能力、コミュニケーション能力、論理的思考、プレゼンテーション能力が習得できる。 /SDGs を熟知し、地球上の諸課題について理解を深める。 /問題解決のための具体的な方法について、多面的な視点から考えることができる。

授業の問題点

大変真面目な群とやや不真面目な群に2群化してしまい、真面目な学生を中心に難度を上げて演習を実施したため、ついてこられる学生にとっては大変充実した時間となったと思われるが、あまり勉強したくない学生にとっては逃げ腰の参加状況となってしまったことが課題として残った。

学生の授業満足度

全体的に大変高い点数となっており、満足度の高い結果となったことはよかったと思われる。しかしながら、回答しなかった学生の中に積極性に欠ける学生が含まれていることが想定されることより、やや低めに評価して次年度に向けて検討していきたい。

授業改善の課題と方策

通年と長い期間のため、学生によっては頑張るタイミングにムラがあり、指導のスピードに多少の支障が生じているので、もう少し課題を出すなりして、より緊張感をもった演習となるよう、次年度は心がけていきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	卒業論文
担当者	一戸 真子

授業の概要

以下の各内容を講義目的とし、卒業論文作成指導をメインに実施した。
1 つのテーマについて調べ、まとめることができる。 / 文献を読み、批判的に検討することができる。 / 論理的思考が修得できる。 / 論文を書き上げることができる。

授業の問題点

4 年次スタートから早く卒論に取り組むように指導していても、学生のスタートが大変遅く、後半の指導に大変苦労した。就職活動に個人差がある中で、個別指導を行ったが、自信のない学生が少なくなく、また 4 年生にも関わらず、コミュニケーション能力や約束毎を遵守するという基本的な事項ができていない学生が少なくなく、大変苦慮した。

学生の授業満足度

全体的に満足度は低くない結果となったことがよかったと思われる。個々の学生が本演習に満足して論文を書き上げてくれたことが確認できた。

授業改善の課題と方策

就職活動全体のスピードに個人差が大きく、また卒業単位修得に対しかなり追い込まなければならぬ学生がいる中では、個々の学生にもっと真剣に卒業までのスケジュール管理を行う能力が重要と思われるので、そのあたりの指導をもっと徹底していきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	ヘルスケアサービス・マネジメント
担当者	一戸 真子

授業の概要

以下の各内容を授業目的として講義を行った。
ヘルスケアサービスの特徴を説明できる。/ヘルスケアサービス提供の場による違いについて説明できる。/ヘルスケアサービス提供者の役割と専門性について理解できる。/ヘルスケアサービス経営と質の関係について説明できる。 /ヘルスケアサービス提供の現場をイメージできる。 /保健・医療・介護・福祉の連携と地域包括ケアシステムについて理解できる。

授業の問題点

ヘルスケアサービスの中でも、やはり医療サービスに比べ、介護サービスについては、なかなかイメージがつかないことが課題として明らかとなってきた。若者世代にはあまり馴染みがないが、ヤングケアラーも増加している中で、より介護サービス分野を強化しながら授業を展開していく必要性を強く感じている。

学生の授業満足度

教科書を使用し、丁寧な解説をしながら授業展開を行ったことに対して、大変分かり易かったという自由記載も含め、全体的に低くない満足度の結果であったことより、本授業方法には問題点は見受けられないと思われる。

授業改善の課題と方策

受講生は大変真面目に取り組んでくれたので、授業全体についてはあまり問題は感じていないが、今後は前述したように介護サービスについての理解を深められるよう、更なる工夫を行っていきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	会計学総論
担当者	大塚浩記

授業の概要

会計学は、企業の経済活動を記録、計算、報告する役割を果たす。その報告は主に財務諸表といわれる決算書を通じて行い、報告対象は企業の所有者である株主のみならず、その企業に関心のある人たちを含む。財務諸表は一定のルールに従った共通の用語・計算で作成され、利用される。本講義では、財務諸表の理解を中心に会計学の学問領域を少しずつ講義する

授業の問題点

個人が行う計算や意見発信を行ったり、知名度のある企業事例を使用したりして、授業に参加している意識を高めるような内容を意識して授業を作ってきたつもりだった。しかし、次の「学生の授業満足度」に示すように、100名を超える受講生に対して大多数の学生が満足できるような講義になっていない可能性が高い。

学生の授業満足度

集計では「Ⅰ 授業内容について」「Ⅱ 授業方法について」「Ⅲ 授業満足度について」の全ての項目において、平均より低い数値だった。これまでも含め、評価項目の数値が4点台であったため、意識していなかったが、講義として学生にとって期待した内容ではないのだろう。

授業改善の課題と方策

上記の学生の反応を前提に考えなければいけないのであろうが、毎回回収しているリアクションペーパーやレポートをみていると、本年度は特に基礎的な漢字や計算に難がある学生が多いと感じた。もう1～2年の傾向をみた上で、この点と、上記の学生の期待、さらに授業のねらいの3つを併せて授業内容を改めて検討しなければならないのかもしれない。

その他

授業改善書

科目名	財務諸表論Ⅱ
担当者	大塚浩記

授業の概要

財務諸表論では、財務諸表を作成、表示するための一定のルールすなわち法規や会計基準や、具体的な経済活動とその会計処理について学ぶ。Ⅱはその後半部分である。内容は、純資産（株主資本）と連結財務諸表が中心となり、概念、制度、会計処理（簿記）のいずれをとっても全くの初学者には難しい内容である。

授業の問題点

上記のとおり、専門性の高い授業であるため、受講者は一定の学習経験ないし習熟度を必要とする。その程度は、最低限1年時の会計学総論と初級簿記は修得済みであることである。しかし、入学以前に一定の学習経験のある学生もいることから1年時に配当されている。全くの初学者には難しい授業であることは、春期のⅠで周知しているが、必ずしもそうでない点、および一定程度の習熟度に達している学生が少ない点（あるいは達していてもそれ以上の学びを希望していない点）が問題である。

学生の授業満足度

上記の特徴を十分説明した上で受講するように指導しているため、最後まで授業に参加している学生の満足度は、それなりに高い。ただ、受講している少数の学生の回答であり、会計学の専門科目群の一科目としてこれで良いのかという疑問は常に持っている。

授業改善の課題と方策

一定のハードルになってしまっていると考えられる会計処理すなわち簿記の習熟度に関連して、これまではおしなべて授業時間の3分の1程度の時間を使っていたが、もう少し増やす方向を試してみたい。いわゆる日商の簿記検定でいうと2級以上の内容になるので、その2級を目指すような内容に少しだけ変えてみようと考えている。

その他

科目名	租税法Ⅰ
担当者	佐藤正勝

授業の概要	
租税法Ⅰは、個別の税目(所得税法、消費税法など)の内容を講義した。租税法Ⅱと異なり、制度論が講義内容である。具体的には、税の特色、所得税、法人税、消費税、相続税等を説明した。使用したのは、教員作成のテキストと参考資料である。参考資料は、分かり易さの見地から、文字よりも、図、絵を多用したものとした。毎回、前回の復習を兼ねて、5-10分かけて、前回のポイントとなる点を質問するということを実施した。特に、昨年度との違いは、経営学研究科への受験生(税理士2科目免除目的の院生)を生み出すよう、上層部から要請があったため、ほぼ毎回、税理士の話をしている。	
授業の問題点	
〔(1)〕 科目と学生の関心との関係から そもそも、説明しても身近に感じてもらえる科目ではないので、身近に感じてもらえる内容にできるかどうか、が問題である。 〔(2)〕 授業アンケートの結果から 評価項目全11問のすべてが、平均を下回った。昨年度は、全10項目のうち、平均を下回った項目数は、2つのみであった。前年も、今年も、同じように授業をしたつもりであったが、平均を下回った原因が、必ずしも明らかではない。ただし、今年度は、大学院への進学者数を増やす目的で、税理士の話をして、ほぼ毎回入れた。このことが、税理士に関心のない履修生の、興味をそいだ可能性がある(テキストにない話をし始めたといった印象を与えた可能性がある)。次回は、税理士の話をもう少し、少なくするか、話をすることにしても、何らかの工夫をする等、試みてみたい。	
学生の授業満足度	
結果を次に、掲げる。 Q9 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか 4.29 (4.56) Q10 学ぶ楽しさ、知るよこびは実感できましたか 4.23 (4.52) Q11 全体的に振り返って、授業に満足できましたか 4.34 (4.52)	
授業改善の課題と方策	
全ての項目において、平均を下回っている。原因は、前述の税理士の話かと考えるので、次回は、税理士の話をするかしないか、そして、する場合には、興味を持てるような内容の税理士の話に工夫する等、再検討したい。	
その他	
毎回の授業の冒頭に前回授業の重要な点を質問することになっている。しかし、重要なことを憶えていない学生が結構いる。復習していないのか、そもそも復習の仕方がわからないのか、今後も、検討していきたい。	

科目名	租税法Ⅱ
担当者	佐藤正勝

授業の概要	
租税法Ⅱは、租税法の解釈・適用方法を主に講義した。具体的には、租税法の基本原則、法源、解釈・適用、租税回避、租税法の適用例であった。 租税法Ⅰ(春期)は、消費税などの制度の説明であったので、例えばコンビニでの買い物等で消費税に接するので、身近な題材であった。しかし、租税法Ⅱ(秋期)は、身近な内容はほとんどなく、抽象的な内容とならざるを得なかったという特徴がある。しかし、なるべく、具体的に、トピック的なものも紹介し、かつ、税理士という専門家の職業の魅力などにも、触れる授業にした。 特に、昨年度との違いは、経営学研究科への受験生(税理士2科目免除目的の院生)を生み出すよう、上層部から要請があったため、ほぼ毎回、税理士の話をしている。	
授業の問題点	
〔(1)〕 科目と学生の関心との関係から 租税法Ⅱは特に、説明しても身近に感じてもらえる科目ではないので、身近に感じてもらえる内容にできるかどうか、が問題である。そこで、必ず事例的なものを用意すること、さらに、黒板や配布資料で、図、絵、計算例を極力入れるように工夫した。 〔(2)〕 授業アンケートの結果から 評価項目全11問のすべてが、「5.00」であった。アンケートの回答者数が少ないことにも起因するかもしれないが、学部全体の平均を、11項目すべてで、租税法Ⅱは、上回っている。 その理由は、回答してくれた履修生は、租税、特に税理士という職業に関心のある履修生であったからと想像できる。なぜなら、アンケートの【Q1】から【Q4】までの評価がすべて「5.00」であったからである。この授業全体の評価が「5.00」になった原因は、次のような点にあると思われる。授業のおわりに、時間的余裕があるときには、税理士という職業について、面白い説明をたくさんしたからである。例えば、税理士の年収、税理士の仕事の内容、税理士の仕事のやりがい、税理士の仕事を実際にしている税理士さんの日常の一コマ(中小企業の社長さんから感謝された話等)、税理士試験の難易度、税理士試験に効率的に合格する方法、等である。	
学生の授業満足度	
結果を次に、掲げる。 Q9~Q11 すべて5.0であった。	
授業改善の課題と方策	
租税法Ⅱに対する評価は、全ての項目において、学部全体の平均を上回っている。原因は、前述の税理士の話をして、面白おかしく、かつ、有益な話をしたためと考えるので、次回も、税理士の話をもっと洗練させて、授業に取り入れることとしたい。	
その他	
毎回、レポートを提出するという宿題を出している。ほぼ全員、レポートを提出している。また、毎回の授業の冒頭に前回授業の重要な点を質問することになっている。しかし、重要なことを憶えていない学生もいる。こうした学生が少なくなるよう、出題の方法、内容、レベル等を、検討していきたい。	

科目名	初級簿記
担当者	篠原 淳

授業の概要
本講では簿記の基本を講義した。 特に大学の簿記の授業では、簿記の目的として会社の財政状態と経営成績を明らかにすることであり、これを機繰り返し学生に示すことを心掛けた。 まず取引の仕訳を学び、次に総勘定元帳への転記を習得を目指した。個別論点では、現金預金、商品売買、掛取引、その他債権債務などの会計処理の学習を進めた。後半は手形取引や有形固定資産、貸倒引当金などの会計処理を学び、最後に損益計算書と貸借対照表の勘定科目とその構成を俯瞰させることとした。
授業の問題点
週一回の授業ということで、初学者にもわかりやすい形で授業を試みたが、学生に支持を出したところの復習の実施をしっかりと行わせることができず。 積み重ね学習が特に必要とする簿記を十分理解してもらった上で、覚えることを継続させられず、学生の理解が進まなかった。
学生の授業満足度
学生には語学と同じようにまず、勘定科目を覚えないうで、仕訳という記録が行えないことについて繰り返し指導したが、単調な作業となることもあり、学生はなかなか覚えてくれなかったことで、仕訳のやり方の理解が進まず、満足度を上げることができなかった。
授業改善の課題と方策
今後は、さらに学習の事後学習とそのチェックのためのミニテストの実施を追加していくことで、簿記の理解には何が必要かをより認識させて、実力を向上させたい。
その他

科目名	上級簿記
担当者	篠原 淳

授業の概要
初級簿記や中級簿記で習得した内容に基づいて、より多くの取引を理解し、記帳できるようになることを目標とした。具体的には、日商簿記検定の2級程度の範囲のうち、個別財務諸表に係わる日常の取引と決算を講義した。授業中だけでなく、授業以外の時間も積極的に復習することを奨励。ミニテストも行った。
授業の問題点
週一回の授業で2級レベルの簿記を概観することはかなり困難であり、事後学習による復習の時間を確実に確保できるよう指導してきたが、学生自身は、その実行を十分行ってくれていたかという点、かなり疑問が残る。 日商簿記検定2級受験と合格という明確な目標づくりが必要と考えられる。
学生の授業満足度
基礎力の要請を重視したので一定のレベルにある学生にとっては、理解しやすかったと考えられ、平均値近い満足度が得られたものと考えられるが、試験の合格まで達すると実感できれば、さらに満足度向上につながると考える。
授業改善の課題と方策
今後は、上級簿記においても、より学習の事後学習とそのチェックのためのミニテストの実施を追加していき、検定試験合格レベルに近づけられるよう、学生の実力を向上させたい。
その他

授業改善書

科目名	国際会計論
担当者	篠原 淳

授業の概要

国際会計基準に関して、その基本方針としての概念フレームワークの理解を進めることを前提に各構成要素が構成される考え方が、企業活動の中で認識・測定に結びついていくのかについて理解してもらい、各基準の考え方と概念フレームワークのつながりをつなぐりについての理解を深めることを意図して行った。

授業の問題点

会計学の基本を理解してきた学生を対象として授業を進める方針であったが、各学生に問いかけた基本的知識から考慮すると、会計学の基本についてしっかりと把握していない学生が多かったため、会計学の基本部分を再度復習することが必要となった。

学生の授業満足度

授業満足度については、国際会計という観点のためか、自国の会計基準との比較からのその必要性についてのアピールは割と浸透できた。今回の履修者は、少人数ながら理解力はかなりあったので、かなりバランスのとれた評価につながったと考える。

授業改善の課題と方策

授業の理解の程度については、専門科目だけに履修者の状況によって左右されることが大きい。今回は、課題等を出して当日の授業の復習と次回の予習を少なからず促進させることで、授業の内容の十分な理解につながったと考える。今後もその点を重点的に取り組んでいきたい。また、前の授業の振り返りをさせることで、授業の必要性や満足度向上によりつながるものとする。

その他

トピックな問題についても述べてはいたが、今後も新聞記事等を読むよう求めていきたい。

授業改善書

科目名	中級簿記
担当者	篠原 淳

授業の概要

「初級簿記」で学習した基本的な簿記をもとに、さらに実践的な簿記学習を行う。授業の前半は、商品売買、現金預金、手形と電子記録債権、有形固定資産、その他の取引等の論点を扱った。後半は、主に帳簿組織や決算手続きを中心に学習し、8桁精算表と合計残高試算表の作成までを取り扱った。

授業の問題点

初級簿記を履修していない学生や、履修後にも日数が経過して内容を忘れてしまっている学生が多く、復習を行いながら精算表作成、貸借対照表、損益計算書までの手順と問題を解くスキルと内容の確実な理解を進めるためには、時間的な制約が大きい。

学生の授業満足度

簿記の資格取得を重視していない学生へのモチベーションの維持が難しかったが、基本的な事項を問題を通して進めたので、学生にとって満足度は改善されてきている。これまで以上に、簿記の資格取得の社会的意義を頻繁に訴えていく必要がある。今回の評価では、ある程度満足してもらえたものと考えられる。

授業改善の課題と方策

授業中の実践的なミニテストや試験による達成度をみていくと、積み重ね学習に必要な各授業の理解が未だ不十分と思われる学生がまだ多くみられる。今後とも予習、復習問題の提示によって学生の自主的学習をより促していくように注意を図っていきたい。簿記検定試験講座への参加を促して、その進捗とある程度リンクする形でできるだけ実施していきたい。

その他

簿記の社会的評価を繰り返し訴えていくことが重要であろう。

科目名	経済史
担当者	張 英莉

授業の概要	
この講義では戦後日本の歴史を「経済」の側面から概観する。戦後復興と高度経済成長を中心テーマとし、具体的には、①アメリカ主導で遂行された戦後改革の過程と意義、②日本政府独自の経済復興政策（「傾斜生産方式」）、③高度経済成長の過程と達成できた要因（設備投資、技術導入・技術革新、経済政策、所得増と大衆消費市場の成立、良質な労働力の確保、国際環境など）、④オイルショック、円高、貿易摩擦への日本の対応など、いくつかのサブテーマを通して、戦後日本経済の復興と高度経済成長の歴史的過程を解説する。	
授業の問題点	
Q4「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」は 4.63(平均 4.51)、Q5「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」は 4.72(平均 4.64)だったにもかかわらず、Q10「学ぶ楽しさ、知るよこびは実感できましたか」は 4.19(平均 4.52)にとどまっている。	
学生の授業満足度	
Q9「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」への回答は 4.43 ポイント(平均 4.56)、また Q11「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は 4.43 (平均 4.52) という結果になっているので、ほぼ平均的評価であり、受講生は概ね満足が得られたと理解している。 なお、「学生による主な意見」では、「論文式の試験について、もう少し書く速度が遅い人に対する配慮を頂けると幸いに御座います」とあったが、これは授業よりも試験の出題量、出題内容、および時間の配分に対する要望なので、秋期の試験時に考慮し、対応していきたいと考える。	
授業改善の課題と方策	
分かりやすい授業を目指していたので、授業方法、資料の分かりやすさとテーマの明確性について高く評価していただいたが、「学ぶ楽しさ、知るよこび」に関しては相対的に低評価であった。今後その原因を究明し、改善していきたいと思う。	
その他	

科目名	経営財務論Ⅰ
担当者	福永 肇

授業の概要	
財務・会計分野は（１）キャッシュフローを扱う「財務（ファイナンス）」と、（２）利益を扱う「会計（アカウンティング）」に大きく２区分される。（１）の「財務（ファイナンス）」は①「投資（資金運用）」、②「資金調達」、③「配当」の３分野で構成される。企業を始めとする組織は、その活動において「資金」を必要とする。春期開講の『経営財務論Ⅰ』と秋期開講の『経営財務論Ⅱ』では、主に上述の（１）の②の「資金調達」を講義する。別途の春期に開講される『証券市場論』で証券（債券）を学ぶ。『経営財務論Ⅰ』では最初に金融市場の構造を学び、資金調達にはどのような手段があるかを理解する。次に資金調達を行うに当たって、その方法と実務を講義する。最後に企業の評価である企業価値（エンタープライズ・バリュー）がどのように決定されるのかを確認することで、財務（コーポレート・ファイナンス）と企業価値の関連を理解する。	
授業の問題点	
期末テストでは「秀」の学生が数名いる「不合格者」が多数いた。テストの特典分布は２極化であった。不合格者に対しては以下のコメントをしたい。 ・授業で教わった知識や考え方などは、自宅で確りと復習して、自分のツール、知見とする。学習の基本。 ・期末試験は、教員から出題想定問題を事前に通知しているし（当日はその応用）、授業も繰返し説明している。自分自身に取り込む意識、行動が必要。 ・大学生は高校までとは違い、履修科目選択の自由はあるが、欠席の自由はないことを認識する。 ・欠席５回はセーフではなく、たとえば「病欠」で欠席した時は、学生は、自分はその授業内容が欠落したことを認識しなければいけない。学友にどのような授業であったかを、聞いてフォローすること学生として必須。 ・数字リテラシーのレベルが低い。	
学生の授業満足度	
アンケートは履修者数 39 名、回答者数 6 名（授業出席は毎回約 30 名）。15 項目のアンケート回答の内、「5.00」が 6 項目（6 人全員が 5.00）、「4.83」が 8 項目（6 人中 5 人が 5.00。1 人が 4.00 の回答）、4.17 が 1 項目（1 人が 5.00。5 人が 4.00 の回答）。4.17 の設問は「質問や発言をしましたか」である。 履修者 39 人中 6 人のみの回答（アンケート回収率 15.4%）であり、また回答も「踏み絵」的になっており、このアンケートからの評価は出来ない（統計上、評価や分析を行ってはいけない）。	
授業改善の課題と方策	
上述「授業の問題点」での記載と同じ ・授業は「10 回の出席でセーフ」ではなく、教わったことを復習して、自分の身に付ける。 ・期末試験を受験する前には「試験勉強」を行う。	
その他	
なし	

科目名	経済学総論
担当者	藤井大輔

授業の概要
私たちの生きる社会がどう成り立っているか、どんな仕組みか、社会科学を学ぶことは、財をおさめる「理財」や、世を治め民を救う「経世済民」（経済の語源の1つ）を学ぶことである。 この科目では、「経済学は社会科学の女王」と呼ばれるような経済学の「伊呂波の伊」を学修し、大学4年間に社会科学を学ぶ第一歩とする。
授業の問題点
予習を促すために、テキストの章節単位を明確にしたシラバスの進行予定通りに進め、また復習を促すために、その次週冒頭に前回内容の小テストを実施した。しかし、「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」という設問では2限履修者が平均よりやや低い結果となった。 また、「質問や発言をしましたか」という設問では両限とも平均より低い結果となり、大人数かつ必修科目で、一方通行で古典的な学識教授型の講義において、いかに発言を促すかが授業の問題点として浮き彫りになった。
学生の授業満足度
「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」という設問では4.64（1限）、4.66（2限）、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」という設問では4.59（1限）、4.63（2限）と、必修科目としては決して悪い結果ではないと受け止めている。また、自由記入では、とても面白く興味深い授業だった、メモが取りやすい、授業内の余談などでも経済について関心を引くような話が多かったのにより深く知ろうと思った、自分が受けた授業の中で出席や授業を進めていく際のルール開示に関して最も公平性を保っていたと思った、講義中に語られる余談等も含めて非常に面白く、お陰様で高校の政治・経済では殆ど興味を持って勉強出来なかった私でも経済学の面白さを垣間見る事が出来た、とおおむね好評意見であり、満足度が総じて高かった。
授業改善の課題と方策
上述のように、前年度と同様に、大人数かつ必修科目でいかに発言を促すかが授業の問題点として浮き彫りになった。いかに発言を促すか、履修生の積極的な発言を求めれば、特定の学生が発言を繰り返すことも想定でき、これをどう防ぎ、かつ緊張感なく多くの学生が発言できるか、これが課題であり、引き続き方策を見いだしていく。必修科目であり、学習意欲が決して高くない学生（とくに再履修生）をいかにコントロールしていくかと合わせて、方策を見いだし実践していく。具体的には、発声による発言ではなく、スマートフォンを使ってリアルタイムに意見や考えを書き込ませるような策が考えられる。ただし、学内のインターネット環境から実現はやや難しい。 大人数かつ必修科目で、一方通行で古典的な学識教授型の講義での学生からの質問や発言を引き出しやすい教室環境を整えていく。
その他

科目名	経済学
担当者	藤井大輔

授業の概要
経済経営学部1年次の必修科目として位置づけられているため、経済学の基本である「ミクロ経済学」「マクロ経済学」のそれぞれ入門に位置するところを学び、数学（中学数学まで）の知識を使って演習問題を解くことによって、経済学的な思考方法を習得することを最大の目的としている。 原則として、毎回①小テスト（前回演習問題を踏まえて出題）、②演習問題（自力であるいは学生同士で話し合って解く）、③必要に応じて演習問題の解説（②③はほぼ同時）、を1コマの流れとしている。小テストは提出後に採点、記録し、次回の上記②③終了時に履修生に返却している。また、②の演習問題の正答はPDFファイルでMicrosoft Teamsにアップして、復習の便に供している。
授業の問題点
授業アンケートの質問項目において、平均点よりも著しく低かった項目はなかった。もっとも注目するのは、必修科目であるので、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」（A）、「学ぶ楽しさ、知るよろこびは実感できましたか」（B）、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」（C）の3項目である。うち前年度と比較できる（A）と（C）は、（A）は前年度4.64、4.56だったのが今年度は4.52、4.33、（C）は前年度4.64、4.53だったのが今年度は4.40、4.42と低下してしまった。
学生の授業満足度
上述のように、本科目への「授業満足度」の評価点は2項目とも4.3点を超えていることから、この授業方式への理解、経済学的な思考方法の習得が得られたものと受け取るとともに、演習問題の解説で、できるだけ実生活の実例を挙げていて説明している点が満足度を高めたものと考えている。ただし、上述のように前年度の評価よりも平均点は低下していることを反省する。
授業改善の課題と方策
授業アンケートの質問項目において、平均点よりも低かった「授業の方法や資料はわかりやすかったか」という点については、ピアレビュー・授業公開で高い評価を得ていることから、上記概要の①～③の毎回の流れを変更しない。この点は、経済学の演習問題を履修生自身で手を動かして解くことで、理解を深めていくのは、他大学の入門段階でも多く取り入れていることもその理由の1つである。 ただ、授業で配布する資料としての演習問題の解説にさらに工夫を重ね、正答に解説を書き加えたPDFファイルを提示するなどして「授業の方法や資料はわかりやすかったか」という項目の評価を底上げできるように、授業の詳細を改善していく。 また、人間学部の学生も履修できることから、人間学部の履修生にも「経済学のエッセンス」、つまり、経済学で世の中をとらえるところをどう思考するという点をわすりやすく、演習問題を通じて理解を深めてもらうよう心がけていく。
その他
自由意見に「出席に関する制度を見直した方が良い」という意見があった。出席に関してはポイント制として記録し、3分の2以上の出席となるポイントに達しないと成績評価できず、その出席は授業冒頭の小テストの受験をもって記録している。ポイントの記録方法（小テストの得点は成績評価に用い、出席記録にも用いる）や病欠・忌引・遅刻の扱いなど初回に説明しており、「出席に関する制度」は、授業運営・成績評価の手段に極めて合理的であることから、見直すことは全く考えていない。

授業改善書

科目名	経営戦略論
担当者	文智彦

授業の概要	
本講義の狙いは、経営戦略について、理論と事例に基づき理解し、実践的に活用するための基礎知識を獲得することである。 本講義においては、このような科目にかかわる基本的な知識の獲得とともに、思考力やコミュニケーション力、などの向上のため、双方向型の授業を行い、さらにグループワークやレポート、リアクションペーパーなども用いて、学生の理解度を把握しながら、講義する。	
授業の問題点	
◇この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さいの Q2 授業外学習(予習や復習など)をしましたかが3. 48、Q3 質問や発言をしましたかが3. 58とやや低い。	
学生の授業満足度	
Q9 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたかが4. 43、Q10 学ぶ楽しさ、知るよこびは実感できましたかが4. 40、Q11 全体的に振り返って、授業に満足できましたかが4. 40であり、満足度は高いと思われる。	
授業改善の課題と方策	
授業外学習を増やすための課題を増やす。 質問や発言をするよう双方向型の授業をより一層強化する	
その他	
学生による主な意見からみて、授業の概要に書いている講義の狙いが適切に反映されていると判断できる。	

授業改善書

科目名	経営学
担当者	文智彦

授業の概要	
本講義では、経営学および、経営戦略論・経営組織論・マーケティング論・人的資源管理理論などの専門科目の基礎について講義する。これらの理論体系をしっかりと理解し、それらを通じて具体的な事例を分析できるような内容である。 これらを学ぶことによって、今後より高度な専門科目を理解し大学で学んでいくための学習能力を身につけるよう講義する。	
授業の問題点	
「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」の評価が2.81である。	
学生の授業満足度	
授業内容・方法・満足度の各項目の評価が4.02から4.38の間であり、満足度は高いと考える。	
授業改善の課題と方策	
「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」の評価が2.81であるため改善したい。 大教室で行う必修科目である故、教室内を歩き回りながら学生の近くに行き質問し発言等を求めているが、全員参加は難しいので、授業中に質問・発言が難しい学生には、リアクションペーパーを活用してもらっている。 今後はさらに、授業中に個別に質問できる時間を別途設けたい。	
その他	
パワーポイントのスライドの進め方を一層改善したい。	

授業改善書

科目名	経営学史
担当者	文智彦

授業の概要

本授業は経営学の歴史についての講義である。
古典的経営学、近代的経営学、人間関係論、状況依存理論などの伝統的な理論分野から現代の経営理論に至るまで幅広い領域にわたる内容を講義する。経営戦略論、経営組織論、経営管理論、などを学ぶ上で必須の内容を理解することも狙いとしている。

授業の問題点

授業アンケートから問題点は特に見つからないが、あえて言えば「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」の評価が4.00と、相対的には低い。

学生の授業満足度

授業内容・方法・満足度の各項目の評価が4.62から4.85の間であり、満足度は非常に高いと考える。

授業改善の課題と方策

「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」の評価が4.00と、相対的には低い
ため、課題の量を増やすなどの改善をしたい。

その他

想定以上に学生からの評価が高いが、さらなる高みを目指しより良い授業を行う所存である。

授業改善書

科目名	データサイエンス
担当者	村田嘉弘

授業の概要

「プロセスとしてのデータサイエンス」とは何かを解説し、その後、分析用ソフトRの解説と実習、代表的基本的な分析手法群の理論の解説とRでの実習を行う。

授業の問題点

- (1) 第1回目の授業に76名の学生が出席したため、抽選で60名を選抜したが、講義を受け続け期末試験を受けた者は41名であった。
- (2) 開講1年目は履修者が6名、2年目は履修者が53名になり、3年目の今年は履修者60名ということで増加傾向にあるのは好ましいが、最後まで継続できる人数がかなり少なくなるのが問題である。
- (3) 最後まで継続できない原因は以下のように何点か考えられる。
 - ・Rの分析環境の構築方法や基本操作がよく理解できないまま授業を受けていた。
 - ・分析方法の理論的説明をほとんど聞かず、分析演習の入力作業だけを行うため、やっていることの意味が理解できない。
 - ・Windowsの基本的な操作を理解しておらず、勝手な操作をし、訳の分からないトラブルが起き、授業についていけなくなる。
 - ・説明していることと違う操作をしても同じようにできているように見え、途中からトラブルに遭遇し、授業についていけなくなる。
- (4) 最後まで継続できた履修生のほとんどが配点40点の課題(テーマ設定・データ分析のデザイン・データ収集・分析・分析結果からの価値創造という一連の過程を自分で実行する)を提出しているが、提出物は昨年度よりも質の高いものが多かった。この点は良かった。

学生の授業満足度

- ・出席者のごく一部にしか授業アンケートを入力してもらえなかったため、数値に異常な偏りが見られるなどアンケート結果はやや信頼性の低いものとなった。
- ・「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」が平均評点より0.65低く、授業満足度に関する「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」は平均より0.42低く、「学ぶ楽しさ、知るよこびは実感できましたか」が平均より0.23低かった。ただし「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の評点は平均点とほぼ同程度になった。
- ・「プロセスとしてのデータサイエンス」で学ぶべき内容はとても多く、馴染みにくい理論もある。そのため、毎回の学習量が多いとか、理解しにくいと思われる回があり、分かりやすいとは思えないのであろう。ただ、上に述べたような履修者側の問題点があることも見逃せない。

授業改善の課題と方策

- ・授業を受ける際の学習態度については何度も注意喚起したい。
- ・基本的な操作を何回も繰り返し説明し、勝手なことを行うために発生するトラブルを軽減したい。

その他

科目名	プログラミングⅠ
担当者	村田嘉弘

授業の概要
コンピューターに関する基本事項を解説し、その後、Python の文法とプログラム作成の入門事項を実習を通じて学習する。
授業の問題点
(5) 第1回目の授業には101名の学生が出席したため、抽選で60名を選抜したが、講義を受け続け期末試験を受けた者は38名であった。ここまで履修者が減少したのはかつてない事態である。 (2) (1)の理由は以下が考えられる。 ・2024年4月時点で埼玉県で「数理・データサイエンス・AI 応用基礎プログラム」を設置している大学は本学のみであるということを知り、プログラムの必修科目であるプログラミングⅠを履修しようとした学生が多い。 ・しかし、授業中にほとんど話を聞いていないと思われる学生が散見され、授業アンケートの授業外学習の評価値が平均より0.46も低いことから、履修生の一部はプログラミングの授業は単純で簡単なものと高を括っていた節がある。 ・実際の授業内容は予想よりも高いものであった。 ・そのためついていけなくなり、試験を受けることを放棄した。 (3) 授業を最後まで受けた履修生に関しては授業目標の達成状況は以下のようである。 ・課題はほぼ全員が提出し、提出されたプログラムのレベルも満足行くものであった。 ・期末テストにおいて、コンピューターの基本事項に関する記述問題はよくできていた。 ・一方、期末テストの関数の作成、プログラムの作成の所がひどかった。
学生の授業満足度
・「シラバスに提示されていた内容、進捗と一致していましたか」「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」の評点が平均点よりも高く、「テキストなどの資料は適切でしたか」もほぼ平均点並みであったので、授業資料は適切になってきたようである。 ・授業満足度に関する「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」「学ぶ楽しさ、知るよろこびは実感できましたか」「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の評点は平均点より0.22～0.46低く、満足できなかったことが伺える。これは昨年にはなかったことである。
授業改善の課題と方策
・「数理・データサイエンス・AI 応用基礎プログラム」の履修者が増えていくことは良いことではあるが、ガイダンス等の説明においては、各科目でそれなりに勉強が必要であることを伝えるべきである。 ・Windows 操作の習熟度が学生によりかなり異なるため、基本的な操作も繰り返し説明してゆきたい。 ・私が入力を手本として示しながら演習を進めているが、学生のプログラム入力スピードがまちまちであり、手早く入力操作が終わった学生がいる一方、まだ少ししか入力できていないという学生たちがいた。演習量を更に削減し、入力時間を多く確保する必要があると思われる。
その他

科目名	数学（線形代数基礎）
担当者	村田嘉弘

授業の概要
行列という考え方とその応用から線形代数学に入り、ベクトルを経てベクトル空間（線形空間）と線形写像へ進み、行列の固有値・固有ベクトルとその応用までを解説する。
授業の問題点
(1) 例年同レベルの授業を行っているが、今年は、5回目ぐらいの授業時に、数学の講義は理解できなくて当然だというような雰囲気が全体に漂っているのを感じた。そこで、本学が埼玉県内の文系大学で上から3番目におり、そのようなレベルの大学にふさわしいレベルの講義を行っているのだと説明したところ、その時点から履修生の態度が変わったように感じた。 (2) 本学では、講義の前提として、履修生の数学における基礎力をほとんど期待することができない。高校で数学Ⅱまで学んでおり数学に抵抗をあまり感じない履修生たちから、中学数学もあやふやな理解のままの履修生たちまでいる。この多様な履修生全体に一定レベルの教育を行う困難さがある。しかし、(1)の説明以来、それぞれが努力したように感じる。
学生の授業満足度
・授業アンケートのすべての項目において、平均点を上回っていた。その意味では成功した授業であった。 ・「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」が平均より0.36高く4点台になっており、「出席や課題提出等はしましたか」も4.72と高評価であったことより、数学の授業に本当にきちんと取り組んだ様子が伺える。 ・授業満足度に関する「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」が4.75、「学ぶ楽しさ、知るよろこびは実感できましたか」が4.61、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」が4.67と高く、数学の授業を楽しんでいると感じてくれたことは講義担当者としてとても幸せなことである。
授業改善の課題と方策
・今年の授業は成功であったが、昨年同様、より整理され、基礎的な例題・演習問題からなる授業資料にすること、説明の筋道を図解して示すことで、教材をより分かりやすいものとしたい。 ・抽象的な説明になる講義の後半部分（ベクトル・ベクトル空間・線形写像・固有値・固有ベクトル・行列の対角化）でも実感をもち理解できるように、具体的に分かりやすい応用や関連事項を考案し授業資料に書き込んでゆくようにしたい。
その他

授業改善書

科目名	プログラミングⅡ
担当者	村田 嘉弘

授業の概要	Python におけるユーザー定義クラスとアルゴリズムの理論を解説した後、ソフトウェア開発の一般論を解説し、ソフトウェア開発を実体験するため、フレームワーク PyQt を用いた会話ボットの開発を行う。
授業の問題点	・この科目の履修者はプログラミングⅠを履修した後に履修しており、学習意欲は総じて高い。これは毎年度の傾向である。 ・プログラムの入力スピードの個人差が大きく、ほとんど間違いなく手早く入力できる学生と、キー入力が遅く更にあちこち間違える学生の両方がいる。 ・間違いの多い学生は、教員の話をよく聞いていない、資料を注意深く読まない、自分勝手な思い込みで操作をするという特徴があるようだ。 ・今年度は学生と同時に私も入力し、説明を加えるようにした。 ・進行が遅く、会話ボット開発の最終段階までは到達しなかったが、一つ手前の段階にまでは全員到達できたことは良かった。
学生の授業満足度	・昨年度は授業アンケート項目の全項目が平均点以上であり、授業満足度が高い成功した授業であったが、今年度は反対にほとんどの項目が平均を下回る結果となった。 ・「Q1 授業内容に興味や関心を持ちましたか」は平均より 0.15 高かった。しかし、「Q4 授業の方法や資料はわかりやすかったですか」「Q8 授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたか」「Q10 学ぶ楽しさ、知るよこびは実感できましたか」「Q11 全体的に振り返って、授業に満足できましたか」が平均よりも 0.09～0.29 低かった。期待したほど面白くない分りにくい授業と感じたようである。 ・資料は昨年より一層改善されたものになり、一緒に入力作業をするなどしたのであるが、学生の受け止め方は違ったようである。
授業改善の課題と方策	・授業資料の改善を毎年行っており、教材の完成度はかなり高いものになった。一方、説明の仕方には工夫の余地があるものと思う。教員が入力をしない方がよいのかもしれない。 ・プログラム入力に掛かる時間が学生によりかなりまちまちであるため、説明時間の短縮を行った方がよい。
その他	

授業改善書

科目名	数学（解析基礎）
担当者	村田嘉弘

授業の概要	集合や位相に関する基礎を説明した後、高校数学とその延長上にある内容（指数関数・対数関数・三角関数・逆三角関数・微分法・積分法）について解説し、基本問題が自分で解けるようにする。その後、多変数関数について、偏微分・全微分・極値問題までを説明する。偏微分は自分で計算できるようにする。
授業の問題点	・昨年度は水曜日 1 限目の開講であったため、全ての回で授業出席者が履修登録者の半分にも満たない状況であった。そこで今年度は月曜日 3 限目の開講に変更してもらった。曜日時間帯の変更による履修者数と出席者数の改善効果は大きく、履修登録者数は 73 名で出席者も常時 40 名以上であった。レポートを提出し試験を受けた最終的な履修者は 61 名であった。 ・授業中の態度も良く、集中して聞いているようであった。 ・ただ、定期試験の結果を見ると、講義内容をほとんど理解していない学生がかなりいたことが分かった。 ・レポートは他の人と相談して作成したようで、一定の点数が取れていたが、自力で問題を解く定期試験となると全く歯が立たないという人が多くいた。 ・対数不等式、微分法のできが悪い中で、グラフの概形を描かせる問題は総じてよくできていた。多項式の微分法ならばできるが、少し複雑な式になると手にあまるということのようである。 ・昨年同様、2 回から 1 4 回までは確認テストと銘打ち 5 分間～10 分弱のテストを行い、前回の学習内容の復習を行うようにしたが、やはりこれに時間が掛かり過ぎ、当日の学習内容の説明時間が不足してしまった。
学生の授業満足度	・学生授業アンケートを見ると、◇授業内容についての評価「Q1 授業内容に興味や関心を持ちましたか」「Q4 授業の方法や資料はわかりやすかったですか」「Q10 学ぶ楽しさ、知るよこびは実感できましたか」が 4 点に届かず、平均よりもかなり低い評価となった。数学をやはり難しいと感じてしまうようである。 ・最終的な「Q11 全体的に振り返って、授業に満足できましたか」はかろうじて 4 点を超えたが、平均より 0.39 低いものになってしまった。 ・主な意見に「字が薄く小さくて全く見えない」とあったが、縦長教室にホワイトボード、細字マーカーである点をもっと考慮すべきであった。ただし、字の大きさには限度があるので、履修生はもっと前で聴講するようにしてもらいたい。なお板書は確認テストの解答のときのみである。
授業改善の課題と方策	・ほとんどの学生が教室の後方に座っているので、前に来て聴講するように説明した方がよい。 ・自分で問題が解けると楽しいと感じるので、その体験を持てるようにさせたい。
その他	

授業改善書

科目名	フィンテックとデジタル社会
担当者	森 雅俊

授業の概要

フィンテック、fintech(英: financial technology)とは、Finance(金融)とTechnology(技術)を組み合わせた造語である。フィンテックは、従来の金融サービスを ICT(情報通信技術)で置き換えるだけでなく、新たなサービスも生み出そうとしている。そこでこの講義では、フィンテックの背景となっている代表的な技術である、(1) スマートフォン、(2) 人工知能(AI)・ビッグデータ分析、(3) ブロックチェーン・分散型台帳技術(DLT)について概説した上で、これらの技術を使った新しいサービスを説明する。具体的な例として「支払決済はじめ広範な金融サービスに応用していく取組み」などを紹介している。

授業の問題点

この授業の履修者が、117名と多く、当初予定した教室が狭く、205号室に変更して、授業を行った。受講者が多いと、個別の対応が出来づらい点があった。学生が多いと、授業の満足度が下がりがちだが、ほぼ平均点の結果だったので、内容的には、問題ないと思う。

学生の授業満足度

受講生が多いので、授業の満足度が下がりがちだが、ほぼ平均点の結果だったので、内容的には、問題ないと思う。個別の対応ができないが、Teamsの資料やビデオ画像などを使って、学生が飽きないように工夫をした。

授業改善の課題と方策

授業の課題としては、100名を超える学生に個別の対応は、できないので、授業中に課題レポートを出して、それを回収して、学生ごとの理解度を把握することを務めたが、それをフィードバックすることがあまりできなかった。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	プラットフォームビジネス
担当者	森 雅俊

授業の概要

プラットフォームの事例としては、略称で GAFAM と呼ばれる Google, Amazon, Facebook, Apple, Microsoft の米国系企業が代表的である。それぞれ情報技術を使った特色のあるビジネスにより、その影響力は大きく、プラットフォームを形成していることから、これらの企業のビジネスモデルをプラットフォームビジネスと呼んでいる。こうしたプラットフォームと言われるようになったのは、最近の話であり、共通点は、ITC(情報通信技術)を駆使して競争力のあるサービスを提供している。これらを学び日本経済にも影響があり、その良さを学ぶことは、意義にあることと考える。

授業の問題点

授業内容の問題点として、下記を考える、
1) Q1 授業内容に興味や関心を持ちましたか 4.16 (4.40)
これについては、この授業が扱うテーマが、新しいテーマであり、学生に興味を持たせ、具体的な事例を紹介することに努めたが、改善が必要と考える
2) Q2 シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか 4.41(4.51)
これについても、上記と同じ理由があるが、更なる工夫をして、分かりやすい資料と興味深い授業にしていきたい。

学生の授業満足度

学生の授業満足度については、下記のとおりであった。
1) Q9 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか 4.14(4.47)
これについては、この授業が扱うテーマが、新しいテーマであり、学生に興味を持たせ、具体的な事例を紹介することに努めたが、改善が必要と考える
2) Q10 学ぶ楽しさ、知るよこびは実感できましたか 4.10 (4.45)
これについても、上記と同じ理由があるが、更なる工夫をして、分かりやすい資料と興味深い授業にしていきたい。
平均を下回ったので、改善に努力したい。

授業改善の課題と方策

授業アンケートから分かった課題として、
1. テキストなどの資料が適切でない部分があった
2. 授業の方法や資料が分かりにくい部分があった

上記のことから対策として、テキストの見直しを行いたい
また、授業で使う資料についてもわかりやすくする工夫を行いたい

その他

学生による主な意見の項目で、「今後生きていく上で必要になっていくで、あろう知識を学ぶことができて良かった。」というコメントを頂いた。
大変、うれしいコメントであり、来年も頑張っていきたい。

授業改善書

科目名	暗号資産とブロックチェーン
担当者	森 雅俊

授業の概要

暗号資産とは、従来の仮想通貨のことである（2019年3月15日に暗号資産に関する法改正が閣議決定され、今まで「仮想通貨」と呼ばれていた名称が「暗号資産」へと変更された）また、ブロックチェーンは、分散型ネットワークを構成する複数のコンピューターに、暗号技術を組み合わせ、取引情報などのデータを同期して記録する手法である。暗号資産に使われている技術がブロックチェーンであると言える。本講義では、暗号資産の種類や現状の普及状況を理解する。ブロックチェーンは、暗号通貨で使われているだけでなく、今後は、この技術を使って新たな情報システムへの活用もあるので、授業でいくつかの例を説明し理解させたい。

授業の問題点

授業の問題点としては、下記のアンケート結果から
 Q1 授業内容に興味や関心を持ちましたか 4.52 (4.40)
 Q2 シラバスに提示されていた内容、進捗と一致していましたか 4.58 (4.51)
 Q3 テキストなどの資料は適切でしたか 4.61 (4.49)
 授業方法と資料の更なる改善を行きたいと考えている。
 具体的には、暗号資産の日本及び世界での認識や活動状況について、説明を加えて、その利便性と将来性についての解説と、リスクの内容についても説明をして、正しい判断力を養いたい。 授業テーマについては、授業ごとにその日のテーマを述べて、最後に、まとめとして、そのテーマの要約をして理解を助すようにしたいと考えている。

学生の授業満足度

授業内容の満足度について、以下のアンケート結果が出ている。
 Q9 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか 4.55 (4.47)
 Q10 学ぶ楽しさ、知るよこびは実感できましたか 4.42 (4.45)
 上記の2項目について、この授業のテーマに関心を持ってもらう説明や具体例を示して、この授業の意義を理解してもらう努力をしたいと考えている。これにより、満足度も増すものと考えられる。

授業改善の課題と方策

授業改善の課題としては、この授業のテーマは、社会にとって新しいテーマであり、その定義や価値については、社会・経済においてまだ、定まっていない。こうした中でこの授業を行うには、常に社会や経済活動を注視して、暗号資産とブロックチェーンに関する情報を収集しながら、タイムリーに学生に伝えていくことで、生きた学問を身に付けさせる一助としたいと考えている。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	経営管理論
担当者	工藤悟志

授業の概要

本講義は、経営戦略論、経営組織論、国際経営論、人的資源管理論、技術経営論など、幅広い知識を企業経営に結びつける視点が必要となる。多くの学生が、経営学の専門科目を履修していないなか、本講義ではじめて聞く理論などもあるが、毎回リアクションペーパーやディスカッションで理解を深めていく。

授業の問題点

比較的年次の高い学生が履修しているが、専門科目を履修していないため、本講義ではじめてくる理論が多い。そうすると、例えば、経営戦略論の講義であれば、経営戦略論の本質を伝える。そして経営管理論では、その経営戦略論の本質を理解したうえで、企業経営を有効かつ効率的に結びつける方法を学ぶ。それができないところが問題である。それぞれの専門領域の専門科目の話に時間がかかってしまう。

学生の授業満足度

アンケートでも、授業の満足度は高い。

授業改善の課題と方策

毎回、専門領域の話からはじめ、それを経営管理の視点で、どのように応用するかを伝えていく。リアクションペーパーに取り組み、それをもとにディスカッションをおこなっているが、学生の理解は進んでいることがわかる。受講生の人数にもよるが、ディスカッションの時間はもう少し増やして、各自の経営学の視点で意見を言ってもらおう。

その他

経営学の楽しさを知るきっかけの講義にしていきたい

授業改善書

科目名	経営学総論
担当者	工藤悟志

授業の概要

経営学における基本的な理論や分析のフレームワークを、事例をもとに紹介する。毎回、その理論等を具体的な事例にあてはめるリアクションペーパーをおこなって理解を深める。

授業の問題点

1年生の必修科目なので受講する学生は多い。しかし、1年生の春で経営学を知るはずもないのに「経営学には興味がない」という学生が多く存在する。2年生以降の再履修生は、単位取得のためだけに受講するが、授業中はゲームをしているか、友人と話をしている。まじめに受講している学生も一部いる。そのような学生は、講義の到達目標をしっかりクリアしている。
興味のない1年生には、もう少し経営学の楽しさを知るきっかけになるように講義内容に工夫をする。講義に興味のない再履修の学生には、成績評価は平常点と定期試験の合計で評価することを理解してもらい、各自の行動に対する責任・評価より明確にする。

学生の授業満足度

アンケートでも、授業の満足度は平均よりも低い。ただ、はじめから興味がない、受講する気がない学生が一定数いるのが必修講義だと考える。

授業改善の課題と方策

本講義の課題は、経営学に興味のない学生、再履修で受講する気のない学生の改善である。毎回おこなうリアクションペーパーは、理論を身近な事例にあてはめる課題が多い。そのとき学生は少し楽しそうに、積極的に取り組んでいる。ディスカッションも発現する学生が増えてきた。これらをもう少し多く取り入れ、学生が積極的に授業に参加する雰囲気をつくる。再履修の学生は、各自の行動に責任を持ち、それらが成績評価につながることを明確に伝える。

その他

1年生の春学期で「経営学に興味がない」と言える学生に疑問を感じると同時に、それらの学生に経営学の楽しさを知るきっかけの講義にしていきたい

授業改善書

科目名	基礎演習
担当者	工藤悟志

授業の概要

本演習は、おもに2冊の本を読むことで、「考えることの楽しさ」や「情報を正確に読みとる力、ものごとの筋道を追う力。受け取った情報をもとに自分の論理をきちんと組み立てられる力」を身につけ、「自分の頭で考えていくことができる」やり方を学び、今後の講義や演習、社会に出て実践する能力を身につける。また、経営学研究の方法論を学び、学術研究のやり方を学ぶ。

授業の問題点

受講生が少ないため、多くの学生でディスカッションができない

学生の授業満足度

「授業内容」「授業方法」「授業満足度」についてすべて高かった。

授業改善の課題と方策

大奥の学生の意見を聞く機会として、他学年や他ゼミとの合同ゼミなどをおこなう

その他

科目名	教養演習Ⅰ
担当者	秋場勝彦

授業の概要

本演習は学生に幅広い分野に関心を持ってもらい、自分の問題意識を探る演習講座です。問題意識は、SDGs（持続可能な開発目標）との関連で探ることが大切です。SDGsに向かって社会を作っていくのは皆さん一人ひとりだからです。そのため、SDGsを解説している文献を輪読します。

本演習では、身近な人間関係で構築された世界のみならず外の問題にも関心を持ってもらうことを基調として、卒業論文作成の基礎知識が身に付くよう指導します。大学が実施するイベントや活動に積極的に参加・協力することによって、当該問題に関心を持つことを促します。また、文献を輪読することによって問題提起ができるようになることを促します。

外の問題にも関心を持って問題提起ができるようになると、どんな分野の専門演習を3年次に履修しても良い卒業論文を書くことができます。

授業の問題点

授業アンケートの設問「授業内容に興味や関心を持ちましたか」に対して、4.68（平均4.48）という数値であった。

学生の授業満足度

授業アンケートの設問「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」に対して、4.74（平均4.52）という数値であった。

授業改善の課題と方策

以下のように、学生による主な意見が寄せられた。
「楽しいゼミで入ってよかったと思いました。」「話し安さを作ってくれたからです。」
学生がより話しやすい環境を作ることによって「授業の問題点」を改善し、SDGsへの学生の関心をさらに高めていきたいと思っています。

その他

科目名	基礎演習
担当者	秋場勝彦

授業の概要

本演習は学生に幅広い分野に関心を持ってもらい、自分の問題意識を探る演習講座です。基礎演習はいわば自分の関心のある課題や分野を探ることが目的であると考えます。当該目的に沿った教科書の一つとしてアダム・スミスがあります。しかし、問題意識を探る目的で古典を用いることは、古典には難しい部分があり適切ではありません。そのため、アダム・スミスの世界を解説している文献を輪読します。

本演習では、身近な人間関係で構築された世界のみならず外の問題にも関心を持ってもらうことを基調として、卒業論文作成の基礎知識が身に付くよう指導します。大学が実施するイベントや活動に積極的に参加・協力することによって、当該問題に関心を持つことを促します。また、文献を輪読することによって問題提起ができるようになることを促します。

外の問題にも関心を持って問題提起ができるようになると、どんな分野の専門演習を3年次に履修しても良い卒業論文を書くことができます。

授業の問題点

授業アンケートの設問「授業内容に興味や関心を持ちましたか」に対して、4.00（平均4.48）という数値であった。

学生の授業満足度

授業アンケートの設問「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」に対して、4.00（平均4.52）という数値であった。

授業改善の課題と方策

以下のように、学生による主な意見が寄せられた。
「コミュニケーションが取れて自分のためになった。」
学生がより話しやすい環境を作ることで「授業の問題点」を改善し、アダム・スミスの重要概念でもある「共感」などへの学生の関心をより高めていきたいと思っています。

その他

授業改善書

科目名	専門演習
担当者	秋場勝彦

授業の概要

本演習は、地域経済（場所はどこでもいい）の課題解決のために課題の本質を深く研究する演習講座です。

例えば北海道北広島市は赤毛米、愛知県大府市は音楽による「まちづくり」を目指しています。その中心となるテーマが異なるのは地域によって歴史や文化が異なるからです。したがって、地域経済の課題解決を画一的なレベルではなく、その背後の歴史的・文化的なレベルから多面的に分析することが重要です。この考え方に賛同できる学生を求めます。なお、事前的な知識や能力は求めません。情熱とやる気のある学生を求めます。つまり、演習のテーマに関し共感や意欲・関心を抱く学生を募ります。その際に、意欲がある学生を最優先します。

課題の本質がわかるには思考の座標軸を持つことが必要であり、その役割を担ってくれる最善の方法が古典に学ぶことだと考えるので、アダム・スミスの『国富論』を輪読します。アダム・スミスの思考形態から地域経済の課題に光をあてることで課題の本質がわかるようになります。私が訴える古典の意義に共感し、目の前の現象のみにとらわれて形無しになることなく、伝統的な考え方の枠組みや分析の枠組みを知ろうとする学生を求めます。

協働できるように春期を中心に大学が実施するイベントや活動に積極的に参加・協力します。地域経済の現状や課題を客観的に捉えることができるように夏休みにフィールドワークを行います。フィールドワークの候補地は、北海道北広島市および愛知県大府市です。課題の本質がわかり問題提起ができるように秋期にアダム・スミスの思考形態を理解する上で必読の『国富論』第1編第5章を中心に輪読します。

4年生になり執筆した卒業論文の内容を、研究した地域の人々の前で自主的に発表し卒業後も当該地域の発展に自主的に貢献するような自立自走人材を育てることを、本演習の最終目的とします。

授業の問題点

授業アンケートの設問「授業内容に興味や関心を持ちましたか」に対して、4.10（平均4.48）という数値であった。

学生の授業満足度

授業アンケートの設問「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」に対して、3.90（平均4.52）という数値であった。

授業改善の課題と方策

授業アンケートの設問「質問や発言をしましたか」に対して、4.00（平均3.34）という数値であった。

学生がより話しやすい環境を作ることで「授業の問題点」を改善し、地域経済への学生の関心をより高めていきたいと思います。

その他

授業改善書

科目名	国際経済論
担当者	秋場勝彦

授業の概要

貿易は、社会を豊かにする原動力であるといわれるが、近年保護貿易主義の台頭が著しくなっている。このような状況にあって、「どのような貿易体制が望ましいのか」という問題について、経済学が導きだす結論が社会の処方箋として有効な手段となりうることを理解できるよう講義する。特に学生諸君には自分の課題として受け止めてもらい、国際経済についての理論分析とデータに基づいた正しい認識を持てるようにしたい。またこの講義を通じて、私たちが目指すべき望ましい国際社会とは何かについて考えたい。このような問題意識の下、この講義が、学生諸君にとって考える切っ掛けとなるように講義を進めていきたい。

授業の問題点

授業アンケートの設問「授業内容に興味や関心を持ちましたか」に対して、4.39（平均4.48）という数値であった。

学生の授業満足度

授業アンケートの設問「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」に対して、4.50（平均4.52）という数値であった。

授業改善の課題と方策

以下のように、学生による主な意見が寄せられた。
「グループワークを行うことによって、人脈が広がりました！」「グループワークだと分からないところが質問しやすくて良かったです。」「面白い授業形式だと感じた。」「実際に自分たちで作ったデータで授業が進んで行くのは経済学に親近感が湧きいいと思った。」
学生がより話しやすい環境を作ることで「授業の問題点」を改善し、国際経済への学生の関心をより高めていきたいと思います。

その他

授業改善書

科目名	経済学入門
担当者	秋場勝彦

授業の概要

私たちは持続可能な社会の実現に向けて行動することが求められている。このような状況にあって、「持続可能な社会とはどのような社会か」という問題について、経済学が導きだす結論が社会の処方箋として有効な手段となりうることを理解できるよう講義する。特に学生諸君には自分の課題として受け止めてもらい、市場経済についての理論分析とデータに基づいた正しい認識を持てるようにしたい。またこの講義を通じて、どのように行動すれば持続可能な社会が実現できるのかについて考えたい。このような問題意識の下、この講義が、学生諸君にとって考える切っ掛けとなるように講義を進めて行きたい。

授業の問題点

授業アンケートの設問「授業内容に興味や関心を持ちましたか」に対して、4.46（平均4.48）という数値であった。

学生の授業満足度

授業アンケートの設問「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」に対して、4.56（平均4.52）という数値であった。

授業改善の課題と方策

以下のように、学生による主な意見が寄せられた。
「分かりやすくてとても良かった。」「アイスブレイクの時間など非常に良いと思う。」「経済学をただ表面的に学ぶのではなくグループワークと実際のデータを使うことで根本から学ぶような形で出来たのが良いと思った。」「グループディスカッション形式でいろんな人と話せて楽しかった。」「毎回グループが別になり色んな人とコミュニケーション取りながら取り組めるので新鮮ですごかった。」「図などを用いて勉強するのでわかりやすい。」「授業内でグループワークをすることが前提の授業となっており、生徒同士で分からない部分を教え合うということが度々発生するため、教える側はアウトプットをする事で、より内容の理解が深まり、教えられる側は、生徒により気軽に質問を出来るため、内容について深く理解出来たと感じた。」
学生がより話しやすい環境を作ることで「授業の問題点」を改善し、持続可能な社会への学生の関心をより高めていきたいと思います。

その他

授業改善書

科目名	マクロ経済学
担当者	秋場勝彦

授業の概要

インフレーションやデフレーションは解決されるべき社会問題である。課題解決のために議論すべきは「一国の経済活動の水準がどの水準にあることが望ましいのか」という問題であり、マクロ経済理論が現実社会を理解するのに、特に経済政策の目的とその効果を考察するのに有効であることを理解できるよう講義する。特に学生諸君には自分の課題として受け止めてもらい、一国の経済活動についての理論分析とデータに基づいた正しい認識を持てるようにしたい。またこの講義を通じて、私たちが目指すべき望ましい国民経済とは何かについて考えたい。このような問題意識の下、この講義が、学生諸君にとって考える切っ掛けとなるように講義を進めて行きたい。

授業の問題点

授業アンケートの設問 Q1「授業内容に興味や関心を持ちましたか」に対して 4.39 という結果で、わずかに平均（4.40）よりも低い数値であった。

学生の授業満足度

授業満足度に関する全ての数値が全て平均を上回っており、また以下の学生による主な意見
「発言の機会が多く、他の生徒との交流の場が毎回多く良かった。」
「ランダムに発言する人を決める仕組みがとても面白い。」
「簡単にマクロ経済学を解説していただき、分かりやすく受講できています。」
からも学生の授業満足度は概ね高かったと自己分析・自己評価します。

授業改善の課題と方策

一国の経済活動を対象とするが、学生に自分の課題として受け止めてもらうところを特に意識して講義することで、これまでよりも授業内容に興味や関心を学生に抱かせるような授業に改善していきたい。

その他

授業改善書

科目名	国際金融論
担当者	秋場勝彦

授業の概要

近年、日本の輸出立国としての地位が揺らいでいる。しかし、輸出立国を目指す代わりに海外から投資を呼び込む投資立国を目指すこともできる。このような課題に直面する状況にあって、議論すべきは「どのような生産性の高い社会が望ましいのか」という問題であり、経済学が導き出す結論が課題解決にとって有効な手立てになることを理解できるよう講義する。特に学生諸君には自分の課題として受け止めてもらい、国際経済についての理論分析とデータに基づいた正しい認識を持てるようにしたい。またこの講義を通じて、私たちが目指すべき望ましい社会とは何かについて考えたい。このような問題意識の下、この講義が、学生諸君にとって考える切っ掛けとなるように講義を進めて行きたい。

授業の問題点

貨幣市場など学生がイメージしづらいテーマを取り上げなければならない。

学生の授業満足度

授業満足度に関する全ての数値が全て平均を上回っており、また以下の学生による主な意見
「学生との交流があるので、コミュニケーション能力が上がるから良い。」
「秋場先生は教えるのが上手く、学生たちとコミュニケーションをよく取ってくれるので、質問もしやすく、良い学習ができました。」
からも学生の授業満足度は概ね高かったと自己分析・自己評価します。

授業改善の課題と方策

授業アンケートの設問「質問や発言をしましたか」に対して、4.34（平均3.33）という高い数値であった。学生に質問や発言を積極的に促すことを通じて、イメージしづらいテーマがより理解しやすくなるよう改善していきたい。

その他

授業改善書

科目名	マーケティング論
担当者	水野 はるな

授業の概要

本授業では、マーケティングの基礎・基本的な知識を習得することを目的に実施している。専門用語や理論を用いるときは、学生が知っているような企業名、商品名等を取り上げ、説明するなど学生の理解を深められるよう授業を行っている。時折、個人ワーク、グループワークを設定し、学んだ知識をアウトプットできるよう授業を展開している。また、毎回の授業後には要約シートを配布し、学生自身で学んだことを復習させている。

授業の問題点

学生評価アンケートの結果より、「質問・発言をしましたか」、「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」の二項目の平均値が若干低かったことが分かった。学生のアンケート結果の通り、この授業での質問・発言する機会はなく、また、自分で授業をしていても、量も若干多いと感じている。
また、この授業では、想定をしていた受講人数を上回っていたため、20分より前の遅刻に関して把握できなかった。

学生の授業満足度

ほとんどの項目で平均値より高い値を示していることから、この授業に対する学生の満足度は高いことがわかる。この結果を受けて、日ごろから学生にわかりやすく伝えることを意識して、授業準備をした成果だと考える。
埼玉学園大学で初めて行った授業だったため、少し量が多く、伝わりづらい部分が多いかと不安に思っていたが、想定よりも満足度が高く安堵した。

授業改善の課題と方策

今回のアンケート結果を受けて、来年度授業を行う際には、発問・質問ができるような機械を設けられるよう、授業の改善を行っていきたいが、受講人数が100名を超えるため、学生自身も自ら発問することは難しいと感じる。そのため、授業後に行わせている要約シートを要約・質問シートとして活用し、学生とコミュニケーションを図りたいと考える。
また、授業内容については、今一度見直し、学生が適切だと感じられる量を見極め適切な資料を作成したいと考える。
遅刻については、20分より前の入室は、授業の中断となるため、カウントしていなかったが、後期からは、遅刻せず出席してる学生のためにも、遅刻をカウントできるような仕組みを考えたいと思う。

その他

特になし

授業改善書

科目名	スポーツマネジメント論
担当者	水野 はるな

授業の概要

本授業では、現代におけるスポーツ（学校体育の場、行政や地域社会、産業界、メディアなど）と結びつきながら、現代のスポーツ界の構造や組織のあり方についてマネジメントという視点から読み解いていく。また、基本的なスポーツマネジメントの知識や理論を学習し、学んだ知識や理論を活用し、身の回りのスポーツマネジメントマネジメントについて説明できるよう、実践的な理解を目指している。

そのため、最新のスポーツマネジメントの事例を動画、画像等で表示し、さらなる理解を深めている。また、毎回の授業後には要約シートを配布し、学生自身で学んだことを復習させている。

授業の問題点

この大学の学生はスポーツ経験が乏しく、スポーツに対する知識が少ない学生が多いことを、授業を通して体感した。そのため、アンケートの結果の設問①と②の項目は、平均値と比較すると、高い値を示しているが、設問③は、平均値より若干低い値を示したと考える。そのため、スポーツに関する基本的な知識から最新の情報まで詳しく授業で取り上げる必要があると感じた。

※アンケートの回答数が少なかったことに関して、2 回回答するチャンスがあったが、両日ともに、グループワークもしくは、授業内容の量が多く、時間が確保できなかった。また、再評価の際は、学内が停電のため、授業が突如休講となったため、回答数が得られなかったと考える。

学生の授業満足度

ほとんどの項目で高い値を示していることから、この授業に対する学生の満足度は高いことがわかる。この結果を受けて、日ごろから学生にわかりやすく伝えることを意識して、授業準備をした成果だと考える。

満足度の数値は、4.67、4.50、4.50 と決して悪くはないため、さらなる授業満足度の向上に向けて、授業を改善したいと考える。

授業改善の課題と方策

今回のアンケート結果を受けて、まずは、アンケートの回収率を高めることが急務である。来年度はアンケートがしっかり実施できるよう、時間を確保する。

今後は、さらにスポーツマネジメントに興味関心を持てるよう、基本的なスポーツに関する知識を学んでから、最新のスポーツマネジメントの情報を取り入れること、学生が主体的に学べるよう、グループワークを充実させることができる授業を行いたいと考える。

その他

特になし

授業改善書

科目名	スポーツマーケティング論
担当者	水野はるな

授業の概要

スポーツに関するビジネスの消費者がどのような特徴を持ち、何を消費しているのか、売れる仕組みづくり、ニーズの創造という視点から学び、経営資源をマネジメントできる実践力や応用力、そのための理論的背景を学ぶ。授業は講義形式であり、学生には空欄がある授業資料を配布し、スライドを見ながら記入してもらっている。また、授業の終わり 10 分前には授業の要約または課題を行うようにしている。また、この授業内容の理解を深めるために、時折、グループワークを行っている。

授業の問題点

- ・授業外学習、質問・発言の項目の点数が低いこと
- ・スライドに誤字脱字がある

学生の授業満足度

- ・学生の満足度は全ての項目において、4 点台であることから、概ねこの授業に対して満足していると考ええる。

授業改善の課題と方策

- ・本年度初めて受け持った授業であったため、時間的余裕がなく誤字脱字までチェックできなかった。来年度は再度授業資料を見直していきたい。
- ・授業外学習ができるよう、課題を設定する。

その他

授業改善書

科目名	スポーツ企業経営論
担当者	水野 はるな

授業の概要

プロスポーツ、スポーツメーカーなどのスポーツ企業・組織に着目し、実際に触れながらスポーツ企業の経営、事業について授業を行っている。授業は講義形式であり、学生には空欄がある授業資料を配布し、スライドを見ながら記入してもらっている。また、授業の終わり 10 分前には授業の要約または課題を行うようにしている。また、この授業内容用の理解を深めるために、グループワークを行うこともある。

授業の問題点

- ・授業外学習と質問、発言の平均値が他の項目と比較して低い
- ・学生からの意見の「要約をする時間が短い」
- ・情報量が多い
- ・全体的に平均値より若干低い

学生の授業満足度

・学生の満足度は全ての項目において、4 点台であることから、概ねこの授業に対して満足していると考ええる。

授業改善の課題と方策

・授業外学習と質問、発言の平均値が他の項目と比較して低い点こと、学生からの意見にて、要約をする時間が短いことが挙げられたため、来年は要約・課題を授業外学習に当てるように改善したい。

・情報量が多いことに関しては、内容を再度精査し、要点を絞った内容に改善したい。

その他

授業改善書

科目名	国際経営論
担当者	塩谷さやか

授業の概要

日本市場が独自の発展を遂げている間に、世界市場の動きから取り残され、国際展開の機会を逸するという「ガラパゴス化」の 1 つの原因は、リスクの高い海外よりも、安全・確実な国内を選択するという判断が繰り返されてきたことにある。安穩と国内に引きこもっていたことが、高い技術力を誇り、さまざまな未来を描くことができたはずの日本企業の現状を、閉塞的なものになっているのである。私たちはもちろん、地元貢献したい、日本で活躍したいという志を持つ人を否定するわけではない。しかし、そうした人であっても、必要であれば、果敢に海外へと出ていけるだけの準備と心構えをしておくことは、これからますます進んでいくグローバル化の中で、大切なことだと思われる。本講義から、世界に挑戦する勇気と力を持った人が巣立つよう指導する。

授業の問題点

授業内の中間プレゼンテーションにおいて、学生同士の質疑応答を行い相互理解を深める予定であったが、プレゼンテーションに対してあまり意見が出ず、講義のねらいを達成することが出来なかった。

学生の授業満足度

『この授業に対するあなたの学習態度を評価してください』の項目の中の「出席や課題提出等はしましたか」「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」「質問や発言をしましたか」の評価点はそれぞれ平均値を越えていることから、授業に対する学生の関心を喚起し、理解を深めさせることが出来たものと考えている。授業中に質問や発言をする学生が多いということは、質問・発言をしやすい雰囲気、環境が整っていることが考えられる。今後も双方向教育を推進するために、受講生に対して引き続き適切な方法とタイミングで問いを投げかけ、質問・発言の機会を作って行きたいと考える。

授業改善の課題と方策

次年度以降は、今年度以上に具体的なビジネスケースを積極的に取り上げることで、社会人になった時に、本講義が有効に活用できる内容となるように改善したい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	企業論
担当者	塩谷さやか

授業の概要	
われわれの生活は企業なしにはもはや成り立たないほど、企業に依存している。企業で働いている人は、全就労者のおよそ 8 割にものぼり、彼らは企業から所得、社会的地位、生き甲斐、達成感をも得ているのである。そして、われわれの身の回りにあるものはすべてといっていいほど、企業がつくりだし、われわれの手元に届けてくれたものばかりである。遠い外国の食材が食卓を飾るのも、また外国のレストランで食事ができるのも、みな企業活動の結果である。さらに、企業が生み出した富は、4 割以上の若者が大学・短大で学べるほど（日本）社会を豊かにし、教育、医療、警察・消防等々の社会的諸制度を成り立たせているのである。しかし、その一方で、ダイオキシンや温暖化現象など地球環境の破壊が進行しつつあり、人類のみならず、すべての生き物の生命が危機に瀕しているのもまた真実である。本講義は、それらの課題を解決して行くアイデアを理解するよう討論する。	
授業の問題点	
『授業についての評価』に関する各評価項目は全て 4 点台となっており、全体的に高評価を頂いた。私の講義を熱心に聴いている学生が多かった印象が強く、とても楽しく授業が出来た。このアンケート結果から授業の問題点はないと判断している。	
学生の授業満足度	
『この授業に対するあなたの学習態度を評価してください』の項目の中の「出席や課題提出等はしましたか」「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」「質問や発言をしましたか」の評価点はそれぞれ平均値を越えていることから、授業に対する学生の関心を喚起し、理解を深めさせることが出来たと考えている。授業中に質問や発言をする学生が多いということは、質問・発言をしやすい雰囲気、環境が整っていることが考えられる。今後も双方向教育を推進するために、受講生に対して引き続き適切な方法とタイミングで問いを投げかけ、質問・発言の機会を作って行きたいと考える。	
授業改善の課題と方策	
このアンケート結果から授業改善の課題はないと考えられる。	
その他	
特になし。	

授業改善書

科目名	ベンチャー企業論
担当者	塩谷さやか

授業の概要
①理論と実務の両方を網羅：ベンチャー企業のマネジメントに関する経営理論を網羅し、はじめて学ぶ学生が必要な理論を体系的に学ぶことができる。理論だけでも、逆に実務的なハウツーだけの講義でもない。理論と実務の融合こそが本講義のねらいである。また、主にはベンチャー企業の立ち上げを想定しているが、先にも記したように大企業やファミリー企業（同族企業）において新規事業を創ディをもとに、実際にベンチャービジネスを始めることを前提に解説：私が見聞した、多くのベンチャー企業や大企出してイノベーションを図りたい場合にも参考となるように指導する。②豊富なケーススタディの新規事業立ち上げのケーススタディをもとに学ぶ。ケーススタディとして挙げた企業は必ずしも成功企業として取り上げたわけではない。必要な機能や要素を含んだ典型的なケーススタディを取り上げた。今後、環境の変化で倒産する企業のケーススタディが出てくるかも知れない。それがベンチャー企業というものである。また、授業全体を通して各自ビジネスプランを作成し、プレゼンテーションをすることを前提にしている。プレゼンテーションの内容と課題を、毎週討議する。
授業の問題点
授業の後半は、毎回、学生同士が質疑応答を行い、相互理解を深めながら、各自のビジネスプランをつくりあげてゆくという内容であったが、欠席をする学生が、ビジネスプランに関してのコメントをもらうことができず、結果、最終プレゼンテーションや課題が不十分な達成度になることとなった。毎週、ビジネスプランを改善してつくりあげて行く授業内容は、欠席の多いの学生にとっては、不利になるケースがあることが、問題点である。
学生の授業満足度
『この授業に対するあなたの学習態度を評価してください』の項目の中の「出席や課題提出等はしましたか」「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」「質問や発言をしましたか」の評価点はそれぞれ平均値を越えていることから、授業に対する学生の関心を喚起し、理解を深めさせることが出来たものと考えている。授業中に質問や発言をする学生が多いということは、質問・発言しやすい雰囲気、環境が整っていることが考えられる。今後も双方向教育を推進するために、受講生に対して引き続き適切な方法とタイミングで問いを投げかけ、質問・発言の機会を作っ行きたいと考える。
授業改善の課題と方策
次年度以降は、担当科目が変更になるので、改善点は特になし。
その他
特になし。

授業改善書

科目名	中小企業論
担当者	塩谷さやか

授業の概要

企業には大企業と中小企業がある。大企業は商品や広告によって全国的に知名度も高いのだが、中小企業は地域の中で身近にある商店や企業以外はあまり知られていない。活動地域が限られていることや下請けや部品生産など、流通の中間に位置する企業も多く、一般消費者などの目に触れる機会が少ないためである。しかし、中小企業は日本の事業者数の 99.7%を占め、中小企業で働く従業者は全従業者数の約 7 割を占めるなど、日本経済を支える大きな存在である。大企業が継続的に事業を行うことができるのは、それを陰で、地域の経済を支えている多くの中小企業あるからである。その業種や規模は様々であり、中小企業の実態がわかりにくくなっているのが実情である。

本講義は、中小企業の多様な実態や課題、中小企業の可能性を解説する。大学進学率が 55%の現在、卒業生の多くが中小企業に就職するが、多くの場合、大企業と中小企業の違いは、規模や知名度、労働条件の差といった理解にとどまっている。本講義により、中小企業への理解が進み、就職を考える学生の参考となるようにしたい。

授業の問題点

授業内の中間プレゼンテーションにおいて、学生同士の質疑応答を行い相互理解を深める予定であったが、プレゼンテーションに対してあまり意見が出ず、講義のねらいを達成することが出来なかった。

学生の授業満足度

本授業はアンケートを 2 回行ったが、履修生 24 人のうち 1 名の回答にとどまった。これでは、アンケートの集計結果が、講義内容を反映しているとは言えず、コメントは差し控えた。

授業改善の課題と方策

次年度以降は、担当科目が変更になるので、改善点は特になし。

その他

特になし。

非 常 勤 講 師

人 間 学 部

授業改善書

科目名	政治学
担当者	伊藤肇

授業の概要

今期、これまでとは大幅に変更した点は「板書」に関する点である。時間の節約という面からも授業の内容をまとめたものをあらかじめ Teams にアップしておき、授業はそれに沿って進めた。何らかの事情で携帯端末が利用できない受講者の存在も考慮し、遅くとも前日までにはアップするようにメディアセンターでプリントアウトしたものを利用できるよう配慮した。

なお、アンケートは 7/4 および 7/18 に実施した。初回の回答数は「22」ということで再度実施した結果「51」になったとのことである。(登録者数 95 名) 2 回目の実施に際して担当者からは教務課からの指示に従って、「初回到回答した受講者も改めて回答するように」と伝達した上で実施した。

授業の問題点

「学生による主な意見」として

「黒板の字が小さく読みづらい(ママ)ことがあった。」

との記述があったとのことである。この点に関しては下の「授業改善の課題と方策」の欄で併せて述べたい。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」 **4.37**
「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」 **4.35**

昨年度と比較すると多少上昇しているが「平均点」が 4.5～4.6 とのことなので、引き続き授業満足度を上げる工夫をしていきたい。

授業改善の課題と方策

上記の「授業の問題点」について意見を記した学生が、果たしてどれほど授業に出席したのかぜひとも確認したいところである。シラバスに記したとおり、これまで板書してきた内容を今期からあらかじめ(遅くとも前日まで)に Teams にアップしておき、受講者には携帯端末で閲覧してもらうか、あるいはメディアセンターなどでプリントアウトしたものを持参・閲覧してもらうというスタイルを試験的に導入した。2 回ほどこれまでのスタイルと比較してもらうために従来通りの板書するスタイルで授業を実施したが、上記のような記述はこれまでの板書するスタイルをずっと継続しているという誤った印象を与えるものである。(「だから Teams にレジュメをアップする方法がいい」という趣旨であれば納得できるのであるが。)

その他

特になし。

授業改善書

科目名	情報処理（文書の作成と表現）
担当者	坂本明子

授業の概要

演習形式の授業形態により、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な情報処理能力を身に付けることを目的として、情報化社会における情報の役割と活用について理解したうえで、コンピュータの仕組みやソフトウェアの利用方法、キーボードタイピング練習、電子メールの受・発信などの基礎的な知識と技能について指導した。MOS Word2019 の資格試験に合格することを目的とし、試験対策用教材に取り組んだ。具体的に、Word の文字、段落、セクションの文書設定、表とリストの作成、画像、SmartArt の挿入、参考資料の適用について指導した。

授業の問題点

授業への興味が高く、出席が良かった。講義専用のサイトを設け、授業毎の評価を確認させ、意欲的に取り組めるよう工夫した。毎回授業テーマを設定し、それに応じた資料を専用サイトで配信した。コンピュータ操作の実技演習であったため、授業開始時にタイピング力向上のための演習を取り入れた。授業時間を適切に運用し、わかりやすく説明するように努力したものの、学生は難しく感じる時もあった。

学生の授業満足度

授業への興味が高く、出席が良かった。講義専用のサイトを設け、授業毎の評価を確認させ、意欲的に取り組めるよう工夫した。毎回授業テーマを設定し、それに応じた資料を専用サイトで配信した。コンピュータ操作の実技演習であったため、授業開始時にタイピング力向上のための演習を取り入れた。授業時間を適切に運用し、わかりやすく説明するように努力したものの、学生は難しく感じる時もあった。

授業改善の課題と方策

さらにわかりやすく説明するように心がけ、毎回授業をふり返り、各授業での学びを確認する。学びをふり返り、自分の変容を知ることによって授業の予習・復習等の自己学習意欲の喚起につながるようにする。また教室の設備を有効活用することを心掛けたい。より良質な授業となるよう、アンケート結果を真摯に受け止め、今後の授業展開に反映する。

その他

特になし

授業改善書

科目名	情報処理（文書の作成と表現）
担当者	坂本明子

授業の概要	
演習形式の授業形態により、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な情報処理能力を身に付けることを目的として、情報化社会における情報の役割と活用について理解したうえで、コンピュータの仕組みやソフトウェアの利用方法、キーボードタイピング練習、電子メールの受・発信などの基礎的な知識と技能について指導した。MOS Word2019 の資格試験に合格することを目的とし、試験対策用教材に取り組んだ。具体的に、Word の文字、段落、セクションの文書設定、表とリストの作成、画像、SmartArt の挿入、参考資料の適用について指導した。	
授業の問題点	
授業への興味が高く、出席が良かった。講義専用のサイトを設け、授業毎の評価を確認させ、意欲的に取り組めるよう工夫した。毎回授業テーマを設定し、それに応じた資料を専用サイトで配信した。コンピュータ操作の実技演習であったため、授業開始時にタイピング力向上のための演習を取り入れた。授業時間を適切に運用し、わかりやすく説明するように努力したものの、学生は難しく感じる時もあった。	
学生の授業満足度	
授業への興味が高く、出席が良かった。講義専用のサイトを設け、授業毎の評価を確認させ、意欲的に取り組めるよう工夫した。毎回授業テーマを設定し、それに応じた資料を専用サイトで配信した。コンピュータ操作の実技演習であったため、授業開始時にタイピング力向上のための演習を取り入れた。授業時間を適切に運用し、わかりやすく説明するように努力したものの、学生は難しく感じる時もあった。	
授業改善の課題と方策	
さらにわかりやすく説明するように心がけ、毎回授業をふり返り、各授業での学びを確認する。学びをふり返り、自分の変容を知ることによって授業の予習・復習等の自己学習意欲の喚起につながるようにする。また教室の設備を有効活用することを心掛けた。より良質な授業となるよう、アンケート結果を真摯に受け止め、今後の授業展開に反映する。	
その他	
特になし	

授業改善書

科目名	宗教学
担当者	志田雅宏

授業の概要	
本授業では「一神教世界とわたしたち」という副題にもとづき、前半はユダヤ教・キリスト教・イスラームという三つの一神教の概説、後半は宗教学の諸理論の紹介とそれにもとづく事例紹介という構成の講義を実施した。授業はすべて対面でおこなった。毎回のリアクションペーパー（RP）の提出を課した。RP は授業終了直後に紙媒体で提出するのではなく、オンライン（Google フォーム）で提出する方式をとった。その理由としては、大人数の授業ゆえの紙での提出時の混乱を避けることや、合理的に集計できることなどもあるが、最も重要な理由は学生に考察の時間をじゅうぶんに与えることである。授業終了時に 5 分程度の時間で提出を求めても、なかなか考えをまとめることは難しいので、復習と考察の時間を設けた。実際、RP には優れた記述も多数みられ、特に優れたものについては翌週の授業の冒頭で公開し、講師からのコメントを述べた。定期試験は論述形式でおこない、試験問題の一部を事前公開した（当日は持ち込み不可）。	
授業の問題点	
授業についてはシラバスに記載したとおりに進めることができた。講義資料とスライドによる講義形式の授業であったが、ノートやメモをとることについて、もっと黒板を使ったり、呼びかけを増やしてもよかった。また、授業内容についての質問もいくつか受け取ることができたが、よりその頻度を増やすための呼びかけもできたと思われる。また、ピアレビューによると、教室の後方では授業中にスマートフォンを見ているなど、授業に参加していない学生もいたとのことである。大人数なので目が行き届かない部分はあるが、積極的な授業参加をうながす工夫があってもよかった。	
学生の授業満足度	
アンケート結果からは、概ね満足であるという回答がみてとれた。学生にとって有意義な授業になっていればこちらとしても嬉しく、また多くの学生が受講してくれたことに感謝したい。学生の意見のなかには、マイクの音量が一定でなかったために聞きづらいときがあったというものや、もう少し黒板を使ってほしいというものもあったので、これらの点については改善していきたい。	
授業改善の課題と方策	
課題としては授業外学習の時間を充実させることに取り組みたい。Microsoft Teams を活用して、内容をピンポイントでまとめた事前学習用の資料を用意し、受講前に読んできてもらうという方策が考えられる。	
その他	

授業改善書

科目名	社会学Ⅰ
担当者	中村 牧子

授業の概要

社会学を初めて学ぶ学生を想定し、身近な社会現象の社会学的な考察法を紹介していく授業である。一回ごとにテーマを定め、それに関連する重要概念や既存研究の動向を紹介するとともに、具体的事例をとりあげ、現代社会で起きている諸現象の理解しかたや、問題点と対策の現状等を学んでもらっている。今回は、相互理解のしくみ、異文化間コミュニケーション、ネット環境の便利さと危険性、未婚化と単身者増加、少子化の現状、DVと子ども虐待などを取り上げた。授業の最後には毎回、各自の感想や考察を書く時間を取り、自分の主張やその論拠を整理して書くための練習を行った。また、次回授業では参加者の意見を紹介し、多様な考え方を共有できる機会を設けた。

授業の問題点

学習態度については、出席・課題提出やノート取りのスコアに比べて、授業外学習や質問・発言のスコアが低くなっている。どのクラスも大教室授業のため授業中の発言はしにくい、授業後に質問があれば受け付けているし、予復習にはもっと積極的にとりくんでもらうことが望まれる。授業内容・方法については、資料の適切さや分かりやすさ、テーマの明確さ、授業の内容や量などについて評価されている一方で、学生からの質問への対応のスコアが低い、これは質問自体がほとんどないことにも因っている。

学生の授業満足度

授業満足度については、クラスによって評価が異なる。揃って評価の高いほうのクラスでは、学生の出席率が高く、毎回の意見・感想もたくさん書けており、集中力も高かった。これが評価に反映されていると思われる。他方、評価の低いほうのクラスでは、意見が非常に少なく内容が理解できていない学生も比較的多かったことから、この評価になったのではないかと考えられる。自由記述欄では、資料のわかりやすさ、内容の興味深さ、視野の広がり等が評価されている。ここから、身近な社会現象に興味をもち理解してもらおうという授業の狙いは、ある程度受け止めてもらえたものと考えられる。

授業改善の課題と方策

問題点は、学生の受動的な学習態度にある。今期も受講人数が多く、レポート課題を課して自主的な学習を促す試みは見送りとなった。そのため、ただ授業を聞くだけの学生も出てしまったが、自分で調べる態度が身についた学生もいるので、そういう学習法を呼びかけていくなどの方策が考えられる。今期も、早朝授業で受講者が少ない（毎回70名前後）クラスでは、授業参加に積極的に自主的考察にもアクティブだったのに対し、人数の多いもう一つのクラスではそういう学生が比較的少なかったため、意見紹介では両クラスの意見を合わせて紹介するなど、色々な考え方に触れてもらう工夫はしていた。また、社会で起きていることは決して他人事ではないという気付きを促してもきた。今後ともそうやって興味と自ら探究する学習姿勢をもたせる取り組みは、継続したい。

その他

授業改善書

科目名	社会学Ⅱ
担当者	中村 牧子

授業の概要

春期開講の社会学Ⅰを受ける応用編として、現代日本社会における労働・ジェンダー・格差等の社会現象について多角的に学ぶ授業である。「労働」論では、働き過ぎや過労死、女性の労働、正規雇用と非正規雇用の関係や相違などを取り上げ、それぞれの現状と取り組みについて様々な資料を参照しながら学んだ。また現代人が自分らしく生きる可能性を考える「自己」論においては、男性・女性・LGBTQといったジェンダーの現在地や、障害者と社会の関わりなどの現代的な問題を取り上げた。総括としては、「格差社会」と呼ばれる現代社会の状況と今後の課題等までを展望した。これにより、社会のなかでの自身の立ち位置と、多様な他者の立場を理解できるようになることを目指した。

授業の問題点

学生の学習態度では、ノート等を取っている点ではスコアが高いものの、授業外学習や質問・発言については相変わらずあまり高くない。授業内容・方法については、資料等の適切さやわかりやすさ・テーマの明確さ・授業の分量等についてはスコアが高めだが、これは毎回テーマを明示し、それに即した1回～2回完結の構成で講義をしていることにも関係するだろう。その一方で質問への対応等のスコアは低い、これは質問自体があまり多くないことにも因っている。授業を円滑に進める工夫では、授業開始前に静粛さを求めるなどの方法をとって集中できるような環境作りを行ったが、受講者もある程度それに協力してくれていたように思う。

学生の授業満足度

授業満足度についてのスコアは高めのクラスと低めのクラスがある。本講義では、身近な話題を論じるように心がけ、とくに前半の「労働」に関連する部門においては、各自が実際に社会に出たときにどんな社会関係に入っていくことになるか、そこにどんな問題があり、どう対処できるか、また現在の取り組みはどれほど進展しているのかなど、具体的・実際的な視点に立つ議論を多く盛り込んだ。授業後のコメントシートでは、これから社会人となる身として、その種の情報を得られてよかったという感想が多めだったので、そうした点が評価されたのかもしれない。ただ若干理論的な内容になると難しく思う学生がいたようで、そうした学生配分が評価のクラス差となったのかもかもしれない。

授業改善の課題と方策

主体的な学習の程度が低いことは、例年の最大の問題だが、宿題を出す形式の授業でもない、自主的な予復習は呼び掛ける程度しかできない。が、なるべく参考文献を示したり、現在話題となっていることに関心に向け、ネット検索の可能性を示したりして、ヒントは随時出している。今後も、この種の働きかけは継続していきたい。

その他

授業改善書

科目名	法学入門
担当者	宮島 薫
授業の概要	
2008 年度秋期より、非常勤講師として埼玉学園大学にて授業の担当をさせていただいておりますが、現在は法学入門、民法の 2 科目の担当をさせていただいております。法学入門につきましては同一担当者の別科目の履修を済ませているケースもあり、授業の進行の仕方や学習に対する取り組み方など、学生本人たちの方が積極的に行動してくれることもあり、担当者としては授業内容に集中することが可能でこの点は助けられています。わかりやすさ、興味を抱かせる工夫、資料の用い方、時間配分など、自問自答する毎日です。なお、今年度も 1 コマのみの開講となりました。（開講当時は 2 コマ体制で、履修者が 100 名を切ると 1 コマになりました。コロナ禍後もそのままです。）	
授業の問題点	
一般に、専門外の科目の場合、担当者との距離感に学習意欲や満足度など、生身の人間である受講生の側の反応が左右されがちですが、いわゆる・新入生も受講可能な対面式講義のためもあり、学生本人の大学への習熟・いわゆる慣れや安心感のようなものが形成されつつある過程でもありますので、直接受講生一人一人の顔を見て講義、ということが大切かも知れませんが、原点に立ち返って、少人数教育や資格取得という面からも、効率的な教育に対する受講生の側の努力をも期待することも必要かもしれません。正直者が馬鹿を見ないようにという点もです。	
学生の授業満足度	
今回の集計結果によれば、出席「4. 47」→シラバスとの一致度「4. 44」→満足度「4. 22」とあり、昨年度は、出席「4. 55」→シラバスとの一致度「4. 02」→満足度「3. 76」という結果でした。今年度も、いわゆる・コロナ前に戻すということですべて対面式講義形式となり、科目としての総履修者数は、概算で 106 名から 63 名となり、いわゆる・人口密度の問題も関係するかもしれません。例年、人口密度の高い・窮屈感が、不快指数の増加につながることも考えられますので。学問の場でもある授業が、うれしい、楽しい、ばかりではないかもしれませんが、この点も踏まえ今後の検討課題とさせていただきたいと思います。なお、評価の内実とは直接の関係は未知数ですが、定期試験の合格率は、受験者ペースで昨年度の 92. 5%から、86. 3%に変化しております。	
授業改善の課題と方策	
教室は勉強・学習の場であるということの再確認から始め、大学は自ら学ぼうとする者の集う場で、かつ卒業後には学生各人が社会から迎えられうるような人材を育成する場である、というところから話を始め、そのためにどう授業に関わりを持つべきなのか、という点にも力点を置こうと心がけています。具体的に書く作業、声に出して読む作業などメリハリをつけるようにし、ある意味正当なライバル意識などは学習意欲の向上などに有益な場合も考えられますので、可能な限り多くのチャンスを受講生に提供できるように心がけています。まずは、学生一人一人の顔を見て講義するようにしています。	
その他	
今回のアンケートで当初気が付きましたのは回答率の低さです。当日の実際の出席者数は 7 月 16 日で 41 名でした。これが有効回答数 36 ということで率にして 87. 8%です。未回答分 5 名が批判的な学生でなかった場合、評価ポイントも変わり加えて平均点を算出するくらいならこの点も考慮の余地はあるかもしれません。当然のことながら受講生数と人口密度の関係も考慮の余地はあると思います。同じ担当者の民法の講義の場合とも比較するなど今後の検討課題とさせていただきます。（教室も異なります。）このほか、評価と、いわゆる・応援メッセージとの関連も、検証すべき点かもしれません。	

授業改善書

科目名	民法
担当者	宮島 薫
授業の概要	
2008 年度秋期より、非常勤講師として埼玉学園大学にて授業の担当をさせていただいておりますが、現在は民法、法学入門の 2 科目の担当をさせていただいております。民法につきましては同一担当者の別科目の履修を済ませているケースもあり、授業の進行の仕方や学習に対する取り組み方など、学生本人たちの方が積極的に行動してくれることもあり、担当者としては授業内容に集中することが可能でこの点助かります。教員志望の学生も受講生の中には存在いたしますので、授業のコントロールの仕方についても担当者としての力量が問われているものと認識しております。わかりやすさ、興味を抱かせる工夫、資料の用い方、時間配分など、自問自答する毎日です。	
授業の問題点	
授業担当者の側からの・授業のいわゆる制度設計としては、受講対象者が 2 年次生以上ということで、自分の学習ペースを有する者が大半であるとも思われますので、担当者自身のモチベーションの保ち方も、気をつけねばならない点かもしれません。少人数教育や資格取得という面からも、効率的な教育に対する受講生の側の努力をも期待することも必要かもしれません。基本的な考え方としては、正直者が馬鹿を見ないように、この点に尽きると思われます。	
学生の授業満足度	
今回の集計結果によれば、出席「4. 45」→シラバスとの一致度「4. 60」→満足度「4. 40」とあり昨年と比べ出席に関しては下降したものの、一致度、満足度は上昇傾向にあるようです。この状況・あるいは内容を放置せず、更なる進化を目指そうと思います。一般に、使用教室による人口密度と不快指数は、なにがしかの関係もあるようなので、ゆつたりとした環境で、資料を活用しながら、可能な限り個別の指導も交えつつ授業内容の定着を図るという方針を進めたいと思います。大学側のご理解とご協力に心から感謝いたします。	
授業改善の課題と方策	
まずもって、教室は勉強・学習の場である、ということの再確認から始め、大学は自ら学ぼうとする者の集う場であり、かつ卒業後には社会から迎えられうるような人材を育成する場である、というところから話を始め、そのためにどのような形で授業に関わりを持つべきなのか、という点にも力点を置こうと心がけています。具体的に書く作業、声に出して読む作業など、メリハリをつけるようにし、学習意欲の向上などに有益な場合も考えられますので、可能な限り多くのチャンスを受講生に提供できるように心がけています。	
その他	
今年度は講義形式が対面式で実施されましたが自分の居場所を見失っているような学生も存在したかもしれず、これが例えば履修登録はしたものの出席もしない者の存在が物語っているかもしれません。すべての人の不安を取り除くことは困難を伴いますが専任・非常勤を問わず学内での情報の共有化と対応の一元化など今後の検討課題とすべき問題かもしれません。なお履修者は 42、回答者は 20（当日の出席は 22）試験受験者は 27 でした。（26 名が合格。）ここに何らかのヒントがあるかもしれません。	

授業改善書

科目名	日本語の運用
担当者	田口久美子

授業の概要

「日本語の運用」では、社会生活における様々な場面での日本語の使い方を学ぶ。
 具体的には、いろいろなメールの書き方や自己アピールの仕方、レポートの作成方法などを扱う。授業では、こうした実用文の書き方を学習し、それを作成する課題に取り組んでもらう。実際に自分で課題をおこなうことにより、実用文を書く能力を身に付けることを目指す。

授業の問題点

学習態度については、概ねよく出席し、きちんとノートやメモも取っていることが窺える。一番評価が低かったのは、質問や発言の項目である。大きな教室で、受講生 200 名超の授業もあったりするので、質問や発言がしにくいのはやむを得ないもののように思われるが、今後はなるべく質問や発言を促すようにしたい。
 授業内容への興味や関心も若干低いようである。15 回の授業では、様々な種類の実用文を扱うので、学生にとっては興味や関心が持てるものと持てないものがあると考えられる。いかにして様々な実用文に興味や関心を持たせるかは、今後の課題である。

学生の授業満足度

授業満足度については、おおよそ平均並みであった。
 学生による主な意見として、「詳しく細部まで説明していて、理解しやすかった」というものがある一方、「(課題の)量に傾けても良かった」というものもあった。実用文の書き方について、詳しく説明しようとする時間と時間をとられてしまい、作成課題を多くこなうことができなくなってしまう。質と量のバランスが、難しいところである。

授業改善の課題と方策

一番の問題点である質問や発言がでにくいことの改善としては、まず受講生を適当な人数にすることが前提である。そうすれば、今よりは質問や発言を促しやすくなると思われる。学生による主な意見に「グループワークを設けるなどして楽しい授業にするともっと良い」という指摘があったが、この対応についても人数次第である。
 実用文の書き方を説明することと作成課題をおこなうことの両立については、取り上げる内容によってその比重を考え、バランスをとるように心がけたい。

その他

授業改善書

科目名	文章作成法
担当者	田口久美子

授業の概要

「文章作成法」の授業では、論文・レポートの書き方を基礎から学ぶ。
 まず、表記・単語・文法・文体をはじめとする、日本語の文章表現の基礎を身につける。そのうえで、論文・レポートとはどのようなものかを講義する。論文構成の考え方、問いの立て方、文献の調べ方、調査の方法などについて解説する。論文・レポートの作成にかかわる知識や技術を基礎から学び、論理的な文章を書けるように指導する。学期末には、各自がレポートの作成をおこなう。

授業の問題点

15 回おこなっている授業のうちの前半は、日本語を成立させている様々な要素についての解説をしている。学生は 1 年生が多いので、基礎的なことから学べるようにしているが、高校までに学習したことと重なるところもあり、アンケートでは「簡単すぎる」という意見が複数あった。一方で、「テキストなどの資料は適切でしたか」というアンケートの質問では、おおむね平均点の評価は得られている。100 名を超える受講者がいるので、個人差も大きいと考えられ、評価の解釈は難しいところである。

学生の授業満足度

全体的には、ほぼ平均点の評価である。アンケートの具体的な項目としては、授業について「わかりやすかったですか」「得るところのあるものでしたか」などで、普通程度の評価が得られている。評価が少し下回っているのは、「授業は適切な内容や量でしたか」というもので、学生から「もう少し早めに授業が終わって欲しい」という意見があったことを合わせて考えると、授業内容が少し多過ぎたように思われる。今後は、もっと内容を絞り込んで、時間配分などにも気をつけたい。

授業改善の課題と方策

学生による意見に、授業が「簡単すぎて退屈」というものがあつたので、今後は授業中に課題を多く取り上げて、学生自身にやらせよう時間を増やすようにする。今年度の授業でも課題をおこなうことはあつたが、十分な時間がとれなかったため、今後はしっかりと課題に取り組む時間を確保したい。講義と課題のメリハリがある授業を心掛けたい。

その他

授業改善書

科目名	英会話 I
担当者	加藤麗未

授業の概要

ある程度の量の英語を話すための表現のコツや、人に伝わりやすい英文を作るための発想方法を毎回実践を通して練習し、その成果として英語プレゼンに2回挑戦してもらいました。

授業の問題点

アンケートには特にコメントがなく、数値からも特に問題と思われる点はなかったが、授業を行った実感としては、私の伝えている内容に興味を示してくれる学生もいましたが、それよりは、反応の薄い学生の方が多い印象を受けました。これは、私がやや高度な話をしすぎた・プレゼンへの要求度を高めたため、委縮してしまったことと、話の要点が十分に伝わらなかったのではないかと思います。

学生の授業満足度

アンケートの数字を見る限り特に問題はないように思われますが、上記でも述べたように、やや高めのレベル設定だったため、思ったように英語を話せずに悔しい思いをした学生もいるかもしれません。

授業改善の課題と方策

今後はシラバスで設定したレベルにとらわれすぎず、学生がもう少しリラックスして英語を口に出して楽しめるよう、様子をよく見ながら授業を進めていきたいと思います。春学期の授業では、英語プレゼンとしての完成度を求め過ぎたあまり、英語を話すこと自体の楽しみがおろそかになってしまったかもしれませんので、今後はもう少しラフに、遊びに近い感覚にフォーカスしながら自由に仲間同士で英語を話せる環境を作りたいと思います。

その他

授業改善書

科目名	英会話 II
担当者	加藤麗未

授業の概要

4 限目：ある程度英語が得意な学生を対象に、やや複雑な質問の意味を理解し、それに対して、シンプルな英語で返答しつつ、オリジナルな意見を付け加える練習をした。必要に応じて文法の解説をし、応用力を養った。
5 限目：英語に苦手意識を持つ学生を対象に、海外旅行に必要な英会話のフレーズを何度も繰り返し発音して覚える練習をした。難しい文法用語などは一切使わず、英語のリズムに乗って場面に即したフレーズが出てくるよう体で覚えるようにした。

授業の問題点

問題点は特にありません。当初のシラバスの内容とは違うことを断ったうえで、4 限目と5 限目でレベル・内容を変えたこと、本気で取り組みたい人のみ履修するよう初回授業で念押ししたことが効果的だったようで、春学期のようなミスマッチもなく、有意義な授業にできたと感じます。また、どちらのクラスも学生の集中力が素晴らしく、英語が苦手であっても、かなり本気で練習してくれて、テストのときに実力を発揮してくれました。よって、私が見る限り特に問題とを感じる点はありませんでした。

学生の授業満足度

4 限の内容については、学生のコメントにも見られるように、シンプルな英語で深い内容を話すという、今後必ず役に立つスキルを伝えることができたと思います。5 限については、最終授業でコメントしてもらったところ、ペアワークなどが楽しく、苦手意識を払拭できたとのことでした。

授業改善の課題と方策

今回は、いずれのクラスも少人数で進められたことが良かったと思います。学生一人一人に目が行き届き、各個人の苦手なポイントなどを見極めたうえで指導できました。今後なるべく、本気で取り組む少人数のクラスであればよい授業ができそうです。来年度からも、本気でやりたい人のみ履修するよう念押ししたうえで、履修してくれた学生一人一人を大切にできるような授業をしたいと思います。

その他

授業改善書

科目名	哲学概論
担当者	天野恵美理

授業の概要

創造や狂気というテーマを中心として、古代から現代に至るまでの哲学・思想の概説をおこなった。

授業の問題点

大人数の講義なので、学生が質問や発言をする機会が少ない。

学生の授業満足度

教科書の指定したページとプリントとで、(教科書を端から端まで読まなくても) 全体的な理解ができるようにした点が好評を得た。
また、内容は難しかったものの、面白くやりがいを感じた、といった旨のコメントもあった。

授業改善の課題と方策

大人数の授業であるため、授業内での質問を促すことや、決まった学生以外にも発言を促すことは、限界がある。そのため、授業内容に応じて、都度、こちらから質問を投げかけ(例えば、〇〇という哲学者がこのように言っているが、それに対してAと思うか、それともBと思うかなど)、適宜、挙手をできるようにするなどして、学生が主体的に参加しているという意識を持てるようにしたい。

その他

授業改善書

科目名	中国古典文学
担当者	有木大輔

授業の概要

『十八史略』は十七の正史と宋代の史書一つのダイジェストであり、今でいう受験参考書のようなものである。日本でも初学の必読書として江戸時代の藩校や明治以後の小・中学校の教材として用いられていた。本講座は中でも有名な箇所を取り上げて精読し、その後に司馬遷『史記』の該当箇所とを読み比べる。正史である『史記』も物語の叙述が多く読みやすいものであるが、モンゴル人や初学者向けの『十八史略』との記述内容の違いを明らかにしつつ漢文のレトリックを講義する。

授業の問題点

開講時は広めの教室だったので後方に座る学生からはプロジェクターが見にくいという声があったが、教室を移動してからは改善された。教室の大きさが授業に与える影響は大きいと実感した。

学生の授業満足度

総じて4.5以上と平均値を超える項目が多かったが、コメントがないのは具体的な生の声が聞けない点が残念である。学生とのコミュニケーションを深めて、発言しやすい環境づくりの必要がある。

授業改善の課題と方策

アクティブラーニングのように主体的・能動的に学習する環境を作り出す必要がある。講義ばかりだと単調になるので、映像資料を見せて1コマの授業の中でも気分転換となるような変化が必要である。

その他

授業改善書

科目名	日本漢文学
担当者	有木大輔

授業の概要

江戸後期の漢学者・頼山陽によって記された『日本外史』は源平から徳川氏までの歴史を漢文体で記述された史書であり、幕末期においても歴史読物として広く愛読されてきた。歴史上有名な戦国武将も多く登場するため受講者にとっても親しみやすく、かつ比較的平易な教材である。本講座では漢文訓読の知識を確認しつつ原文を読むことに挑戦するため、国語科教員免許取得を目指す学生にとっても有意義なものとなるだろう。また、毎回頼山陽の孫弟子にあたる西川文仲が詠じた『日本外史楽府』の該当箇所を併せ読むことで散文と韻文の違いを知り、明治期に詠史詩が流行した背景を講義する。

授業の問題点

講義型の授業のため、授業者が伝えたいことが多く、質問の時間があまり取れなかった。双方向の学習のためには質問の時間を設けてどこが分からないのかを意思表示させる機会を持たせたい。

学生の授業満足度

総じて4.5以上と平均値を超える項目が多かった。具体的なコメントが無かったのは学生とのコミュニケーション不足であり、もっと活発な発言できる関係性を築くような授業が必要だと感じた。

授業改善の課題と方策

プリント中心の授業であるが、映像などを用いて変化をつけて講義が単調にならないように努めたが、プロジェクターの準備に手間取ったりして、授業時間が延長しそうになることもあったところを改善していきたい。

その他

授業改善書

科目名	韓国語 I
担当者	李芝善

授業の概要

「韓国語 I」初級では、簡単な会話と主に文字の読み書きができるように指導しながら、学生が分かりやすく日本語との言語的差異や文化的背景などを取り上げ、韓国語に対する基礎的な知識はもちろん、日本語をも知ってもらうよう努めた。また、韓国文化への興味と理解を深めるために言葉で説明するのみならず、TV 番組、映画など視覚をとおした理解を積極的に図った。

授業の問題点

言語演習はグループ活動のため友達同士ではない場合でもグループを組ませ言語活動に参加できるように指導したが、一人で受講する学生の中には席を移動しペアを組むのが苦手な学生がいた。

学生の授業満足度

アンケート結果、ほとんどの学生が韓国語に興味を持ち、韓国語 I で目指した通り分かりやすく楽しい授業として受け止めているので満足度の高い授業であったと思われる。

授業改善の課題と方策

アンケートの結果を踏まえ、学生の満足度が高い授業を目指して今後も今まで通りの授業形式を維持しながらペアを組むことに抵抗感がある学生にはガイダンスの際に「参加型授業」であることをより明確に提示し、積極的な言語活動を促すことで改善できると考える。

その他

「楽しく受けられた！」「わかりやすいし、先生もとても親しみやすく、毎週の授業が楽しみでした。」「先生大好きです！！」「分かりやすく面白かったです。韓国語思っていたより簡単でもっと勉強したいと思いました。」「分かりやすく楽しかったです！」という学生の意見を踏まえ、今後も多くの学生が満足できるように良い授業を目指して最善を尽くしたいと思う。

授業改善書

科目名	韓国語Ⅱ
担当者	李芝善

授業の概要

韓国語Ⅱでは、韓国語Ⅰで習得した基礎的知識を広げ韓国社会において必要な日常コミュニケーション能力の向上を図り、最終的には韓国語言語文化活動を通じて異文化を経験し韓国社会についての理解を一層深めるのはもちろん、他者への理解をも試みるきっかけになることを目指した。そのために授業では、韓国文化に触れながら韓国人と簡単な会話ができるように学生のレベルに合わせて到達目標を示し、日常会話と韓国旅行に行つて使える程度の会話を中心に小グループで演習を行った。

授業の問題点

アンケートの結果、授業についての各評価項目はすべて4点台を超えた高い評価をいただいた。この授業は大人数がペアを組んで会話を自由に作って行く言語活動が中心なので、喋るのが苦手な学生にとっては大変だったと思うが、「喋るのは難しい」と言いながらも活動に挑んでいた学生も含め、学生のほとんどが目指していたレベルまでの韓国語コミュニケーション能力を身に付けることができたと思われる。ただ、一人の学生から「授業の進行について、もう少し円滑に進められるように配慮をお願いしたいです。最悪、スマホ使用とかは良いので関係無い雑談などは帋めて欲しいです。」という自由コメントがあった。

学生の授業満足度

各設問の評価の結果、この授業に魅力を感じてくれた学生も多く全体的に授業に対する学生の満足度は高く教える側にとっても望ましい結果が得られた。この授業をきっかけに多くの学生が韓国や韓国語に興味を持つことができたと考える。

授業改善の課題と方策

学生からの「授業の進行について、もう少し円滑に進められるように配慮をお願いしたいです。最悪、スマホ使用とかは良いので関係無い雑談などは帋めて欲しいです。」という自由コメントについては、この授業自体静かに取り組む授業ではなくークラス40～50人程度がペアを組んで言語活動を行うため、語彙を調べる目的でのスマホ使用やある程度の雑談は避けられないと考えている。第一回目の授業以降も注意点や迷惑行為などは言及しなるべく対応はしているが、より集中できる環境を目指して改善を図りたいと思う。

その他

「授業に歌や映像を使っているのも、とても覚えやすいです。」「積極的に生徒とコミュニケーションをとっていていつも困っていると聞いてくれたり、教えてくれる。いい先生です。」「学びやすい授業だった」というコメントをいただいた。コミュニケーションに意欲的な学生が多く教える側も楽しく授業運営ができたことを学生の皆さんに感謝したい。アンケートの結果を踏まえ、今後もこれまで同様に学生と協力して良い授業ができるように心掛けたい。

授業改善書

科目名	フランス語Ⅰ
担当者	市橋 明典

授業の概要

この授業ではフランスの豊かな文化を学び、「読む・書く・聴く」の能力を養い、仏語を話せるようにする。

プリントや映像を使い、ビデオ教材の内容に沿って簡単な会話練習を行う。基礎的な文法の学習に基づく練習問題をこなすとともに、実践的なコミュニケーション能力を育むべく単語集を使った語彙の補完につとめる。また、教科書のトピックに合わせて随時フランスの文化について学習する。

授業の問題点

今年度はコロナ・ウイルス蔓延以前の授業環境に戻り、ペアによる会話演習、毎回担当講師が添削するレポート提出による学習、黒板での記述演習などを通常どおり行うことができた。しかし、クラスによっては受講人数が多かったため、受講者全員が同じ意欲と頻度でもって参加することができたかということについては若干課題があるように思えた。

学生の授業満足度

授業評価アンケートの結果が示すように、本講義に対する受講生の満足度は比較的高かった。自由記述欄でもたとえば、「先生の教え方がわかりやすく、面白いので毎授業とても楽しく受けています。」「フランス語の基礎になる部分なので文法が多くなってしまうのは仕方ないがフランスに行った際に使えるような会話形式が増えんとすぐくおもしろくなった。」「日本人には馴染みがあまりなく教えるのも理解するのも難しい言語だが、丁寧教えてくださるのはとてもありがたかった。」など、学生それぞれの学習意欲に基づくポジティブな意見が多数寄せられた。そのため、本授業での様々な指導が或程度功を奏したと考えられる。

授業改善の課題と方策

授業に対する満足度は比較的高かったものの、試験を実施すると点数が決して高くはない受講生がいることが判明した。このことから、レッスンの内容に関する理解が徹底されていなかったとも捉えることができる。そのため、今後とも学習における文法・発音等に関する受講生それぞれの理解度を可能な限り詳細に把握し、分かりやすいプレゼンテーションを心掛け、学生一人一人に対する細やかな指導を継続してゆく必要性を痛感した。これからも、状況が許す限り万全の対策を講じつつ対面授業を実施し、学生の学習意欲がさらに高められる指導方法を模索する。

その他

授業改善書

科目名	フランス語Ⅱ
担当者	市橋 明典

授業の概要

前期の「フランス語Ⅰ」（初級）に続き、フランス語およびその文化について学び、基礎文法を習得することで「読む・書く・聴く」の能力を養い、フランス語を話せるようにすることを目標にした。パリ観光を題材とした初心者向けの分かりやすいビデオ教材を使用し、毎回簡単な会話練習を取り入れながら基本的な文法の説明を行った。さらに、実践的なコミュニケーション能力を養うために、フランス映画の映像、シャンソン、単語集を活用し、語彙の補強にも努めた。

授業の問題点

ここ数年、前期の「フランス語Ⅰ」から後期の「フランス語Ⅱ」を継続して履修し、課題に真面目に取り組む向学心のある学生が多く受講している。授業担当者としては、このような学習意欲に応えるべく、受講生に練習問題のレポート課題を課し、提出された課題を毎回添削し、フィードバックを行っている。大半の学生はこれらの課題を着実にこなし、好ましい学習状況にある。

今回の授業アンケートの結果にある「出席や課題提出をしましたか」・「授業内容に興味や関心を持ちましたか」といった質問に対する評価が高いのは、こうした実態を反映していると考えられる。しかし、その一方で、履修者全員の理解度を確認しながら講義を進める必要があるため、授業運営の都合上、授業進度が若干遅れる場面もあったことは否めない。

学生の授業満足度

アンケート結果によると、「この授業に対する学習態度の評価」および「この授業に対する評価」のいずれの項目も平均を上回っていた。また、「学生による主な意見」には「いつも楽しく授業を受けさせていただいています」といった記述が見られ、客観的に見ても受講生の満足度は高いと考えられる。

積極的に授業に参加しようとする学習意欲の高い学生が多かったため、教員と学生との間のコミュニケーションも円滑に行われた。その結果、学生の学習要求に応じたフィードバックがしやすく、授業の質の向上にも寄与したと考えられる。

授業改善の課題と方策

授業担当者としては、履修者全員の理解度を把握しながら講義を進める必要があるため、結果として授業進度が若干遅れる場面もあった。この点を踏まえ、今後は受講生それぞれの理解の度合いを的確に把握しつつ、短期間で各学習項目を正しく理解できるよう工夫し、学習プログラムの遅延が生じないように努める。

解説の仕方にも一層気を配り、学生にとってより分かりやすいプレゼンテーションを行うことを心掛ける。また、演習を通じて学習者の理解を深めるため、課題レポートの指導および授業内でのアドバイスをさらに丁寧に行う方針である。

その他

今後も学生の学習意欲を維持・向上させるための工夫を続け、より効果的な授業運営を目指す。

授業改善書

科目名	人文地理学
担当者	亀井啓一郎

授業の概要

授業ではまず世界と日本の地図に関する講義を行った。そのあと、日本の人口統計、人口動態、市町村、都市制度、余暇・休暇・休日、鉄道交通などについて講義を行った。地域を見る、地域を知るということを念頭に置き、講義を進めた。

本科目は、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教職免許の取得のための科目にもなっている。そのため、教職に就いた場合に必要とされる知識や教養を身に付けることもこの授業の目的のひとつとして授業を進めた。

授業の問題点

私語をする履修者はおらず、快適に授業を進めることが出来た。その一方で居眠りをしたり、スマホに夢中になっている履修者も見られた。また履修登録をするだけで、ほぼ出席をしなかった学生が2割近くもいた。授業の難易度は決して高いものではないが、基礎的な地理の知識が不足している者も少なからず見受けられた。

学生の授業満足度

授業は、基本的にはパソコンを用いてパワーポイントで進めた。スクリーンに映した画面をただノートに写すだけではなく、地図帳や資料、写真を見せながら授業を進めるようにした。パワーポイントのスライドは見ても理解しやすいようにまとめ、学生がノートに写しやすいよう工夫した。学生にとって新たな知見を得られるような授業構成を心がけた。

授業改善の課題と方策

一方的に話を進める講義形式だけでなく、作業や簡単な実習を伴うような授業構成も検討したい。

その他

授業改善書

科目名	自然地理学
担当者	亀井啓一郎

授業の概要	授業では、まず地球の大きさとその表し方について講義した。そのあと世界の大陸や気候、海水の流れ、日本の山と平野、河川、気候、季節感などについて講義を行った。地域を見る、地域を知るということを念頭に置き、授業を進めた。 本科目は、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教職免許の取得のための科目にもなっている。そのため、教職に就いた場合に必要とされる知識や教養を身に付けることもこの授業の目的のひとつとして、授業を進めた。
授業の問題点	恒常的に出席をしている学生の出席率が高いが、履修登録をしているものの、ほぼ出席しなかった学生が数名いた。難解な用語ばかりを用いて授業を進めているわけではないが、基礎的な知識が不足している学生も少なからずいた。授業の難易度は決して高いものではないが、基礎的な地理の知識が不足している者も少なからず見受けられた。
学生の授業満足度	授業は、基本的にはパソコンを用いてパワーポイントで進めた。スクリーンに映した画面をただノートに写すだけではなく、地図帳や資料、写真を見せながら授業を進めるようにした。パワーポイントのスライドは見て理解しやすいようにまとめ、学生がノートに写しやすいよう工夫した。学生にとって新たな知見を得られるような授業構成を心がけた。
授業改善の課題と方策	一方的に話を進める講義形式だけでなく、作業や簡単な実習を伴うような授業構成も検討したい。
その他	特になし

授業改善書

科目名	言語学
担当者	河須崎英之

授業の概要	毎日、当たり前のように使っている言葉も、実はその仕組みが分かっていないことがある。例えば、「コトバ」と声に出すように言われれば、何も考えずとも発音できるが、その時に実際どうやって音が作られているのか、意識することはほとんどないだろう。発音に限らず、自分の話している言葉をじっくりと振り返ってみると、面白い「気づき」があるはず。一番身近な「言葉」について考えるきっかけになるよう、言語学の基本的な考え方を講義する。
授業の問題点	特に大教室で行われた4限については、質問や発言をした学生が少なかったことが伺える。大人数の講義のため、学生に自由に発言させることは難しいが、質問を聞く時間をもう少しとってもらったかもしれない。 また、質問への対応についての評価が低かった。こちらも、大人数の講義のため、授業の中で発言されない限り、一人一人の質問に対応するのは限界があるとも言える。Formsを使って授業の感想などを出してもらった形式をとったので、可能な限り受信したその場で質問に答えたりもしたが、充分ではなかったようである。 また、授業外の学習率が低い点も問題である。学生によっては毎回の復習を習慣化している者もいたが、授業外学習をどう推進するかは課題である。
学生の授業満足度	満足度は平均程度だと思うが、大人数の4限の方は少数値が低くなっており、大人数授業の難しさを知らされる。分かりやすかった、興味を持てたという感想は多くの学生から寄せられている。授業の中で、学生になじみのある音楽を使って学習内容を振り返るようにしたことが学生の満足につながったようである。また、私語に対して厳しく接していることについての評価が意外と高い。
授業改善の課題と方策	大人数の授業では、学生が興味を感じた点や疑問を抱いた点などをいかに吸い上げ、対応するかが大きな課題になると思う。授業の感想をFormsで提出してもらった方式を新たに取り入れてみたが、さらに工夫が必要と思われる。学生が授業内に質問できる時間をもっと積極的にとっていくようにしたい。 また、感想をFormsで出させることで、これまでは回収していた要点確認の用紙を持ち帰らせることができるようになり、それにより復習もスムーズにできるようになると考えたが、なかなかこちらの意図したとおりににはなっていない。授業の最後に、復習してもらいたいポイントを明確に打ち出すような工夫をしていきたい。
その他	特になし。

授業改善書

科目名	日本語コミュニケーション
担当者	河須崎 英之

授業の概要

社会生活を送っていく上で、日本語で相手に自分の言いたいことを正しく伝えられるかどうかは非常に重要である。分かりやすい日本語とはどんなものか、自分の意見を分かりやすく表現するにはどうすればいいか、これからの社会生活で必要になると思われる基本的なコミュニケーション能力を身につけ、向上させられるよう、実践練習も交えながら講義する。

授業の問題点

大人数の授業であったため、個々の質問に充分に答えることができなかったことが反省点である。授業の課題は用紙に書いて提出してもらう形をとったが、質問などはメールやチームズで受け付けるなど工夫してもよかった。なお、私語に関しては厳しくしてもらうのがよいという意見が多いが、他の授業で、注意されたことを快く思わなかった学生がいたようなので、その点については配慮していきたい。

学生の授業満足度

実践的な内容であったため、役に立ったという感想が多い。上述したような個々の質問に対する対応をもっと充実させれば、より満足度はあがることが期待される。

授業改善の課題と方策

質問対応などについては、メールやチームズの利用を考えていきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	日本思想史
担当者	杉山亮

授業の概要

古代王権の成立から平安朝の成立期までの思想を解説した。解説を行うにあたって、仏教や儒学、中華思想などの外来思想を導入するに至った歴史的経緯、政治社会的環境の変遷を併せて解説した。講義レジュメには関連する期間の年表を付すなど、学生が講義で扱う思想の時代的背景を理解できるようにした。講義はレジュメを配布し、毎回の講義終わりにはコメントペーパーの提出を求めた。

授業の問題点

シラバスに掲載した内容から講義内容を大幅に変更したため、学生が混乱し、出席や課外学習が平均を下回っているため、学生の学習意欲を低減させる結果を招いたものと思われる。このため、授業内容に対する関心は平均を大きく下回ってしまった。また、毎回の講義がシラバスに予告のないものになったため学生が毎回の授業のテーマや聞き所を理解しづらくなってしまったものと思われる。授業方法に関する満足度が、軒並み平均を下回っているのは、それが原因と思われる。

学生の授業満足度

学生の満足度は軒並み平均を下回っており、事前に告知のないシラバスからの内容変更が学生の学習の妨げとなったことは否めない。授業の分量に対する満足度も低く、講義内で予定した内容を終えることができず、尻切れトンボになることも多かったため学生が不完全燃焼の感を抱くことが多かったことがうかがえる。一方、質問や発言をしたか・ノートやメモなどを取ったかといった学習態度に対する評価は平均を上回っており、講義に出席し続けたが学生は意欲を維持して講義に臨んでいたことがうかがえた。

授業改善の課題と方策

学生の講義への参加を促すべく、コメントペーパーを精読し、学生の質問や感想にきめ細かく対応していく必要があると思われる。また、レジュメ・資料の内容を見直し、図像やグラフなどを用いて学生が視覚的に理解できるように工夫していく必要がある。さらに、講義内容を精選し、講義時間内で過不足なく収まるよう分量を調整しなくてはならないだろう。

その他

授業改善書

科目名	ヨーロッパ文学
担当者	高野 雅司

授業の概要	「ヨーロッパ文学」という科目名であるが、授業内容はスペイン文学の概説である。単調な作品紹介や作品をただ羅列する文学史の形式は避け、国民性・国土回復運動・武勲詩・ピカレスク文学・演劇・内戦文学、ロマン主義など、学生に関心があると思われるテーマを授業毎に設定し、テーマに沿った文学作品を断片的に読み込んだ。学生が復習で作品の引用を読み返すことができるよう、引用集をプリントで配布している。また、スペイン文学に馴染みのない学生が多いことを想定し、作品が書かれた時代背景、作家の経歴、芸術、思想、社会情勢など、多角的な視点から作品の解説を行うように心がけた。
授業の問題点	「質問や発言をしましたか」は 2.76、「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」は 3.62 と、平均値を下回る結果が出た。文学作品の解説というスタイルゆえ、受講生が自発的に発言をする機会を設けることができなかった。そのため、学生が主体的かつ能動的に参加する授業形態にはならなかった。復習としては、授業で配布した引用集を読み返すよう指示を出していたが、実際に授業後に資料を読み返す学生は少なかったと考えられる。結果として、復習や予習がしにくい状況が生まれてしまったと推察される。
学生の授業満足度	「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」4.52、「授業内容に興味や関心を持ちましたか」4.41、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」4.45 の項目は、平均値以上の数値を示している。スペイン文学を初めて学ぶ学生が圧倒的に多かったが、文化や歴史の観点から解説を加えたことで、スペインという国そのものに興味や好奇心を示した学生が多かったように思われる。また、パワーポイントは用いず、板書で授業を進めたため、多くの学生がノートを取ることでスペイン文学を理解しようと努めていたように思われる。
授業改善の課題と方策	学生が主体的に参加する授業をどう構築するかが主な課題となる。テーマが終わるごとに、学生に感想やコメントを書いてもらうことが一つの解決策になるのではないかと。試験とは別に、復習として、学生が引用を読み返すようになる状況を作り出す必要があると考えられる。あるいは、授業の最後 10 分ほどをコメントの時間に当て、各々の学生が考えていることを表現してもらうのも、参加型の授業を構築する手がかりになると考えている。
その他	特になし

授業改善書

科目名	比較文学Ⅱ（ヨーロッパ）
担当者	高野 雅司

授業の概要	本授業では、恋愛をテーマに持つヨーロッパ諸国の文学作品を紹介し、作中人物の言動から読み取れる恋愛の形態を説明した。「愛の前史」「道徳」「放蕩」「同性愛」「自殺」「宮廷風恋愛」「魔術」など、授業毎に異なるテーマを設定し、そのテーマに沿った文学作品から重要と思われる箇所を断片的に読み込んだ。同時に宗教、道徳、文化、哲学などの観点から、各々の時代において優勢なイデオロギーと恋愛の関連性についても解説した。
授業の問題点	「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」が 3.33、「質問や発言をしましたか」が 2.50 と平均値を下回る結果となった。授業では、作品が書かれた時代背景、作者の経歴、作中人物の恋愛状況などの解説に多くの時間をあてていた。そのため、学生が自ら発言する機会を設けることができなかったと言える。資料として授業中に読む引用をプリントで配布していたが、学生が予習の段階で読み込む資料を用意することができなかったため、学生にとって受け身の授業になってしまったと考えられる。
学生の授業満足度	「ノートやメモ等を取りましたか」4.61、「授業内容に興味や関心を持ちましたか」4.67、「学ぶ楽しさ、知るよこびは実感できましたか」4.50 の項目については、予想していた以上に高い数値が示されている。恋愛という男女の主観的な感情と思われがちだが、キリスト教やイスラム教における恋愛形態など、文化的に規定される恋愛を示せたことが、学生の関心を高めたと考えられる。
授業改善の課題と方策	学生が主体的かつ自発的に発言できるような授業を構築する必要がある。そのためには、授業で扱った作品やテーマについて、学生が発表したり、コメントしたりする機会を設けることが解決策になるのではないかと。試験は指定した短編小説について自由に分析・解釈する形態だが、今後は試験にくわえて、学生が疑問点や考えを積極的に表現できる時間を授業内で設けていきたい。
その他	特になし

授業改善書

科目名	英語圏文学講読（古典）
担当者	高橋百合子

授業の概要

この授業では、劇作家ウィリアム・シェイクスピア(1564-1616)の作品（戯曲）および、同時代の劇場での上演についてとりあげる。主要作品を、主に翻訳で講読しながら、作品の理解を深めるために、シェイクスピアが活躍した16世紀末から17世紀初頭の、現代とは違う劇場の特徴、当時の上演状況などもくわしくみていく。演劇を文学作品のテキストとして読むことの基本を学びながら、「せりふ」の持つ可能性に注目し、想像力を最大限に生かして豊かな演劇の世界を楽しむことができるよう授業を進めていく。秋期の英語圏文学特論（古典）につながる科目である。

授業の問題点

授業では、パワーポイントを用いて、参考資料（テキストからのせりふの抜粋、関連資料、画像、映像など）を示しながら、解説を進めていったが、講義形式のため非常に熱心に取り組む学生がいる一方で、一部の学生の集中力を保てないという状況が見られた。

学生の授業満足度

今年度は、履修者が非常に少なかったため（8名となっているが、実際に常時4、5名ほどの出席者）、授業中にアンケートは実施しなかったが、任意で一名回答したようである。数名の学生が、授業の度に、興味深い質問を持ってきたり、観劇の相談に来たりと、学生の新たな関心を広げることに役立ったのではないかという実感もあり、一部の学生の方には満足してもらえたのではないかと考える。

授業改善の課題と方策

例年、履修者数の多少にかかわらず、講義形式の授業に関しては、授業中に集中力を欠いてしまう学生のための対策として、講義内容と解説方法、資料の提示方法に変化をつけたり、映像資料などをさしはさんだりするなど工夫はしてきたが、今後もそれらを継続するとともに、学生にもより発言の機会を設けたり、小テストの実施など、さらに緊張感を持たせる工夫を取り入れていきたい。

その他

授業改善書

科目名	ドイツ語 I
担当者	手嶋 直彦

授業の概要

ドイツ語の初歩をアルファベット・発音から人称代名詞の格変化・前置詞のあたりまで学んでいく。ドイツ語の基礎を身につけることを目的とする。動詞の現在人称変化、冠詞、複数、不規則動詞、冠詞類、命令形、人称代名詞、前置詞までを練習問題をやりながら講義する。

授業の問題点

昨年度よりは進めたが、予定よりはやはり少し進度が遅かった。

学生の授業満足度

例年とだいたい同じ。

授業改善の課題と方策

もう少しテンポよく進めてより多くの内容を扱えるようにする。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	ドイツ語Ⅱ
担当者	手嶋 直彦

授業の概要

ドイツ語の初歩を学んだ上で、さらに踏み込んだ文法事項を学び、少しずつ文章を読む練習もする。初級と中級合わせて「独検」4級程度の文法を学ぶことになる。前置詞、話法の助動詞、分離・非分離動詞、形容詞、再帰代名詞くらいまでを練習を交えて講義する。この授業は初級が終わったところから始めるので以下の計画とは大きくずれる可能性があります。

授業の問題点

今年度はスピードが少し遅かったようで再帰代名詞のところがほんの入り口に入っただけでしかなかった。再帰代名詞の全体像がみえるところまで行きたかったです。

学生の授業満足度

例年と同じくらいでしょうか。

授業改善の課題と方策

もう少しスピードアップして、予定のところまで説明できればと思います。学生が黒板で解答する課題が多いのですが、適当なところで時間を区切るなど少し急がせる措置を取る必要があるかもしれません。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	東アジア文学
担当者	戸井 久

授業の概要

本授業は東アジア文学、その中で最も長い歴史を有する中国文学とその周辺地域である朝鮮文学を中心に取り上げる。中国文学については東アジア最古の文学である『詩経（しきょう）』に始まり、次いで二千年余りに及ぶ王朝期を経て、中華民国そして現在の中華人民共和国に至るまで、朝鮮文学については古代・近代・現代の三期に分けて、詩歌の誕生と発展から小説の隆盛に至るまで、それぞれの重要な人物・作品・事象について講義する。単なる知識の詰め込みではなく作品鑑賞も行うことで、そこにあらわれた文学の重要な特徴について考えるとともに、広く東アジア文学の世界を知ることが目的とする。

授業の問題点

全体的に平均値をやや下回る傾向が認められるが、中でも「学習態度」の授業外学習ならびに「授業方法」の質問への対応の数値が平均値とかけ離れている点が気になる。前者に関しては、まずは授業に集中してもらうことが第一と考え、授業外学習について強く求めなかったことが指摘されよう。後者については授業の進行がややもすれば講義一辺倒となり、授業中に質問を求めたり、あるいは学生が疑問に感じたことを汲み取るといった考慮が足らなかったことによるものではないかと考える。

学生の授業満足度

とくに「学ぶ楽しさ」が平均値からかけ離れている。扱う時代が古代から近現代まで幅広く、取り上げる作家や作品も多岐に及ぶため、学生にとってはついていくので精一杯であったのではないかと推察する。知識の蓄積も大事ではあるが、それだけを求めるのではなく、例えば動画や画像等で時代の雰囲気を感じ取ったり、引用文の音読等を通して作品世界に入り込んでもらうことの方がより大事なのかと感じた。

授業改善の課題と方策

授業の序盤から中盤にかけて、中国古典詩を皆で原音で発音してもらった。これは昨年度には無かった試みであったが、コメントペーパーには「新鮮に感じた」といった記述があった。中盤以降は小説を中心に上げたことからこうした試みはなくなったが、何らかの形で作品を肌で感じることのできる工夫を考慮したならば、学生の授業に関する関心も違ったものになるのかも知れない。次回の課題としたい。

その他

授業改善書

科目名	比較文学Ⅰ 東アジア
担当者	戸井 久

授業の概要

本授業は東アジアの中心に位置する中国とその周辺地域である日本とのそれぞれの文学の相互影響について、主に 20 世紀以降の両国の近現代文学を中心に取り上げる。20 世紀初頭、中国からは多くの若者たちが相次いで日本に留学し、学業のかたわら夏目漱石など日本の近代文学者の作品に親しみ、帰国後に文学者となって新文学というジャンルを切り開いた。その代表的人物が魯迅である。言うなれば、20 世紀中国文学の重要な基盤の一つが日本近代文学であり、また日本近代文学者の中にも中国文学者と直接の交流をもち、そこからインスパイアを受けて書かれた作品が多くみられる。それらの様相について、前半は中国、後半は日本の作家や作品を取り上げて、わかりやすく講義する。

授業の問題点

全体の数値としては平均かと捉えているが、学生からの「質問」に関する二項目が平均値からかけ離れている。教員から特に質問を促すようなアクションをしなかったのが数値に表れているのであろうが、例えばコメントペーパー等を配布して「今日の授業でわかった所・わからなかった所」を記入してもらい、次回の授業の冒頭でそれについてコメントするといった方法を取れば、また違った結果に繋がるのかもしれない。

学生の授業満足度

「満足度」は平均値でありながら、「得るところ」「学ぶ楽しさ」ではそれを下回っている。せっかく授業内容に興味を感じても、授業時間外の学習で知識を深めたり、作品世界を掘り下げてみるといった所まではたどり着けなかったことが推察できる。講義一辺倒ではなく、学生の授業時間外の学習に繋がるような工夫が必要であると考ええる。

授業改善の課題と方策

「授業の問題点」で述べたコメントペーパーの活用、或いは視聴覚資料等の活用、この他にもプリントの記述を指名した学生に読んでもらい、その感想等を語ってもらうなど、できるだけ講義一辺倒となるのを避けたい。上記の取り組みによって授業のさらなる活性化が可能になり、学生の授業満足度もよりよい方向に向かうのではないかと考えている。次回の課題としたい。

その他

授業改善書

科目名	東洋史特論Ⅰ
担当者	永島 育

授業の概要

本講義では、中東から北アフリカ、内陸アジア、そして海域アジアにひろがるイスラーム世界について、軍事史の視点を軸にしつつ、通史的な知識を得ることを目指す。現在、世界有数の紛争地帯を抱えるイスラーム世界であるが、そのために「イスラームは好戦的な宗教である」という偏見が存在している。こうしたイメージに晒されるイスラーム世界と共生するためには、イスラーム世界と軍事とのかかわりの実態を歴史的に把握し、偏見を払拭することが求められている。そこで、軍事、戦争がイスラーム世界の政治・社会・文化的展開に与えた変化について見ていくことで、今日のイスラーム世界が抱える紛争という課題の考察に機会を与えるような講義を行う。

授業の問題点

本授業では、プリントを配布した上で、パワーポイントで授業に関連する画像を見せながら授業しているが、学生がノートをあまりとっていないと感じる。

学生の授業満足度

平均より良い。

授業改善の課題と方策

配布プリントを工夫し、穴埋めをさせる方が学生の集中度は高まる可能性がある。

その他

他大学ではインターネットに接続してニュース映像などを見せることで学習効果を高めているが、この大学では Wi-Fi がないため学生にとっての機会損失になっている可能性がある。

科目名	東洋史資料講読
担当者	中村麗衣

授業の概要

実際に資料を読むことによって、歴史をみる筋道と視角を養い、史料の信ぴょう性について判断することを習得することを目的とする。インドの M.K. ガンディー本人が 120 年前に書いた冊子を取り上げる。120 年前の世界情勢、インド、イギリス、日本はどのような状況だったのかを理解しながら、ガンディーの訴えたかったこと、現代的意義を考えていく。歴史的背景に即して考えることによって、表現の奥にある思想を読み解いていく。

授業の問題点

あらかじめ資料を読んで、授業日までにメール（紙でも OK）提出するように再三アナウンスしたが、最後まで提出しない学生が複数いたことが大きな問題である。個別に連絡しても拒否する理由がわからなかった。

学生の授業満足度

Ⅲ 授業満足度について			
Q9	授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか	4.37	4.56
Q10	学ぶ楽しさ、知るよろこびは実感できましたか	4.34	4.22
Q11	全体的に振り返って、授業に満足できましたか	4.22	4.22

授業改善の課題と方策

資料の内容について、もう少し身近なものにする検討の余地がある。

その他

特になし

科目名	英語圏文学概論
担当者	新堀 司

授業の概要

この授業のテーマは、ユーモアを通して学ぶ英語圏（特にイギリス）文学である。このテーマのもと、イギリス文学における主要な作家・作品を取り上げ、英語表現を学ぶために作品の一部抜粋に触れつつ、その文学世界を講義する。英語圏文学にまつわる基礎的及びより専門的な事項（時代的及び多様な文化的背景、文学用語等）も学習する。なお毎回の授業の最後に、授業内容に関連した問題演習（提出）を行う。

授業の問題点

「令和 6 年度春期授業アンケート集計結果」を見ると、「この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい」の項目中の Q3「質問や発言をしましたか」の結果が 3.40 と低かったのが、問題点である。

学生の授業満足度

アンケート集計結果によると、「授業満足度について」の項目の Q9「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の結果が 4.60、Q10「学ぶ楽しさ、知るよろこびは実感できましたか」の結果が 4.51、Q11「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の結果が 4.57 であったことから考えると、学生から一定の評価を得たように思われる。

授業改善の課題と方策

発言や質問の少なさを改善することが課題である。発言や質問を促すために、時には教室内を移動しつつ、教員の方から学生たちに質問を投げかけるようにしたが、さらにより多くの質問を学生たちに投げかけ、より多くの学生たちが授業中に積極的に発言したり、質問するように促したい。

その他

科目名	比較文化論
担当者	西沢秀行

授業の概要

日本と海外の「民話（昔ばなし）」と「神話」を民俗学および文化人類学の視点から講義する。日本各地には多くの民話が残されているが、それらのあいだには地域の独自性だけでなく共通性も見られる。さらに近年では、日本と海外の民話のあいだにも一定の類似性が指摘されるまでになっている。そこで授業では実際にいくつかの民話と神話を取り上げながら、みなさんと一緒に分析していきたい。そのため、本コースは講義だけでなく、グループワークやディスカッションといったセミナー形式の授業も取り入れる。あわせて、「グループ・プロジェクト」、「紙芝居プロジェクト」、「民俗資料報告プロジェクト」という、学生が授業時間外に研究（課題）をおこない、それらをクラスメートの前で発表する場も頻繁に設けられている。したがって、本コース履修における成功のカギは、学生一人ひとりの主体的で意欲的な関与となることに注意されたい。

授業の問題点

履修しているのに、学期のはじめ（初回授業）から一度も授業に出席しない学生が複数いた。また、学期の半ばまでに、授業にきちんと出席する学生と、まったく授業に出てこなくなる学生の2つに分かれた。そのため、私がアクティブ・ラーニングの一環として取り入れているディスカッションなどが、あまりうまくいかなかった。また、やむを得ない事情とはいえ、就職活動が忙しい4年生のなかに出席の芳しくない学生がいた。

学生の授業満足度

2年生・3年生のなかに、非常に学習意欲の高い優秀な学生が複数いた。こうした学生の授業満足度は高かったと思われる。授業担当者としては、よろこばしい限りである。

授業改善の課題と方策

今回の授業内容が前回までに学習してきた事項と、どのように関係しているのかを毎回明確にしながらか講義する必要がある。そのためには、（1回の授業で扱う内容を減らすことになるが）必要におうじて都度、前回までの学習内容を振り返ることが有効であろう。この授業では、期末試験を中心とした評価ではなく、学生の日ごろからの取り組み・学習意欲を多面的に評価する方針を採用した。大学卒業後も、みずから問題意識を持ち、またその問題を解決しながら生きていってほしいという意図からである。今後はこの方針をさらに推し進めるべく、毎回の授業では、学生一人ひとりにとってますますやりがいのある課題を提示していきたい。

その他

とくになし。

科目名	文化人類学
担当者	西沢秀行

授業の概要

本コースは、世界各地のさまざまな文化に目を向け、それらの類似性と異質性を探りながら「文化とは何か？」という、人間にとって根源的ともいえる問いにアプローチすることを目指す。そこで毎回の授業では、文化人類学者たちが伝統的に扱ってきたテーマ——例えば、生業、婚姻と家族、性とジェンダー、宗教——を取り上げながら講義する。くわえて、クラスメートとのグループ作業を通じてまとめた成果を発表する「グループ・プロジェクト発表会」、各自で博物館を訪れて学びの成果を報告する「博物館プロジェクト報告書」などの、学生が主体的におこなう課題も用意されている。こうした講義と参加型の学びをとおして、学生一人ひとりに「自ら考え、自ら学ぶ」「仲間とともに考え、仲間とともに学ぶ」という、学問に対する能動的な姿勢を育てていただければ幸いである。

授業の問題点

履修しているのに、学期のはじめ（初回授業）から一度も授業に出席しない学生が複数いた。また、学期の半ばまでに、授業にきちんと出席する学生と、まったく授業に出てこなくなる学生の2つに分かれた。そのため、私がアクティブ・ラーニングの一環として取り入れているグループ・ワークや、クラスメートとともに考え、学ぶ姿勢を育むディスカッションがうまくいかなかった。この授業は1年生がメインであるため、まだ大学生としての自覚に乏しく、勉学に対する意識が低いことがその原因であったと思われる。

学生の授業満足度

全体的に見て、学生の授業満足度は芳しいものではなかった。コメント欄にもあるように、グループ・ワークが円滑に行えない学生がいたこと、グループ内での作業について不公平感を持った学生がいたことなどがその原因であったと思われる。他にも、授業では（シラバスに沿って）毎回テーマを変えながら講義したため、これまで大学で授業を受けたことのない1年生にとっては、学問の全体像がなかなか捉えられず、かなり苦労することになったと思われる。

授業改善の課題と方策

今回の授業内容が前回までに学習してきた事項と、どのように関係しているのかを毎回明確にして講義する必要がある。そのためには、（1回の授業で扱う内容を減らすことになるが）必要におうじて都度、前回までの学習内容を振り返りながら、そこに新たなテーマの講義をくわえていく方法が望ましいと考える。また、私はグループ・ワークの効果およびプレゼンテーション・スキルの向上に大いなる重要性を見出しているのので、今後もこの方針を変えるつもりはない。しかし、学生のあいだに不公平感が残る結果となったので、今後は評価の方法を含め、学生一人ひとりにとって達成感を味わってもらえる方法を模索していきたい。

その他

とくになし。

授業改善書

科目名	倫理学概論
担当者	浜田郷史

授業の概要

講義形式で「赦し」と「応報」双方の立場を検討していく授業である。前半はより基本的な倫理学上の立場や基礎的な概念を説明し、後半で具体的な吟味を行った。

授業の問題点

空調が他教室と連動しており、非常に暑く集中力が削がれてしまった。扇風機を置いていただいたが、それでも授業アンケートで暑いという意見があった。
許しと応報双方の立場を検討する部分は前年度よりも丁寧に教えることができたが、その前段階に当たる倫理学の基礎概念を扱う授業では、どのように後半の授業に接続するかという説明が不足していた。

学生の授業満足度

それなりに高い満足度を得ることができた。

授業改善の課題と方策

授業の前、また第1回のオリエンテーションにおいて、講義の目的やその回の講義全体での位置づけを明確にしていきたい。
また、空調設備については、善処をお願いします。

その他

授業改善書

科目名	生命の倫理
担当者	浜田郷史

授業の概要

講義形式で生命倫理学上の様々な問題を検討していく授業である。

授業の問題点

前年度に比べると、学生は各講義がどのように繋がっているかを意識することができたと思う。一方で、講義の受講者は多かったこともあり、学生のコメントを拾うことができなかった場面もあった。
また、空調が他教室と連動しており、非常に暑く集中力が削がれてしまった。扇風機を置いていただいたが、それでも授業アンケートで暑いという意見があった。

学生の授業満足度

それなりに高い満足度を得ることができた。

授業改善の課題と方策

講義受講者数が多い場合は、自由記述的な発問だけでなく、択一的なアンケート機能を活用するなどしてみたい。また、空調設備については、善処をお願いします。

その他

授業改善書

科目名	倫理学
担当者	浜田郷史

授業の概要

講義形式で倫理学史と応用倫理学を学ぶ授業である。

授業の問題点

授業の双方向性を高めるよう努めたが、その際に学生の意見に対するコメントが押し付けに感じられるという意見があった。歴史的ないしは概念的知識も不足しているように感じられた。

学生の授業満足度

前年度と同程度でそれなりに高い満足度だったといえる。

授業改善の課題と方策

学生との信頼関係を築くよう努めるとともに、学問的な発問と応答の構造化を行って、押し付けではない教授になるよう心がけたい。さらに、穴埋め式テストなどを補助的に活用して、知識の定着化を図りたい。

その他

授業改善書

科目名	英会話1
担当者	ヒューパーマー

授業の概要

この授業は外国旅行や外国生活をする為に必要とされる使い易い言葉や表現を学びます。映画、テレビ番組、雑誌などのメディアを講義に取り入れています。

授業の問題点

今回のアンケートの結果から特筆すべき問題点は見当たらない。ノートやメモを取らないという点においては月曜日4限の授業においては、若干低めではあるものの、オーラルという授業であることから、大きな問題ではないと思います。また、月曜日5限の授業においては、まったく同じ授業であるものの評価は高いため、学生の意識によるものが大きいとも感じています。

学生の授業満足度

授業における満足度は高く、今後も同様により興味が持てるような講義を続けて行きたい。

授業改善の課題と方策

前述の通り、ノートやメモを促していく。
授業では日本語使用は出来る限り控えたいという意図があるため、口頭の説明に併せてプリント等を適宜使用していく。

その他

授業改善書

科目名	日本史資料講読（近世）
担当者	福澤 徹三

授業の概要	
現在の日本近世史の通説のもとになっている史料を紹介しながら、講義を行う。学生には、史料から歴史像を組み立てていくおもしろさを味わってもらい、時には、より専門的な史料を読んでいくことにより、より深く、立体的な歴史像を学生が持てるような授業を行うことを目的としている。 履修者数が78名（昨年度55名）と多かったので、シラバスに記載していた見沼通船堀の見学は中止した。	
授業の問題点	
前半の授業に時間を費やした分、後半は少し駆け足気味になってしまったことが反省点である。 また、昨年度よりは改善されたが、まだまだ成績の「まばら」感は否めない。もう少し全体の底上げを図りたい（ただ、今年は履修者数が大変多かったにも関わらず、試験の成績がとてもよかった）。	
学生の授業満足度	
Ⅲ授業満足度の項目（Q9、Q10とQ11）は、4.57、4.55と4.60であり、学生にはおおむね満足してもらえたと考えている。	
授業改善の課題と方策	
「質問や発言をしましたか」の項目が、3.36であった。今年も改善を期していたが、昨年度よりも履修者が大幅に増え、授業中に発言を促す時間の確保は正直難しかった。ただ、今年は例年よりも授業終了後質問に来る学生が多かった。質問に来やすい雰囲気作りを心がけたい。	
その他	
受講態度は、とても良いものでした。学生の理解と協力で感謝しています。 今年から、教室が203に変更となり、マイクとホワイトボードの使用で授業がとても行いやすかった。特にマイクは、読み下し文を復唱する際に教室を歩きながらでも可能だったので、助かりました。ありがとうございました。	

授業改善書

科目名	東洋史特論Ⅱ
担当者	宮古文尋

授業の概要	
「中国の歴史と民族」がテーマです。中国とその周辺地域の歴史を、まだ教科書には反映されていない、近年の研究成果を踏まえながら講義します。いわゆる「通史」という形ではなく、幾つかのトピックを取り上げる形で歴史過程を概説し、「民族」とは何なのかについて考えます。過去の制度や思考法は、現代に至るまでの間に失われたのか、残存しているのかを考えることを糸口に、歴史を踏まえた現代社会の再検討を、各テーマごとに試みます。まずは、現代の中国やその周辺地域で生活する人々の、文化や社会を知ってもらおうと思います。そして、その背景にはどういった歴史があるのかを考えていく形で講義を進めます。	
授業の問題点	
授業アンケートにおける「授業外学習をしましたか」の項目のみ、平均点をやや下回っていた。	
学生の授業満足度	
あまり手応えを感じてはいなかったが、授業アンケートの結果を見るに概ね満足できていたようである。	
授業改善の課題と方策	
本講義では、講義内容そのものを復習することよりも、普段何気なく目にしているテレビやインターネット等で見聞きした情報を講義内容に繋げること、或いは講義を通じて得た知識や考え方を活かし、これまでとは異なる目線から情報を捉え直すことを重視している。そのようなこちらの目的をもう少し伝えたならば、「授業外学習」に対する学生の定義や考え方も変わり、回答内容も異なってくるように思う。アンケート対策のようになってしまいが、講義を通じて自身がどれだけのものを身に付けたのかを実感するためにも、有効であるかもしれない。	
その他	
特になし。	

授業改善書

科目名	日本文化概論Ⅰ
担当者	柳澤恵理子

授業の概要

本授業では、『源氏物語』『伊勢物語』『平家物語』の絵画、漆工、染織品、メディア芸術を取り上げながら、古典文学の造形化について講義した。受講者に著名な古典文学の内容を学んでもらうと同時に、その造形文化について理解してもらうことを目指した。

授業の問題点

休講もあったため授業時間が足りず、本来なら2回にわたって行なう内容を1回で終わらせることがあったため、授業評価アンケートの「シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか」の項目が低かったのだと考えられる。

学生の授業満足度

毎回のコメントペーパーと授業評価アンケートの結果を見た限りでは、授業内容や授業方法に概ね満足してもらえたと感じている。

授業改善の課題と方策

今後、シラバスの内容と時間配分を再検討していく。

その他

授業改善書

科目名	美術史
担当者	柳澤恵理子

授業の概要

本授業は日本美術史入門編として、飛鳥・奈良時代から戦後まで、各時代の代表的な作品・絵師たちを見ていながら、日本美術の歴史を講義した。同時に、その作品が制作された社会的背景、注文主や享受者といった当時の人々の思い、表現技法などに触れることで、日本美術の特徴について理解を深めてもらうことを目指した。

授業の問題点

休講もあったため授業時間が足りず、後半の時代（特に明治以降）の美術品について説明が足りないところがあった。
また、学生から、レジュメを前方の机に置くのではなく配布して欲しいとの要望があった。

学生の授業満足度

毎回のコメントペーパーと授業評価アンケートの結果を見た限りでは、授業内容や授業方法に概ね満足してもらえたと感じている。

授業改善の課題と方策

授業時間が足りなかった点については、今後シラバスの内容と時間配分を再検討していきたい。
レジュメの配布方法については、毎回200人近い履修生がいるため、配布する方が時間がかかると考える。そのため、なるべく余裕を持って教室へ行き、早めにレジュメを置くように心がける。また、概ね全員がレジュメを取り終るまで授業を始めないように気を配っていきたい。

その他

授業改善書

科目名	美術史
担当者	柳澤恵理子

授業の概要

本授業は日本美術史入門編として、飛鳥・奈良時代から戦後まで、各時代の代表的な作品・絵師たちを見ていきながら、日本美術の歴史を講義した。同時に、その作品が制作された社会的背景、注文主や享受者といった当時の人々の思い、表現技法などに触れることで、日本美術の特徴について理解を深めてもらうことを目指した。

授業の問題点

授業アンケートでは「質問や発言をしましたか」の項目が最も低かった。

学生の授業満足度

毎回のコメントペーパーと授業アンケートの結果を見た限りでは、授業内容や授業方法に概ね満足してもらえたと感じている。

授業改善の課題と方策

毎回コメントペーパーで質問を促しているが、質問を考えるのが難しいと感じている学生も多いため、今後はこちらから簡単な問いかけを行い、それに対する答えをコメントペーパーに書いてもらうというようなやり方も検討していきたい。

その他

授業改善書

科目名	書誌学
担当者	山口恭子

授業の概要

日本の古典籍についての基礎的事項を講義した。写本に関する歴史と用語、古筆切と手鑑、和紙の種類、出版の歴史、和本の装訂についてとりあつかった。
また、古典籍を扱うに際して書くことのできないくずし字の解説も行った。

授業の問題点

アンケートの集計結果を見ると、および質問や発言に関するポイントが低かった。

学生の授業満足度

アンケートの集計結果からは、およそ平均程度であるとうかがえた。

授業改善の課題と方策

今年度も受講生数が多く、授業をすすめてゆくうえでの難しさがあつた。後方に座っている学生まで目が届きにくく自ら発言をするのは前方の学生に限られる、実際の和本を手にとって見てもらうことが叶わないなどの点が問題点と感じられる。
今後、やはり受講生数によっては限界があるかもしれないが、可能な限り学生ひとりひとりに目を向け、また、和本を観察してもらう時間を設けるなどの工夫をしたい。また、少しでも多くの学生が能動的に学習し、書誌学にかかわる諸分野にまで視野を広げられるよう、授業内容の工夫や、従来毎時間配布・回収しているリアクションペーパーに加え、学生が発言をしやすい雰囲気作りにもより努めたいと思う。

その他

授業改善書

科目名	西洋思想史
担当者	山城貢司

授業の概要

近代哲学の諸潮流が古代ギリシア哲学と如何に対峙し、また一神教伝統によって如何に規定されたか、という問いをコース全体の軸としながら、近代哲学史の重要トピックを学んで行った。ラッセルの『西洋哲学史』IIIを講義のベースとしたが、適宜、前提知識の整理、補足説明の付加、発展的内容の紹介などを行った。

授業の問題点

特に評価の低い項目は見受けられないが、批判的に省みて、特に以下の点に改善の余地があると考ええる。

- (1) 授業で使用する資料の準備に十分な工夫が足りなかった。
- (2) 授業中に発言する学生が偏りがちな傾向があった。
- (3) いくつかのテーマについて、明快な説明や適切な具体例を与えることができなかった。
- (4) 終盤、全体的に駆け足気味になってしまった。

学生の授業満足度

今年度、コース内容を文字通り一新したが、一応は授業の内容に満足してもらえたようで安心はした。ただ、平均点がそれを少し上回る程度の評価なので、これに甘んじることなく、一層充実した授業づくりを心がけたい。

授業改善の課題と方策

- (1) 理解促進のための補助教材を積極的に活用する。
- (2) 発言が苦手な学生について、うまくサポートしながら言葉を引き出せるよう、事前にシミュレーションする。
- (3) 授業内外でのグループ学習を導入する。
- (4) 簡潔なレジュメを作成する。
- (5) 入門レベルの説明に集中し、全体像が把握しやすくなるような授業展開に努める。

その他

来年度は、若干現代よりの内容に変更する予定である。

授業改善書

科目名	異文化コミュニケーション
担当者	吉村貴之

授業の概要

現代の国際社会を考えるうえで、異文化接触や多民族共生の問題は重要である。本講座では、異文化コミュニケーション論の理論を学んだうえで、ユーラシアにあった前近代の世界帝国や近代の多民族国家の歴史を紐解きながら、様々な出自を持つ人々の共存のあり方を探る。

授業の問題点

この講座は専門科目でありながら、本学の複数の学科、つまり、言語科目群、史学・文化科目群双方にまたがる内容であるばかりでなく、年度によっては他学部の受講生も出席するため、いずれの領域の学生にも関心をもってもらうよう配慮しないといけない点が難しい。

学生の授業満足度

学生の興味を引き付けるような視聴覚教材を増やしたことで、学生が授業内容をイメージしやすくなっているようだ。

授業改善の課題と方策

前半の異文化コミュニケーションの理論解説は、学生に疑問を投げかけることで学生が主体的に講義に参加できるようになったのに対し、後半の事例研究は、講師が一方向的に話さないスケジュール通りに進まなかったため、学生が少し消化不良を起こしていた観がある。特に、今年度は進度調整のための休講が多かったため、前回の振り返りをしたことで、シラバスで発表した個所まで進まなかった。今後は多少解説事項を減らしても、無理のない講義運営を心掛けたい。

その他

授業改善書

科目名	中国語Ⅰ（初級）
担当者	李小捷

授業の概要

この授業は初めて中国語を学ぶ学習者を対象とするものである。正確な発音の読み書きや基礎単語、初級レベルの文法項目などを学ぶ。授業中、先生やクラスメートとの練習、ロールプレイなどを通して、中国語の基本的な表現を身に付ける。最終的に日常的なコミュニケーション能力を養う。また、中国関連の視聴覚資料や中国の歌などを通して現代中国の文化や社会にたいする理解力を高めていくように講義する。

授業の問題点

アンケート結果では、授業外学習（予習や復習）に対する評価が4.31（平均3.86）と、他の評価項目と比べてやや低い結果が見られます。これは、学生が授業外での学習に十分に組み込んでいない可能性を示しています。また、「質問や発言をしましたか？」という項目の評価が3.64と相対的に低く（平均3.34）、学生が授業中に積極的に参加していない可能性があります。

学生の授業満足度

全体として、学生の授業満足度は非常に高く、「授業の内容が有益であった」「学ぶ楽しさを感じた」「授業全体に満足した」という項目で、平均4.74という高評価を得ています。また、自由記述には「他の授業よりも生徒を気にかけて進行していた」という肯定的なコメントが寄せられました。

授業改善の課題と方策

授業外での予習・復習を推奨するために、具体的な課題（練習問題など）を提供します。また、授業外学習の成果を授業内で共有する時間を設け、学生同士でフィードバックを行う場を作ります。
学生が授業中に発言する機会を増やすことは、学習環境の活性化において重要です。これを促進するため、今後の課題として授業内でのグループ練習などの機会を増やすことを検討します。この取り組みによって、学生が発言する機会を増やし、授業への積極的な参加を促すことを目指します。

その他

授業改善書

科目名	中国語Ⅱ
担当者	李小捷

授業の概要

この授業は中国語Ⅰの学習を終えた学習者を対象とするものである。
中国語Ⅰで学習した文法事項を取り上げて復習しながら、それに続く新しい重要な文法事項や表現などを学ぶ。
授業では、中国語Ⅰと同様に先生やクラスメートとの発音練習、ロールプレイなどの授業活動を行う。中国語の基本的な会話力を身につけ、中国語で表現する自信を持つようになることを目指す。また、中国語、中国文化関連の視聴覚資料を通して、中国語学習のモチベーションを維持し、中国文化に対する理解力を深める。

授業の問題点

アンケート結果では、「質問や発言をしましたか」という項目の評価が3.49と相対的に低く（平均3.33）になっています。このことから、授業のインタラクティブな側面を強化する必要があるかもしれません。

学生の授業満足度

全体として、学生の授業満足度は高く、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」及び「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」という項目で、4.74と4.60という高評価を得ています。さらに、自由記述欄には「単語の意味をしっかりと教えてくれるので理解しやすい」といった肯定的なコメントが寄せられました。

授業改善の課題と方策

学生が授業中に発言する機会を増やすことは、学習環境の活性化において重要です。これを促進するため、今後の課題として授業内でのグループ練習やプレゼンテーション（自己紹介や趣味の紹介など）の機会を増やすことを検討します。この取り組みによって、学生が発言する機会を増やし、授業への積極的な参加を促すことを目指します。

その他

授業改善書

科目名	西洋史特論Ⅰ
担当者	駒込 希

授業の概要

本授業は、北米地域、そのなかでもアメリカとカナダに焦点をあて、国民統合の角度からエスニック集団の社会史について講義を行った。アメリカやカナダは、さまざまな文化的背景をもつ集団で構成されている国である。そして、それらの国では、さまざま集団が共生・共存するために、各時代に応じた国民統合理論が形成された。本授業では、それらの国民統合理論の変遷や背景を学びながら、さまざまなエスニック集団の社会史について解説した。全15回の授業のうち、前半ではアメリカ、後半ではカナダを取り扱った。

授業の問題点

本授業は、北米地域の社会史に焦点をあてたものであり、学生が高等学校において世界史を履修していたかどうかで、彼らのもっている基礎的知識に差があった。そのため、北米地域に関する基礎的知識がある学生とない学生の両方にとって魅力的な授業となるよう、さまざまな工夫が必要であった。

学生の授業満足度

学生による授業満足度評価は、概ね良好であった。この結果を励みに、さらに良い授業ができるよう、より一層努力していきたい。

授業改善の課題と方策

アンケートにおいて、「授業外学習をしましたか」ならびに「質問や発言をしましたか」の項目の評価が、やや低い傾向にあった。学生の授業外学習時間や質問・発言の量は、本授業に対する彼らの興味や関心に直結するものであると考える。よって、学生が興味や関心をもてるよう、彼らにとって身近なトピックを取り上げるなどして、より魅力的な授業作りを行ってきたい。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	地域文化論Ⅱ
担当者	駒込希

授業の概要

本授業では、世界最大の移民受け入れ国であるアメリカに焦点をあて、移民により形成されたさまざまな文化について講義を行った。具体的には、アメリカ建国当初から第二次世界大戦前までの移民に焦点をあて、それらの移民により形成された文化とその社会的背景について解説した。全15回の授業のうち、前半ではアメリカ本土、そして、後半ではハワイに焦点をあてた。

授業の問題点

本授業は、アメリカのさまざまな文化に焦点をあてたものであり、学生が高等学校において世界史を履修していたかどうかで、彼らのもっている基礎的知識に差があった。そのため、アメリカに関する基礎的知識がある学生とない学生の両方にとって魅力的な授業となるよう、さまざまな工夫が必要であった。

学生の授業満足度

学生による授業アンケートは、概ね良好であった。また、授業がわかりやすいとの感想が寄せられていた。この結果を励みに、さらに良い授業ができるよう、より一層努力していきたい。

授業改善の課題と方策

アンケートにおいて、「質問や発言をしましたか」の項目の評価が、やや低い傾向にあった。学生の質問・発言の量は、本授業に対する彼らの興味や関心に直結するものであると考える。よって、学生が興味や関心をもてるよう、彼らにとって身近なトピックを取り上げるなどして、より魅力的な授業作りを行ってきたい。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	社会心理学Ⅰ
担当者	小野田竜一

授業の概要

社会心理学は、個人と社会状況との間の相互的な影響関係及び人々の心や行動への社会的影響を解明する学問である。社会心理学Ⅰでは、傍観者実験、同調実験など古典的な研究と発展的な研究を講義し、社会現象のメカニズムやプロセスを科学的に考察する能力を育成する。

授業の問題点

唯一平均点を下回ったのが『出席や課題提出等はしましたか』という項目だったため、この点が問題点だと思われる。

学生の授業満足度

満足度に関しては概ね良好である。

授業改善の課題と方策

上記の問題点を鑑みて、来年度は課題をより多く出すようにする。

その他

全体的に概ね良好だったため、後期並びに来年度はできるだけ維持したいと考えている。

授業改善書

科目名	社会心理学Ⅱ
担当者	小野田竜一

授業の概要

社会心理学は、個人と社会状況との間の相互的な影響関係及び人々の心や行動への社会的影響を解明する学問である。社会心理学Ⅱでは、文化的影響や協力問題、脳科学研究など発展的で最新の研究を講義し、社会現象のメカニズムやプロセスを科学的に考察する能力を育成する。

授業の問題点

『時間内にリアクションペーパーを書く時間を確保するか、提出後の解散ではなく授業日中の提出にするなどの改良を求めたい。』というコメントがあった。内容によっては、授業終了時間がギリギリとなり、授業時間中にリアクションペーパーを取れず授業時間外にリアクションペーパーの提出を求める授業回が何度かあった。

学生の授業満足度

平均値が4.45であるのに対して、本授業の満足度は4.67に達しているため、満足度に関しては概ね良好である。

授業改善の課題と方策

上記の問題点を鑑みて、来年度は授業時間中にリアクションペーパーを取る時間を設けられるよう努力する。

その他

全体的に平均値を上回っており、学生評価が概ね良好だったため、来年度もできるだけ維持したいと考えている。

授業改善書

科目名	書道
担当者	日賀野琢

授業の概要

現代社会では手で文字を書く機会が激減している中、若い人が毛筆を持つ機会は皆無といえる。授業では漢字五書体を取り上げ、講義・実習を通して基礎力と表現力、技術の向上を図った。中学国語教員免許取得者必修を鑑み、将来の教育現場で役立つであろう板書・掲示物・漢字筆順の内容も盛り込んだ。個々の経験差を十分配慮し、「筆で文字を書く楽しさ」を再認識してもらえるよう努めた。

授業の問題点

授業内容そのものに問題点を感じることはなかったが、以下「改善の課題と方策」に関することは、次年度留意していきたい。徐々に寒くなる秋期1限ということもあり、欠席や遅刻が多かったのは残念である。また服装（特に男子学生の帽子やヘッドホン着用）に対して注意喚起ができなかったのは忸怩たる思いがある。ハラスメントの観点から躊躇してしまったが、やはり大教室での講義科目でなく、静かな教室で筆を持つという本来の姿から、いわゆる「マナー」喚起をすべきだったかと思っている。

学生の授業満足度

まずまずの結果で安堵している。実習中心の授業なので、初めの説明をなるべく簡潔にし、実習時間を多く取ったこと、積極的に机間巡視し、学生のもとに向いた添削を行った。アンケート期間後の授業では、さらに漢字の筆順などをクイズ形式にしたり、最終授業では仕上げた作品を黒板に掲示し、全員で全員の作品を鑑賞、コメントを口頭発表してもらい、手ごたえとしては好評だったと思われる。試験と合わせて書かせた授業の感想を見る限り、デジタル至上の昨今において、いわゆる「非日常的なアナログ」感覚が受けたと思っている。

授業改善の課題と方策

本学での授業は初年度なので、過去自らの教員経験をもとにシラバスを作成、それに準拠して進めたが、やはり個々のレベル（毛筆経験の違い）が想像以上に低かったため、中盤から下方修正し、初めて書く書体の「体験的」な内容に変えた。この点、次年度は当初から十分に配慮するつもりである。上記問題点に記した「基本的な授業マナー」については、個々の学生の状態と態度を踏まえ、適切に対処していきたい。

その他

本学でのこの半期の経験から、毎回の実習提出物をもとに、個々の伸びしろ（授業への積極性、スタート時からどのくらい努力して上達したかななどの成果）を絶対評価基準とするため、次年度から筆記による定期試験は不要と考えた。

授業改善書

科目名	犯罪心理学（司法・犯罪心理学）
担当者	古 曳 牧人

授業の概要

公認心理師科目として、①犯罪、非行、犯罪被害者及び家事事件についての基本的な知識を習得する、②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について理解する、を到達目標としている。

本年度も受講希望者が多く、縦長の203教室であったため、板書による授業からパワーポイントによる授業に切り替えた。

授業の問題点

昨年度は、受講者から私語を注意してほしいとの要望があったが、本年度、私語に関しては特に問題はなかったと認識している。受講者が多いためか、質問等は行いにくい環境であった。配布資料に関しては、パワーポイントのスライドを印刷した物を配布していたが、ノートを取っていた昨年度までに比べ、漫然と聞いている受講者が多かった印象がある。ただし、配布資料についてのアンケート結果は、昨年度よりも少し高くなった（4.33→4.40）平均（4.58）よりもまだ低い。補足的にメモを取ってもらうことを意識した資料であることが影響している可能性がある。

学生の授業満足度

アンケートの授業満足度は、得るところがあったかという設問では、4.49（平均4.56、（昨年度4.56）、学ぶ楽しさ、知るよこびに関する設問は、4.42（平均4.52）、全体的な満足度の設問は4.31（平均4.52、昨年度4.49）であった。平均よりはやや低い数値となり、昨年度よりも満足度は低下した。授業内容を大きく変えたわけではないが、本務校の業務等の関係で、3回の休講があった影響が出ている可能性がある（補講分について、解説のプリントを配布した）。コメントに関しては、ネガティブな内容のものはなかった。

授業改善の課題と方策

授業の方法や資料のわかりやすさの設問は、4.23（平均4.51）と低く、昨年度の4.37よりも低下した。ノートやメモ等を取ったかという設問は、4.29（平均4.40）で、昨年度の4.77よりも大幅に低下した。パワーポイントの資料を配布したことで、メモを取らず、受動的に受講する学生が多くなったのではないかと推測される。

ここ数年の傾向（昨年度は抽選）を考えると、来年度も受講者数が多いと思われるため、授業の最初に資料の性質を説明し、ノートやメモを取ることを促したい。

その他

特になし

科目名	乳幼児心理学
担当者	岩崎 桂子

授業の概要

本講義では、胎児期から乳幼児期に至る発達について、成育歴、身体・運動、感覚知覚・認知機能の発達、感情、対人関係、自己、言語発達などについて講義し、個人の発達や適応について理解できるように指導する。

とくに、乳幼児を取り巻く環境や親子関係・子ども同士の関係のあり方と心理的発達について、従来の発達理論をふまえて講義する。必要に応じて、行動観察、ロールプレイ、グループディスカッション等、演習課題を取り入れ、多様な対象の理解や彼らを取り巻く人的環境・物的環境との関連を理解できるように指導する。乳幼児期の発達や適応に関する十分な知識を身につけ、対象への理解や支援に活用できる力を養えるよう指導する。

授業の問題点

選択科目であるため、受講者の学年・学科が様々である。そのため、心理学の基礎知識が不足している学生が見られる。専門用語が伝わらない場面がみられる。

学年や学科の違いからか、グループワークが進まない用紙が見られた。学生は各自できる限り積極的に取り組んではいるので否めない点だと思う。

学生の授業満足度

回答した学生からの満足度は比較的高い得点であった。しかし、回答者が少ないことが気になる。2回に渡って、学生に回答をするように促したが効果はなかった。

授業の最後に回答する時間を設けた。その時、学生はスマホを出して打ち込んでいるように見えたが、授業の回答ではなかったという事実が発覚した。

授業改善の課題と方策

グループワークを盛り上げるために座席を指定したいが選択科目ということもあり履修学生が確定しづらい傾向にある。しかし学生が協力的なこともあり、どうにかグループワークが行われている。座席を指定するなどしてグループワークが活性化できるように対策を検討したい。

その他

今年度は、欠席数が多い学生が少なく、最後まで真面目に授業を受けている学生が多かった印象である。常に最前列に着席して真剣に話を聞いている学生がいたことが印象的である。

科目名	人体の構造と機能及び疾病
担当者	高柳雅朗

授業の概要

チーム医療において、公認心理師として多職種連携(Interprofessional Work; IPW)を実践することが求められている。この多職種連携の実践に必要な医学の基礎知識について講義する。まず、医学総論として医学と医療やその歴史等を講義する。次に、疾病を理解するために必要な、正常な人体の構造(解剖学)と機能(生理学)について講義する。そして、心理的支援が必要な疾病を主として疾病について講義する。

授業の問題点

授業に対する学習態度について、学生が自己評価するアンケートの結果から、学生の授業外学習(予習・復習等)を促す工夫が引き続き必要と思われる。質問や発言については過去4年間で徐々に増加しており、今後も質問や発言を促す場面を増やしていきたい。

基礎知識として正常な人体の構造(解剖学)と機能(生理学)を学び、さらに主要な症候そして主要な疾病を学ばなくてはならない。これらの学ぶべき範囲が広く、学習項目が多いため、授業の内容が多くならざるを得ないことや、授業の進行がはやくならざるを得ないことがあった。

学生の授業満足度

授業満足度についてのアンケート項目の結果から、学生はおおむね満足していると思われる。今後も学生がより満足する工夫を続けたい。

学生による主な意見に「いつも、わかりやすい講義をありがとうございます。」や「中間休憩があり、助けられた。」があった。今後も、授業における重要項目の扱いや学生への解説等において、よりわかりやすく伝わりやすいよう努力したい。また、学生の集中力の回復等のために導入した、授業の途中のリフレッシュタイムも継続したい。

授業改善の課題と方策

人体の構造(解剖学)や機能(生理学)そして疾病の知識は情報量も多く、その内容はけっして簡単とは言えない。また、学生に必要な授業の質を保つには現状より内容を減らすことはできない。このためどうしても授業は早く進まざるを得ない。また、学生にわかりやすく説明するためには時間もより必要となる。授業時間は限られているため、学生に授業外学習(予習や復習など)をするようしっかり促したい。

その他

人体の構造(解剖学)や機能(生理学)そして疾病の知識は、学生の現在そして未来の日常生活や社会生活において役立つ知識であることは間違いないと思われる。授業での学びが履修生の糧となるよう、熱意をもって授業に取り組み、学生を惹きつけるような魅力ある授業を目指したい。

授業改善書

科目名	メディア心理学
担当者	田中 道弘

授業の概要

メディアはかつて新聞や雑誌、ラジオやテレビといった「四大メディア」が主流であったが、現在は「メディア」は、インターネットが大きな影響力を持つようになった。個人の情報発信も盛んになり、SNS 上のインフルエンサーによる影響も今や無視できない。本年度は、個人情報、教育（いじめを含む）を取り上げつつ、フェイクニュースの問題、及び騙されやすい人の特徴などを取り上げた。本年度からはアニメや漫画が発達に与える影響などもテーマに取り上げた（人生に影響を与えるような名言や、ヒーローの暴力問題、等）。さらには、SNS も関係するネット犯罪についても取り上げた。

授業の問題点

- ①質問や発言をしましたかについては、2.86 という点数であった。
- ②授業内容については、「テキストなどの資料は適切でしたか」が 4.43 と全体の平均点を若干下回っていた。
- ③授業方法において、授業の円滑さに関する項目が 4.11 とやや低い評価であった。

学生の授業満足度

学生の授業満足度は、すべての項目において 4.36 点～4.75 点の範囲に収まっていた。さらに授業満足度を上げるため、履修者の声、反応を聞きながら授業改善を行いたい。

授業改善の課題と方策

- ①本年度、学生の質問や発言についてはリアクションペーパーや、授業時の forms でのアンケート調査時に、直前の学生たちのリアクション結果を画面上で見せるなど、昨年度から改善を試みたつもりであった。しかし、今回のアンケート結果より、これでも不十分であることを認識した。次年度は、授業の合間に質問を受け付けるなど、履修者に分かりやすい形で質問を受け付ける機会を設けたい。
- ②次年度は、教科書が新しくなるため、導入することで解決したい。
- ③授業の円滑さについては、出席の取り方及び、動画の閲覧時に円滑さを欠ける場面が何度あった。出席については、具体的には遅刻者がいた場合など、教育支援ソフトの認識する時間が必要であった点である。この問題は、作業中、上手く授業の説明を加える等で上手く対応したい。

その他

昨年度と比較し、いくつか改善の見られた項目もあった。特に学生の授業テーマの関心にも表れているように、学生からの自由記述のコメントでも分かりやすい授業であったという記述もあった。一方で、リアクションペーパーや、Forms でのアンケートなど、もう少し時間が取れるように工夫していきたい。

授業改善書

科目名	比較心理学
担当者	時本 楠緒子

授業の概要

人を含む動物の認知行動と関連する実験に触れることで「こころ」の多様性に気付き、人間の「こころ」について理解を深めること、さらに心理学実験の方法論を学ぶことを目的とした。授業では、ヒトを含む様々な動物の認知能力に関する研究事例を紹介し、それぞれの動物種が持つ「こころ」とその生物学的基礎および行動の機能や発達についての基礎知識の習得に務めた。さらに理解を深めるため、各自が興味を持った動物行動について資料を集め、ヒトと比較しながら簡単な資料にまとめる作業を授業と平行して行った。

授業の問題点

多くの項目が 4 点台の評価の中、「Q2. 授業外学習をしましたか」「Q3. 質問や発言をしましたか」の 2 項目が 3 点台であった。また学生による意見として、授業スライドと配布資料の順番が異なることがあり、メモを取るのが大変だった、との記述がみられた。さらに、課題の提出率に個人差があり、ほとんどの受講生が期限内に提出する一方、何度促しても提出されなかったり、白紙の提出も散見された。

学生の授業満足度

授業内容・授業方法・満足度の全ての項目で学内平均と同程度の評価を得ており、受講者数が比較的多い科目としては、概ね満足できる内容であったと考えられる。比較心理学は学生にとってなじみのない心理学科目であり、臨床を志す受講生にとっては学ぶ意義を見出すのが難しいと思われる。そのため、質問や課題へのフィードバックを念入りに行うよう心がけたことが良かったと考えている。今学期は受講生の学ぶ意欲が高く、的を得た質問が多く寄せられたことも、スムーズな授業運営を後押ししてくれた。

授業改善の課題と方策

配布資料の順序が授業スライドと異なったのは、フロアの反応を見ながら説明の順番を変えることがあるためである。順序を大きく変える時は注意したが、授業を開いていれば問題ない程度の場合は敢えて言及しなかった。これは授業に主体的に取り組んでもらうためであり、授業中に何度か説明しているが、聞き逃していた可能性もあるため、次年度は資料の中に明記するなどしたい。授業全体を通して受講生の評価は概ね良かったが、授業への参加および課題への取り組みについて個人差を感じることがしばしばあった。授業中に投げかけた質問に対して、積極的に発言する受講生がいつになく多かった印象があるが、発言が一部の受講生に偏りがちになることもあった。普段は自発的に発言しなくても、直接指名すると何らかの回答が返ってくることが多かったため、自ら発言することが難しい受講生が積極的に授業に参加できる雰囲気づくりが必要であると感じる。例えばグループワークを実施することで、授業への参加が促されるのではないかと考えている。

その他

授業改善書

科目名	保育内容(人間関係)Ⅰ
担当者	五十嵐淳子

授業の概要

保育内容領域「人間関係」のねらいと内容を踏まえ、人とかかわりを育む保育に視点を置いた授業に取り組んだ。また、保育現場で役に立つことを念頭に置き、保育教材の作成や保育実践を取り入れ、各自発表を行った。

授業の問題点

学生にとって、受け身の授業ではなく主体的に取り組む授業になるように、各自発表を行うなどの授業スタイルにしたが、学生の学ぶ意欲が非常に高く、学生相互が刺激を受け、授業内容の質が高くなったことが読み取れた。発表するだけでなく、学生一人ひとりが質問や発言ができる機会を作るようにさらに工夫が必要であることが課題としてあげられる。

学生の授業満足度

授業内容には理論だけでなく実践との両輪を目指してきたが、授業内容の満足度が5点という評価があったので、引き続き、学生にとってためになる授業に取り組んでいきたい。

授業改善の課題と方策

質問に関しては、なるべく授業内に質問に対して声がけを行い、質問する機会を作っていたが、今後はリアクションペーパー等を使用することによって、なかなか発言できない学生も質問できるような工夫を取り入れていきたい。

その他

授業改善書

科目名	子どもと人間関係
担当者	五十嵐淳子

授業の概要

保育内容を総合的に踏まえ、指導案作成と保育実践に視点を置いた授業に取り組んだ。また、保育現場で役に立つことを念頭に置き、保育教材の作成や指導案作成を行った。

授業の問題点

学生にとって、受け身の授業ではなく主体的に取り組む授業になるように、各自が指導案を作成することで、学生が主体的に学ぶことに繋がっていることが読み取れた。学生一人ひとりが質問や発言ができる機会を作るようにさらに工夫が必要であることが課題としてあげられる。

学生の授業満足度

授業内容には理論だけでなく実践との両輪を目指してきたが、授業内容の満足度が5点という評価があったので、引き続き、学生にとってためになる授業に取り組んでいきたい。

授業改善の課題と方策

質問に関しては、なるべく授業内に質問に対して声がけを行い、質問する機会を作っていたが、今後はリアクションペーパー等を使用することによって、なかなか発言できない学生も質問できるような工夫を取り入れていきたい。

その他

授業改善書

科目名	保育内容総論
担当者	五十嵐淳子

授業の概要

保育内容を総合的に踏まえ、保育教材製作と保育実践に視点を置いた授業に取り組んだ。また、保育現場で役に立つことを念頭に置き、保育内容の実践的理解を図った。

授業の問題点

学生にとって、受け身の授業ではなく主体的に取り組む授業になるように、各自が指導案を作成することで、学生が主体的に学ぶことに繋がっていることが読み取れた。学生一人ひとりが質問や発言ができる機会を作るようにさらに工夫が必要であることが課題としてあげられる。

学生の授業満足度

授業内容には理論だけでなく実践との両輪を目指してきたが、授業内容の満足度が 4.8 点という評価があったので、引き続き、学生にとってためになる授業に取り組んでいきたい。

授業改善の課題と方策

質問に関しては、なるべく授業内に質問に対して声がけを行い、質問する機会を作っていたが、今後はリアクションペーパー等を使用することによって、なかなか発言できない学生も質問できるような工夫を取り入れていきたい。

その他

授業改善書

科目名	保育内容(人間関係)Ⅱ
担当者	五十嵐淳子

授業の概要

保育内容(人間関係Ⅰ)で学んだことを踏まえて、保育内容(人間関係Ⅱ)は、さらに学びを発展させ、地域との連携、外国籍の子どもとその保護者とののかかわりを育む保育に視点を置いた授業に取り組んだ。また、保育現場で役に立つことを念頭に置き、保育教材の作成や保育実践を取り入れた。

授業の問題点

学生にとって、受け身の授業ではなく主体的に取り組む授業になるように、各自発表を行うなどの授業スタイルにしたが、学生の学ぶ意欲が非常に高く、学生相互が刺激を受け、授業内容の質が高くなったことが読み取れた。発表するだけでなく、学生一人ひとりが質問や発言ができる機会を作るようにさらに工夫したことで学生にとって満足度が高い授業になったと考える。さらに充実した学びになるように励んでいきたい。

学生の授業満足度

授業内容には理論だけでなく実践との両輪を目指してきたが、授業内容の満足度が 5 点という評価があったので、引き続き、学生にとってためになる授業に取り組んでいきたい。選択科目であるため、学生の意欲的な学びが見られたことも授業満足度に繋がっていると考える。

授業改善の課題と方策

質問に関しては、なるべく授業内に質問に対して声がけを行い、質問する機会を作っていたが、今後はリアクションペーパー等を使用することによって、なかなか発言できない学生も質問できるような工夫を取り入れていきたい。

その他

授業改善書

科目名	健康科学Ⅰ（理論・実技）
担当者	大江 淳悟

授業の概要	
【健康科学Ⅰ（理論・実技）】 トレーニング各種・バレーボール・卓球を通じて、生涯におけるスポーツ活動実施の素養を高める。	
授業の問題点	
【健康科学Ⅰ（理論・実技）】 「① 授業外学習（レポート形式の課題）において次回行う実技理論をまとめる」→「② 体育館で実技理論の実践を行う」の流れで理論と実践の融合を試みた。授業外学習では提出されたレポートを採点して返却することで回を重ねるごとに評価点が高まる受講生がいる一方、提出回数の少ない受講生も一定数見られた。	
学生の授業満足度	
【健康科学Ⅰ（理論・実技）】 実技実践では積極的に課題に取り組む受講生が多く、「出来ていなければ細かくどこをどう改善すればできるようになるか教えていただけたのが自分にとってとても良かった」といったコメントが複数あったことから、受講生個々への対応が好評だったと考えられる。	
授業改善の課題と方策	
【健康科学Ⅰ（理論・実技）】 ゲーム形式での課題実践や受講生個々への対応を継続する中で、受講生へフィードバックを積極的に行って学ぶ意識（授業外学習を含む）を活性化させながら、理論と実践の融合が高まる工夫を行っていく。	
その他	
特記事項なし	

授業改善書

科目名	スポーツ指導論
担当者	大江 淳悟

授業の概要	
【スポーツ指導論】 効果的なコーチング法についての基礎的知識と具体的な方法について理解し、（一緒に授業を受けている仲間に対して）コーチング実践を行う。	
授業の問題点	
【スポーツ指導論】 毎回のレポート形式の課題において、毎回欠かさず提出する受講生がいる一方、提出回数の少ない受講生も一定数見られた。	
学生の授業満足度	
【スポーツ指導論】 「座学と、運動をやったのですが、どちらもタメになる授業だった」とのコメントや授業満足度点から、教室で学んだ理論を体育館で実践する進め方は好評だったと考えられる。	
授業改善の課題と方策	
【スポーツ指導論】 教室で学んだ理論を体育館で実践する進め方を継続する中で、受講生へフィードバックを積極的に行って学ぶ意識を活性化させながら、知識の理解・習得が高まる工夫を行っていく。	
その他	
特記事項なし	

授業改善書

科目名	健康科学Ⅱ（理論・実技）
担当者	大江 淳悟

授業の概要	
【健康科学Ⅱ（理論・実技）】 トレーニング各種・フットサル・バドミントンを通じて、生涯におけるスポーツ活動実施の素養を高める。	
授業の問題点	
【健康科学Ⅱ（理論・実技）】 「① 授業外学習（レポート形式の課題）において次回行う実技理論をまとめる」→「② 体育館で実技理論の実践を行う」の流れで理論と実践の融合を試みた。授業外学習では提出されたレポートを採点して返却することで回を重ねるごとに評価点が高まる受講生がいる一方、提出回数の少ない受講生も一定数見られた。	
学生の授業満足度	
【健康科学Ⅱ（理論・実技）】 実技実践では積極的に課題に取り組む受講生が多く、「上手くできていない一人一人丁寧にアドバイスしたり、上手くできた時はナイスパスなど言われたことによってモチベーションが上がった。」といったコメントが複数あったことから、受講生個々への対応が好評だったと考えられる。	
授業改善の課題と方策	
【健康科学Ⅱ（理論・実技）】 ゲーム形式での課題実践や受講生個々への対応を継続する中で、受講生へフィードバックを積極的に行って学ぶ意識（授業外学習を含む）を活性化させながら、理論と実践の融合が高まる工夫を行っていく。	
その他	
特記事項なし	

授業改善書

科目名	生涯スポーツ論
担当者	大江 淳悟

授業の概要	
【生涯スポーツ論】 生涯スポーツの実態と社会の取り組みを理解し、自らの健康づくりをマネジメントして実践できるようになる。	
授業の問題点	
【生涯スポーツ論】 今年度は受講生が少数であったことから、提出された課題について個別にフィードバックを行い、次の課題に繋げることができた。	
学生の授業満足度	
【生涯スポーツ論】 「教室での授業で学び、体育館での実戦形式での授業だったので、楽しく学べた。」とのコメントや授業満足度点から、教室で学んだ理論を体育館で実践する進め方は好評だったと考えられる。	
授業改善の課題と方策	
【生涯スポーツ論】 教室で学んだ理論を体育館で実践する進め方を継続する中で、受講生へフィードバックを積極的に行って学ぶ意識を活性化させながら、知識の理解・習得が高まる工夫を行っていく。	
その他	
特記事項なし	

授業改善書

a

科目名	総合的な学習の時間の指導法
担当者	大竹伸明

授業の概要

本講義は、小・中学校における「総合的な学習の時間」の授業のねらいや学習指導法、単元計画や指導計画、学習指導案の作成について、演習を中心に実践的に学ぶものである。教諭や管理職、教育行政に長年関わってきた経験を生かし、小・中学校での「総合的な学習の時間」における優れた授業実践や具体的な事例を紹介しながら、教育指導の基礎的な知識と技術及び学習指導の実践を学ぶ。特に、講義後半に実施する模擬授業を通して、児童生徒の実態に即した授業の構成や学習指導と評価について学び、実践的な学習指導の基礎を培う。

授業の問題点

アンケートの集計結果では、全項目で平均値を上回り(4.91～4.45)、数値を見る限りでは、課題として取り上げるべき点は見受けられないと考える。しかしながら、学生の学習態度に関する項目「Q3：質問や発言」に関する評価が全体の中では低かったことから、学生の満足度が高く、学習意欲の高いより良い授業の創造を目指し、授業改善に取り組んでいく必要があると考える。

学生の授業満足度

アンケート集計結果から、授業満足度の3項目は平均を上回り、受講者の満足度はおおむね良好であるとする。全員が5ポイントの評価となるべく、さらなる授業改善に傾注していきたい。

授業改善の課題と方策

上記のアンケート集計結果からの評価に基づき、基本的な授業のコンセプトは現状のまま維持しつつ、上記「授業の問題点」で指摘した課題解決に鋭意取り組んでいく。授業態度に関する項目 Q3：質問や発言に関しては、毎回の授業において、授業の見通しやポイント、次回の授業のねらい等を明確にするとともに、学生に2コマの講義で必ず発言・発表を積極的にさせることを心がけていく。また、講義内容に関しては、学生の実態や授業の理解度に応じて軽重をつけ、柔軟に対応していくことでさらなる理解の定着につなげていく。さらに、講義終了後にも可能な限り、学生の疑問点や質問への対応を心掛けていきたい。

その他

集中講義形式(4日間のべ8コマ)での授業ということであったが、毎回のレポート課題は、受講生の9割以上が期限内に提出した。また、本年度は、やむを得ない事情で講義を欠席等する場合、小、中高向け講義に相互に代替受講できることとしたため、受講生のほぼ全員がレポート課題の提出を完了した。講義最終日に設定した定期試験においても7割以上の達成度を得ることができた。学生の理解を深める有効な手段として、負担軽減にも配慮しつつ、さらなる工夫を加えていきたい。

授業改善書

科目名	保育・教育課程論
担当者	大多和雅絵

授業の概要

この授業では、保育や教育活動の基盤となるカリキュラムの編成について、その意義や目的を捉えたうえで、子どもたちの育ちと学びを支えるカリキュラムのあり方について考える。保育所、幼稚園における保育や教育課程の編成にかんする基本的な内容について、具体的なカリキュラムの展開が理解できるように講義する。

授業の問題点

100名を超える履修登録者がいるため、大教室での授業となる。講義形式が中心となり、いかに学生の集中力を維持するかが課題となる。また、アンケートでは授業中の質問や発言について、授業外の学習について課題とみられるため、次年度からは授業の展開方法や知識の定着のための課題提出など検討したい。

学生の授業満足度

授業アンケートでは、授業満足度は総じて高い数値となっており、何より「学ぶ楽しさ、知る喜び」の実感が得られている学生が少なくないことが示された。引き続き、学生の学びへの意欲を刺激する内容を提供できるように努めていきたい。

授業改善の課題と方策

授業は講義形式のため、学生の発言や質問についての機会をいかにつくり出すかは課題となる。学生に考えさせる機会をつくるよう、問いを投げかけることは意識的にこなしているものの、学生の主体的な発言へとはなかなか結び付いていない現状がある(指名して発言を促すことは行っている)。毎回意識的に協働学習やディスカッション、ワークなどの時間を設けて、学生の主体的な発言を促す対話的な授業となるよう今後は改善していきたい。

その他

授業改善書

科目名	英語 I
担当者	荻澤紀子

授業の概要

4 技能をバランスよく学習し、個人、ペア、グループ活動を通して英語の実用的なコミュニケーション能力の増強を目指す。日常生活での英会話、アカデミックライティング、プレゼンテーション、スピーチの方法を習得する。

授業の問題点

個々のレベルのばらつきがあるため、特に個人ワークの際は進捗状況に差が出るため、時間配分が難しい。とはいえ、個人ワークなしで授業を進めると、おそらく何も理解しない学生が多数出てくる上、私自身、個々のレベルの把握が困難になる。
人数の多いクラスに関しては、個々の発言機会がどうしても少なくなる傾向あり。

学生の授業満足度

満足度はそれなりに高い。苦手意識の克服もできてきているよう。

授業改善の課題と方策

個々の学生のレベルを早々に把握し、ペア、グループワークの際は、バランスよく振り分けることができれば、円滑に授業を進めることができるのではないと思う。
クラスの中での発言機会を増やすには、グループディスカッションをまず増やし、個々の意見、質問をすることから慣れることから始める。

その他

授業改善書

科目名	英語Ⅱ (子ども発達)
担当者	荻澤紀子

授業の概要

この授業では、4 技能をバランスよく習得し、個人、ペア、グループ活動を通して英語の実用的なコミュニケーションの増強を目指す。また、将来教育現場を目指す学生たちが対象であるため、子ども対象のアクティビティのプレゼンテーションを実施。

授業の問題点

授業内では、発言しやすい環境を心がけていたため、活発に発言をする学生が多いが、人数が多いため全員が積極的に参加する、という状況が生まれにくい。大学から新しく学ぶ教科ではないため、クラス内でのレベル差は大きいことも積極的に参加しづらい理由になると思われる。課題に関しては、ライティング課題はインターネットの翻訳を安易に利用してしまうため、英語力の向上という観点において、内容を再考する必要性がある。

学生の授業満足度

全ての項目において平均を上回っている。概ね満足度は高いが、やはり人数の多いクラスにおいては少し低めになっている。なるべく多くの学生とコミュニケーションを取りながら指導を進めたいが、大人数に対しては難しい。楽しい、という意見に関しては、学びは楽しみながらやってもらいたい、というこちらの意図は伝わっていると感じる。

授業改善の課題と方策

インターネットを安易に使用してしまう点に関して、社会に出てからは活用した方がよい場面は多々あるため、英語力を上げながら A を活用できるように今後の授業では取り上げていきたい。

その他

授業改善書

科目名	英語（読む英語）
担当者	荻澤紀子

授業の概要

様々な国際情報が入手できる現代社会において、ニュースを多方面から検証し、正しい情報を読み取る力を身につけることがグローバル社会を生き抜くためには重要です。英文パッセージの分析、読解方法、手順を学習した上で、批評、自分自身の意見を英語で発信できる力の増強を図る。

授業の問題点

AI の発達により、簡単に和訳が可能になり、それで満足してしまうことが問題。この授業の目標は正しく情報を読み取り、自分自身の意見を発信することであり、その段階にたどり着くまでに多少の戸惑いは見られた。ただ、慣れるにしたがって、各々の学生が積極的に発言するようになり、ある程度目標は達成された。

学生の授業満足度

どの項目においてもそれなりに満足度は高く、とりわけ質問や発言することに関しては平均点を大きく上回り、学生たちが積極的に授業に参加した、と感じていることは嬉しく思う。

授業改善の課題と方策

英語力を身につけながら、自分自身の意見を発見できるようになるには、内容理解にとどまらず、よりアウトプットの訓練が必要。授業の性質上、リーディング中心になりがちだが、ライティング、スピーキングもより多く取り入れ、内容を理解した上でできることを指導していくが最終的にはリーディング力をアップさせる方策かと思われる。

その他

授業改善書

科目名	健康科学 I
担当者	小山内 弘和

授業の概要

健康について考え、自己の身体計測を通して身体の現状を知ること、また反復測定によりその変化を実感できるよう展開する。実技では、「身体を動かす」ことに重点を置いて、複数の運動・スポーツを実施することで、自らの体力を実感するとともに運動・スポーツの楽しさを感じられるよう展開する。授業を通して得られた自己の身体、体力や生活の情報を基に、今後の自己の健康を考えるきっかけとなるよう講義・指導する。

授業の問題点

実技を中心に展開した。「質問や発言をしたか」の項目が一部の時間で低い値を示していた。教員との会話自体は多く見られなかったことからこのような結果につながったものと考えられる。しかし、実技内では学生同士がコミュニケーションと取る姿は数多くみられた。

学生の授業満足度

学生の授業の満足度はとても高い得点であった。授業展開を今後の参考にしていきたいと考える。

授業改善の課題と方策

授業外学習については、実技中心のため低い得点となっている。日常生活自体が予習、復習であることは授業の初めに伝えているものの、浸透はしていなかった。より明確に理解できるように伝えていく必要がある。

その他

なるべく多くの学生が参加できる実技を目標にしている。学生の協力により、多くの学生が積極的に参加できる環境を作成することができた。学生に感謝したい。

授業改善書

科目名	健康科学Ⅱ
担当者	小山内 弘和

授業の概要

健康について理解を深め、自己の身体や生活の変化を実感できるよう展開する。実技は複数の運動・スポーツを実施することで、自らの体力の変化を実感するとともに運動・スポーツの楽しさを共有できるように展開する。授業を通して得られた自己の身体、体力や生活の情報を基に、今後の健康を模索するきっかけとなるよう指導する。

授業の問題点

「ノートテイク」、「予習・復習」や「発言や質問」については低い得点となった。実技の授業であることから、「ノートテイク」、「発言や質問」については低い得点となったと考える。授業内での記入物の書き込みについてはすべての学生が実施していた。また、発言等についても、授業が静かに行われることが少なく学生同士のコミュニケーションは多くみられた。

学生の授業満足度

すべての授業において高い得点を得ることができ、学生の満足度は高かったものと考えられる。

授業改善の課題と方策

「予習・復習」については日常生活自体が予習・復習になるとの注意をしたものの浸透していなかったものと考えられる。伝達について工夫をしていく必要がある。

その他

授業改善書

科目名	家族論Ⅰ
担当者	工藤 豪

授業の概要

日本の「家族」は、社会状況に影響を受けながら時代とともに変化してきたが、その中で変化した側面と基本的に持続している特性を判断し、認識することが求められる。その一方で、家族慣行や家族規範に関する空間的多様性を持ちながら存在してきた社会集団でもある。そこで、家族の定義や家族に関する概念・基本的な知識を踏まえ、“時代”および“空間”をキーワードとして、多様な家族の姿を捉えることを試みるとともに、現代家族をめぐる諸問題についての特徴や課題について講義する。

授業の問題点

学生の評価において、「授業外学習（予習・復習）をしましたか」の項目が、平均点よりも低い数値となっていた。次回の内容を告知し、関連する情報を確認するなどの予習的取り組み、今回の内容を整理し、振り返って学習する復習の取り組み、それらの授業外学習を学生個人として行いにくいテーマがあったことも影響しているのではないかと認識している。

学生の授業満足度

学生の評価において、「質問や発言をしましたか」の項目が、平均点よりも高い数値となっていた。授業の終わりに毎回、質問等を確認するとともに、授業の中で、資料を考察しての意見などを学生に発表してもらう機会を創出する、一つのテーマについて資料を参考にグループワークを行って意見交換を行うとともに、各グループでの意見をまとめて発表して全体共有するなど、主体的に参加する形式の授業を積極的に行うよう努めたことが、この評価に寄与したのではないかとと思われる。

授業改善の課題と方策

授業外学習（予習・復習）について、どのような方法・形式で行っていくことが望ましいのか、第1回のガイダンス説明において詳細な説明を行うことで取り組みを円滑に行えるよう促していくことが重要であると思われるため、学生にとって明瞭でわかりやすい伝え方を心がけたいと考える。

その他

授業改善書

科目名	家族論Ⅱ
担当者	工藤 豪

授業の概要

少子高齢化は、家族生活や家族形成に影響を与えるものであるが、その一方で、家族に関する意識・規範などが、少子高齢化の要因・背景として重要な意義をもっているのが日本社会の特徴である。このような動向を踏まえ、人口高齢化と人口減少、少子化と未婚化などに関する基本的な知識や実態を把握しながら、「少子高齢化」と「家族」の関係性について講義する。

授業の問題点

月曜1限での実施ということも影響しているのか、遅刻・欠席が目立ったように感じられる。学生の意識向上につながるような働きかけを教員としても行っていくことの必要性を痛感している。

学生の授業満足度

シラバスに示されていた概要との一致度、授業でのテーマを明確に提示、授業の内容や量における適切性、学生への質問対応などでは一定の評価となっており、学生において一定の授業満足度が得られているものと思われるため、次年度以降も継続して取り組んでいきたい。

授業改善の課題と方策

授業方法における学生からの評価の中で、「学生からの質問などにきちんと対応しましたか」の部分が、他の項目と比べてやや低い評価となっていたことは、今後の課題として認識しなければならない。課題シートを記入する時間がおしてしまい、質問等への対応時間を確保できない授業回もあったので、授業の構成や時間配分等において工夫していきたいと考える。

その他

授業改善書

科目名	保育者論
担当者	小林佳美

授業の概要

現代の乳幼児と子育て家庭を取り巻く環境を広い視野で捉え、保育・幼児教育の重要性や保育職の意義と役割等を講義する。特に前半では、保育者の制度・法令上の位置付け、服務・身分の義務と職務内容に関する基本的事項を講義する。また、様々な事例や視聴覚教材をとおして、子どもにかかわる専門職として求められる資質・能力、及び保護者・家庭支援の姿勢や専門職としての学びの必要性が理解できるようにする。後半では、保育の意義と目的、及び保育実践を支える基本的な理論と諸制度を講義する。さらに、社会的コンテクストにより生み出されている子ども・家庭の多様な課題解決に、保育者としてどのように貢献できるのかを探究していく。

授業の問題点

「わかりやすさ」を心がけたましたが、この概論的な科目を入口にして、学生がより深く子ども理解と保育の工夫の必要性を理解できるよう、今後も授業改善努力を重ねたいと思います。

学生の授業満足度

多くの学生が概ね楽しく学ぶことができたようでよかったです。

授業改善の課題と方策

ほとんどの学生が積極的に取り組んでいました。後半になって若干、学ぶ意欲の低下がみられる学生が散見されたことに対する対策が、今後の課題です。

その他

授業改善書

科目名	初等教科教育法「生活」 2年
担当者	齋藤澄子

授業の概要	- 生活科の教科目標や内容について講義し、生活についての理解を深める。 - 生活科の9つの学習内容を理解し、指導上の留意点等について知る。 - 指導計画や単元構成における配慮事項を理解し、学習指導案を書くことが出来る。 - 生活科の学習における特徴である気付きの質の高まりや学習評価について理解する。 - 学習指導案を書き、指導案検討を経て模擬授業を実行できる。 - 生活科を通して育てる子ども像や児童理解との関わりについて考えることができる。
授業の問題点	- 毎年3年次に講義している授業だったので、2年次の学生には難しいと感じる学生がいたようだった。 - 授業内容については、授業アンケートの数字から考えても妥当だったと考えるが、プレゼンテーション資料を使って講義することが多かったので、一枚のスライドの情報量を再検討したい。 - 授業を欠席した学生についてチーム等で授業資料をアップしたり、課題を解説したりしたがまじめに取り組む学生が少なく、前時欠席した学生が本時に出席した際の対応が大変だった。（チームを確認しない学生が多いことが問題） - 学習指導案の作成や模擬授業を行うのが初めてという学生が多かったので、その為の説明や方法の解説に時間を要した。
学生の授業満足度	- 授業アンケートの数字から、ほとんどの学生がこの授業に満足していたと考察できる。また最終授業における感想コメントには、この授業を通して学習指導案の書き方や模擬授業を体験することができ、よい経験になったという感想がほとんど全員から聞かれた。 - 後半の学指導案検討会や模擬授業の事後検討会等、全員の声を集めてする授業形態をとったので、全ての学生の有用感を高めることができた。
授業改善の課題と方策	- 学生が受け身的に授業を受講するのではなく、主体的に授業に参加できるように、問題解決学習を基本とする授業スタイルを検討したい。 - 今後も、理論研究にとどまらず、学校現場で活用できるような授業を行いたい。そのために、学指導案を書く力や授業をする力を身に付けることは必須であると考え。
その他	- 基本的なことであるが、授業態度や時間を守る等の注意をしないと徹底できない学生が数人いた。 - 授業を欠席するということに対する認識の甘さを痛感した。「授業を休んだ時は、友達に授業の内容を聞いて次の授業についての情報を得るように」と言ったが、実際には「何も聞けなかった」という学生も少なくなかった。 - 教職免許を取得する学生たちだったので、教員をめざす意味について話をする場面もあった。そういう時は真剣に聞いている学生が多かった。学生自身の学修態度の事項評価が高いのはそのためと考えられる。

授業改善書

科目名	初等教科教育法「生活」 3年
担当者	齋藤澄子
授業の概要	- 生活科の教科目標や内容について講義し、生活についての理解を深める。 - 生活科の9つの学習内容を理解し、指導上の留意点等について知る。 - 指導計画や単元構成における配慮事項を理解し、学習指導案を書くことが出来る。 - 生活科の学習における特徴である気付きの質の高まりや学習評価について理解する。 - 学習指導案を書き、指導案検討を経て模擬授業を実行できる。 - 生活科を通して育てる子ども像や児童理解との関わりについて考えることができる。
授業の問題点	- 授業内容については、授業アンケートの数字から考えても妥当だったと考えるが、前半は生活科の学習理論の講義については、難しく感じている学生が多かった。もう少しわかりやすく講義できるように検討したい。 - 授業を欠席した学生についてチーム等で授業資料をアップしたり、課題を解説したりしたがまじめに取り組む学生が少なく、チームを確認しない学生が多いことが問題だった。その為、授業に出てきてもわからないことが多かったようだ。
学生の授業満足度	- 全体的な授業の満足度は4.38であり、学生にとって学びのある授業はほぼ達成できたと考える。 - 最終授業における感想コメントには、この授業を通しての学びが多く書かれていたのによかった。 - 後半の学指導案検討会や模擬授業の事後検討会等で学生主体の授業形態をとったので、全ての学生の意欲や有用感を高めることができた。
授業改善の課題と方策	- 前半の生活の理論講義については、学生が受け身的に授業を受講するのではなく、主体的に授業に参加できるように、問題解決学習を基本とする授業スタイルを検討したい。 - 学校現場で活用できる体験授業を更に取り入れることができるように考えたい。 - 学校現場では、新任教師にも教師としての即戦力を求められている。その為には学生時代に学指導案を書く力や授業力を身に付けることは必須であると考え。
その他	- 教職免許を取得する学生たちだったので、教員をめざす意味について話をする場面もあった。そういう時は真剣に聞いている学生が多かった。学生自身の学修態度の事項評価が高いのはそのためと考えられる。 - 学生により学力や意欲に個人差がかなりあった。また、メンタル的に配慮の必要な学生もいたが、大学からの情報が全くなかったので手探りで支援してきた。 - 授業を休むことに対する抵抗を感じていない学生たちの雰囲気を感じた。授業を欠席するで、つながりのある授業にうまく参加できていない学生を支援することが難しかった。

科目名	家庭
担当者	佐藤真弓

授業の概要
小学校 5 年生から学ぶ「家庭科」について、教科の特性や現代の子どもたちの生活実態に触れながら、家庭科を学ぶ意義などについて検討していく。家庭科の基本理論である家政学の視点を知り、明治以降の「家庭科」の目標、内容についての歴史の変遷をたどりながら、家庭科教育の理念や目的、特性を理解するように講義する。 小学校家庭科の教科内容、指導方法等の基本的な事項について、講義、演習、実習を通じて、指導者に必要な知識理解とともに実践的な技能・態度を培う。
授業の問題点
本年度は履修人数が多く、また教室の席が縦長なため、どうしても後ろの座席に座ろうとする学生が多く、ディスカッションをしたり、教員が学生一人一人の顔をみながらの授業が非常に難しかった。アンケートのコメントにも、ホワイトボードの字が見えにくかった、ワークシートのどの（ ）に入ればよいかわからなかった、などの記述がみられた。しかし、コロナ時のような 2 チームに分ける授業でもなく、全員一斉の授業ができたため、授業内容の一貫性、継続性が確保され、課題のフィードバックはやりやすかった。
学生の授業満足度
授業に対する評価は平均より少々悪い項目もあったが、すべての質問で 4 点以上のスコアがとれて学生の満足度は高い評価が得られたのではないかなと思う。 また、自身の学習態度については、授業内容についての項目は、概ね平均よりも高いスコアがとれており、ワークシートにメモをとりながら授業を聴く、課題に取り組む、という自分なりの授業のペースに乗りながらメリハリをつけて授業に参加できたのではないかと推測する。
授業改善の課題と方策
本年度は全員一斉の面接授業を行うことができ、学生の満足度も比較的高く評価されていたので良かったと考える。毎授業のワークシートや資料もよりわかりやすいように、前回の復習を織り交ぜながら作成した結果、学生からも評価が得られたと思う。 特に授業の後半回では、裁縫の実習や、グループディスカッションによる課題解決のアクティブラーニングを取り入れ、授業の振り返りとともに、これからの家庭科の在り方について思考する時間を設けることができた。ただアンケート実施回の後だったため、結果にはそれが反映されなかったようである。 今後は授業の進行にも配慮し、学生との対話しながら、また学生相互の対話を活発にするように指導していきたいと考える。
その他
これは授業の内容とは関係ありませんが、教室について、今回いくつか困る点がありましたので記入させていただきます。 まず、ホワイトボードのベンが薄く細く、また、消しても後が残ってしまう状況でした。今回は黒板の部屋を希望します。 また、授業の後半になると次の授業の学生たちが廊下入り口に待機し、こちらが終わるような気配を少し見せただけで、まだ授業の時間内でもなだれ込んで堂々と席に座るという状況で、最後のまとめが非常にやりづらかったです。入ってくる学生を何度か静止したこともあります。せめて前の授業の終了時刻までは教室内に入らないようにしていただければと思います。

科目名	初等教科教育法（家庭）
担当者	佐藤真弓

授業の概要
小学校家庭科の目標や指導内容、指導方法に関する基本的事項及び効果的な学習指導を実践するための指導計画、評価、施設・設備等について理解を深める。また、望ましい家庭科の指導内容や授業構成について考究し、教育実践における諸問題を検討する。
授業の問題点
全体を通じて履修学生が授業に対して真摯な姿勢で取り組んでくれたため、教員としても非常にやりやすかった。毎回の授業は学ぶ意欲満々の学生たちの視線があり、教員の言うことを逃さないように聴こうとする姿勢もみられた。学生たちに感謝したいと思う。その意味では、授業での問題点を感じることはほとんどなかった。 模擬授業の実施などではグループ活動における協力が必須であるが、自分に与えられた仕事に真面目に取り組む姿勢が目立った。ただ例年どおり長期の学外実習の時期と重なるため、グループ内での十分な準備、打ち合わせができなかった様子が見受けられた。また、年々学生たちによる模擬授業のグループ分けの難しさが増しているように感じる。 また、昨年同様に、生活における様々な課題を他人事ではなく自分事としてとらえることについてはまだできていなかったように感じる。
学生の授業満足度
授業アンケートの項目について総じて 4 点以上の評価が得られ概ね満足できるものであったのではないかと考える。校外実習期間とも重なり、その分の自宅での課題への取り組みより「授業外で予習、復習をした」という回答が平均点よりもポイントが高くみられた。校外実習期間が長かったため、グループワークによる課題は負担が大きいと考え、個人ごとの課題に取り組ませたため、各自が出席や課題提出に関して責任をもって取り組むことができたのではないかと考える。
授業改善の課題と方策
家庭科は現実の日常生活を扱うものであるため、変化する社会状況に応じて、新しい教材の提案、授業方法の工夫、時には違った視点からみる題材の開発などが特に必要な科目であると考えている。学習指導要領、教科書の分析とともに、時事問題などを取り入れ、さらに一歩踏み込んだ家庭科教育内容を提案できるように進めていきたい。 学生が創造的な家庭科授業をつくることができるように、これまでの授業方法を修正、改善しながら構想していきたい。
その他

授業改善書

科目名	教育基礎論
担当者	常深 新平

授業の概要

シラバスで示した通り、本授業は「教職をとる上で、必須となる教育の基本的概念と教育に関する歴史と思想をおさえるもの」であり、「前半では、教育の基本的概念を教育哲学的に整理し」後半では「教育に関する歴史と思想を、背景となる政治・経済・社会的な動きを絡めながらおさえていく」ものでありました。この講義に伴う付随的な目的として、各自治体での教員採用試験にも合格できる内容を教授するということを含んでいました。そのため、教員採用試験に出る事項を網羅し、強調するという工夫を施しておりました。

授業方法は、毎回スライドを用いて、上記の内容を講義する形をとっていました。特に、本授業では、当時の時代状況や通念を身近に感じられるように、絵画作品を多く用いるイコノロジー的手法・イメージ学的手法を用いていました。

加えて、能動的に授業内容に取り組めるように、毎回リアクションペーパーにて簡単な記述を行なってもらい工夫を施し双方向のコミュニケーションを確保しました。

授業の問題点

アンケートによれば、ほぼ平均点と同じでした。またノートやメモをとるようには、何度か授業中にはアナウンスしていたものの、アンケート結果ではとっている学生は半数にとどまりました。また昨年度の反省を踏まえ、内容をより簡易に絞ってわかりやすくしていたはずですが、そこまでアンケート結果の違いには反映されませんでした。ですが、教員採用試験の内容や教育学の入り口に立つためには、この難易度より下げることは厳しいところがあります。総合的に特に授業には問題はない、と判断しました。

学生の授業満足度

概ね、平均点と同じでした。本授業では絵画作品を中心に芸術作品の事例を多く出すのですが、これが合う人は合う／合わない人は合わない、のかもしれませんが。

授業改善の課題と方策

人数と教室に鑑みながら、臨機応変に授業形態を適応させていきたいと考えています。また、意外なことに、初年度の昨年度では「授業内容が難しすぎる」との声を受け、今年度はより簡易化したものにも関わらず、授業に対する満足度は若干減少しました。熱意が昨年度より下がったように学生さんに伝わったのでしょうか。そこで、初心を忘れずに、モチベーションとテンションを保って、新鮮な気持ちで力を入れて学生と向き合っていきたいと考えています。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	子どもの食と栄養 I
担当者	中西 由季子

授業の概要

子どもの食生活、食習慣は小児期だけでなく、生涯の健康にも影響を及ぼすことが知られている。しかし、現在の子どもの食生活、食を取り巻く環境には問題点が多く見られるのが現状である。

子どもの食と栄養 I の授業では、まず現在の子どもの食生活の現状から問題点を把握し、改善すべき点について考える授業を実施した。次に栄養に関する基礎知識を身につけ、子どもの発育・発達に必要な栄養（胎児期・離乳期・幼児期）について学ぶ授業を実施した。離乳期・幼児期の栄養に関しては講義だけではなく、調乳や離乳食の調理についても学び、実践できる力を養った。

授業の問題点

本授業では、レゴブロックを使ったり、教科書やトピックスに対する問いづくりをしたりしながら、グループ内でダイアログを行う時間を設け、積極的にアクティブラーニングを取り入れた。グループ内で対話する際には、学生同士が自由に発言し、活発な空気が感じられた。しかしながら、講義中に雑談を大きな声で話し続ける学生もおり、私語を注意する指導も重要であった。

事前・事後の自主学習を促すような授業設計が不十分であった。再検討が必要である。

学生の授業満足度

3 クラスの授業満足度は、平均点前後であった。一定の満足度は得られたようであったが、平均点に満たないクラスが 2 クラスあり、更なる改善が必要である。授業期間中に 2 度実施したブロックを使用した授業に関しては、満足度が高く、自由記述にも良い評価コメントを得ることができた。

授業改善の課題と方策

特に、基礎栄養学などのインプット中心の授業回では、配布資料に空欄を作成し、学生が大切な部分を記入する形式をとり、書き込んだか聞きながら授業を進めた認識であったが、時間が十分でなかったこともあったようだ。内容をブラッシュアップし、事前・事後学習と組み合わせる形式に改善していきたい。

その他

今年度は準備が間に合わなかったが、この科目のまとめとして、第 14 回までに問題集を作成し、各回の重要な部分を提示したが、最後にまとめて提示し、解説するのではなく、各回の授業前後に確認問題の形で振り返るようにしていきたい。

授業改善書

科目名	子どもの食と栄養Ⅱ
担当者	中西由季子

授業の概要

小児期（学童期・思春期）、および成人の栄養について学び、自身の食生活についても考える力を養った。子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものである（食育基本法）。本授業では、講義および実習を通して、食育基本法について学び、子どもの食の問題点や改善点について検討し、食育活動の企画書を作成し、食育発表会で各自デモンストレーションを実施するなど食育を実践できる力を養っていた。また、児童福祉施設や家庭での食と栄養、食の安全（食中毒）、疾患のときの食と栄養、肥満ややせの子どもの食と栄養、障がいのある子どもの食と栄養についても学習した。疾患のときの食と栄養では近年増加している食物アレルギーを持つ子どもへの対応について理解を深めた。調理実習として、災害時に簡易に温かいものを用意することができるよう防災食ワークショップを開催した。

授業の問題点

本授業では、レゴブロックを活用した対話や食育活動の企画書作成、食育活動のデモンストレーション実施、調理実習などアクティブラーニングを6回ほど取り入れたプログラムとし、授業に対する満足度を高めることに寄与したが、一方で、座学の授業に関しては、ワークの作業や学生の意見を発表させることなどが少なく、学生の集中力を保つことが困難であった部分があったようである。

学生の授業満足度

2, 3, 4限の3クラスを担当したが、学生の授業満足度は、2限がほぼ平均と同等、3限が平均よりやや低く、4限は平均よりやや高い結果であった。極めて低いという結果ではなかったが、食後睡魔との闘いの時間とも重なる3限の満足度が平均に満たないのは、反省すべき点が多い。上述したように、座学では、受け身の授業だという学生の認識が高く、集中力が維持できなかった学生がより多かったように見受けられた。食後、エネルギーを補充した後の元気な時間帯という認識を共有し、学生が主体的に授業に参加している感覚が持てるように座学の時間の内容について、より精査・改良する。

授業改善の課題と方策

座学の授業に関しては、ワークの作業や学生の意見を発表させることなどが少なく、学生の集中力を保つことが困難であった部分があったようである。授業を聞きながら空欄に穴埋めをするなど、ワークシートを用意するようにしたい。授業中に学生を指名し、意見を聞いてみることも増やしていきたい。

その他

教材の共有、課題の提出などにもっと Teams を活用していきたい。

授業改善書

科目名	保育内容（表現・造形）Ⅱ
担当者	前沢 知子

授業の概要

実際の保育の現場を想定して、子どもの姿に寄り添いながら、表現・造形活動を進めることの理解を目指す。保育の現場で行われる季節の行事や、子どもが日常で感じる季節感を取り入れた制作を行するための下記の3つのスキルを学ぶ。

- ・子どもの表現と発達の関係について学び、子どもの制作についての基礎を理解する。
- ・保育の現場や子どもの日常を想定して、使用する材料や道具の有効性や、季節や行事に連動した活動題材の設定について学ぶ。
- ・上記の学びを踏まえ、指導案を作り模擬保育を行う。それにより子どもの動きを想定しながら、実践に役立つ現場力を養う。

これらの学びを通して、保育・教育者としての適切な指導のあり方を考えるよう指導する。

授業の問題点

全体的に5の評価であり、アンケートからは問題点が少ないように思われる。ただし、調査数が少ないため、アンケートを回答しなかった学生の意見が反映されていないことは考慮する必要がある。

学生の授業満足度

満足度は5であり高いことが結果からうかがえる。これは選択の科目であり制作が好きな学生が授業したと思われるため、学生が制作を楽しむことができたと考える。上記項目と同様に、調査数が少ないため、アンケートを回答しなかった学生の意見が反映されていないことは考慮する必要がある。

授業改善の課題と方策

評価もよく現状を維持することを心がけたい。本年度限りの授業であるため、本結果は別の授業に行かせていきたい。

その他

学生が熱心楽しそうに授業に取り組んでくれたので、とても授業を行いやすかった。

授業改善書

科目名	造形実践演習
担当者	前沢知子

授業の概要

平面や立体を中心とした様々な制作を学生が実際に行うことで、作る楽しさを学生自らが実感する。それらの体験的学びを通して子どもの作る姿理解と共感力、及び子どもの造形活動の指導力を高めることを目指す。保育・教育者として、制作のスキルを活用した指導のあり方を考える力をつける。

- ・材料や道具の基本的な使い方、幼児が安全に楽しめる使い方、保育で応用可能な使い方などを学ぶ。
- ・平面と立体の制作を行い、実際に自分で作品を作り上げることを通して、材料や道具の使い方を身に付け、制作能力を高めるとともに、制作の楽しさについて実感的に理解する。
- ・実際の保育の現場を想定して、共同制作を行う。他者と共同して制作することを通して、実践に役立つ現場力を養う。

授業の問題点

満足度についての結果は概ね4～5であった。本年度は昨年までの状況を鑑み制作の課題数を少なくしたため適切な分量になったが、やはり制作ペースが早い学生もいた。そのため、早く作品を完成させた学生には2点作るなど追加の課題を出したが、制作ということで、得意な学生と苦手な学生との差があるため、さらに工夫が必要であると考えた。制作が中心の授業であるため、ノートやメモをとる機会があまりないため、それらに関連した項目が比較的低い結果となっている。

学生の授業満足度

満足度は高いことが結果からうかがえる。これは授業の内容が制作であるため、自然と学生が能動的な学びにつながることも要因の一つであると考えた。また、作品の完成ばかりに着目せず、作品の制作過程に着目してもらい、制作を楽しむことを重視した結果であると考えた。今年度は昨年に比較して受講生が少なかったこともあり、すべての学生に丁寧に指導をすることができ、それにより個々の学生が自分の進捗や能力に合わせて制作を進めることができたことも満足度が高い要因であると考察する。

授業改善の課題と方策

- ・制作の得意・苦手については、制作課題の内容や画材、方法などを見直して、より多くの学生が取り組みやすくする必要がある。未完成の作品については宿題としたが有効であったが、進捗を揃えるための工夫を行うことが有効であると考えた。
- ・ノートやメモについては、制作なので記入事項が少ないこともあるが、ポイントをメモするように伝えているが、さらに積極的に声がけをしていきたい。

その他

制作に興味を持っている学生はとても集中して取り組んでいた。制作に興味の薄い学生であっても、制作や授業内容に興味を持ってもらえ集中できるよう、さらに工夫をしていきたい。

授業改善書

科目名	保育内容（健康）Ⅱ
担当者	丸山東人

授業の概要

保育の質を、健康教育学の観点から考究している。専任の先生方が尽力されているため、保育所保育指針および幼稚園教育要領の中での「健康・安全」や、乳幼児期の子どもの健康支援に関しては、みな既に、健康Ⅰと幼児体育ほか関連する授業（保健、心理、5領域Ⅰ等）を通じ十分な学修を済ませている。この利点を生かす形で、健康Ⅱでは、既習事項のおさらいをしつつ、対象年齢や話題提供の幅を広くとりながら進めている。一昨年度からは「子どもへのがん教育」を扱うなど、先駆的な試みにも挑戦している。

授業の問題点

今年度は、レジュメの年次調整に失敗した。食育とまとめ、の2回分が終わらなかった。前者はオンライン授業時の資料を渡すことで対応できたが、後者については、授業らしいことができなかった。原因は、授業の準備段階で内容を盛り込みすぎたこと、そして、授業中の余談の多さにある。ここでの余談とは、無駄話や雑談ではない。例えば、AI機器の子育て・子育て現場への浸透、に少し触れた際、次の授業で改めて時間を取り解説をし直す、等ということが度々あった。結果として、毎回の授業も時間通りに終わらず、次回に持ち越すことが多かった。

学生の授業満足度

上記問題点が修正できなかったため、今回の授業アンケートの結果は、当初から諦めていた。ダメ教師扱いされても甘受するしかない、とまで覚悟を決めていた。しかしながら、数値的には、ⅠQ2（内容と進捗がシラバスと一致）とⅡQ6（適切な内容と量）はやや低かったものの、他の項目では大きな問題はなかった。自由意見にも、「得られるものが大きかった。」「良い授業だった」との記述が見られ、大変嬉しく思った。これは一重に、学生の度量の大きさに因るものであり、唯々感謝している。

授業改善の課題と方策

教授内容の洗練化、精選化の努力を続ける。

その他

（私見・雑感）
心の健康の授業において、「子どもの心の健康問題を早期発見し早期対応することが難しい理由（日本学校保健会）」のスライドを示した際、みな一斉に携帯端末のカメラをスクリーンに向けた。その光景には、本当に驚かされた。子どもの発育・発達に関して、問題意識を有しながら聴講している様子が伝わってきて、嬉しさと責任感を感じた。今回の受講者は、みな大人扱いをすることができ、気持ちよく進めることができた。当方は、非常勤のためこれ以上は何もできないが、受講者におかれては、どうかこのまま精進を続けて夢を叶えてほしい。どうかご発展を。

授業改善書

科目名	子ども英語
担当者	奥住 桂

授業の概要

主に小学校教員免許課程を履修する学生向けに、英語科の内容学を学ぶ授業である。併せて、自分の英語力に少しでも自身を持って教壇に立ってもらいたいと考え、英語運用能力の向上を目指し、発音のトレーニングを中心に組み込む内容になっている。

授業の問題点

平均を下回ってしまった観点としては、Q1の「授業内容への興味関心」とQ4の「授業の方法や資料のわかりやすさ」の2点が挙げられる。学生たちがこれまでの学生生活で取り組んできたいわゆる英語そのものの学習ではなく、英語史であったり、社会言語学であったり、より深い教養を求められる学習内容であったが、資料の提示方法・内容も含めて、学生の関心を引くものになっていなかった可能性がある。

学生の授業満足度

満足度に関しては、特にQ10「学ぶ楽しさ、知るよこびを実感」で5.0と満点を得ることができた。難しい内容であったものの、履修者も少なく、学生と対話をしながら進めることができ、また発音指導も丁寧に個別にフィードバックをすることができたことが、満足度につながっていると考える。

授業改善の課題と方策

難しい内容であったために、学生の興味や関心を引くことの難しさを感じた。今後は、より小学校教師（を目指す学生）の視点に立って、その知識が小学校教員になった際にどのように役立つ可能性があるのかを、具体的な指導場面や児童の実態などと挙げながら考えさせたり、これまで以上に学生同士のディスカッションなどを取り入れたりすることで、学生がより意欲的に授業に参加できるようにしていきたい。

その他

特になし

授業改善書

科目名	初等教科教育法（英語）
担当者	奥住 桂

授業の概要

本授業では、小学校における活動型の「外国語活動」（中学年）と教科型の「外国語」（高学年）についての基本的な知識と理解、さらに児童の現状に合った適切な指導方法及び児童の評価に関する知識と理解を身につけることをねらいとしている。それらの知識を基に、児童が楽しみながらコミュニケーションを図る資質・能力を育成する方法について考え、実際に学習指導案を作成し、模擬授業（マイクロ・ティーチング）に取り組む。

授業の問題点

ほとんどの項目が、全体の平均を上回っていたが、Q1「授業内容に興味や関心を持ちましたか」とQ2「シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか」の2つについては、平均を少し下回る結果になった。英語を苦手としている学生も多かったので、小学生になった気分で活動を体験できるように工夫したつもりであったが、十分ではなかった。また、履修者が80名と例年よりかなり多かったこともあり、シラバスの内容を適宜修正しながら取り組んだ。

学生の授業満足度

総合的な満足度は4.70と全体の平均（4.45）を上回ることができた。アンケートでは、授業方法についての項目が軒並み高いポイントを得ていて、特にQ7「学生からの質問などにきちんと対応しましたか」は4.70と平均（4.47）を大きく上回っていた。毎回、授業の終わりに学生が書くリフレクションの中からいくつかをピックアップして、次の授業でコメントをすることを継続したことなどが評価されたのではないかなと思う。

授業改善の課題と方策

今後は、授業内容をさらにわかりやすく提示し、学生が授業内容により関心を持てるように工夫をしたい。履修者数にもよるが、教室内での学生同士のディスカッションなど、学生が主体的に関われる場面を増やしていきたいと思う。

その他

授業改善書

科目名	教育相談の理論と方法（中高）
担当者	原口幸

授業の概要

教職過程の科目である。教育相談における基本的な理論や技法を身につけるとともに、いじめや発達障害、不登校といった学校で起こり得る問題への理解と対応について講義した。

問題対応に対する知識と、知識を活用した対応、教育相談の姿勢を獲得することを目指したため、グループワーク等の体験学習を多く取り入れた。

授業の問題点

「ノートやメモ等を取りましたか」の項目が、全体の平均と比べて低くなっている。オンライン上で事前に授業資料を配布していたこと、ワーク主体の授業であったことも加味するが、対話型の授業を展開したため、メモを取るべきポイントが曖昧であったと思われる。また、1回の授業のボリュームが多くなってしまったため、学生がメモを取る余裕がなかったことも考えられる。

学生の授業満足度

授業満足度については、どの項目も、平均を上回る得点である。

毎回のコメントシートで、授業内容を自分なりに考え、時には内省もしながら授業に取り組んでくださっていることがわかり、講師にとっても励みになった。回を重ねるごとに、教育相談の姿勢が獲得されていくプロセスがみてとれた。

上記の問題点に取り組み、慢心することなく授業改善を行っていききたい。

授業改善の課題と方策

ノートやメモを取った学生が少ないことが課題である。1回あたりの授業のボリュームが多く学生の負担が大きかったと考えられるため、余裕を持った授業構成に改善することが課題である。予習のポイントを明示し、授業内での知識伝達と体験学習のメリハリをつけることで、学生が理解して考える余裕を作り、授業内での疑問や考えを書き留める時間が作れればと思う。また、授業資料のアップロードが前日の夜になってしまったこともあったため、改善したい。

その他

自由記述では、「グループワークで模擬的にカウンセラー役などで活動できたことがよかった」とあった。「カウンセリング技法の練習がしたい」とコメントシートで頂いた意見を取り入れた活動である。学生にとって侵襲的にならないよう配慮しながらワークを行った。

最終回で、グループごとに心理教育の授業を行っていただいた。教職課程の学生ということだけあって、どの学生も質の高い授業を行ってくださった。授業構成やトピックを伝えるアイディアなど、講師にとっても学びになった。

授業改善書

科目名	家族心理学
担当者	原口幸

授業の概要

自分の家族歴の振り返り、他の家族の違いを知り、多様な家族形態があることへの認識を目指した。身近なテーマや、講師の実践経験を踏まえた架空事例を用いてディスカッションし、多様な家族を文脈に位置付けてとらえる視点の獲得を目指した。

授業の問題点

「授業を円滑に進めるための配慮はなされていたか」が、平均より低く成っている。ワークを多用したが、講義部分も含め、時間的な余裕が少なかったと思われる。また、受講生同士がグループを組んだり、ディスカッションでの意見をシェアしたりすることを円滑に進めることができなかったことも要因であると考えられる。

学生の授業満足度

「授業内容に興味や関心を持ちましたか」が4.71であるのに対し、授業満足度が4.40程度であり、学生の期待に沿えていないことも問題であると考えられる。臨床志望の学生がほとんどおらず、架空事例の理解や授業の到達目標をどのように定めるか、試行錯誤しながら授業をしていたことで、学生にとっては授業内容があいまいに感じたかもしれない。

授業改善の課題と方策

授業を円滑に進めることが課題である。グループワークの時間を十分確保するために、あらかじめグループを指定したり、グループ内の役割を決めてもらうことが考えられる。また、ワークの量を調整することも必要である。

学生満足度の向上に関しては、到達目標を明示することが必要であると考えた。そのうえで、学生の興味に応じたトピックを盛り込み、内容を適宜調整していく。

その他

授業改善書

科目名	教育相談の理論と方法（幼小）
担当者	原口幸

授業の概要

教職課程の科目である。教育相談における基本的な理論や技法を身につけるとともに、いじめや発達障害、不登校といった学校で起こり得る問題への理解と対応について講義した。
問題対応に対する知識と、知識を活用した対応、教育相談の姿勢を獲得することを目指したため、グループワーク等の体験学習を多く取り入れた。

授業の問題点

「テキストなどの資料は適切でしたか」、「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」、「授業を円滑に進めるための配慮はなされていたか」が、平均より低い結果である。
科目の特性上、講義部分の演習部分双方ともにボリュームが多く、全体的に内容を詰め込んだ授業になってしまっていたと感じる。また、90人近くの受講生がおり、全体の理解を確認しながら授業を進めることが難しく、一方的に授業を進める形になってしまったかもしれない。

学生の授業満足度

全体的に平均より低い結果である。授業内容のボリュームが多く、十分に理解し消化する余力を持たせられなかったと思われる。また、素直で知識を吸収しようとする一方で、自分で考えるよりも正解を知りたいがる学生が多い印象であった。受講者数が多かったため、グループワークのシェアのために、Microsoft Teams の投稿機能を用いたが、そのために情報量が多く、講師からのフィードバック量が足りず、「これでよいかわからない」学生が多かったのではないかと考える。

授業改善の課題と方策

本授業の課題は、授業内容の適切性と学生満足度の向上である。全体のボリュームを見直し、講義部分については予習を促す。学生の疑問が多い点を中心に授業内で講義を行う。そのうえで時間的余裕を確保し、グループワークの意図の説明や、フィードバックに時間をかけることで、知識理解と体験的理解の向上を図る。卒業後に、実際、保育士や教員として働く際のイメージをしながら授業に臨んでいただきたいと考える。

その他

授業改善書

科目名	図書館基礎特論
担当者	入江伸

授業の概要

図書館が対象とする資料が紙から電子へ変化していることの理解を深めるため、大学図書館統計(ビッグデータ)の分析し、歴史的・法的・技術的な視点からその変化を講義する。変化を分析する手法としてExcelを利用する。また、発表のためにPPTも活用する

授業の問題点

自分の学習に電子資料(電子ジャーナルやデータベース)を利用していないせい、電子資料についての基本的な理解が薄いと感じる。大学全体として電子ジャーナルやデータベースを利用する機会を設けることで、基本的な理解を深めることができるのではないか。そのためにも、図書館のデータベース講習と連携できる方法を考えたい。

学生の授業満足度

紙から電子への社会モデルの変化に興味を持ってくれた学生は比較的に満足度が高いと感じたが、電子資料全体に興味は薄いこともあり、興味を持たせることが難しかった。電子資料の利用を進めていくような課題をつくれればよかった。

授業改善の課題と方策

図書館のデータベース講習との連携を考えたが、授業が19時40分からのため、図書館の講習との連携ができなかった。うまく連携できる方法があればいいと思う。

その他

授業改善書

科目名	情報サービス演習
担当者	入江伸

授業の概要

図書館の情報サービスの概要と手法を解説し、レファレンス資料や回答するための手順を演習する。この演習では、主に Web コンテンツ・データベースなどインターネット資源を活用する。また、パスファインダーやレファレンス回答の QA 集作成など、発信型サービスを行うための基礎演習を行う。

授業の問題点

演習と発表を中心に授業を進めるため、毎時間 演習課題を出し、発表と評価を行った。しかし、発表が負担だったのか、だんだんと発表が終わってから課題を提出するようになり、発表できる学生が減ってきた。提出する課題と発表の課題を少し分けて実施したほうがよかったがしている。

学生の授業満足度

毎回レポートを提出し発表した学生は、満足度が高いと思う。
できるだけ自分で調べてほしいので、基本的なことを説明し、細かな説明を簡単にした部分があるので、授業を聞いていない学生には不親切に思われたかもしれない。

授業改善の課題と方策

毎週の課題レポートと数週間単位でまとめた発表レポートを分け、授業の進行を進めていくことを検討したほうがいい。その上で発表レポートは、全員が発表するようにしたい。

その他

発表の苦手な学生が多いと感じる。発表についての総合的な指導を行ったほうがいいと感じている。

授業改善書

科目名	博物館経営論
担当者	奥田 環

授業の概要

博物館の行財政、組織や職員など基本的な運営状況を把握した上で、ミュージアム・マネジメントの視点に立った博物館経営の理論と実践を講義する。
また倫理規程や危機管理など、現場に即した学芸員の職務について具体的に解説する。

授業の問題点

学生のうち、特に 1 年生は、これまでの博物館体験が決して多くはなく、博物館概論の履修とともにようやく博物館について多面から学び始めたところである。
したがって、現場の実情についてもいささか想像が及びにくく、理解があやふやになる可能性があると考ええる。

学生の授業満足度

学生の授業内容への興味・関心や授業満足度は総じて高かったので、これまで知っているようで実はきちんと知らなかった博物館について、法的側面や定義・使命を知り、内容について専門的に学び始めたことが、新鮮に感じられ、次第に理解が深まっていく過程を楽しみと感じてもらえたのではないかなと思う。
「先生の経験により実感が湧きやすく分かりやすかったです」という感想に、喜びを感じた。

授業改善の課題と方策

上記の学生の感想からも、「具体的に解説する」「学生の理解が深まるような説明をする」「事例を多く上げ、博物館により親近感を持てるように導く」ことの方向性と有効性を再確認できた。
学生には多くの博物館の見学を推奨しており、今後は学生の体験を発表してもらい認識を共有し、双方向のコミュニケーションをとりながら、授業を進めていきたい。

その他

学芸員課程を履修している学生は、総じて真面目で授業に積極的に取り組んでいる。
博物館について興味深く講義を聴いてくれるので、やり甲斐を感じている。

授業改善書

科目名	博物館資料保存論
担当者	奥田 環

授業の概要

博物館における資料保存の意義と収蔵環境・展示環境について学び、資料の保存方法を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得して、博物館資料の取り扱いと保存に関する基礎的能力を養えるよう講義する。さらに、日本古来の伝統的資料保存方法、予防保存としての IPM の実施、資料保存のための危機管理と災害対策、環境保護と博物館の役割などについても解説する。

授業の問題点

予習、復習はそれほど多くの時間を行っているわけではないが、質問や発言も比較的多く、講義もよく聴いているので、特に問題は感じなかった。しかし伝えたいことが多すぎ、資料も多量になり、時間内に収めるため、最後は駆け足になったり、次回に持ち越したり、やや消化不良の部分もあったかもしれない。

学生の授業満足度

総じて、大変しっかり講義を聴け、理解度も高く、授業アンケートによる満足度も高かったのも、良かったと思う。博物館資料保存論は、実は博物館の資料について特化したものでは決してなく、日常、身の回りのモノに対する基本的な取り扱いを学ぶことに他ならないので、自分の生活や体験に照らし合わせてわかりやすく理解が進んだものと考ええる。

授業改善の課題と方策

情報量、伝達量が多すぎても消化不良で疲弊してしまうので、適量を的確に、わかりやすさ、知ることの面白さを重視して、学生にとって楽しみとなる講義を心がけたいと思う。今年度、少々実習に近い「実際にやってみる」ことを試したら、学生の盛り上がりで教室内の空気が活発になったので、今後も「実例を前に、手を動かす」ことを増やしてみようと思う。

その他

学芸員課程の受講者は総じて真面目で、よく講義を聴き、反応も良いので、やりがいを感じている。

授業改善書

科目名	博物館展示論
担当者	奥田 環

授業の概要

展示の歴史・諸形態・手法・注意点、展示による教育活動を学び、展示の理論と方法を理解した上で、展示製作の知識・技術を習得できるよう講義する。また様々な展示解説の手段を知ることにより、展示解説者としての素養を身に付け、展示を通じた教育活動にも携われるよう指導する。

授業の問題点

展示の基礎や手法、展示作成における注意点、展示を見学する際のマナーなど、学生自身が実際に博物館を訪れた際により理解が深まり、親近感を持てるように講義したつもりではあるが、伝えたいことが多すぎて、文字と口頭で説明しがちであった。「見る」ということに焦点を当てて、もう少し図や画像の提示を増やして、視覚から理解する必要もあるように感じた。

学生の授業満足度

これまで見てきた博物館展示の成り立ちや裏側を知ることができたからか、大変よく興味関心を持って講義を聴いてくれていると手応えを感じた。総じて満足度は高かったようであるので、やはりわかりやすく具体的な例を示しながら、学生を惹きつけられる内容で講義を構成していきたいと思う。

授業改善の課題と方策

予習、復習の時間はどうしても少なくなるようであるが、博物館は現場に行くこと、展示を見ること、自分自身が体験することが重要かつ基本的なことであるので、博物館訪問についてより積極的に推奨していかなければならないと考える。

その他

学芸員課程の受講者は総じて真面目で、よく講義を聴き、反応も良いので、やりがいを感じている。

授業改善書

科目名	情報サービス演習
担当者	川瀬康子

授業の概要

この科目は、図書館における情報サービスのなかでもレファレンスサービス（質問回答）を実践的に取り組む演習科目である。そのため、図書館で扱う情報資源の種類や性質を理解し、使いこなすこと目的としている。実際に質問課題に取り組み、その結果を発表する形式で実施した。

授業の問題点

授業アンケートの結果によると大半の項目が4点代であったが、学習態度の評価における質問や発言についてのみ3点代と低いものであった。リアクションペーパーなどの使用も含めて潜在的な声を拾い上げることが必要と考える。

学生の授業満足度

授業満足度における3項目はすべて4.5点以上の評価であり、学生にとって概ね満足な結果となったと思われる。今後も、実践の調べ物に取り組み結果を出すことによって、学生の知識や技能習得の自信に繋がるよう取り組みたいと思う。

授業改善の課題と方策

授業前半には授業内容の理論部分を紹介し、後半には実際に図書館で参考図書を用いた調べ物の実践と発表を行っている。実践には理論部分についての理解が必要となるため、内容の復習問題の配布などを行うことを検討している。

その他

授業改善書

科目名	博物館実習
担当者	高梨真行

授業の概要

春期は博物館・美術館等で実施される実習に先立って、実践的な知識と技術の習得を目的に設定し、特に実際の現場では、いかなる問題を抱えながら、どのような対応をしているのか、といった視点から実習に際して必要な事柄に対して即効性の高い応用力を養えるような実技中心の内容とした。また、実習を受入れる博物館園側の状況や、博物館業界における実習の意義と目的を説明し、館園での実習に際しての、履修学生の心構えについて理解を促進させた。

授業の問題点

アンケート結果において、特に大きな指摘はなかったと判断される

学生の授業満足度

アンケート結果は回答数が少ないため正確かは疑問があるが、概ね満足していたと判断される。

授業改善の課題と方策

履修学生が2名であり、実習前ということもあり、実技内容が多かったため、一人一人きめ細やかな指導が出来たといえる。また、実習先についても学生一人一人の希望を確認しながら、実技内容を各館に対応させる形で実施できた。また、授業の内容についても正確に伝えられたように思われた。また秋学期が始まるまでの期間における実習受け入れの内諾を各館から得ることができた。

秋期は、学生を交えた活発なディスカッションが行えるように、各自の実習先でのトピックを多く取り上げることで、アクティブな授業運営が出来るように努力したい。

その他

当該科目は、館園実習を前後して基礎的知識と技能の取得および応用を学ぶ内容であるが、本年度の履修学生は学習意欲があり積極的で、課題についても真摯につとめに取り組まれていたと判断される。

授業改善書

科目名	児童サービス論
担当者	中川理恵子

授業の概要

「児童サービス」は、図書館が児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、読書への誘いを目的として行う様々なサービスを指します。図書館で行われる、お話し会、ブックファースト運動、ブックトークなども児童サービスの一環です。この授業では、「児童サービス」について概観し、児童サービスを行うために必要な知識を深めます。児童文学の歴史、昔ばなしと子どもの関係、絵本・紙芝居の特性についても講義します。

授業の問題点

全ての設問の答えが、平均以上のポイントであるため、大きな問題点はなかったと捉えている。

学生の授業満足度

満足度についての設問の回答をみると、概ね満足してもらえているのではないかと。積極的に授業に参加していた学生の様子は、生き生きとしていたと感じている。

授業改善の課題と方策

資格にかかわる科目のため、知識を伝える講義形式の授業となった。このため履修者の発言の機会が少なかった。隔年開講のため、履修者の人数が比較的多いので、工夫をして発言の機会を設けたいと考える。

その他

より双方向性のある授業に出来るとよいのではないかと考えている。

授業改善書

科目名	国語科教育法Ⅲ
担当者	橋本和顕

授業の概要

中学校国語科の教材や学習指導に関する理論的なアプローチと実践授業に関する授業づくりの実践的なアプローチを行う授業である。前者は、国語科教材論をもとに、読む、書く、話す、聞くの4技能の育成ポイントについて学び、後者は、模擬授業の学習指導案づくり、模擬授業の実施、授業協議会での討論を行い、実践的に学ぶ授業である。

授業の問題点

昨年度からの継続授業であるので、その積み重ねの上に、進めていった。昨年度課題に挙がらなかった項目について、今回初めて、やや低い評価になってる項目があった。教材資料や授業の満足感にあたる項目だ。その原因として、模擬授業の教材文を印刷する際、高等学校の教材文を印刷してしまったために、教材文の難易度が高くなってしまった点にあると捉えている。ただ、受講者の皆さんは、学んだ理論を繋げながら、協力的に授業づくりに取り組んでくれた点、よく努力して取り組んでくれ、成果に繋がっていた。

学生の授業満足度

教材文の難易度が上がる中、よく取り組んでくれた。特に古典教材に対する理解が十分でないまま、模擬授業に入ってしまった感じがあったので、各自の経験した中学から高校時代の授業観と違う学びの価値や推進に時間がかかった。

そういう意味では、秋の学びに繋がるので、今回の不十分な理解を深めていき、中学校から、高校への授業づくりの高度化に向け、専念していきたい。

授業改善の課題と方策

今回明らかになった課題は、古文教材に関する知識先行の説明型の指導方法と漢文教材に関する白文や書き下し文に偏った作業的な指導方法にあることが分かった。各自の高校時代の授業経験が偏っていたために、思考力や想像力を発揮できる授業イメージがもてていなかったことに課題がある。怪我の功名ではあるが、秋の国語科教育法Ⅳでは、この明らかになった課題追究、理解の深化に時間を取ることができるので、各自の古典教材へのアプローチについて、振り返り、考え直す時間を充分に取る必要があると考える。

その他

授業改善書

科目名	図書館概論
担当者	村上郷子

授業の概要

テキストを中心に図書館情報学の入門として、生涯学習の観点から図書館活動の各領域に関する多様な知識や概念の基礎的なコンセプトを総合的に理解することをめざす。必要に応じて、ビデオ視聴、グループディスカッションなども取り入れる。授業の初めに、前回の授業の簡単な確認テストを行うことにより、知識の定着をはかる。

授業の問題点

- ・「授業への学習態度」について、大半の学生の「ノートやメモ等を取りましたか」は 4.80、「出席や課題提出等はしましたか」は 4.67 と自己評価が高かったが、「質問や発言をしましたか」の項目は 3.53 と低かった。
- ・授業内容や方法について平均と比べて学生の評価が低かった項目は、「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」が 4.53、「授業を円滑に進めるための配慮はなされていたか」が 4.47 であった。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」は 4.73、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は 4.73 であった。平均と比べて高かったが、引き続き頑張りたい。

授業改善の課題と方策

- ・本授業では毎回回の授業レジメを配り、授業前に予習をし、毎回授業前にクイズがあるため、必ず復習をするよう促している。また、遅刻や欠席が多いと得点する機会を失う。今後も自発的に予習復習をするよう促していきたい。
- ・授業を円滑に進めるために、毎回の授業内容に心を配り、学生のレベルや知的好奇心に訴えるような質問を投げかけ、授業を円滑に進めるための努力を続けたい。
- ・視聴覚資料を使った分かりやすい授業やディスカッションなど、学生の興味関心を促す授業をしているが、今後も興味を持てるような授業運営に尽力したい。

その他

授業改善書

科目名	情報資源組織論
担当者	村上郷子

授業の概要

図書資料は、主題や書誌情報に基づき分類・整理され、利用者が資料を容易に検索・アクセスできるように配架される。このような資料と利用者を結びつける「きまり」としての目録法、分類法、件名法を取り上げ、その意義や機能等について学習する。主に講義形式だが、適宜グループ学習やビデオ教材等も取り入れる。毎回授業の初めに、前回の授業の簡単な確認テストを行うことにより、知識の定着をはかる。

授業の問題点

- ・「授業への学習態度」について、大半の学生の「ノートやメモ等を取りましたか」は 4.82 と自己評価が高かったが、「授業中の質問や発言をしましたか」の項目は 3.59 と低かった。
- ・授業について相対的に学生の評価が低かった項目は、「授業を円滑に進めるための配慮はなされていたか」及び「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」が 4.41、「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」が 4.32 であった。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」は 4.59、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は 4.68 であった。

授業改善の課題と方策

- ・本授業では毎回回の授業レジメを配り、授業前の予習をし、毎回授業前にはクイズがあるため、復習をするよう促しているが、今後も自発的に予習復習をするよう後押ししていきたい。
- ・授業の方法について、授業内容そのものが学生にとってなじみが薄いという性質上、授業の内容をかみ砕き、毎回の授業内容に心を配り、学生に考えさせるような質問を投げかけ、授業を円滑に進めるための努力を続けたい。
- ・授業内容の分量やスピード等は、学生の理解度を確認しながら、適切かつ有効に授業時間を使っていきたい。

その他

授業改善書

科目名	図書館情報資源特論
担当者	村上郷子

授業の概要

本授業では、グループに分かれて、さまざまな専門・公共図書館へ行って、資料の収集・保存・に関するフィールド調査を行い、その評価を行う。フィールド調査には、現地視察や職員へのインタビューなどが含まれる。授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。本授業は、座学の授業ではなく、アクティブラーニングを目的とした授業である。

授業の問題点

- ・「授業への学習態度」について、大半の学生の「出席や課題提出等はしましたか」は 5.00 と自己評価が高かったが、「質問や発言をしましたか」の項目は 3.80 と低かった。
- ・授業について、回答者が 10 人中 5 人ではあったが、相対的にすべての項目で平均よりは低かった。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」は 3.80、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は 3.80 であった。

授業改善の課題と方策

- ・本授業では、訪問する専門図書館へアポを取る段階で、断られたりと課題が出た班もあった。そのような失敗も含めての授業であるが、今後も前向きかつ自発的に目の前の課題に取り組めるよう後押ししていきたい。
- ・授業内容そのものが、学生同士で物事を進めていくという学生にとってなじみが薄いアクティブラーニングの性質上、授業における学生へのサポートをさらに心がけ、毎回の授業内容に心を配り、授業を円滑に進めるための努力を続けたい。
- ・アポ取りやプレゼン資料の作り方、プレゼンの仕方など、学生の理解度を確認しながら、適切かつ有効に授業時間を使っていきたい。

その他

非 常 勤 講 師

經 済 經 営 学 部

授業改善書

科目名	国際関係論
担当者	石塚勝美

授業の概要	国際関係論の基礎理論である現実主義と理想主義を学び、それが国際社会とりわけ国際紛争解決や国際安全保障、さらにはそれにかかわる国際政治や国際機構の中でどのように反映されているかについて学ぶ。 また授業の可視化を心がけ DVD を使用した授業も心がけた。
授業の問題点	受講生の数が多いのでどうしても一方的な講義形式になってしまう。その結果アクセントの少ない、平易な授業になりがちであった。学生が 90 分集中して参加できるような教え方が必要である。 また市用意教科書を最後まで購入しない学生が複数いたのも問題であった。
学生の授業満足度	アンケート結果を見ると学生は満足してくれていたように思える。とりわけ国際関係論に興味のある学生は最前列で聞いてくれ、授業の後にも積極的に質問してくれたのは大変良かったと思う。また最終課題としてのレポートにおいても関心のある学生も多かったことが分かった。
授業改善の課題と方策	受講生数が多くても active learning を含ませた授業を心がけるべきである。グループでディスカッションさせるとか、様々なグループワークを取り入れるべきであると考えた。 学生理解のためにもう少しケーススタディーを多く盛り込んでも良い。
その他	学生の授業態度がとても良かった。

授業改善書

科目名	情報処理(表計算)
担当者	松田 純一

授業の概要	MOS Excel 2019&365(一般レベル)の資格試験に合格するのに必要十分なスキルをつけてもらうことを目的とし、出題範囲の内容をすべて指導した。教室に導入された授業支援ソフト「CHieru」を活用し、必要に応じて教師の画面を学生 PC 画面に映すとともに、復習と理解度確認のために小テストを 7 回実施した。例題は、教科書的なものだけでなく、社会に出て役立つような実践的なデータや最新の統計データも取り入れ、具体的にどう役立つかがイメージしやすいようにした。
授業の問題点	多くの項目で標準以上の評価が得られたと考えているが、以下の問題点がある。 ・小テストの時間を 15 分取っているが、特に最終回に近い授業では問題の難易度が高くなり、時間が足りない学生が相当数いる。 ・一部の初心者にはついていけないことがある。 ・一部の優秀層には、内容が物足りない、もっとたくさん教えてほしい、という要望がある。 ・ある意味やむを得ないが、受講人数が多い授業の方が低評価の傾向にある。
学生の授業満足度	授業の満足度は、4.46～4.83 ポイントであった。概ね、標準以上の評価をいただいていることから、次回も、基本的には授業内容を変えずに継続していきたい。
授業改善の課題と方策	・授業の教材を前日に公開して予習できるようにしておくことが好評だったため、今後も続けたい。自主的に学べる学生は主体性に任せ、理解が不十分な学生を重点的に指導する。 ・授業への興味や関心をさらに持ってもらうように、学生に身近な話題や社会人になっても使えるような話題、時事問題に関するデータを用いた例題を使うように工夫したい。 ・高度な内容を求める学生には、追加の復習教材を充実させるなどして、学ぶ意欲をさらに向上させるようにしたい。
その他	・今学期から、毎回の授業で感想や要望を書いてもらうようにした(任意記載)。詳細な要望や改善点をたくさん提案してもらったので、今後の授業に活かしたい。例えば、個々の授業の教材だけでなく、あとから参照しやすいような「まとめ教材」の作成を検討する。 ・大学で提供している Office365 の仕様変更に伴い、秋学期から、自宅学習が難しくなる学生が増えることが予想されるため、自宅では座学中心で学習し、実習は大学で行えるように授業内容を若干変更する予定である。

授業改善書

科目名	情報処理(表計算)
担当者	松田 純一

授業の概要

MOS Excel 2019&365(一般レベル)の資格試験に合格するのに必要十分なスキルをつけてもらうことを目的とし、出題範囲の内容をすべて指導した。教室に導入された授業支援ソフト「CHIeru」を活用し、必要に応じて教師の画面を学生 PC 画面に映すとともに、復習と理解度確認のために小テストを 7 回実施した。例題は、教科書的なものだけでなく、社会に出て役立つような実践的なデータや最新の統計データも取り入れ、具体的にどう役立つのかがイメージしやすいようにした。

授業の問題点

多くの項目で標準以上の評価が得られたと考えているが、以下の問題点がある。

- ・小テストの時間を 15 分取っているが、特に最終回に近い授業では問題の難易度が高くなり、時間が足りない学生がいる。
- ・教師画面の共有がうまくいかない学生がいる。
- ・席替えの実施に疑問を抱く学生がいる。
- ・受講生が最も少ない 2 限の満足度が低い(アンケート回答者の 2 限の割合は全体の 1 割強)。なお、2 限の学生は、成績は比較的良好であった。

学生の授業満足度

授業の満足度は、1, 3, 4 限では、概ね、標準以上の評価をいただいた。2 限のみ満足度が標準以下であった。

授業改善の課題と方策

- ・授業が難しいと感じる学生が一定程度いることから、ついていけない学生のフォローに力を入れたい。CHIeru を通して小テストの回答状況をリアルタイムに確認できるので、気づいた点を個別に指導する。
- ・授業への興味や関心をさらに持ってもらい、学ぶ楽しさや知る喜びを実感できるように、学生に身近な話題や社会人になっても使えるような話題、最新のデータを用いた例題を使うように工夫したい。
- ・同じ内容を教えているにもかかわらず 2 限のみ満足度が低い原因は不明であるが、学生の理解状況をきめ細かく観察するように心がけたい。

その他

- ・毎回の授業で感想や要望を書いてもらうようにした(任意記載)。詳細な要望や改善点をいくつも提案してもらったので、今後の授業に活かしたい。例えば、前期提案のあった、個々の授業の教材だけでなく、あとから参照しやすいような「まとめ教材」が欲しいという点に関して、今回、関数まとめ教材を作成した。参照している学生も何人か確認できたので、今後も続けていきたい。
- ・大学で提供している端末の Office が次年度よりバージョンアップされる。資格試験の出題範囲はバージョンにより若干変わるため、授業内容を合わせるように変更する予定である。

授業改善書

科目名	科学史
担当者	宮崎正峰

授業の概要

科学とは何かをまず歴史をふまえることから考え、わたしたち人間の生活にそれらがどのような役割を果たしてきたのかを具体的な事例をみていく。そうした歴史の中でそれぞれの学者、研究者たちが何をどのように考えてきたのかを見ていくことで科学的なものの考え方を講義する。さらに基本知識を身につけるだけでなく、科学的なものの考え方を実践してみることによって、科学的思考を養うことにもチャレンジしていくことを目的としている。

授業の問題点

質問や発言をしましたが、という問いに対する回答が全体の平均よりも少し低かったことを改善していくべきである。200 名という大人数であるので、なかなかすべての学生に発言を促すことは難しいが、なるべく多くの機会を設けて積極的に参加していつてもらいたいと思う。

学生の授業満足度

学生の満足度としては DVD を使った説明なども含めて高かったといえる。今後もなるべく板書に加えて視覚的な説明も用いていきたいと思う。1 名のみ課題に取り組む時間があまりに短いという意見があり、これについてはアンケートよりも前に丁寧に授業内ですでに説明した。分析の結果、9 割以上の履修者は課題に十分な文章を書き、しかも満点をとっているということからも課題時間が短いという指摘は一般的には該当せず、ごく一部(あるいは 1 名)の感じ方だと思われる。課題も試験も時間制限があるものであり、自らが努力してスピード感をつけていくという努力も大学では重要なことのひとつであると思われる。

授業改善の課題と方策

授業の中で、何名かを指名して答えてもらう時間も取り入れたが、皆さんは積極的に回答してくれるので、こうした時間も今後増やしていきたいと思う。また、DVD などでの説明、補足も好評なので、内容に沿ったものを今後も取り入れ、さらに増やしていきたいと思う。

その他

授業改善書

科目名	キャリアデザインⅠ
担当者	井島由佳

授業の概要

キャリアカウンセラーとしての実務経験を活かし、大学に入学してこれからの4年間をどのように過ごすか、何を目標としていくかなど、大学生生活を充実させるために、キャリアについて考えるための講義と演習を行います。キャリアデザインの意味と自分と大学、社会を捉え直しながら、主体的なCareerや生き方を検討する時間としていきます。

そして、キャリアカウンセリングやキャリアセミナーでの経験を踏まえ、自身の性格や行動パターンを知るための自己理解と自己認識についての手法を講義しながら、趣味や強みを把握し、それを伸ばす方法などを演習から考えられるよう指導をしていきます。

授業の問題点

- ・同日同じ科目を3コマ担当していますが、アンケートの結果は時限によって少々異なる結果となりましたが、概ね学生満足を得られました。
- ・3コマともに非常に人数の多い授業であるため、出席確認が困難であることからキーワード文を出していますが、文章が長いと学生からの指摘がありました。
- ・授業キーワード文は3コマ終了後に提示していますが、学生が見られる資料フォルダが時限毎にできれば、1コマずつ資料提示が即時できると考えています（3コマ終了後にしたのは、昨年度不正があったから）。
- ・人数が多いこともあり、トイレや電話に立つ者が多く、そのまま帰ってこない学生がいるため座席指定を提示すると退席者は減少しました。

学生の授業満足度

- ・3コマともに概ね満足を得ていると見ました。
- ・基本的に事例は身近で学生がイメージできるものを選び、自分に当てはめてキャリアを考えられるように努めています。

授業改善の課題と方策

- ・課題は授業の内容ではなく、出席確認方法とキーワード、資料提出の仕方となります。
- ・出席確認は100名を超えても点呼するか、3回目以降から座席指定をすることで解決していきます（出席確認システムがあると助かります）。
- ・キーワードは時事ニュースを取り上げていますが、極力短くできるように設定します。
- ・資料提出は、現在のところteamsのため個人で解決はできませんが、学生に理解を促し全ての授業が終わってから提示することを続けていきます。

その他

今年度は教室の改修・増加があり、大人数が収容できる教室を用意いただいたことから、抽選をしなくても希望学生を受け入れることができて助かりました。ありがとうございます。

授業改善書

科目名	キャリアデザインⅡ
担当者	井島由佳

授業の概要

就職や公務員、教員試験などに向け、「就職活動」の準備期間として必要な知識や情報を取り入れていけるよう講義と演習を行います。そして、就職活動を始めることを目的として、その先に必要なことを考えるために、ワークやグループディスカッションなどを行っていきます。最終的に、自分の目標設定が明確になっていくよう指導をしていくものです。

授業の問題点

- ・同様の授業を2限と4限で行っているが、かなり異なる評価となる
- ・1回目の授業で意識合せを行っているが、2回目以降に履修者が増える

学生の授業満足度

- ・2限と4限では満足度に関きがある

授業改善の課題と方策

- ・2限と4限では満足度に関きがあるため、統一性を重視していたが、各時限の状態に合わせて少し変化させることも必要と考える

その他

- ・授業の提出物をメール以外で受け取れるシステムがあると学生の利便性が増すと考える

授業改善書

科目名	日本経営論
担当者	大野貴司

授業の概要

本講義では、経営戦略の視点から日本企業の現状と課題について明らかにすることにより、日本企業ならではの経営方法である日本経営論について、その姿を明らかにすることをその目的としている。

授業の問題点

前列に着席して受講する学生と中列から後列に着席する学生とで受講態度に明確な違いが見られた。中列から後列に着席していた学生（女子学生除く）については私語こそなかったものの、遅刻や居眠り、スマホいじりが常態化していた（遅刻は減点であることとを通告し、遅刻者には出席カードを配布しないなどの措置を講じることにより激減した）。講義では小テストを行っていたが、ヤマを張りやすいようにヒントを与えていたので、そのヒントさえ聞けば小テストは満点を取れるようにしていたことも中列から後列に着席していた学生の参加意欲の低下につながったものと思われる。次年度は小テストの難易度を下げながらノーヒントとすることにより、受講者の参加意識を高めたい。

学生の授業満足度

学習態度

- ・Q4 のスコアは平均以上である。
- ・Q1～3 のスコアは平均以下である。

授業内容について

- ・Q1～3 すべてのスコアが平均以上である。

授業方法について

- ・Q4～8 すべてのスコアが平均以上である。

授業満足度について

- ・Q11 のスコアは平均以上である。
- ・Q9～10 のスコアは平均以下である。

5項目が平均以下という宜しくない結果となった。

回答は 23 名であり、アンケート実施日に出席した学生のうち 15～6 名はアンケート未回答であり、彼らがアンケートに回答したならばスコアはもっと低くなったのではないかと考えられる。

授業改善の課題と方策

- ・後列受講組の授業態度の改善（指名して答えさせるなどの方法を採用しても居眠りをされてしまったはどうにもならない）。
- ・自宅学習時間の増加（レポートを成績評価に加味するなど）。
- ・グループワーク、プレゼンなど学生が居眠りせず前向きに授業に取り組める要素を成績評価に付加する。ただし、導入には十分な検討が必要であろう。

その他

今年度は 3 年生の受講が少なく、受講者数が昨年度よりも大幅に減り、「例年通り」となった。半数近くの 3 年ゼミが月曜日開講であることを踏まえると、次年度も金曜日に授業を設定した場合は受講者数はそうは変わらないものと予想される。次年度はもう少し狭い教室とすることにより学生にも緊張感を与えることができるのではないかと考えられる。受講意欲の高い学生が多かった昨年度と比べて課題の多いタームであった。

授業改善書

科目名	特殊講義 I（情報技術と活用）
担当者	大屋 伸彦

授業の概要

情報リテラシーとデータサイエンスの基礎知識を概説した。情報リテラシーについては、コンピュータ発達の歴史から ICT 活用事例、インターネットやネットワーク、セキュリティなどの基本的な仕組みを説明した。データサイエンスのリテラシー教育として、データ及び AI に関する基礎を説明するとともに、マーケティングや製造業など社会での活用事例を通して、データサイエンスを活用することの意義を理解できるよう授業を行った。

授業の問題点

情報技術やデータサイエンスの領域は広範で講義資料の量も多くなった。座学中心で一方通行の授業になっていたため、学生の興味・関心を引き出すことができていなかったように思う。授業内レポートで学生の理解度を確認したが、大半の学生は授業で説明した要点を理解できておらず、消化不良気味になっていた。

学生の授業満足度

いずれの評価項目も平均点を下回った。授業中に私語や居眠りをする学生も散見され、学生の興味・関心を引き出すような授業ができていなかったように思う。原因は授業の内容が難しすぎたことと、資料のボリュームが多くスピードも速かったことがあると思われる。

授業改善の課題と方策

情報リテラシーは広範にわたるが、授業は網羅的に説明するのではなく、回ごとにポイントとなる部分を集中的に説明するように工夫する。さらに学生の理解度を確認するため、授業のポイントについて学生に資料の読み上げをしてもらい、あるいは教員から学生に質問するなどして、学生の学習意識を高めることができるよう改善していきたい。

その他

特になし

科目名	旅行業法
担当者	小川 昭吾

授業の概要

本授業は、旅行業（旅行会社）に関する法律について、消費者との関係性を中心に理解を深めていくことを目的としている。旅行会社の特徴は形のない商品を扱うことから特に信用が重視される点を理解し、旅行会社の業務全般のを知り、旅行業務取扱管理者資格取得に必要な項目にも触れる。旅行ビジネスの実務や幅広い用語とその意味を知ることによって旅行業へ興味が増し、旅行業法の理解がさらに深まることを目的としている。

授業の問題点

旅行業法の項目を理解し覚えるということは目標とせず、なぜそのようなルールが必要か、意義は何か、消費者保護にどのように役立っているか、消費動向の変化に対してどのように変わってきているのか、自分は消費者となった場合にどのようなことに注意すべきなのかといった観点で理解を深める授業を目指している。
法を理解するうえで、一定程度覚えるべき項目があり、それを短期で記憶すべき方法についてはいろいろ工夫が必要になる。授業の中で旅行業法の練習問題を提示し、学生に問いかけ、解を考えることなどを通じてわかりやすく学ぶ機会とする。

学生の授業満足度

アンケートによれば満足度は平均に少し足りないレベルと認識する。
旅行業法に関しては、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか？」上記の問いに対するレベル上昇を意識して授業を進めたいと考えている。
学んでいる法律を遵守することによって、旅行業者がどのような企業活動を行い、消費者（旅行者）がどのようにメリットが享受できるのか、消費者の意識の欠如によってどのようなデメリットが生じるのかをきちんと理解することが、授業の満足度につながると考えている。自身でもそのための検討を繰り返し行っていきたい。

授業改善の課題と方策

- 旅行業への興味を増加させる
授業項目によっては、ボリュームが少なめの時に、時節にあった旅行関連のトピックスなどについて背景、実情、対策などについて触れていく。
- 法律の意義を分かりやすく解説し、ハードルを下げる
法律の本来の意義・目的、実情を踏まえた法の改正などを丁寧に解説する。
また、記憶することよりも意義やその理解に重点をおく。

その他

ある程度興味の持てるテーマだったり、必要に迫られていない限り、1 時間半の授業を集中して聞くことは多くの学生にとって難しいと考えている。毎回ではないが、前半 30 分と後半 50 分に分け、本題のテーマとは異なるが関係性の高い話題を提供しつつ授業を行うなどの工夫は常に行っていきたい。

科目名	観光マーケティング論
担当者	小川 昭吾

授業の概要

本授業では、マーケティングの基本を観光業界の事例に学びながら、どうすれば多くのお客様を誘客・集客でき、その地域への観光関連消費額を増やすことができるのかを考える。全く資源のない所でもアイデア次第で新しい観光素材が創造でき、どのように地域経済に貢献できるかを映像も使って実感してもらう授業である。
同時並行で、成功例が結果としてどんなマーケティング理論に結びつくのかを考えることもねらいの一つとしている。

授業の問題点

アンケートにある「あなたの学習態度」Q1～Q4 の評価が平均点より 0.25～0.68 低く、改善すべき点と考えるが、PwB 資料は Team's に掲載し、ノートやメモは取らなくていいことや質問や発言を求めることが授業の開始時よりだんだん減ってしまうことを反省点としたい。期末試験の結果を見ると、もう少しマーケティング理論について、わかりやすく解説し、理解度をチェックする流れを作っていく必要を感じる。
これからも講義に加え、短時間でも映像を使って、観光の現場をみることで親近感や自身の参画意欲につなげ、理解度を高めていくように持っていきたい。

学生の授業満足度

アンケートによれば満足度は平均に足りないレベルと認識する。
販売等のアルバイト等を行っている学生からは、お客様の心理が少しわかるようになったといった声も聞くが、マーケティングと聞く敷居が高く感じる学生が一定程度いることは否めない。
授業を受けて得るところがあったと感じるために、参画意識につながる内容になるよう、さらに工夫していきたい。

授業改善の課題と方策

- これまで評価の高かった観光マーケティングの実例を掘り下げていく。
最後に、授業で印象に残った内容について学生に書いてもらっている。
その内容をさらに掘り下げ、同じカテゴリーの項目を授業に加えていきたい。
- マーケティング用語の解説において、これまで以上に絞って、実例を挙げわかりやすく、できるだけ双方向で進めていきたい。

その他

100 名弱の学生が、細長い奥行きのある教室で講義を聞いている状況となり、座席が前方の学生には質問をしたり、アイコンタクトをとれたりする状況にあるが長くは続かない。また、後方の学生はあまり緊張感なく、寝ている学生も散見される状況となる場合がある。
座席が前方の学生とは、毎回、質問や発言が増やし、継続するように意識する必要である。また座席が後方の学生とのコンタクト方法について考えて工夫してみる。

科目名	マーケティング・リサーチ
担当者	織戸 恒男

授業の概要

マーケティング・リサーチを戦略的思考のフレームワークに位置づけた上で、基本的な考え方を明らかにし、担当教員の広告会社マッキャン・ワールドグループ及びインターネット調査会社 GMO リサーチ社でのリサーチ実務経験に基づいて、マーケティング・リサーチの意義と役割、企業のマーケティング活動との関係性や課題を講義する。
また、マーケティング・リサーチを実施するための基本的な知識を習得するために、調査設計・企画書作成から実査、分析・レポート作成に至るまでの演習を行い、調査・分析結果から導き出されるマーケティング課題解決のためのアクションプラン構築を、担当教員のビジネス実績に基づいて指導する。

授業の問題点

担当教員の自己反省として、講義 1～8 回の座学形式が履修生に難解で冗長な印象を与えた。

学生の授業満足度

授業アンケートの結果は、すべての評価項目において高いスコアであり、特に「全体的な満足度」は『5.00 (n=6)』と最高値であった。

授業改善の課題と方策

講義 9 回以降の演習形式に備えて、「調査設計・企画書作成、実査、集計・分析、レポート作成、マーケティング課題解決のためのアクションプラン構築」の予習を兼ねたワークショップを、一部時間を割いて取り入れ、難解で冗長な「マーケティング・リサーチの基本的な知識」修得のモチベーションを高める工夫をしたい。

その他

特になし。

科目名	消費者行動論
担当者	織戸 恒男

授業の概要

企業のマーケティング活動をより効果的・効率的に実施するためには、消費者の心理や態度・行動についての確に分析し理解する必要がある。この講義では、担当教員の広告会社マッキャン・ワールドグループ及びインターネット調査会社 GMO リサーチ社でのマーケティング実務経験に基づいて、消費者の購買行動を理解することの意味と意義、分析フレームについてマーケティングの観点から考察していく。
また、近年マーケティングの領域で行われている「ブランドリフト調査（消費者の態度変容測定）」を実施するための基本的な知識を習得するために、調査設計から分析・レポート作成に至る演習を行い、消費者行動の概念理解にとどまらないビジネスの現場で活用できる技法を、担当教員の实務経験に基づいて指導する。

授業の問題点

消費者行動の理論やモデルを解説することに力点を置いてしまい、履修生がその理論やモデルを並列的な理解にとどめてしまったことが担当教員の自己反省である。

学生の授業満足度

授業アンケートの結果（n=3）は、すべての評価項目において高いスコアであった。

授業改善の課題と方策

消費者行動の理論やモデルを相互に関連付け、企業のマーケティング活動の講義回においては、その理論やモデルをマーケティング実践へと架橋する工夫をしたい。

その他

特になし

科目名	環境経済学
担当者	小島望

授業の概要
環境問題を扱う学問では日本の高度経済成長の犠牲として、公害問題や自然破壊が生じたという言説が一般的である。しかし、本講義では、公害に苦しむ人々土台にして、あるいは様々な生物のジェノサイドのうえに成り立っていた経済成長であったという認識にたつ。このような考え方にに基づき、環境問題を解決するための経済学の一分野である「環境経済学」を扱う。 環境経済学は、環境問題を外部性の問題（外部不経済）として捉える学問であるが、実際の環境問題においては、市場経済からのアプローチのみで説明・解決できることはそう多くはない。そのため、本講義では、環境経済学的視点を環境問題を可視化させるための有力な手段のひとつとして中心軸におき、多面的・多角的な考察を試みる。具体的には「野生動物への餌付けが人間社会に与える影響」「2兆円市場ペット産業の闇」「水俣病」「原子力発電が引き起こす社会の分断」を主な題材とした。
授業の問題点
●本講義の本来のかたちであるグループワークの実施ができた結果、受け身の授業ではなくなり、積極的に意見する受講者が増えたため、多くの問題点は解消できた。 ●毎回想定を上回る受講人数が集まるため、受講者からの質問にひとつひとつ丁寧に答えるなどのきめ細かな対応ができないでいたが、今年度は受講者が30名程度とグループワークが可能な人数となり、本講義の本来のかたちであるグループワークが実施できた。
学生の授業満足度
●受講生からのコメントでは、映像がわかりやすい」との評価があったが、今後もより厳選した映像を探していきたい。 ●授業評価の全ての項目で平均値がほぼ4.5以上と高評価であったことから、受講者は概ね満足してくれているのではと考えている。 ●次年度も引き続き高評価につながるよう、また受講生にとって「気づき」が多く得られる有意義な講義ができるよう努めていきたい。
授業改善の課題と方策
引き続き次年度も、学生の学習意欲を高める講義ができるよう尽力したい。来年度も予定していたワークショップ形式の授業をすることができれば、より課題を絞り、各課題の問題を掘り下げるための時間を十分に設けるような方向で考えている。
その他
特になし。

科目名	環境学
担当者	小島望

授業の概要
人類は生物多様性（ヒトを含めた様々な生物のつながりとそれらを支える環境からなる全体）のもと様々な恩恵を享受することによって生存している。しかし、現代社会は生物多様性による恩恵を過小評価し、環境悪化はますます深刻化して解決困難な様相を呈している。 本講義では、環境問題を社会問題と捉え、問題解決には何が必要なのかを考えることを目的とする。扱うテーマは全て、①物事を様々な角度から考えること、②物事を批判的に見る目を持つこと、③常に弱者へ配慮を忘れないようにすること、④科学の限界を知ること、の4つの視座から成り、特に「山、川、海のつながり」に焦点をあてつつ、人と自然のつながりについて理解できるような講義構成をとっている。
授業の問題点
●スマホを見たり、授業中勝手に退出したりするやる気のない学生が1クラスに必ず4、5名はいる。ガイダンス時にそのような学生に対して履修しないように強く言っているが、そういう学生に限ってガイダンスには出てこない。 ●毎回受講人数が多過ぎるため、受講者からの質問にひとつひとつ丁寧に答えるなどのきめ細かな対応が十分できないでいるのが悩み。
学生の授業満足度
●受講生からのコメントには、「とてもためになる授業」「当初興味関心は薄かったが、この授業を受けて、環境学に興味湧いた」「とても教え方が上手く、不満な点はない」とあり、非常に嬉しく思う。また、授業評価の全ての項目の平均値が全て4.5以上という高評価であったことから、受講者は概ね満足してくれているのではと考えている。次年度も引き続き高評価につながるよう、また受講生にとって「気づき」が多く得られる有意義な講義ができるよう努めていきたい。
授業改善の課題と方策
●今年度からガイダンスの出欠に関係なく、ガイダンスで説明した注意事項を守れない場合には、大幅な減点処置をするなど厳しい対応をするようにしている。 ●毎回想定を上回る受講人数が集まるため、受講者からの質問にひとつひとつ丁寧に答えるなどのきめ細かな対応ができないでいる。学習効果をより高めるためには人数を絞ることが必要で、多くても1クラス50人以下程度には絞りたいと考えている。
その他
引き続き次年度も、学生の学習意欲を高める講義ができるよう尽力したい。今年度も「山、川、海のつながり」をテーマにし、現在研究を進めている最新の民俗学的知見も交えたことで説得力が増したと考えられる。次回以降もまた、研究で得られた新知見を可能な限り講義に還元したい。

授業改善書

科目名	環境学
担当者	小島望

授業の概要

人類は生物多様性（ヒトを含めた様々な生物のつながりとそれらを支える環境からなる全体）のもたらす様々な恩恵を享受することによって生存している。しかし、現代社会は生物多様性による恩恵を過小評価し、環境悪化はますます深刻化して解決困難な様相を呈している。

本講義では、環境問題を社会問題と捉え、問題解決には何が必要なのかを考えることを目的とする。扱うテーマは全て、①物事を様々な角度から考えること、②物事を批判的に見る目を持つこと、③常に弱者へ配慮を忘れないようにすること、④科学の限界を知ること、の4つの視座から成り、特に「山、川、海のつながり」に焦点をあてつつ、人と自然のつながりについて理解できるような講義構成をとっている。

授業の問題点

- スマホを見たり、授業中勝手に退出したりするやる気のない学生が1クラスに必ず4、5名はいる。ガイダンス時にそのような学生に対して履修しないように強く言っているが、そういう学生に限ってガイダンスには出てこない。
- 毎回受講人数が多過ぎるため、受講者からの質問にひとつひとつ丁寧に答えるなどのきめ細かな対応が十分できないでいるのが悩み。

学生の授業満足度

- 受講生からのコメントには、「小中高で習わなかった知識や認識を変えられる授業で個人的に満足している」とあり、非常に嬉しく思う。また、授業評価の全ての項目の平均値が全て4.5以上という高評価であったことから、受講者は概ね満足してくれているのではと考えている。次年度も引き続き高評価につながるよう、また受講生にとって「気づき」が多く得られる有意義な講義ができるよう努めていきたい。

授業改善の課題と方策

- ガイダンスの出欠に関係なく、ガイダンスで説明した注意事項を守れない場合には、大幅な減点処置をするなど厳しい対応をするようにしている。
- 昨年と違い、受講人数が50人以下程度となったため、受講者からの質問にひとつひとつ丁寧に答えるなどの昨年までよりもきめ細かな対応ができた。

その他

引き続き次年度も、学生の学習意欲を高める講義ができるよう尽力したい。今年度も「山、川、海のつながり」をテーマにし、現在研究を進めている最新の民俗学的知見も交えたことで説得力がより増していると考えられる。次回以降もまた、研究で得られた新知見を可能な限り講義に還元したい。

授業改善書

科目名	スポーツ文化論
担当者	齋藤 うい

授業の概要

本授業は、最広義に理解されるスポーツ（気晴らし、遊びを含む）について、スポーツと文化の関係性から、スポーツが社会的に構成される文化であることの理解を深め、今後のスポーツのあり方や可能性、課題などを自発的に見出すことを目標としています。現代スポーツの諸問題についても取り上げ、学生が現代スポーツの成立から社会におけるスポーツのあり方について、視野を広げられるような授業づくりを心がけています。

授業の問題点

日常生活で「する・みる」の観点からスポーツと関わりをもっているなか、本授業ではスポーツを通して「学ぶ」という観点を重視し、社会とスポーツ、文化との関係性からスポーツの理解度を高めることを心がけています。一方、スポーツの歴史は古代時代にまで遡るほど深く、また社会とスポーツ、制度とスポーツ、政治とスポーツ、教育とスポーツなど、スポーツを扱うテーマが広範囲であるため、授業内で取り扱う内容が広義になってしまう点は、授業づくりをするうえで十分な配慮が必要だと考えています。

学生の授業満足度

授業アンケートによると、授業内容や授業方法についての満足度は低くないようではありますが、「授業外学習をしましたか」や、「質問や発言をしましたか」の項目は、他項目に比べて比較的低い値でした。一方で、学生による意見に「自分の意見が述べられる」との回答がありました。本授業では、授業の合間と最後に授業テーマに関連した簡単な問いを2題出し、その回答をリアクションペーパーに書かせています。授業の理解度を高めるために、自分自身の言葉で説明する機会を設けていますが、この取り組みによる効果が出ていることがわかりました。今後もリアクションペーパーを活用しながら、学生が自由に回答・質問できることを意識して取り組んでいこうと思います。

授業改善の課題と方策

前述したように、本授業で取り扱うテーマは広義であるため、学生の理解を高めるために工夫をしています。例えば、できるだけ具体的な事例や資料を紹介するようにしています。ときにはDVDを用いて実際の映像を観てもらい、イメージをしやすいように工夫しています。スライド以外の関連資料なども積極的に配布して、その資料をもとに授業を進めることもあります。ときには配布資料に含めていない資料が多くなってしまうこともありますが、その場合は説明を加えてメモをする時間を設けるなど、学生への細かな配慮を心がけています。また、試験問題は配布資料に載せている内容から出題するようにしています。

その他

座学でのスポーツは、スポーツの事例・事象から「何が読み解けるのか」という観点が非常に重要であり、授業から得られた知識をどのように自分自身の考え（問い）として導きだすかが問われていると考えています。課題を出し、リアクションペーパーにその回答を書かせることは、自分自身の考え（問い）を再考する良い機会だと考えています。実際に一生懸命自分自身の言葉で表現しようとしている学生が多く、私自身もリアクションペーパーを読むことで学生の授業理解度を計ることができています。

授業改善書

科目名	経営心理学
担当者	杉原大輔

授業の概要

組織を構成し、組織の中で活動する人々の心的側面を正しく理解し、将来の社会人としてのみならず、今現在の社会生活に活かすことができるよう、モチベーションとリーダーシップを中心的テーマとして、これらを学生の日常生活レベルに還元して理解できるよう映画、動画等を用いながら、授業展開している。

授業の問題点

- ・広義の冒頭に前回の講義内容の復習の時間をとっているが、毎回の分量が多いので、これに時間が割かれ、シラバスとのズレが若干生じたのでこれをコントロールする必要がある。
- ・期央で実施しようとしていた中間テストが、学年暦の問題で当初予定していたタイミングで行うことができなかった。

学生の授業満足度

- ・おおむねシラバス通りの授業展開となった。このことで、映像資料等の本来の魅力が活かされたと思われる。

授業改善の課題と方策

- ・場合によっては授業の中盤で休憩をとり、集中力の維持を図りたい。

その他

- ・Teams の課題機能を利用したレポート等の提出を課しているが、こういった Web ミーティングツールが普及してから時間が経過したこともあり、新入生も含めてトラブルによる未提出はかなり少なくなってきたので継続したい。

授業改善書

科目名	旅行ビジネス論
担当者	富吉 光則

授業の概要

「旅行産業」は世界的にみても今後も成長していく基幹産業であり、日本では製造業にとって代わる新しい国策に位置付けされている重要な産業である。そのビジネスモデルを、業界により異なるものの、講師の旅行業界・航空業界での企画・商品造成・マーケティング・セールスの各分野での多彩な業務経験を生かして、現場感覚を取り入れながら生きた講義とする。従来のビジネスモデルを踏まえ、近未来において変革していく方向性を示唆し課題を浮き彫りにしながら、就職対象としての各業界の魅力ある旅行ビジネスに踏み込んだ新たな驚きを講義として展開する。

授業の問題点

- ・学生からの自由記述の中に「板書が間に合わないときがあった」のコメントがあった。授業では講義を聞きながら、重要なポイントを授業のテーマごとに配布した「授業の課題シート」に書き取らせながら進めている。授業に集中させて理解を深める目的で取り入れている。観光では画像や動画などを併用することで理解が深まるため、PPT には多くの説明文と画像を取り入れている。その重要なポイントをシートに書き取らせるが、書き取るための時間を十分とっていない、あるいはそのことを授業内で強調せずにいたケースがあったと思われる。

学生の授業満足度

- 自由記述を紹介する。講義の内容、受講した学生の印象ともに、満足度は高いと思っている。
- ・富吉先生の授業は全て面白く、内容も非常に為になるものばかりで素晴らしかった。
 - ・スライドの資料だけでなく、動画も用いて講義されていたので理解しやすかったです。
 - ・旅行関係の知識が就職前に得ることができたので有意義でした
 - ・説明も明確で非常に聞いててわかりやすいと感じた。全ての授業で興味が湧くような内容でよかった。
 - ・板書が間に合わないときがあった

授業改善の課題と方策

- ・「授業の課題シート」は復習のための 2 回の理解度小テスト、および最終課題レポート作成時の参照資料となる。従って、今後は、集中を高める目的だけでなく、しっかり書き取って、次のタスクにも活用できるよう、確認をしながら進めていくことに留意する。

その他

授業改善書

科目名	職業指導
担当者	富吉 光則

授業の概要

就職活動における職業に関する全般を指導する中で、ビジネス社会の知識を蓄積させ、3年生の後期から翌1-2月より本格化する就職活動への取り組みに生かすために、あらゆる最新の情報とノウハウを、可能な限りサンプルを示し、対応方法を習得させ、今年度の就活スケジュールに沿う形で、就活を円滑にすすめるようにする授業である。

授業の問題点

- ・正しい就活フローを理解して実践するためには、多くのノウハウが必要となる。そのため、必要な知識を15回の講義に反映したものの、選考におけるグループディスカッションやグループワークについては、一部アクティブラーニングを取り入れることでさらにノウハウが定着できると感じた。
- ・学内で行われたリアルな企業説明会を活用し、実際の説明会参加経験を積ませる目的であったが、業界がニッチ（空港グランドハンドリング各社）だったため、参加者が少なかった。反省点としたい。

学生の授業満足度

15回目に実施する理解度小テストの後半では、科目全体を通じた学生個々のアンケートを実施している。「受けて良かった」「就活に自信がもてた」「就活を早くスタートできる」「最新の取り組みを学べた」「授業で習得したことを実践して内々定を獲得できた」等、満足度の高いコメントが多く、手ごたえを感じている。

授業改善の課題と方策

いくつか習得する就活ポイントの中で、グループディスカッション・グループワークについては、授業内でアクティブラーニングの要素を取り入れて、より実践的にすれば習得度が増すと考えられる。

その他

- ・3年生の夏休み前の早期よりインターンシップ参加から本選考への流れができつつある。それに伴い就活の早期化が促進され、その結果選考で苦戦する学生にとっては就活が長期化するといった2極化が進んでいる。
- ・3・4年生対象にしている履修年度を2年生から履修可能にする必然性はある。また経済経営学部のみならず、他学部学生の履修可能、さらに短大との単位互換による短大生の履修を実現することで、さらに効果が上がるはずである。

授業改善書

科目名	世界遺産と観光業
担当者	富吉 光則

授業の概要

世界遺産は顕著な普遍的価値のある文化財、また後世に遺したい自然を国際的に保全していくために1978年から登録が始まったものであり、それらは観光の対象としてだけでなく、サステナブルツーリズム（持続可能な観光産業）としての側面を踏まえて理解を深める必要がある。特徴のある世界遺産の数々を観光の側面から実務色豊かに取り上げて講義を展開する。「世界遺産＋観光・宗教・歴史」といった様々な切り口の講義は、世界遺産および観光双方の知見を高めるとともに大学生としての知識を豊かにするものとなるように工夫している。

授業の問題点

- ・講義を聞きながら、重要な点を授業ごとに作成した「ミニッツノート」に書き取らせながら進める。理解度は進むものの、授業内での学生の発言を促す機会が少ない。
- ・203教室を用意していただきスペースが十分ある分、出席者数の割に前方席が空席となる。そのため双方向の講義は困難である。
- ・今回の授業内容について予習課題を出す。これにより重要なポイントをあらかじめインプットさせる。予習の提出率が60%程度のため、さらに高めていきたい。

学生の授業満足度

- ・毎回の授業の内容に則した「ミニッツノート」を作成し学生に配布する。これにより講義に集中させ、要点を書き取らせることで重要ポイントを明確にし、さらに復習で8回目（前半分）と15回目（後半分）に小テストとして出題する。これにより、復習の効果がでてくるため、それを単位評定の素点にすることで、授業への取り組みも高度になる。
- ・毎回の授業の後半は編集した動画を視聴させて理解度を深める工夫をしている。準備に手間がかかるものの好評である。

授業改善の課題と方策

- ・予習（毎回）、復習（2回の理解度小テストの実施）、最終課題レポートの作成により、講義内容を複数の方法で振り返り、知識の定着を図っている。この方法をさらに高度化し、学生にとってしっかりと学びにつながるよう、進め方やプリント内容に工夫をしていきたい。
- ・取り上げた世界遺産の理解を深めるため、30分程度の動画を編集して後半に視聴させ、それも授業のミニッツノートに要点を書き取らせて授業への集中と理解を深めるようにしている。世界中の世界遺産の中からどの物件を取り上げ、観光と結び付けて興味ある講義としていくか、独自の学生アンケートを15回目に実施し、翌年の改善ポイントとした。

その他

- ・203教室は広すぎて前方に空席が目立つので、相応のスペースの教室で実施したい意向はあるが、履修希望者が100名ほどと多いので、収まる教室がないのが実情。

授業改善書

科目名	財政学
担当者	野村容康

授業の概要

租税政策、公債発行、社会保障、年金政策、公共投資といった日本の財政問題を考えていく際の手掛かりとなるように、現実の制度を前提として、市場経済における財政の機能とその背後にある理論的な考え方について講義する。

授業の問題点

質問項目のなかで、「Q2 授業外学習（予習や復習など）をしましたか」「Q3 質問や発言をしましたか」がいずれも 3.14 で最低ポイントであった。

学生の授業満足度

満足度を尋ねる質問への回答では、いずれも 4 ポイント以上の評価であったので、おおむね受講者の希望を満たすことができたと考ええる。

授業改善の課題と方策

- ①受講者の理解度を把握するためにも、受講者への発問を促すように心掛けたい。
- ②演習用の資料をより多く用意し、一人一人から回答と意見を聞くことで、双方向の議論を増やすように努めたい。
- ③宿題の実施状況を一人一人確認して、授業外学習を促していきたい。

その他

授業改善書

科目名	情報機器の操作
担当者	原 かおり

授業の概要

本授業では、Word、Excel、PowerPoint の 3 つのソフトウェアの操作指導と情報の取り扱いやデータ管理、セキュリティについて講義をした。
また、社会の変化と AI 利活用の動向についても考察をした。

授業の問題点

「質問や発言をしましたか」についてのポイントが平均値に達していない。課題作成時など、個別に回ると質問をしてくる学生は多かったが、挙手をして質問をするというようなことは無かった。また、プレゼン資料を作成し、数名の発表を行った際、立候補はほぼ無かったが、後に「ちょっとやってみたかった」という学生も少なくないことがわかった。以上から、質問や発言ができる授業進行になるよう、改善が必要と考えている。

学生の授業満足度

アンケート結果から、授業内容は概ね満足できていると判断できる。
コメントから、
・操作中、個別に質問ができて良かったと言う声が多かったので、今後も継続していきたいと思う。
・説明時、今回からプロジェクターだけでなく、各自のパソコンに画面表示するようにしたところ、見やすくメモが取りやすいという声があったので、こちらも継続したいと思う。

授業改善の課題と方策

- ・発表者について、次回は事前に、発表したい、どちらでもよい、発表したくないなどのアンケートを実施し、各自の意思を尊重した上で決めてみようと思う。
- ・授業の質問は、QR コードの出欠票から個別に受け付けられるようにし、授業時に全体に回答するようにしようと考えている。

その他

今回もプレゼン発表者には、学生の感想をまとめたものをフィードバックした。学生の感想から、数分間の小さな発表ではあるが、発表者も聴く側も学ぶ事が多いことがわかる。今後もプレゼン発表を継続したいと思う。

授業改善書

科目名	情報機器の操作
担当者	原 かおり

授業の概要	
IT 人材、AI 人材、DX 人材の需要が高まっている中、デジタル人材育成の基礎となるよう、本授業は、データサイエンス・AI を日常生活、仕事の場で使いこなすための基本的知識を理解することをテーマに行いました。Excel、Word、PowerPoint、3 つのアプリケーションソフトの基本操作を学び、最終課題としてプレゼン資料作成に取組み、伝えたい内容を表現し、説明をするということを行いました。	
授業の問題点	
パソコンを使用したことがない学生が数名、既に高校で Excel、Word の基礎は学習済みという学生がほとんどという中で、レベル設定が非常に難しい。アンケートでは、早いと感じる学生とゆっくりと感じている学生がおり、どちらの気持ちもよく理解できる。基礎がない学生は、基礎力を、基礎のある学生は応用力をつけられるよう、授業構成を考えたいと思う。	
学生の授業満足度	
「食べ物を持ち込んでいる学生を注意していたのが良いと思いました。」 当然のことだと思うが、このような点も満足度に繋がるのだと改めて意識した。 「授業に入る前にタイピング練習などをしたいです」 これは、各自で行ってほしいことではあるが、前半の授業では行ってもいいかもしれない。構成を考えてみます。	
授業改善の課題と方策	
問題点に挙げた操作レベル設定について、来期は、基礎レベルと応用レベルを区別して資料を作成してみようと思う。基礎レベルは全員が習得する操作、応用レベルは基礎をクリアした学生が取組む操作として課題作成をする。基礎レベルの学生は、課題作成時間を基礎課題にあて、基本操作を身につける。応用レベルの学生は、さらに上の機能を使った課題に取組み、新たな機能を学ぶ。上記のような構成にしてみようと思う。 タイピングについて、ブラインドタッチは数名しかできないのが現状。前半の授業では、10 分程度の入力を毎回入れようと思う。入力ができない＝パソコンが苦手、ということが多い。各自でやってほしいところだが、毎回の授業で行うことで、習慣になるきっかけになればと考える。	
その他	
前へ出て発表となると、十分な資料が作成できているのに手があがらないが、発表した学生からは、必ず「やってみてよかった」と感想があがってくる。できるだけ多くの学生に発表を経験してもらい、今後に役立ててほしいと思う。	

授業改善書

科目名	生産管理論
担当者	平岡秀福

授業の概要	
授業の内容は、生産管理全般にわたる幅広い基礎知識を講義し、技術や諸手法の解説をした後、具体的な問題を（授業内の実践や授業外の宿題として）解くという流れになる。授業の目的は、この講義を通して生産管理の基礎を受講者が理解することである。そのため、生産管理の基本的な諸概念、諸手法を正しく理解した後、知っている、わかるというだけでなく、実際に使える、現場の問題解決に活用できる、人にも教えられる人材を育成することが目的である。取り扱うテーマとしては、生産管理の基本と諸手法、製造業の生産管理システムの説明、近年の製造業を取り巻く環境の変化が生産管理に与える影響などを講義する。	
授業の問題点	
アンケート結果を見ると、授業内容について興味や関心を持ったかという質問とテキストなどの資料は適切だったかという質問に対して平均点を少し下回っている。それ以外はほぼ平均点が平均点を上回っている。よって、この授業の問題点は授業に興味や関心をもっと持ってもらえるような改善が必要であるということになる。テキストについては当初予定していた教科書が絶版となってしまったため、独自の資料を準備した。毎回、学生のためにコピーを準備したが、逆に資料が多すぎて消化不良を起こしたかもしれない。もう少し準備するレジュメは絞り込んでもよいのかなとは思う。	
学生の授業満足度	
授業への満足度は、得るところのあるものだけが 0.02 ポイント平均を下回っていたが、学ぶ楽しさ、知るよこびの実感、全体的には授業が満足かどうかについては平均点と同じであった。	
授業改善の課題と方策	
課題は授業内容への興味と関心を持ってもらうこと、授業の満足度を高めてもらうことである。よってこれまで以上に実習も多くし、またケーススタディを多く取り入れる方策を考えたいと思う。	
その他	
平均点を上回る質問項目も多くあったので、その点は現状維持に甘んじることなく、さらに高い評価を得られるようにしたい。	

授業改善書

科目名	人的資源管理論
担当者	平澤純子

授業の概要
この授業は、ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源のうちヒトという資源をどのように管理するのかを授業です。 人的資源管理論の理論を理解し、概念でものごとを見て考察する練習をしてみようため、授業では可能な限り映像を使用しました。ほぼ毎回、授業内レポートを書いてもらいました。
授業の問題点
履修者は3,4年生であり、就職活動がありながらも欠席0でやり抜いた学生も多かったですが、欠席せざるをえない学生もいました。問題は欠席ではなく、速やかに欠席届を提出しない学生が少なくなかったことです。授業の内容に入る前に、欠席届の提出するように何度も注意しました。注意したらすぐに提出する学生もいましたが、それは少数派で、なかなか提出しない学生が目立ったことは、とても心配になりました。信用を落としてしまうので、すぐにでも改めてほしいことです。 授業を受けるときの態度は概して良好で、授業内レポートにもよく取り組んでくれて、たいへんやりがいがある授業でした。
学生の授業満足度
授業アンケートの集計結果を見ると、満足度に関する3項目ともある程度の数字でひとまず安心しました。とはいえ楽観はしておらず、実際には履修者によって満足度は大きな差があったと推察しています。試験の答案用紙を読んでいると、自分の経験、見聞きしたことを授業で学んだことを生かして深く考察していた学生が少なくありませんでした。こうした学生にはある程度満足してもらえたかもしれません。しかしながら、一通りの答案を提出していた学生には果たしてどのくらい満足してもらえたか、楽観できないと感じております。
授業改善の課題と方策
この授業を担当して2年目となり、手探りであった昨年度よりは当然全体として円滑になったと思います。ですが、昨年度この授業改善書で掲げた「聞けていない」「理解できていない」をいかに防ぐかという課題の改善は、今後も引き続き課題にしたいと思います。授業評価アンケートの集計結果で授業内容に関する3項目、授業方法に関する5項目、いずれもある程度の数字でしたが、授業の理解度は試験の答案に表れると思います。「一通りの答案」が減少し、「深い考察による答案」が増加するように今後も「聞けていない」「理解できていない」を防ぐ努力を続けたいと思います。 この授業ではほぼ毎回授業内レポートを書いてもらい、翌週何点が紹介していました。質問と答えがかみあっていないレポートが目立ったときは、質問の意図を解説するなどしていました。そうした解説に対して学生は手応えを示してくれました。解説にどこまで時間をかけるべきか迷いがありましたが、今後様子を見ながら増やしていきたいと考えています。
その他
2年目の今年度は授業の開始前や終了後に話しかけてくれる学生が増えました。学生を理解した上で授業をしたいので助かりました。深く感謝しております。

授業改善書

科目名	アジア経済論
担当者	藤井喜一郎

授業の概要
「日本が東アジアで生き抜くため」の最重要課題は何かと考へ、授業では、東アジアの経済成長に関わる日中韓の協力関係、ビジネスモデルを講義し、「開発は日本、生産はアジア」という戦略の実現性を探った。そして、東南アジア、インド、中東諸国の経済を、歴史的、統計的、理論的に学ぶためのアプローチを論じた。 アジア経済を論じる際、もはや中国の政治、経済、社会制度を避けて論じることはできない。中国が変えつつあるアジアの経済的秩序をどう見るか、21世紀のアジア経済の主役は誰かという問題意識を持たせることを目標とした。
授業の問題点
「なんといっても日本経済を知ってもらいたい」、そのためにアジア諸国との関連性を知ってもらいたいという目標を願ったが、日本経済についてより深く論じる時間は短かった。
学生の授業満足度
受講生の皆さんから「本を読むだけでは学べない知識を学ぶことができて非常に助かった」という評価を得ました。 受講生の皆さんが熱心に受講し、日本経済の今後を、アジア地域の中で考えていこうという日本の戦略を考えることができた。東アジア諸国のビジネスモデルと日本企業の経営戦略について探ることができたと思っている。 特に、「21世紀はアジアの世紀」といわれる中、そのカギを握るのは中国だろう、という問題を意識し、これについて賛否両論を書くことができた。
授業改善の課題と方策
日本経済を中心としたアジア地域経済システムの構築が現実となるように、またこの科目の担当ができれば幸いです。
その他
今後、授業終了時間をしっかり守ります。

授業改善書

科目名	発展途上国論
担当者	藤井喜一郎

授業の概要

発展途上国の主要な課題は、貧困や経済格差（不平等）の問題をいかにして解決（是正）していくかにあると考えられる。この授業は、“途上国”という言葉で一括りにできない多様な要素を持つ発展途上国の開発や貧困を、経済・社会・政治・法といった多面的な次元から認識する経済開発論が中心である。

授業では、途上国に対する受講生の関心に応えつつ、ある途上国をモデルとして、考える力を引き出す開発経済学の理論を講義する。

授業の問題点

経済学はおもしろく、役に立つ学問であるが、その役に立つ経路が特にはっきりしているのが、途上国を対象とする開発経済学であろう。受講生には、「途上国の問題に関心を持ってもらい、その関心が学問としての開発経済学への興味に繋がってほしい。」ということをお願いしたが、途上国を知るには、日本を知るべきだという理論を強調すべきだった。月収約2万円で暮らしている人口は、未だ40億人もいるという事実、この40億人は途上国に暮らしているという事実を知り、先進国の国民として、この貧困問題にどのように取り組むべきかについては深く探ってもらうことができなかったというのが、授業の問題点だろう。

学生の授業満足度

全体的には高く評価され、欠席もなく熱心に受講して下さったことに変えて感謝している。今後、私が長年外国に暮らした人生経験を講義に生かして、更なる良い授業を展開したいと願っている。

授業改善の課題と方策

放課時間注意せず、2回ほど何分講義し続けたことを深く反省している。今後、時間内に授業終了する。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	管理会計論 I
担当者	藤井 博義

授業の概要

管理会計は、経営者の意思決定に有用な会計情報を提供するための会計である。言い換えれば、経営者が経営上の諸問題を発見し、解決するために重要な会計である。本講義は管理会計の基礎的な知識と技術の習得を目的として講義する。

本講義ではただ単に管理会計の技法を扱うだけでなく、管理会計が歴史的にどのように発展してきたのか、組織や経営の変化とどう関係にあるのかという観点も含めて、説明する。講義後、できるだけ受講生の理解を深めるために課題を行う予定である。なお、受講生人数や反応をみて内容や講義方法を多少変更することがある。

授業の問題点

受講生の理解度に多少差があるように見受けられる点が課題である。管理会計は会計の基礎知識（簿記など）が前提となるが、受講生が受講する時点での会計の基礎知識の差が要因だと思われる。

学生の授業満足度

アンケート結果からも平均を上回り概ね満足との回答が得られている。

授業改善の課題と方策

会計の基礎知識に差が見受けられるので、必要に応じて管理会計を理解する前提となる会計の知識について補論という形で解説を入れる。

その他

授業改善書

科目名	情報機器の操作
担当者	劉 博

授業の概要

本授業では、情報機器とセキュリティの基本知識、オフィスソフトを活用した文章作成・データ処理・プレゼンテーション、さらにインターネットを利用した情報収集・処理のための基本技能を体系的に学べるよう指導しました。

授業の問題点

アンケートの結果から、Q3「質問や発言をしましたか」の項目は比較的低い点数となっていることがわかりました。これは、本授業が情報機器の操作に重点を置いたことが一因であると考えられます。

学生の授業満足度

アンケートの結果から、学生たちはおおむね本授業の内容に満足していることがうかがえます。以下に、いくつかのコメントを紹介します。
「初めての人でも基本的な使い方がわかるように教えてくれたので、いい授業だと思います。」
「とても分かりやすく、ためになる授業で、苦手なことに挑戦する意欲を得ることができました。また、質問などにも丁寧に優しく教えてくれるので、毎回の授業が楽しみになりました。」
「パソコンは難しかったですが、丁寧に教えてもらえました。」

授業改善の課題と方策

アンケートの結果から、Q3「質問や発言をしましたか」以外にも、受講生の学習態度に関する「授業外学習」の項目が他と比較して低い点数であったことがわかりました。今後、受講生が復習・予習しやすい環境を整え、授業内容により興味を持てるよう、シラバスの見直しや授業構成、教授方法の改善を進めてまいります。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	環境経営論
担当者	劉 博

授業の概要

持続可能な経済社会を実現するために、企業による環境に配慮した経営（環境経営）は重要な役割を果たします。環境経営に関する知識は、大学での勉強だけでなく、就職活動や社会人としての活動にも必要不可欠です。本授業では、脱炭素時代の環境経営に関する専門知識と最新動向を体系的に講義しました。

授業の問題点

アンケートの結果から、Q3「質問や発言をしましたか」の項目は比較的低い点数となっていることがわかりました。

学生の授業満足度

アンケートの結果から、学生たちはおおむね本授業の内容に満足していることがうかがえます。以下に、いくつかのコメントを紹介します。
「全体的な印象として、丁寧な授業であるというもので、この授業も例外でなく、受講できてよかったと思える授業でした。」
「先生のスライドが見やすかったです！図やグラフを使って説明してくれるので理解しやすい。」

授業改善の課題と方策

アンケートの結果から、Q3「質問や発言をしましたか」の項目が比較的低い点数となっていることがわかりました。今後、よりコミュニケーションしやすい環境づくりのために、シラバス、授業構成、教授方法の改善に努めてまいります。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	環境会計論
担当者	劉 博

授業の概要

21 世紀は、経済成長と環境保全を両立させることがますます重要な時代です。本講義では、企業の環境保全活動を環境会計の視点からアプローチします。講義の前半では、国内外の環境会計の理論的展開や諸制度を概観し、後半では企業の「CSR 報告書」や「環境・社会報告書」、「統合報告書」などを活用して、環境会計情報に基づく企業分析と評価の方法について講義しました。

授業の問題点

アンケートの結果から、Q3「質問や発言をしましたか」の項目は比較的低い点数となっていることがわかりました。

学生の授業満足度

アンケートの結果から、学生たちはおおむね本授業の内容に満足していることがうかがえます。以下に、いくつかのコメントを紹介します。
「環境会計について広く浅く学ぶことが出来た。これから環境会計について理解を深めて行きたい。」
「図やグラフ、企業の動画など実際にイメージしやすいように授業を行って下さったため、理解しやすかった。」

授業改善の課題と方策

アンケートの結果から、Q3「質問や発言をしましたか」の項目が比較的低い点数となっていることがわかりました。今後、よりコミュニケーションしやすい環境づくりのために、シラバス、授業構成、教授方法の改善に努めてまいります。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	情報機器の操作
担当者	劉 博

授業の概要

本授業では、情報機器とセキュリティの基本知識をはじめ、オフィスソフトを活用した文章作成・データ処理・プレゼンテーションのスキルを習得できるよう指導しました。さらに、インターネットを活用した情報収集・処理の基本技能についても、体系的に学べる内容としました。

授業の問題点

アンケート結果によると、Q3「質問や発言をしましたか」の項目の評価が比較的低いことがわかりました。これは、本授業が情報機器の操作に重点を置いたため、学生が発言する機会が限られたことが一因と考えられます。

学生の授業満足度

アンケート結果から、学生たちは本授業の内容におおむね満足していることがうかがえます。以下に、学生のコメントを紹介します。
「先生の説明がわかりやすいし、優しくて楽しかった。」

授業改善の課題と方策

アンケート結果によると、Q3「質問や発言をしましたか」のほか、「授業外学習」に関する項目の評価も比較的低いことがわかりました。今後は、受講生が復習・予習しやすい環境を整え、授業内容により興味を持てるよう、シラバスの見直しや授業構成・教授方法の改善を進めてまいります。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	経営分析論
担当者	劉 博

授業の概要

本授業では、財務諸表（決算書）である貸借対照表・損益計算書・キャッシュ・フロー計算書の基本知識に加え、企業の成長性・収益性・安全性などを評価するための財務諸表分析の基礎知識と技法を体系的に学べるよう講義しました。

授業の問題点

アンケート結果によると、Q3「質問や発言をしましたか」の項目の評価が比較的低いことが分かりました。これは、本授業が分析演習に重点を置いたため、学生が発言する機会が限られたことが一因と考えられます。

学生の授業満足度

アンケート結果から、学生たちは本授業の内容におおむね満足していることがうかがえます。以下に、学生のコメントを紹介します。

「様々な企業分析のやり方を身に付けられたことが1番記憶に残っていると考えた。スキルとしてもどうやって求めてその結果はどのようなものかが分析できるようになったと感じている。」

「毎回、演習があつてしっかりと理解できました。そもそも edinet というサイトを知りませんでしたのでこの授業を機に知ることができました。」 ほか

授業改善の課題と方策

アンケート結果によると、Q3「質問や発言をしましたか」のほか、「授業外学習」に関する項目の評価も比較的低いことが分かりました。今後は、受講生が復習・予習しやすい環境を整え、授業内容により興味を持てるよう、シラバスの見直しや授業構成・教授方法の改善を進めてまいります。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	経済学史
担当者	高橋 信勝

授業の概要

- ・ 経済学のオーソドックスな歴史を学ぶ授業である。
- ・ 経済学の歴史科目は、理論や政策などの他の科目にくらべて学生の関心が低いため、授業では経済学の基礎内容にもできるだけ触れるように心がけている。
- ・ 学生の板書の便宜を考慮して、重要ポイントを書き込めるような形式の授業レジュメを配布している。

授業の問題点

- ・ Q1 出席や課題提出等はしましたか. 4.56 (平均 4.63).
- ・ Q3 質問や発言をしましたか. 2.78 (平均 3.34).
- ・ Q1 と Q3 の質問のみが平均を下回った。

学生の授業満足度

- ・ Q9 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか. 4.72 (平均 4.56).
- ・ Q10 学ぶ楽しさ、知るよこびは実感できましたか. 4.67 (平均 4.52).
- ・ Q11 全体的に振り返って、授業に満足できましたか. 4.72 (平均 4.52).
- ・ 満足度に関する質問への回答は平均を上回っており、概ね高いと考えられる。

授業改善の課題と方策

- ・ Q9, Q10, Q11 の授業満足度を一層高めていきたい。
- ・ 口頭での説明では情報量が多くなりがちである。説明のスピードの緩急に留意し、学生を置き去りにした授業展開にならないように心がけたい。
- ・ 授業レジュメの記入欄について、不満の意見が寄せられた。学生の目線に立ち戻り、見やすさ、記入しやすさを考慮してレジュメの改善を図りたい。
- ・ Q1 と Q3 の質問のみが平均を下回っている。
- ・ 出席票による出席確認を徹底し、欠席回数を減らしたい。
- ・ ゼミ（演習）の授業ではないため、学生が授業中に発言しにくいことは考えられる。次年度のオリエンテーションでは、理解しにくい内容や疑問があれば、授業の最後に質問時間をもうける旨アナウンスし、学生の積極的な授業参加を促したい。

その他

授業改善書

科目名	社会政策論
担当者	若杉 英治

授業の概要

社会政策の基礎的なテーマである雇用と社会保障について講義する。学生自らが関心のある社会保障政策について、新聞やインターネットで調べて発表する。現場で実際に発生する雇用と社会保障の問題を事例として紹介し、グループワークでのディスカッションを通して、自分自身で解決方法を探り、解決のための政策提言を論じる力を養う。

授業の問題点

教科書を輪読させ、内容を理解させるためのスライドを用いて授業を行った。学生からは、「話し合いの時間がもっと欲しかった」、「スライドに内容を詰め込んでいた」といった意見が出ていた。1 コマで扱う内容が多すぎて、学生が十分に理解しているのかを確認するためのグループワークでのディスカッションを行う時間が少なかったところが問題であると思われる。

学生の授業満足度

授業アンケート結果から、授業での「学ぶ楽しさ、知るよろこび」が十分に得られていないことが析出されていた。教科書の内容の中から学生にとって関心がある事例を取り上げ、学生同士で話し合う時間を設けるようにしたい。

授業改善の課題と方策

教科書の内容に関連したニュースを YouTube などの視聴覚教材を利用して、具体的に問題の背景を理解させ、取り上げた課題について学生自身が考える機会を設けるようにしたい。ディスカッションを通して学生とのコミュニケーションを十分に図るようにしたい。

その他

授業改善書

科目名	経済政策論
担当者	若杉 英治

授業の概要

日本経済が直面する様々な課題に対して、政府はどのように政策を行うべきかについて考える。そのため、経済政策理論の柱である「成長政策」、「安定化政策」、「再分配政策」について講義する。学生自らが関心のある経済政策の問題について、新聞やインターネットで調べて発表する。具体的な課題を事例として紹介し、グループワークでのディスカッションを通して、自分自身で解決方法を探り、経済政策を自分の頭で考える力を養う。

授業の問題点

シラバスで教科書として指定した書籍が絶版となったため、同書を参考書として使用した。そのため、授業中スライドで示す内容が多くなり、学生から、「スライド数が多く、進みも速いためノートを取りきれない」、「ノートをとることに集中すると先生の話していることを聞き取れない」といった意見が出ていた。1 コマで扱う内容が多すぎて、学生が十分に理解しているのかを確認するための時間が少なかったところが問題であると思われる。

学生の授業満足度

授業アンケート結果から、授業の「講義内容は分かりやすい」といった意見は出ていたが、「学ぶ楽しさ、知るよろこび」が十分に得られていないことが析出されていた。学生にとって関心がある事例を取り上げ、グループワークでのディスカッションを行うなど学生同士で話し合う時間を設けるようにしたい。

授業改善の課題と方策

授業の内容に関連したニュースを YouTube などの視聴覚教材を利用して、具体的に問題の背景を理解させ、取り上げた課題について学生自身が考える機会を設けるようにしたい。ディスカッションを通して学生同士のコミュニケーションを十分に図るようにしたい。

その他

授業改善書

科目名	スポーツ栄養学
担当者	江夏 直子

授業の概要

初めてスポーツ栄養学を理解する学生のために、スポーツにおける栄養の役割について、食品の例を挙げてイメージをつかめるよう説明した。また、身の回りの生活の情報がスポーツ栄養学につながっていることを学生自身が発見し、より理解を深めていくように講義した。そして、スポーツ栄養学の活用は、トップアスリートだけでなく、小中高生やスポーツ愛好家、健康維持を目的とした成人や高齢者など、幅広く社会の人々に応用されている内容を講義した。

授業の問題点

授業の最後に毎回小テストを実施していたが、何も見なくてもできる学生ばかりではないため、配付資料を見ながら穴埋めをする形式をとった。その際、自発的に学びながら実施した学生もいたが、文字を埋めるだけで理解不足の学生もいた。また、15 回目までにおおよそ出席した者の中で平均出席数は 12 回だったが、内訳を見ると 15 回出席が 5 名に対し、10 回出席が 6 名かつ 9 回 1 名、8 回 1 名と欠席が思ったより多くみられた。

学生の授業満足度

毎回、授業後にまとめプリントと小テストを提出してもらい、積極的に参加してもらった。そのため、「Q2 授業外学習(予習や復習など)をしましたか」において 4.37(平均 3.86)、「Q3 質問や発言をしましたか」において 4.26(平均 3.34)と比較的点数が高かった。学生による主な意見として、「毎回これから学ぶことをはっきり示してから進めてくれるため、わかりやすい。先生も優しく、授業後などに質問しやすい環境を作っている。」とコメントをいただけた。

授業改善の課題と方策

文字を埋めるだけで理解不足の学生については、授業の中でより興味を深め理解を深める工夫をしたいと思う。その際、学生の特徴を確認しながら、個別に声がけをすることや、授業中にあてるなどして積極性を高めたいと思う。また、欠席の対策については、予め欠席回数を減らすために、授業の初回(1 回目、2 回目)や終盤(12 回目、13 回目)だけでなく、途中(6 回目、7 回目)にもアナウンスしたいと思う。

その他

今回は、40 名程度と人数がそれほど多くなかったため、毎回用紙を提出してもらいそれをチェックしたが、人数によっては、Forms を活用するなどして対応していきたいと思う。

授業改善書

科目名	原価計算論 I
担当者	秋山 盛

授業の概要

本授業は、工企業の経営をしていくうえで欠かせない、製品原価の把握について、工業簿記の仕組みを一通り学習することに重点をおいて取り組むものである。原価の形態別分類・費目別計算にはじまり、個別原価計算の仕組みを単純個別原価計算から部門別原価計算まで習得し、その中で直接配賦法と簡易的な相互配賦法について確認した。そして大量見込生産の原価計算としての総合原価計算を学習し、後期の原価計算論Ⅱにつなげるものとした。

授業の問題点

熱心に習得を試みようとする学生は大半であったものの、一部の学生に関しては当初より関心が薄かった点は否めない。これは工業簿記が、そもそも商業簿記を習得することを前提としたものであるためであり、そのキャッチアップが必要であることにどうしても抵抗があったためと推察する。こうしたことから、簿記のテクニック面だけではなく、原価計算の内容をおおまかに把握し補足するための特別テーマをあえて設定し、原価計算を行っていくことの意義を繰り返し伝えていった。

学生の授業満足度

学生により簿記習得の度合いが異なるため、授業内容を原価計算論の範囲を意識したまま、企業の経営全体に関する特別テーマにも広げていった。これにより学生コメントでも「内容也非常に分かりやすくて良いと思います。」というものがあったため、相応の満足を得られたのではないかと推察する。

授業改善の課題と方策

学生のレベルの差を意識しつつ、必要に応じて課題設定などを試みたい。

その他

授業改善書

科目名	原価計算論Ⅱ
担当者	秋山 盛

授業の概要

本授業は、工企業の経営に不可欠な製品原価の把握について、前期の原価計算論Ⅰの履修を前提としつつ、管理会計による経営管理の側面にまで対象を広げながら、工業簿記の仕組みを一通り学習するものである。前期授業の復習に加え、原価管理のための標準原価計算、および CVP 分析を通じた短期利益計画策定にも関連する直接原価計算についても確認した。経営管理に資する原価計算の目的も併せて講義する内容としているため、単なる資格取得を目的とした授業ではないが、前期の原価計算論Ⅰに続けて、日商簿記 2 級工業簿記の範囲を一通り修得する内容とした。

授業の問題点

熱心に習得を試みようとする学生もみられたものの、一部の学生に関しては当初より関心が薄かった点は否めない。これは工業簿記が、そもそも商業簿記を習得することを前提としたものであるためであり、そのキャッチアップが必要であることにどうしても抵抗があったためと推察する。こうしたことから、簿記のテクニック面だけにはこだわらず、原価計算の内容をおおまかに把握し補足するためのテーマをあえて設定し、原価計算を行っていくことの意義を繰り返し伝えていった。

学生の授業満足度

学生により簿記習得の度合いが異なるため、授業内容を原価計算論の範囲を意識したまま、企業の経営全体に関するテーマにも広げていった。これにより学生コメントでも「毎回分かりやすく、とても良い講義だと思う。」というものがあったため、相応の満足を得られたのではないかと推察する。

授業改善の課題と方策

学生のレベルの差を意識しつつ、必要に応じた課題設定などを試みたい。

その他

授業改善書

科目名	スポーツ心理学
担当者	相羽 枝莉子

授業の概要

スポーツ心理学の基礎知識を幅広く身につけ、健康・スポーツにおける課題に対して、スポーツ心理学の観点から対処法を理解できるよう講義する。また、健康増進や競技力向上に活用できるような実践的素質を高めることを目指し、講義する。

授業の問題点

本授業では、履修者の授業へのコミットメントを高めるためにも、積極的に発言をしてもらうようにしていた。一方、全員に発言をしてもらうことができず、最後の授業まで発言できなかった（当てても答えられなかった）履修者や、発言する機会が少なく終わってしまった履修者がいた。これについて、多くの学生に関心や意欲をもってもらい、授業へのコミットメントを高めるためにも、改善が必要であると考えている。

学生の授業満足度

アンケートの「Ⅲ授業満足度について」では、3 項目で 4.59～4.67 であり、3 項目ともに平均点よりも高い値であったことから、おおむね満足度の高い授業を展開することができたと考えられる。満足度の高さに繋がっている要素については、「◇学生による主な意見」を参考にすると、資料配布、授業内容を振り返れる復習問題、の 2 点が考えられる。次年度の授業でも、継続していきたい。

授業改善の課題と方策

上記の「授業の問題点」であげた、履修者の発言機会については、まずは発言する機会を増やすよう改善していきたい。加えて、履修者が回答しやすいような発問から、思考を働かせるような発問まで、可能な限りで状況や履修者に応じて使い分けていきたいと考えている。

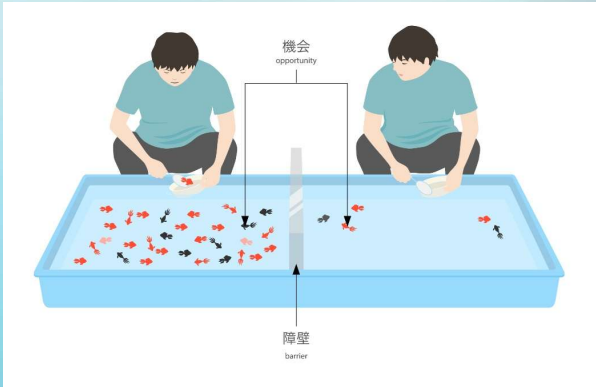
その他

資 料

「配慮を必要とする学生への対応 —Teamsを利用した授業展開を学ぶ—

学生相談室連絡協議会 坂田知子

合理的配慮とは？ 「社会的障壁によって生まれた機会の不平等を正すためのもの」



合理的配慮に対する基本的な考え方

合理的配慮を求めた学生に対しては、**授業の目的・内容・評価の本質を変
更することのないと判断される場合**、代替措置を提供するための支援方法を
検討しなければなりません。ただし、各授業で目的・内容・評価の本質や形態
が異なるため、合理的配慮の内容は必ずしも一律のものにはならないので、
対象学生と建設的な対話を積み重ね、個々に配慮内容を検討する必要があ
ります。

合理的配慮に当たると考えられる例

- ・ 授業や行事での座席の配慮
- ・ 授業資料の情報保障(録音や板書撮影などの許可、WEBでの資料配布等)
- ・ 口頭の指示では伝わりにくい場合の書面伝達
- ・ 提出書類やスケジュールの個別確認
- ・ 関係教職員への障害周知についての伝達
- ・ 学外関係機関(医療機関、就労支援機関等)との連携

合理的配慮の対応でお願いしたいこと

- オンライン授業(同時双方型・オンデマンド型)での受講
- 気分が不調の場合の授業中の退出
(30分以上の不在は不可、オンデマンド型で対応する。)
- 気分が不調の場合の遅刻
(30分以上の遅刻は不可、オンデマンド型で対応する。)
- 手が震えて字が書けない等への対応
→ WORD等、パソコンを用いたレポート等の提出

合理的配慮の対応が難しいこと

- オンライン対応ができない演習や実習(実技等)の場合
→ 授業の目的・内容・評価を変更することになるため。
- 合理配慮の申請前・申請時の要望
(例)これまで欠席した授業の補講をして欲しい。
→ 他の学生との公平性を確保するために、遡及して対応しない。
- 学校に対して過度な設備投資や教員に対して過度な負担を強いる要望
→ 合理的配慮の範疇を超えているため。

オンデマンド型で対応する場合の注意点

- 対象学生がいつでも質問できる環境を整え、その質問と回答のやり取りを受講している全ての学生が視聴できる環境を整える
- 録画画像に基づき受講したか、小テスト・小レポートなどで確認する
- 録画画像の視聴期間を一定期間とし、その期間を過ぎても小レポートなどの提出が無かった場合は、欠席扱いとする
→ (他の受講生との公平性を保つ見地から)

まとめ

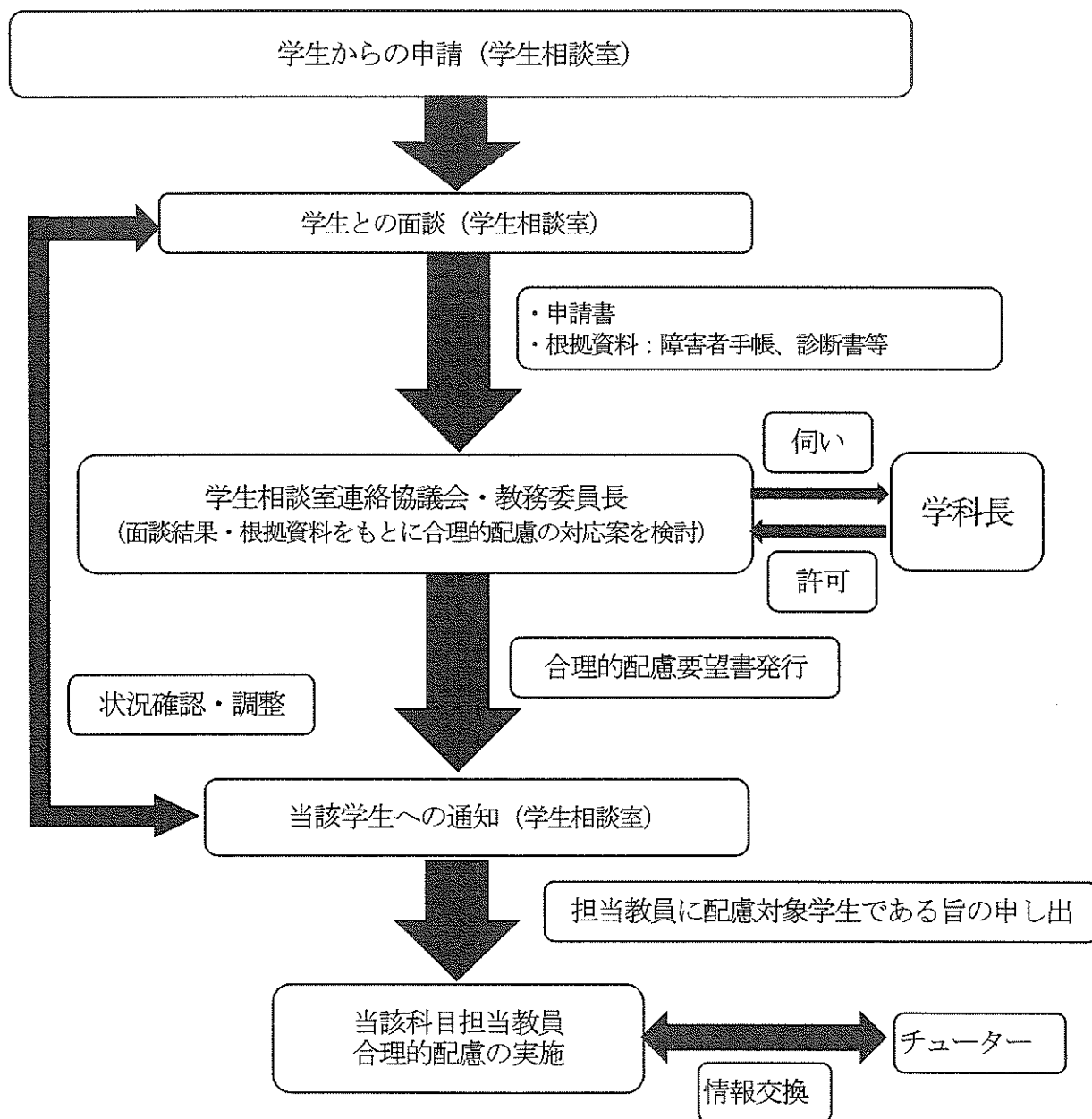
- 各授業で目的・内容・評価の本質や形態が異なるため、合理的配慮の内容は必ずしも一律のものとはなりません。
- 対象学生と建設的な対話を積み重ね、個々に配慮内容を検討する必要があります。
- 個々のケースに応じて、対応できる範囲での対応をお願いいたします。

埼玉学園大学における障害者に対する合理的配慮の流れについて

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」第8条2項では事業者による社会的障壁の除去と実施に係る合理的な配慮の提供について努力義務とされていた。令和3年に同法が改正され、合理的な配慮が努力義務から義務となり、令和6年4月1日から施行されることに伴い、本学における合理的配慮について、下記の通り対応する。

記

埼玉学園大学における障害者に対する合理的配慮の流れ



(作成者：学生課長 木村達夫)

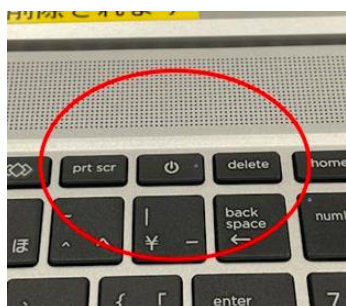
Teams 使用手順

目次

1	チームの作成	1
2	講義の録画	4
3	動画の共有	8
4	ライブ配信する場合	11
5	Appendix	12

1 チームの作成

- 1, ノート PC を用意してください。
- 2, 付属の電源ケーブルを接続する（バッテリー切れを防ぐため）。
- 3, LAN ケーブルを接続する。
- 4, 必要に応じて、外付けカメラを USB ポートに接続し、適切な位置に設置してください。
- 5, 電源を入れ、Windows にサインインしてください。



- 6, **PC の音量**がオフになっていることを確認してください。PC から音が出るとハウリングする可能性があります。



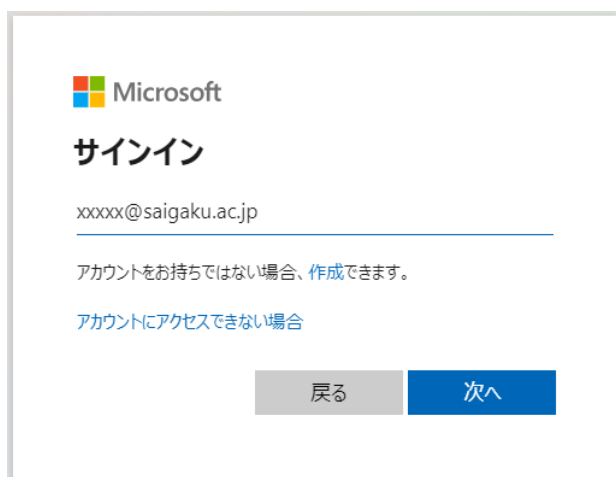
- 7, ブラウザを起動してください。ブラウザには次のような種類があります。どれでも結構です。



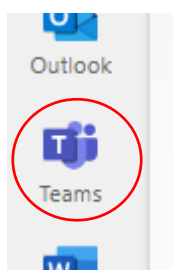
- 8, 次の URL にアクセスしてください。

<https://www.office.com/signin>

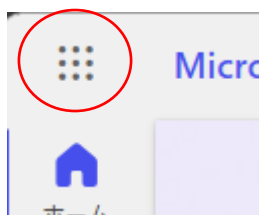
9, Office365 にサインインしてください。



10, 左側のパネルの「Teams」をクリックしてください。



11, 「Teams」が表示されていない場合は、左上の点が9つ並んだアイコンをクリックしてください。



12, 開いたメニューから「Teams」を探してクリックしてください。



Teams

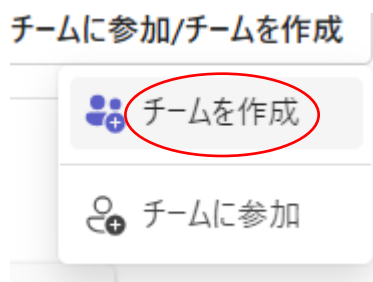
13, 「Teams へようこそ」が表示されたら「さあ、はじめよう！」をクリックしてください。



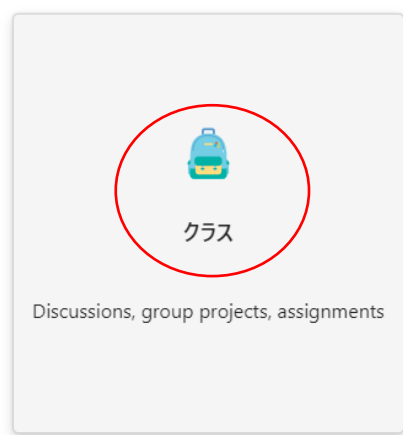
14, 右上の「チームに参加/チームを作成」をクリック



15, 「チームを作成」をクリック



16, 「クラス」をクリック



17, 「このテンプレートを使用する」をクリック



18, チーム名を入力し、作成をクリック

チームに関するいくつかの簡単な詳細

チーム名 *

サンプル講義

説明

このチームに関する説明を記載してください

戻る 作成

- 19, メンバー追加の画面で、合理的配慮の必要な学生の学生番号を検索し、「追加」をクリック

サンプル講義にメンバーを追加

チームに追加する名前、配布リスト、またはセキュリティグループを入力してください。メール アドレスを入力することで、組織外のユーザーをゲストとして追加することもできます。組織外のユーザーには、追加されたことを知らせるメールが届きます。教師を所有者にし、学生をメンバーにすることをお勧めします。
[ゲストの追加について学ぶ](#)

名前またはメール アドレスを入力します


 試験用 学生アカウント
 teststudent@saigaku.ac.jp

メンバー ▼ ×

スキップ 追加

- 20, これで準備ができました。続いて、講義を録画する方法を説明します。

2 講義の録画

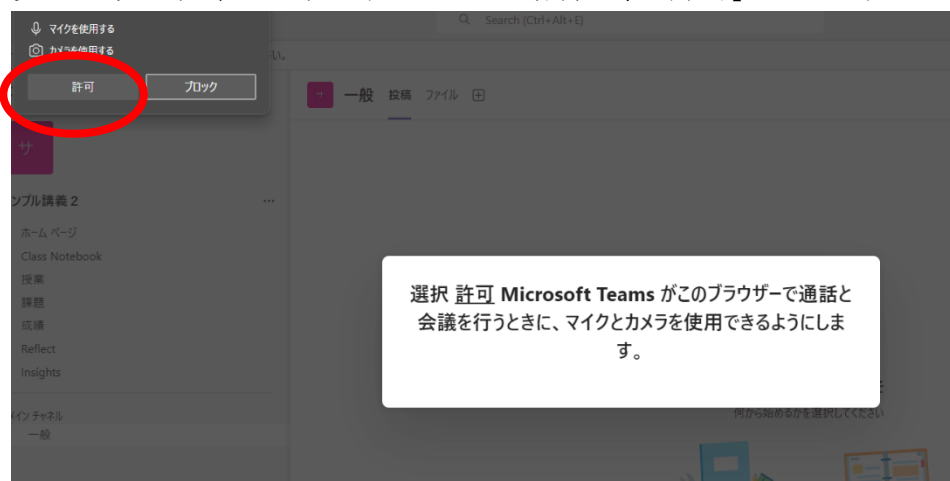
- 1, これまでの説明と同様の手順で、Teams を開いてください。
- 2, 「チームの作成」で作成したチームをクリックしてください。



- 3, 右上のビデオカメラマークをクリックしてください。



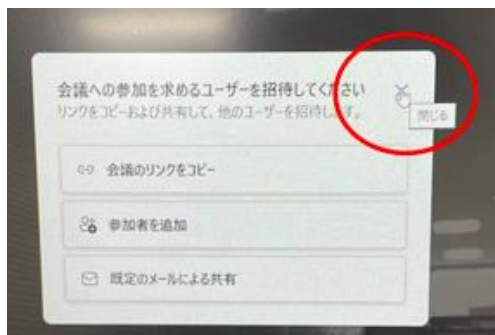
4, 次のようなウィンドウが表示された場合は、「許可」をクリックしてください。



5, 「今すぐ参加」をクリック



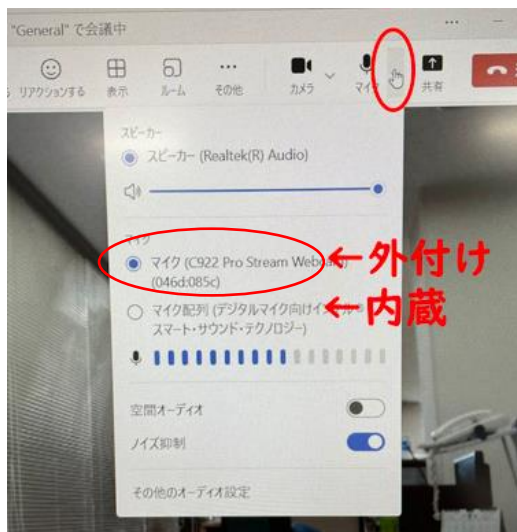
6, 「会議への参加を求めるユーザーを招待してください」と表示されたら×で閉じる



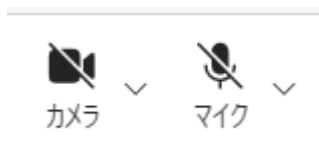
7, カメラを切り替える場合は、カメラマークの右横の矢印をクリックして、外付けカメラ等を選択してください



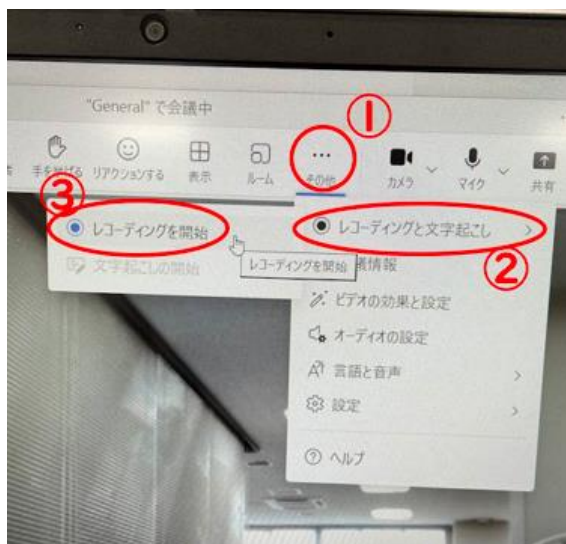
- 8, マイクを切り替える場合は、マイクマークの右横の矢印をクリックして、外付けマイク等を選択してください



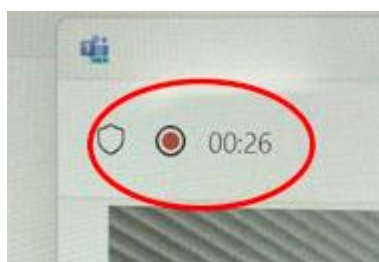
- 9, カメラやマイクのアイコンに斜線が付いている場合、それらのデバイスが無効になっています。それらのアイコンをクリックすると、有効になります。



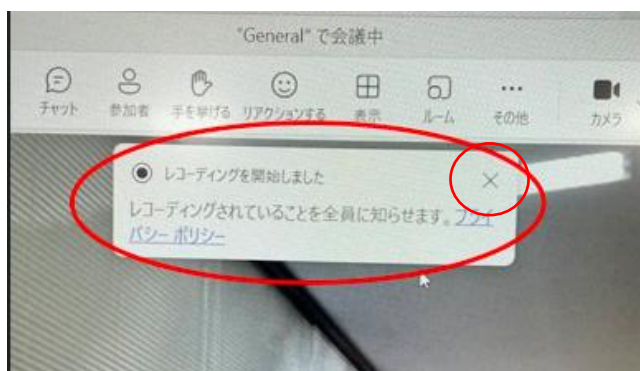
- 10, ①「その他」→②「レコーディングと文字起こし」→③「レコーディングを開始」の順にクリックすると、レコーディングが始まります。



- 11, レコーディング中は、左上の丸いアイコンが赤くなっています。



- 1 2, 「レコーディングが開始されました」と表示されたら、×で閉じます。



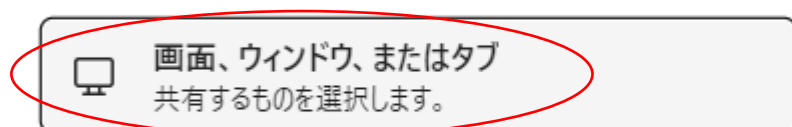
- 1 3, PowerPoint 等の画面を共有する場合は、右上の「共有」をクリックしてください。



共有

- 1 4, 「画面、ウィンドウ、またはタブ」をクリックしてください。

コンテンツを共有



Microsoft Whiteboard
Whiteboard の開始

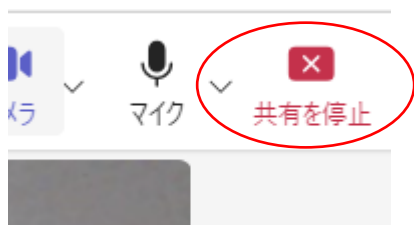
- 1 5, 画面全体タブをクリック→画面全体をクリック→システム音声も共有する→共有

teams.microsoft.com と共有する情報を選択する

ウェブサイトは画面上のコンテンツを読み取ることができます



16, 共有を停止するときは、「共有を停止」をクリック



17, 終了する時は、右上の「退出」をクリックしてください。レコーディングも止まります。



3 動画の共有

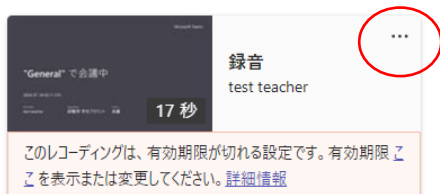
1, 録画した動画を見るには、チーム内の「投稿」に表示された「詳細を表示」をクリックしてください。



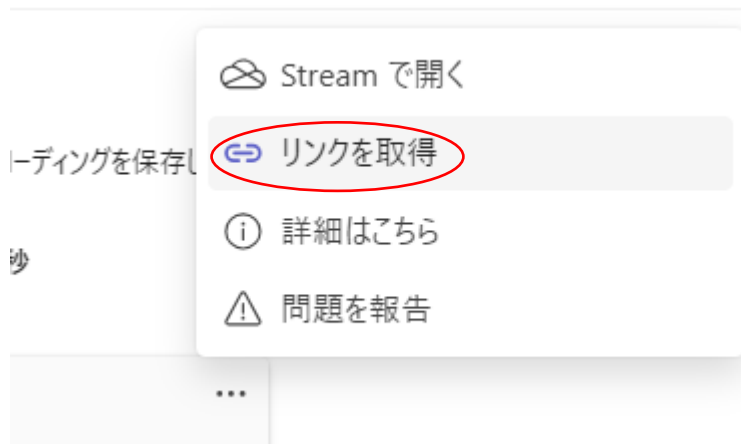
2, 下のようなアイコンが表示されるので、右上の「・・・」をクリックしてください。

"General" で会議中 が終了しました

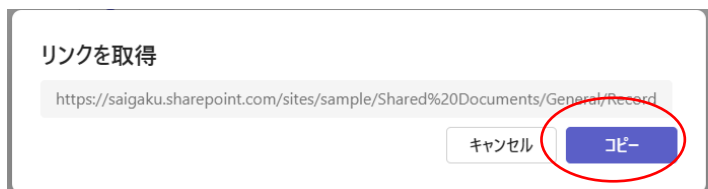
- 11:11 レコーディングを開始しました
- 11:12 レコーディングが停止しました。レコーディングを保存しています...
- 11:12 会議が終了しました: 25 分 34 秒



3, 「リンクを取得」をクリック



4, 「コピー」をクリック

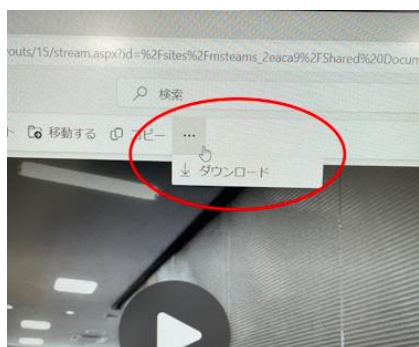


5, コピーしたリンクを、メール等で学生に送信してください。ただし、動画を見ることができるのは、チームのメンバーだけです。

6, 下図の赤囲い部分をクリックすると別タブが開き、録画した動画を見ることができます。



- 7, 「・・・」をクリックすると、ダウンロードすることもできます。録画した動画には有効期限がありますので、必要に応じてダウンロードしてください。



- 8, 録画した動画をダウンロードさせたくない場合は、右上の「共有」をクリックし、表示されたメニューの「アクセス許可の管理」をクリックしてください。



- 9, 「グループ」をクリックし、「メンバー」をクリックしてください。



- 10, 「直接アクセス権」をクリックし、「編集可能」となっているところを「ダウンロードできません」に変更してください。



- 11, 「適用」をクリックしてください。これで、チームの「メンバー」は、録画した動画をダウンロードできなくなります。動画が複数ある場合は、動画ごとに同じ作業を実施してください。ただし、完全にダウンロードを防ぐことは難しいため、ダウンロードを禁止するルールを周知する等の対策もご検討ください。



4 ライブ配信する場合

- 1, 事前に授業開始時刻を、学生に通知してください。
- 2, 「2 講義の録画」と同様の手順で、会議を開始してください。
- 3, 先生が配信を行っているチームに学生が入ると、学生の画面に次のようなバーが表示されますので、「参加」をクリックすると、ライブ配信の映像を見ることができます。



4, ブレークアウトルームを作ることもできます。詳しくは次のリンクを参照するか、「Teams ブレークアウトルーム」で検索してみてください。

[Microsoft Teams 会議でブレークアウト ルームを使用する](#)

※ブレークアウトルームを作成及び管理できるのは、デスクトップ版の Teams の会議開催者のみです。

5 Appendix

画面を録画するためのフリーソフトの紹介

「OBS Studio」

このソフトは画面を録画する時に、インターネットに接続しておく必要がありません。

<https://obsproject.com/ja/download>

司会・講師 西山智則 人間学部教授 「雑学からファスト教養に一リベラルアーツの有益性とは？」

経歴 関西学院大学博士課程文学研究科英米文学専攻 博士（言語文化学 大阪大学）

専攻分野 アメリカ小説、日米ホラー映画

担当科目 英語圏文学特論（近現代）、英語圏文学講読（近現代）など

著書・『恐怖の君臨— 疫病・テロ・畸形のアメリカ映画』（森話社、2013）

・『恐怖の表象— 映画/文学における〈竜殺し〉の文化史』（彩流社、2016）

・『エドガー・アラン・ポーとテロリズム— 恐怖の文学の系譜』（彩流社、2017）

・『ゾンビの帝国— アナトミー・オブ・ザ・デッド』（小鳥遊書房、2019）

講師 越野優子 人間学部特任教授 「“絵”と“簡略版”の歴史と利点—読書体験を増やすために」

経歴 大阪大学大学院文学学研究科博士後期課程文化表現論日本文学専攻修了 博士（文学 大阪大学）

専攻分野 日本古典文学（特に『源氏物語』）・ 日中韓比較対照研究

担当科目 日本文学特論（古典）、日本文学講読（古典）Ⅰ、Ⅱ、など

著書 『国冬本源氏物語論』（武蔵野書院 2016 年）

論文・「中文“弱水三千”と日本語「弱水三千の差異について—理解不能から生じる独創性への一考察」
『日本学研究』（北京日本学研究中心）27（2017 年 10 月）

・「源氏物語」と異本—校訂と真贋をめぐる—、『ユリイカ』 767（2020 年 12 月）

・「国冬本源氏物語夕霧巻の分断と読解—落葉の宮の人物像を中心に」『詞林』67（2020 年 4 月）

・「『源氏物語』（国冬本）匂宮巻と『雲隠六帖』雲隠巻—その傍流的存在性をもつ意味について」『物語研究』23（2023 年 3 月）

講師 柴田勝二 人間学部特任教授 「大学生の読書と国語力」

経歴 大阪大学大学院文学研究科芸術学専攻博士後期課程修了 博士（文学、大阪大学）

専門領域 日本近代文学、日本文化論、演劇

担当科目 日本文学講読（近現代）Ⅰ、Ⅱ、日本文学特論（近現代）など

著書・『〈作者〉をめぐる冒険—テキスト論を超えて』（新曜社、2004）

・『中上健次と村上春樹—〈脱 60 年代〉的世界のゆくえ』（東京外国語大学出版会、2011）

・『三島由紀夫—作品に隠された自決への道』（祥伝社新書、2012）

・『夏目漱石—「われ」の行方』（世界思想社、2015）

・『谷崎潤一郎—美と生命の間』（勉誠出版、2021）

・『劇作家 三島由紀夫—「お芝居」のなかの告白』（花書院、2024）

講師 松浦 光 人間学部・講師 「レトリックを応用した国語教育を考える」

経歴 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本言語文化専攻博士後期課程修了 博士（文学 名古屋大学）

専門領域 日本語学、認知言語学、修辞学

担当科目 日本語学（概論）、日本語の文法など

著書・『文章表現のワークブック』（八千代出版、2022）（共著）

・『認知言語学論考 No. 17』（ひつじ書房、2023）（分担執筆「事象構造メタファーにおける「流れ」と評価性—社会的活動の概念化を中心に—」）

・『直喩とは何か—理論検証と実例分析』（ひつじ書房、2023）（分担執筆：「認知言語学における直喩研究」、「同一性の比喩論：比喩指標「まさに」+Nの形式をめぐる」）

令和6年6月25日

教員 各位

埼玉学園大学
FD委員長 西山 智則

令和6年度春期 学生による授業アンケートの実施について

令和6年度FD活動の一環として、教員の授業内容の自己点検と教授力の向上の為に秋期受講学生による授業アンケートを下記の要領にて実施いたします。今後、本アンケートを先生方の授業の向上にお役立てください。

記

1. 実施期間

令和6年7月1日（月）～7月12日（金）

2. 実施・回収

- (1) 「授業アンケートの回答方法について」をもとに、Teams またはQRコードにて所定のページにアクセスし、授業アンケートに回答するよう指示をお願い致します。

※Teamsにて教務課より事前に学生へ周知致します。

※用紙での回答を希望する学生にはアンケート用紙を配付、アンケートを回収袋に直接入れさせ、学生にテープで封をさせて下さい。ただし、エラー等があった場合を除き、全員分を用紙で実施することはできません。（アンケート用紙及び回収袋は教室に設置させていただきます。）

- (2) アンケート実施後、「授業アンケート完了報告書」に実施日・科目名・授業担当者名・出席者数を必ず記入のうえ、担当教員が教務課にお持ち下さい。（アンケート用紙で実施の学生がいた場合は、アンケート回収袋もご提出をお願い致します。）

3. 注意点

- (1) 原則として、すべての授業科目で実施をお願い致します。
ただし、演習科目及び実際の出席者が10名以下の講義科目においてはアンケートを実施しなくても構いません。
- (2) 実際の出席者が1名の場合は、アンケートを実施しないようにして下さい。

4. 授業改善書の執筆

授業アンケートの集計結果を配布しますので「授業改善書」を作成し、教務課に提出して下さい。
なお、その内容は報告書として取りまとめ、公表致します。

以上

学生各位

授業アンケートの回答方法について

授業アンケート期間：7月1日（月）～7月12日（金）

利用システム：Office365 Forms

《回答の手順》

・ Teams から回答する方法

- ① 各自のスマートフォンまたはパソコンから Teams へアクセスする。



- ② チームから「教務課」を選択し、投稿の『令和6年度春期授業アンケートの実施について』を確認。



- ③ ファイルから「授業アンケートの実施について」フォルダを選択し、PDFを開く。



- ④ アンケート URL をクリック。

<https://forms.office.com/r/PzHMXNXK4X>



・ QR コードを用いた方法

- ① 以下のQRコードからアクセスする。



アンケートに回答する。全ての項目のアンケートの回答が終わったら、送信ボタンを押し、「ありがとうございます。回答が送信されました。」と画面に表示されれば終了です。

※スマートフォン等を所持しておらず、用紙での回答を希望の学生は担当教員に申し出て下さい。

※授業アンケートの実施状況が悪かった場合は、もう一度実施することになりますので、必ず回答するようにしてください。

※このアンケートは、匿名で行われますので、個人が特定されることはありません。

教務課長 富沢雄太

授業アンケート完了報告書

授業アンケート下記のとおり、実施したことを報告します。

記

実 施 日	令和6年 月 日 (曜日 時限)
科 目 名	
授業担当者	
出 席 者 数	
用紙で回答した人数	
備 考	

以 上

月

日(曜日)

時限実施

科目名

☆授業改善のために積極的にご協力ください。記入によって成績評価が影響されることはありません。

	よく した	やや した	ど ち ら な い も	し あ ま り な か っ た	し ま つ か た く た
☆以下の各項目について、あなたにあてはまる箇所の○を黒く塗りつぶして下さい。 例) ある項目内容について「ややした」とする場合.....	☐	☒	☐	☐	☐

◇この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい。

1. 出席や課題提出等はしましたか	☐	☐	☐	☐	☐
2. 授業外学習(予習や復習など)をしましたか	☐	☐	☐	☐	☐
3. 質問や発言をしましたか	☐	☐	☐	☐	☐
4. ノートやメモ等を取りましたか	☐	☐	☐	☐	☐

◇この授業について評価して下さい

	強 く そ う 思 う	や や そ う 思 う	ど ち ら な い も	そ う 思 わ な い	ま つ た く な い
I に 授 業 内 容 について					
1. 授業内容に興味や関心を持ちましたか	☐	☐	☐	☐	☐
2. シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか	☐	☐	☐	☐	☐
3. テキストなどの資料は適切でしたか	☐	☐	☐	☐	☐

II 授 業 方 法 に つ い て					
1. 授業の方法や資料はわかりやすかったですか	☐	☐	☐	☐	☐
2. 毎回の授業でテーマは明確に示されましたか	☐	☐	☐	☐	☐
3. 毎回の授業は適切な内容や量でしたか	☐	☐	☐	☐	☐
4. 学生からの質問などにきちんと対応しましたか	☐	☐	☐	☐	☐
5. 授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたか	☐	☐	☐	☐	☐

III 授 業 満 足 度 に つ い て					
1. 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか	☐	☐	☐	☐	☐
2. 学ぶ楽しさ、知るよろこびは実感できましたか	☐	☐	☐	☐	☐
3. 全体的に振り返って、授業に満足できましたか	☐	☐	☐	☐	☐

◇上記の回答以外に、この授業について意見(よい点・改善すべき点・得たもの)があれば、書いてください。
なお、意見は、授業改善に役立つことを書き、教員個人に関する非難・中傷を書かないようにしてください。

.....

.....

.....

.....

.....

令和6年11月25日

教員 各位

埼玉学園大学
FD委員長 西山 智則

令和6年度秋期 学生による授業アンケートの実施について

令和6年度FD活動の一環として、教員の授業内容の自己点検と教授力の向上の為に秋期受講学生による授業アンケートを下記の要領にて実施いたします。今後、本アンケートを先生方の授業の向上にお役立てください。

記

1. 実施期間

令和6年12月2日（月）～12月13日（金）

2. 実施・回収

- (1) 「授業アンケートの回答方法について」をもとに、Teams またはQRコードにて所定のページにアクセスし、授業アンケートに回答するよう指示をお願い致します。

※Teamsにて教務課より事前に学生へ周知致します。

※用紙での回答を希望する学生にはアンケート用紙を配付、アンケートを回収袋に直接入れさせ、学生にテープで封をさせて下さい。ただし、エラー等があった場合を除き、全員分を用紙で実施することはできません。（アンケート用紙及び回収袋は教室に設置させていただきます。）

- (2) アンケート実施後、「授業アンケート完了報告書」に実施日・科目名・授業担当者名・出席者数を必ず記入のうえ、担当教員が教務課にお持ち下さい。（アンケート用紙で実施の学生がいた場合は、アンケート回収袋もご提出をお願い致します。）

3. 注意点

- (1) 原則として、すべての授業科目で実施をお願い致します。
ただし、演習科目及び実際の出席者が10名以下の講義科目においてはアンケートを実施しなくても構いません。

- (2) 実際の出席者が1名の場合は、アンケートを実施しないようにして下さい。

- (3) ご提出いただく「授業アンケート完了報告書」にご記載された授業の出席者数に対し、回答率が60%を下回っている場合は、アンケートの再実施を行っていただきます。

※「授業アンケート完了報告書」がご提出されていない科目につきましては、出席学生数の把握ができないため、履修者数から算出いたします。

4. 授業改善書の執筆

授業アンケートの集計結果を配布しますので「授業改善書」を作成し、教務課に提出して下さい。
なお、その内容は報告書として取りまとめ、公表致します。

以上

学生各位

授業アンケートの回答方法について

授業アンケート期間：12月2日（月）～12月13日（金）

利用システム：Office365 Forms

《回答の手順》

・ Teams から回答する方法

- ① 各自のスマートフォンまたはパソコンから Teams へアクセスする。



- ② チームから「教務課」を選択し、投稿の『令和6年度秋期授業アンケートの実施について』を確認。



- ③ ファイルから「授業アンケートの実施について」フォルダを選択し、PDFを開く。



- ④ アンケート URL をクリック。
<https://forms.office.com/r/DA6Wks85EP>



・ QR コードを用いた方法

- ① 以下のQRコードからアクセスする。



アンケートに回答する。全ての項目のアンケートの回答が終わったら、送信ボタンを押し、「ありがとうございます。回答が送信されました。」と画面に表示されれば終了です。

※スマートフォン等を所持しておらず、用紙での回答を希望の学生は担当教員に申し出て下さい。

※授業アンケートの実施状況が悪かった場合は、もう一度実施することになりますので、必ず回答するようにしてください。

※このアンケートは、匿名で行われますので、個人が特定されることはありません。

教務課長 富沢雄太

授業アンケート完了報告書

授業アンケート下記のとおり、実施したことを報告します。

記

実 施 日	令和6年 12月 日 (曜日 時限)
科 目 名	
授業担当者	
出 席 者 数	
用紙で回答した人数	
備 考	

以 上

月 日(曜日) 時限実施

科目名

☆授業改善のために積極的にご協力ください。記入によって成績評価が影響されることはありません。

	よく した	やや した	ど ち ら な い も	し あ ま り な か っ た	し ま つ た く た
☆以下の各項目について、あなたにあてはまる箇所の○を黒く塗りつぶして下さい。 例) ある項目内容について「ややした」と思う場合.....	☐	☒	☐	☐	☐

◇この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい。

1. 出席や課題提出等はしましたか	☐	☐	☐	☐	☐
2. 授業外学習(予習や復習など)をしましたか	☐	☐	☐	☐	☐
3. 質問や発言をしましたか	☐	☐	☐	☐	☐
4. ノートやメモ等を取りましたか	☐	☐	☐	☐	☐

◇この授業について評価して下さい

	強 く そ う 思 う	や や そ う 思 う	ど ち ら な い も	そ う 思 わ な い	ま つ た く な い
I に 授 業 内 容 1. 授業内容に興味や関心を持ちましたか	☐	☐	☐	☐	☐
2. シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか	☐	☐	☐	☐	☐
3. テキストなどの資料は適切でしたか	☐	☐	☐	☐	☐

II 授 業 方 法 に つ い て 1. 授業の方法や資料はわかりやすかったですか	☐	☐	☐	☐	☐
2. 毎回の授業でテーマは明確に示されましたか	☐	☐	☐	☐	☐
3. 毎回の授業は適切な内容や量でしたか	☐	☐	☐	☐	☐
4. 学生からの質問などにきちんと対応しましたか	☐	☐	☐	☐	☐
5. 授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたか	☐	☐	☐	☐	☐

III 授 業 満 足 度 に つ い て 1. 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか	☐	☐	☐	☐	☐
2. 学ぶ楽しさ、知るよろこびは実感できましたか	☐	☐	☐	☐	☐
3. 全体的に振り返って、授業に満足できましたか	☐	☐	☐	☐	☐

◇上記の回答以外に、この授業について意見(よい点・改善すべき点・得たもの)があれば、書いてください。
なお、意見は、授業改善に役立つことを書き、教員個人に関する非難・中傷を書かないようにしてください。

.....

.....

.....

.....

.....

令和7年度活動計画

(1) 教員の講習会・研修会及び研究発表会

①FDに関する講習会

実施日	対 象	内 容
令和7年4月16日(水)	専任教員	専任教員を対象に、本学FD活動の内容等を説明する。
令和7年4月17日(木) ～4月23日(水)	非常勤講師	非常勤講師を対象に、今年度FD活動の方針等を説明する。

②授業に関する研修会

実施日	対 象	内 容
10月及び2月の2回予定	専任教員	授業方法の改善について、教員同士の意見交換を行う。

③研究発表会

実施日	対 象	内 容
10月予定	教員・学生	学内の共同研究費を得た教員が、研究成果を発表する。

(2) ピアレビュー及び授業公開

実施期間	対 象	内 容
令和7年6月23日(月) ～6月27日(金)	専任教員 非常勤講師	教員が相互に授業を参観し、授業の改善につなげるようにする。また、保証人に対して授業を公開し、本学の教育に対する関心と理解を深める。
令和7年11月17日(月) ～11月21日(金)		

(3) 学生による授業アンケート

	実施期間
春期	令和7年6月30日(月)～7月11日(金)
秋期	令和7年12月1日(月)～12月12日(金)